

第398图 第298号住居跡出土遺物実測図

床 全体的に平坦で、中央部がよく踏み固められている。

ピット 1か所(P₁)。P₁は径25cmの円形で、深さ30cmである。出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土 3層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片142点、須恵器片52点、灰釉陶器片20点、土製品1点、石製品1点、鉄製品1点が出土している。1の土師器坏は中央付近の床面直上から逆位で出土しており、ほかはすべて覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から奈良時代の8世紀中葉と考えられる。

第298号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	形状の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第298号	坏 土加蓋	A 12.0	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内壁して立ち上がり、口縁部上位に弱い稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部へラ削り。	灰石・雲母にふい褐色 西油 煤付着	P1325 40% 中央付近底直
		B(3.7)				
2	高台付環 須恵器	A 16.4 B 6.6 D 10.5 E 1.3	口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は内壁して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面口ロナデ。底部回転へラ切り後、高台起り付け。	砂粒・石英 灰褐色 良好	P1326 90% 覆土中
3	壺 須恵器	A(31.2) B(11.3)	口縁部片。口縁部は外反する。口縁部上位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面に1本筋線による波状文が施されている。	石英・長石 灰色 良好	P1327 10% 覆土中
4	短頸壺 須恵器	A(11.4) B(10.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内壁して立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラナデ。	石英・灰石・雲母 暗灰黄色 良好 煤付着	P1328 25% 覆土中
5	長頸瓶 須恵器	B(10.3) D(10.7) E 0.8	底部片。短い高台が付く。体部は内壁気味に立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。	石英・長石 輪オリーブ灰色 良好	P1329 15% 覆土中
6	長頸瓶 灰釉陶器	B(1.6) D(13.2) E 0.9	底部片。短い高台が付く。	底部高台起り付け後、ナデ。	砂粒 暗灰色 良好	P1331 5% 覆土中
7	壺 灰釉陶器	A(13.0) B(1.2)	口縁部片。口縁部は短く折り返されている。	口縁部内・外面口ロナデ。	砂粒 灰褐色 良好	P1330 5% 覆土中
8	平底 灰釉陶器	B(6.4)	頸部片。頸部は直立気味に立ち上がる。	頸部内・外面口ロナデ。	砂粒 黄灰色 良好	P1332 10% 覆土中
9	長頸瓶 灰釉陶器	B(5.3)	頸部片。頸部はやや外傾して立ち上がる。	頸部内・外面口ロナデ。	砂粒 にふい赤褐色 良好	P1333 10% 覆土中 弁・谷78号惣様式

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
10	平底土加蓋	3.3	1.9	0.5	0.6	5	覆土中	D P1001

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
11	小瓦	0.4	0.25	0.1	0.06	覆土中	Q1004 頁岩

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第388図	刀子	(6.9)	1.4	0.5	(7)	覆土中	M1023

第299号住居跡(第399図)

位置 調査6区南部, N13a区。

重複関係 第297・298号住居跡を掘り込んでおり, 本跡が新しい。また第273号住居跡が本跡の上に構築されているので, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.26m, 短軸3.82mの長方形である。

主軸方向 N-3°-W

壁 壁高は31~47cmで, ほゞ垂直に立ち上がる。

床 全体的に平坦で, 中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ130cm, 袖幅165cm, 壁外への掘り込みは35cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ, 煙道部は火床部から外傾して立ち上り, 途中に平坦面を持ち, さらに緩やかに立ち上がる。

産土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, 産土小ブロック・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, 産土小ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子中量, ローム粒子少量

覆土 7層からなり, 焼土, 炭化材が多量に含まれ, 人為堆積である。

土層解説

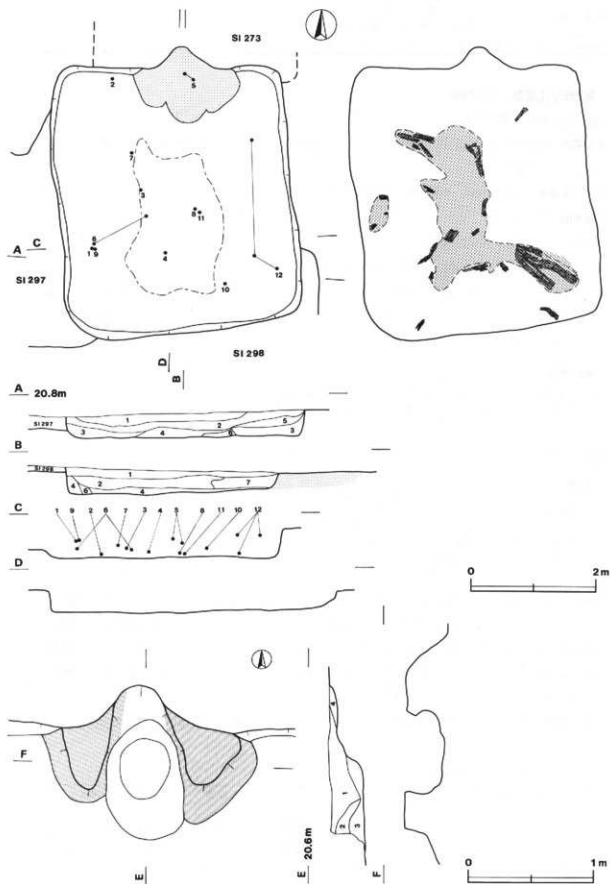
- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量, 炭化物微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, 炭化物少量
- 6 黒褐色 焼土粒子・炭化物多量, ローム小ブロック中量
- 7 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, 産土小ブロック・炭化物少量

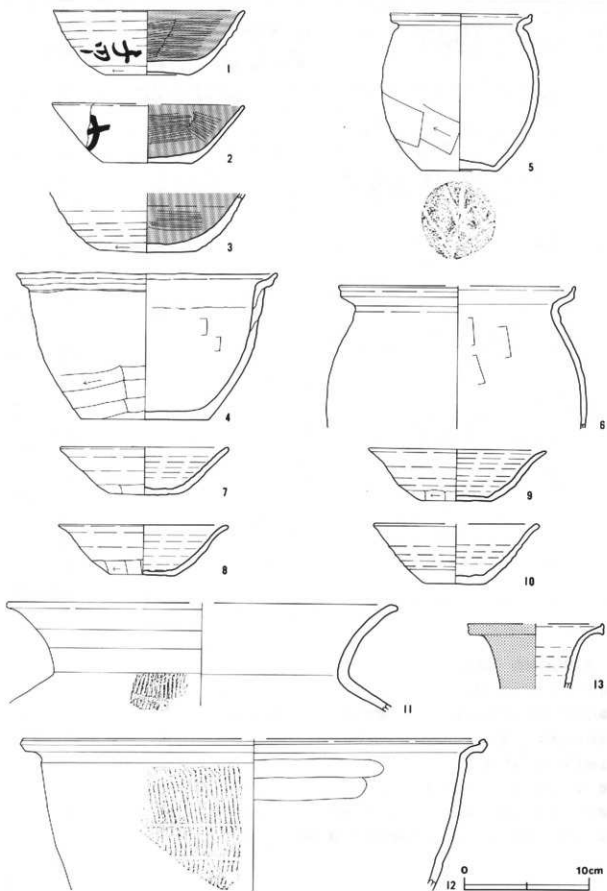
遺物 土師器片881点, 須恵器片463点, 練4点が出土している。1の土師器坏は西壁際の覆土上層から逆位で, 3の土師器坏, 4の土師器片は中央付近の覆土中層から正位で, 5の土師器小形甕は竈内から逆位で, 7の須恵器坏は中央付近の覆土中層から正位で, 8の須恵器坏は中央付近の覆土下層から逆位で, 9の須恵器坏は西壁際の覆土中層から, 11の須恵器片は中央付近の覆土下層から, 12の須恵器片は東壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 本跡は焼失家屋で, 時期は遺構の形態や出土遺物から平安時代の9世紀後半と考えられる。

第299号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	下伏の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第100図	坏	A 15.0	体部・口縁部 渾欠型, 平底, 体部は内側斜めに立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部下端内側に傾り, 内面へう巻状, 底面凹状へのう切り筋。ナデ, 内面黒色処理, 体部外面に黒書。	石灰・長石・雲母 外面に多い褐色 内面黒色 普通	P1335 70% 西壁際覆土上層
		B 8.1				
		C 6.8				





第400图 第299号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・施文	備考
第400図 2	坏土師器	A(15.1) B 4.6 C 7.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面口クロナダ。体部下端内転へラ削り。内面へラ磨き。底部回転へラ切り後、ナダ。内面黒色処理。体部外面に塗書。	石英・長石・雲母 外面に濃い褐色 内面黒色	P1336 30% 北早稲履土下層
3	坏土師器	B(4.7) C 7.3	口縁部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面口クロナダ。体部外面下端へラ削り。内面へラ磨き。底部回転へラ切り後、ナダ。内面黒色処理。	砂粒・石英・長石・雲母 外面褐色・内面黒色 普通 二次焼成	P1337 80% 中央付近覆土中層
4	坏土師器	A 21.0 B 11.7 C 10.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面磨ナダ。体部外面中位から下位へラ削り。内面ヘラナダ。底部へラ削り。	砂粒・石英・長石・雲母 褐色 普通 煤付着	P1338 50% 中央付近覆土中層
5	小形素土師器	A 11.4 B 12.6 C 6.0	体部一部欠損。平底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は強く外反する。底部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面磨ナダ。体部外面下位へラ削り。内面ナダ。底部に未磨痕。	長石・雲母 褐色 普通 煤付着	P1339 60% 甕内
6	素土師器	A 19.0 B(11.4)	底部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は外反する。底部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面磨ナダ。体部内面ヘラナダ。	石英・雲母 褐色 普通 外面煤付着	P1340 10% 西早稲履土中層
7	坏須恵器	A 13.4 B 3.8 C 5.8	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面口クロナダ。体部下端手持ちへラ削り。底部回転へラ切り後、へラ削り。	石英・長石・雲母 灰白色 普通	P1341 90% 中央付近覆土中層
8	坏須恵器	A 13.4 B 4.9 C 5.2	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面口クロナダ。体部下端手持ちへラ削り。底部へラ削り。	砂粒・石英・長石・雲母 灰色 普通	P1342 50% 中央付近覆土下層
9	坏須恵器	A 14.2 B 4.2 C 5.5	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面口クロナダ。体部下端手持ちへラ削り。底部回転へラ切り後、へラ削り。	石英・長石・雲母 灰色 普通	P1343 90% 西早稲履土中層
10	坏須恵器	A(13.2) B 4.8 C 4.8	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面口クロナダ。体部下端手持ちへラ削り。底部へラ削り。	石英・長石・雲母 褐色 普通 煤付着	P1344 50% 南東コーナー覆土中層
11	素須恵器	A(31.0) B(8.6)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面磨ナダ。頸部外面縦方向の平行研ぎ。	石英・長石・雲母 褐色 普通	P1345 10% 中央付近覆土下層
12	素須恵器	A(36.8) B(12.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾気味に立ち上がり、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面磨ナダ。体部内面ナダ。体部外面縦方向の平行研ぎ。	石英・長石・雲母 褐色 良好	P1346 10% 東早稲履土上層
13	長頸瓶 灰胎陶器	A(10.6) B(5.2)	口縁部片。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面口クロナダ。	砂粒 灰色 良好	P1331 10% 覆土中 黒1090号窯様式

第300号住居跡(第401図)

位置 調査6区南部, M14区区。

重複関係 第301・302号住居跡が上部に構築されており、木跡が古い。

規模と平面形 長軸4.58m, 短軸4.07mの長方形である。

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は34~36cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 上幅10~15cm, 下幅5~10cm, 深さ5~10cmほどで、断面形はU字形である。全周している。

床 全体的に平坦で、出入り口から竈前面がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ130cm、袖幅160cm、壁外への掘り込みは35cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は円形に浅く掘りこぼめられ、煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
- 4 灰褐色 焼土粒子少量、炭化粒子少量、焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 6 暗褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
- 7 明褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量、焼土小ブロック・ローム粒子微量

ピット 3か所(P₁~P₃)。P₁、P₂は径35~45cmの円形で、深さ33~63cmである。いずれも主柱穴と考えられる。P₃は径40cmの円形で、深さ27cmである。出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土 9層からなり、自然堆積である。

土層解説

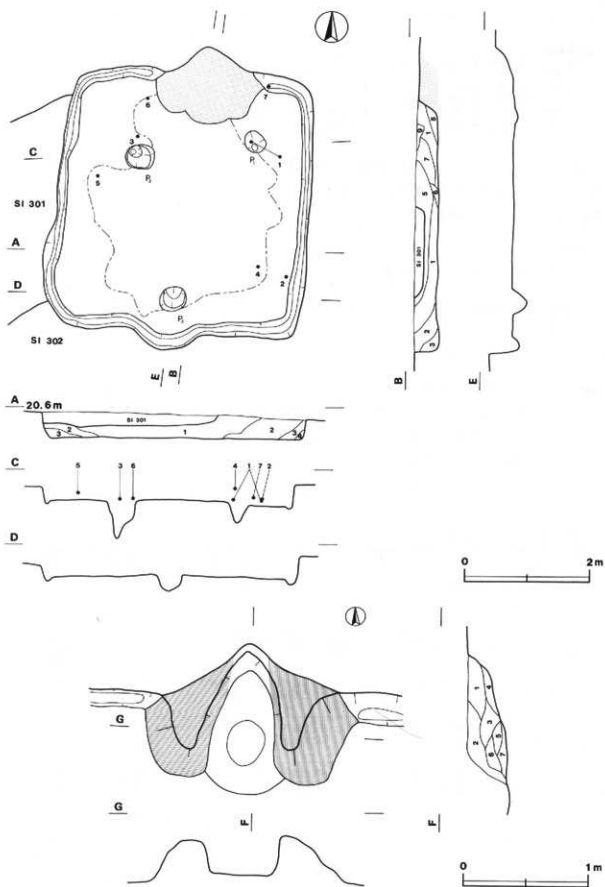
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭化物・ローム中ブロック微量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 極暗褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 6 黒褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 8 黒褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・ローム中・小ブロック微量
- 9 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片241点、須恵器片61点が出土している。1の土師器片はP₁付近の覆土下層から、2の土師器片は東壁際の覆土下層から、3の須恵器片はP₂付近の覆土下層から、4の須恵器片は南東コーナー付近の覆土中層から、6の須恵器片は左袖部付近と北壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。7は須恵器の体部片で、外面には横位の平行叩きが施されている。

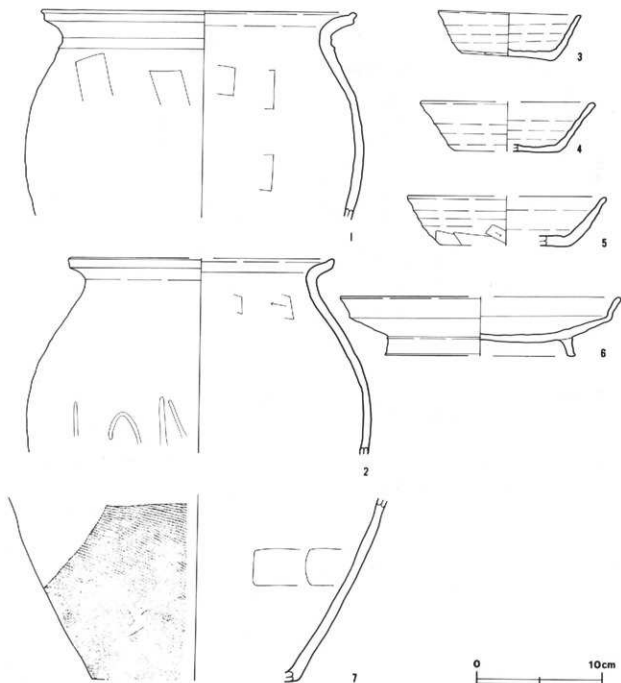
所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代の8世紀後葉と考えられる。

第300号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(mm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第402図 1	土師器	A 55.2	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。端部は外上方つまみ上げられている。	口縁部内・外面磨ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ。	砂粒・石英・長石・雲母・スクリアに多い褐色普通層付着	P1348 40% P ₁ 付近覆土下層
		B (16.6)				
2	土師器	A 21.2	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面磨ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ。	石英・長石・雲母・スクリアに多い褐色普通層付着	P1349 10% 東壁際覆土下層
		B (15.6)				
3	須恵器	A 11.5	口縁部一部欠損。平底。体部は外彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。底部多方向のへラ削り。	砂粒・石英・長石・雲母・炭灰色良好	P1350 70% P ₂ 付近覆土下層
		B 3.7				
		C 7.1				
4	須恵器	A (14.2)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。底部へラ削り。	石英・長石・雲母・炭灰色普通層付着	P1347 30% 南東コーナー付近覆土中層
		B 4.0				
		C (8.2)				
5	須恵器	A (16.0)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から底部内・外面クロコナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部へラ削り。	砂粒・石英・長石・雲母・炭灰褐色良好	P1351 30% 西壁際覆土中層
		B 4.0				
		C (10.4)				
6	須恵器	A (22.6)	底部から口縁部片。高台はハの字状に開く。体部は外彎して立ち上がり、体部と口縁部との境に段を持つ。口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。底部へラ削り後、高台削り付け。	砂粒・石英・長石・炭灰色良好	P1352 20% 左袖部付近・北壁付設覆土下層
		B 4.8				
		D (15.2)				
		E 1.5				
7	須恵器	B (14.6)	体部片。体部は外彎して立ち上がる。	体部外面に横方向の平行叩き。内面へラナデ。	長石・雲母・炭灰色良好	P1351 10% 北壁際覆土下層



第401图 第300号住居跡実測図



第402図 第300号住居跡出土遺物実測図

第301号住居跡 (第403図)

位置 調査6区南部, M13₁₀区。

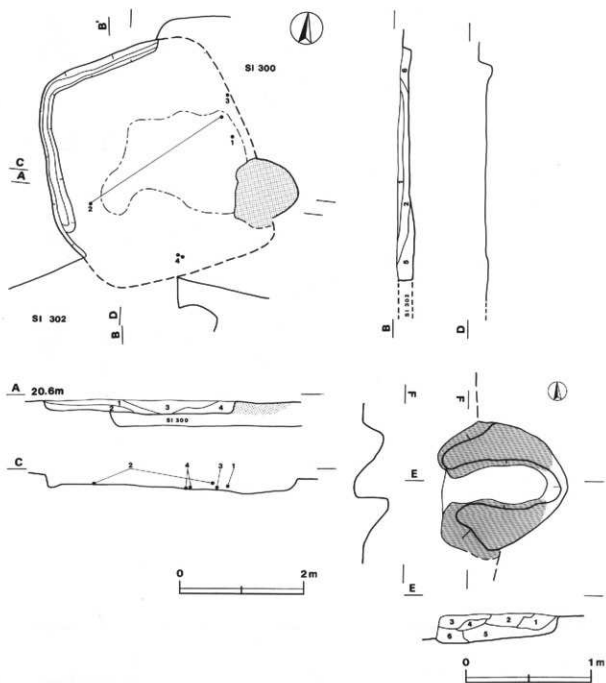
重複関係 第302号住居跡を掘り込んでおり, また第300号住居跡の上部に構築されているので, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸[3.74]m, 短軸[3.32]mの長方形と推定される。

主軸方向 [N-65°-E]

壁 壁高は16~17cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁下から西壁下にかけて巡っている。上幅20~25cm, 下幅10~12cm, 深さ8cmほど, 断面形はU字形である。



第403図 第301号住居跡実測図

床 全体的に平坦で、竈前面から中央部がよく踏み固められている。

竈 北東壁東コーナー寄りに付設されている。規模は長さ100cm、袖幅105cm、壁外への掘り込みは45cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ、煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 極暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土中・小ブロック・炭化粒子少量、炭化物・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 5 極暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック微量
- 6 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量

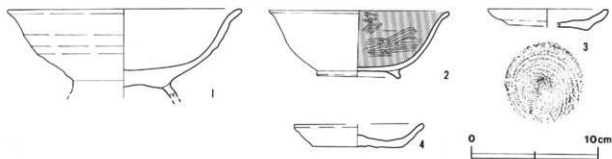
覆土 6層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片282点、須恵器片53点が出土している。1の土師器高台付杯は左袖付近の覆土下層から正位で、2の土師器高台付碗は南西壁と北東壁の覆土下層から出土し接合している。3の土師器小皿は北東壁際の覆土下層から、4の土師器小皿は南東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。



第404図 第301号住居跡出土遺物実測図

第301号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第404図 1	高台付杯 土師器	A 18.6 B(7.0) E(1.1)	高台部一部欠損。体部は内彎突味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。底部内面ナデ。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒 浅黄褐色 普通 外面産付着	P1354 90% 左袖付近覆土下層
2	高台付碗 土師器	A 14.0 B 5.3 D 6.6 E 0.6	口縁部一部欠損。高台は短く闊く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面へう磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・スコリア 外面褐色 内面黒色 普通	P1355 90% 南西壁・ 北東壁際 覆土下層
3	小皿 土師器	A 9.6 B 1.6 C 6.4	底部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転未切り。	石英・長石・雲母・ スコリア 浅黄褐色 普通	P1356 95% 北東壁際覆土下層
4	小皿 土師器	A[10.2] B 1.8 C 7.1	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転未切り。	砂粒・長石・雲母・ スコリア 褐色 普通 産付着	P1357 50% 南東壁際覆土下層

第302号住居跡 (第405図)

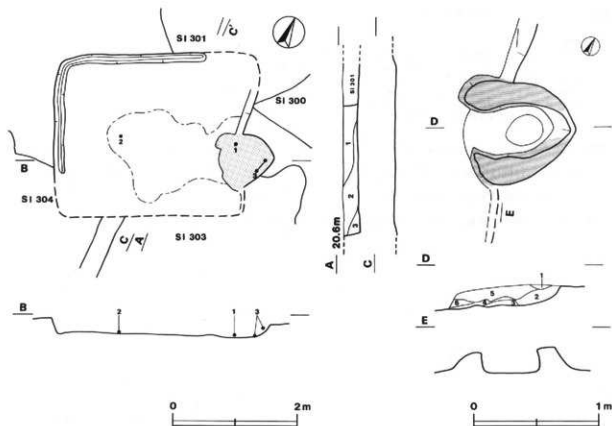
位置 調査6区南部、N13a区。

重複関係 第300・303・304号住居跡の上部に構築されており、本跡が新しい。また第301号住居跡に掘り込まれているので、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.30m、短軸[2.60]mの長方形と推定される。

主軸方向 N-65°-E

壁 壁高は24cmで、外傾して立ち上がる。



第405図 第302号住居跡実測図

壁溝 北西壁下から南西壁下にかけて巡っている。上幅12cm，下幅8cm，深さ5cmほどで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で，竈前面から中央部がよく踏み固められている。

竈 北東壁東コーナー寄りに付設されている。規模は長さ90cm，袖幅85cm，壁外への掘り込みは45cmである。袖部は砂質粘土で構築されており，両袖部には雲母片岩の補強材が用いられている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ，煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，焼土中ブロック微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・焼土小ブロック少量，焼土中ブロック微量
- 3 暗褐色 炭化粒子中量，焼土粒子少量
- 4 黒褐色 炭化粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 5 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
- 6 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量

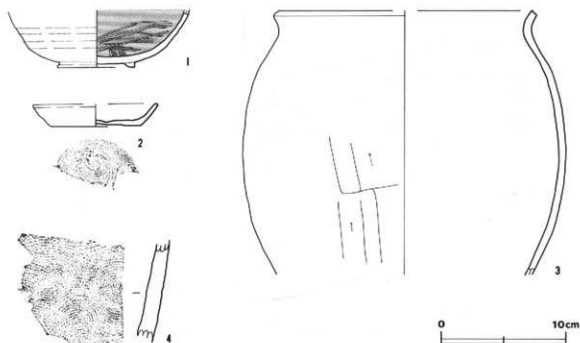
覆土 3層からなり，自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片230点，須恵器片60点が出土している。1の土師器高台付碗は竈内から，2の土師器小皿は中央付近の床面直上から逆位で，3の土師器壺は竈内からそれぞれ出土している。4は須恵器壺の体部片で，外面には同心円叩きが施されている。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。



第406図 第302号住居跡出土遺物実測図

第302号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第406図 1	高台付輪 土師器	B〔4.5〕 D 6.1 E 0.4	底部から体部にかけての破片。高台は短く開く。体部は内嚢して立ち上がる。	口縁部から体部外面口クロナデ。内面へう磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい褐色 内面黒色 普通	P1358 40% 壺内
2	小皿 土師器	A〔10.0〕 B 1.8 C〔7.2〕	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外嚢して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面口クロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P1359 40% 中央付近床直
3	壺 土師器	A〔20.4〕 B〔21.3〕	体部から口縁部にかけての破片。体部は内嚢して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう磨り。内面ナデ。	石英・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P1360 20% 壺内

第303号住居跡（第407図）

位置 調査6区南部，N130a区。

重複関係 第302・306号住居跡が上部に構築され、第175号土坑に掘り込まれているので、本跡が古い。また第305号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸4.36m，短軸4.07mの方形である。

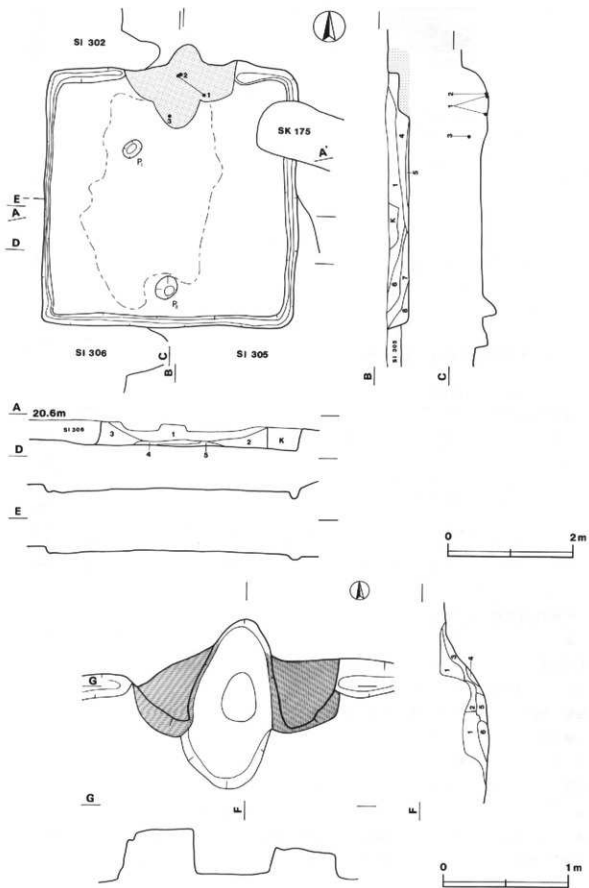
主軸方向 N-0°

壁 壁高は38cmで、外傾して立ち上がる。

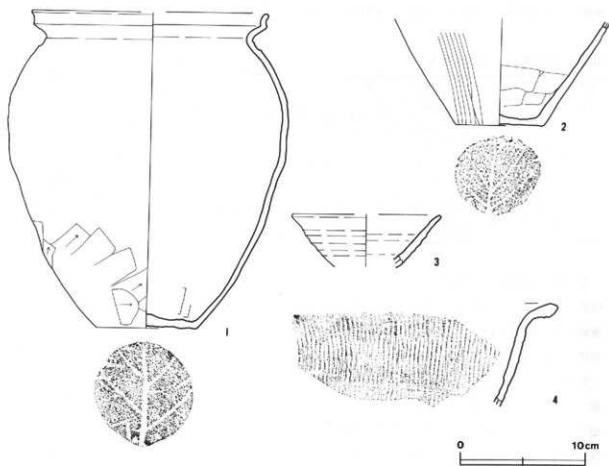
壁溝 上幅12～15cm，下幅8～10cm，深さ8cmほどで、断面形はU字形である。全周している。

床 全体的に平坦で、出入口付近から庭前面にかけてよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ138cm，袖幅165cm，壁外への掘り込みは25cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りこぼめられ、火熱を受け赤変している。煙道部は火床部から外傾して立ち上がる。



第407图 第303号住居跡実測图



第408図 第303号住居跡出土遺物実測図

覆土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子中量
- 4 黒褐色 焼土粒子多量、炭化粒子中量
- 5 黒褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量
- 6 黒褐色 炭化粒子多量、焼土粒子中量、焼土小ブロック微量

ピット 2か所(P₁、P₂)。P₁は径25cmの円形で、深さ28cmである。主柱穴と考えられる。P₂は径30cmの円形で、深さ25cmである。出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土 8層からなり、人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片332点、須恵器片94点が出土している。1の土師器甕は甕右袖部の補強材として逆位で、2の土師器甕、3の須恵器坏は甕内からそれぞれ出土している。4は須恵器甕の体部片で、外面に縦位の平行叩きが施されている。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代の9世紀後葉と考えられる。

第303号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第408図 1	甕 土師器	A[18.8] B 25.5 C 8.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は外反する。肩部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へうすり。内面ナデ。底部に木炭痕。	砂粒・石英・長石・雲母 明小褐色 普通 二次焼成	P1361 60% 右袖補遺材
2	甕 土師器	B(8.6) C 7.0	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内傾して立ち上がる。	体部外面下位縦方向のへうすり。内面ヘラナデ。底部に木炭痕。	砂粒・石英・長石・雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P1362 20% 壺内
3	杯 土師器	A[11.8] B 4.3	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に平る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・石英・長石・雲母・スコリア 灰褐色 普通 藤付器	P1363 10% 壺内

第304号住居跡(第409図)

位置 調査6区南部, N13b9区。

重複関係 第302・306・307号住居跡が上部に構築されており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.85m, 短軸3.60mの方形である。

主軸方向 N 7° W

壁 壁高は38cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 上幅20cm, 下幅15cm, 深さ8cmほどで、断面形はじ字形である。全周している。

床 全体的に平坦で、出入り口付近から壁前面にかけてよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ95cm, 袖幅128cm, 壁外への掘り込みは32cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。須恵器こね鉢が支脚に転用され、火床部中央に置かれている。火床部は円形に浅く掘りくぼめられ、煙道部は火床部から外傾して立ち上がる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 5 黒褐色 焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 焼土中・小ブロック・炭化粒子少量
- 7 黒褐色 焼土小ブロック・炭化粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量
- 8 麻晒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量

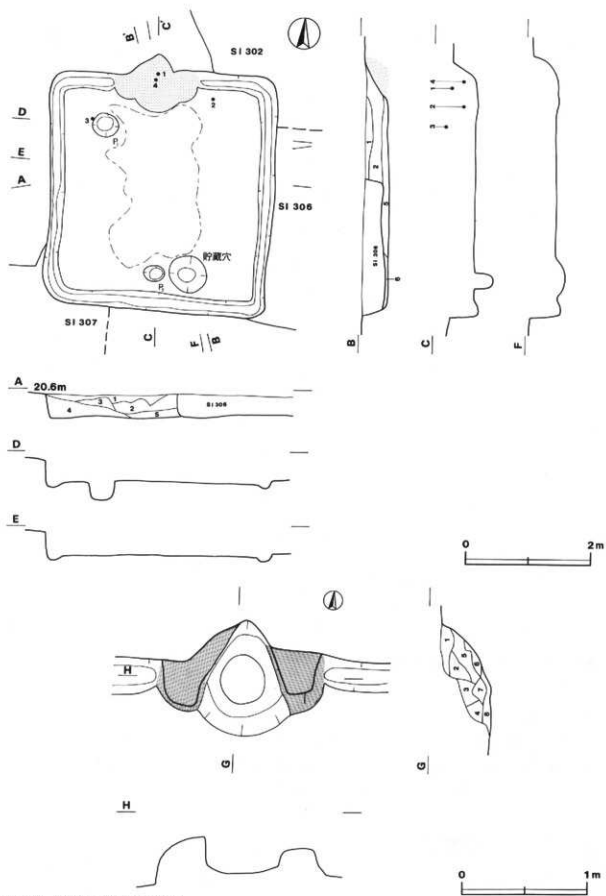
ピット 2か所(P₁, P₂)。P₁は径40cmの円形で、深さ30cmである。主柱穴と考えられる。P₂は径32cmの円形で、深さ30cmである。出入り口に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 P₂付近に付設されている。径60cmの円形で、深さ16cmである。断面形は皿状をしている。

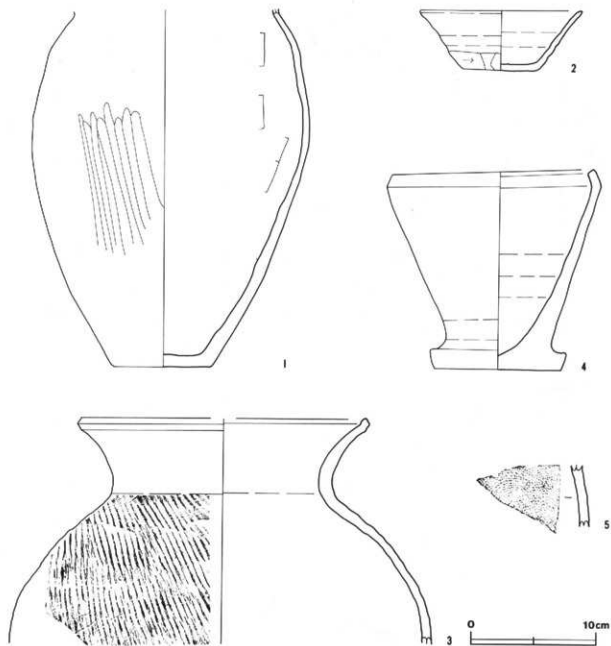
覆土 6層からなり、覆土中にロームブロックが多く含まれ人為地層である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 麻晒褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量



第409图 第304号住居跡实测图



第410図 第304号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片334点，須恵器片106点が出土している。1の土師器甕は竈内から正位の状態で，2の須恵器杯は右袖付近の覆土中層から正位で，3の須恵器甕はP1付近の覆土上層からそれぞれ出土している。4の須恵器こね鉢は竈の支脚として使用されていた。5は須恵器甕の体部片で，外面には同心円叩きが施されている。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から平安時代の9世紀中葉と考えられる。

第304号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第410図 1	土師器 甕	B (28.7) C 7.8	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面縦方向への磨き。内面へラナダ。底部に木炭痕。	砂粒・石英・長石・雲母にふいば色 普通 二次焼成	P1304 70% 竈内

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第410図 2	須 壺 器	A 13.0 B 4.8 C 5.8	口縁部一部欠損。体部は外積して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面クロコナダ。底部へラ切り痕。ヘラ削り。	砂粒・石英・長石 灰色 良好	P1365 70% 右軸付近覆土中層
3	東 壺 器	A(23.0) B(18.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内積して立ち上がり、口縁部は外積する。	口縁部内・外面横ナダ。体部縦方向の平行用き。	砂粒・石英・長石・ 雲母 灰色 P・付着覆土層	P1366 20% P・付着覆土層
1	こね鉢 須壺器	A 16.3 B 16.2 C 10.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外積して立ち上がり、口縁部は内積する。	口縁部から体部内・外面クロコナダ。底部へラ削り。	砂粒・長石 灰色 良好 二次焼成	P1367 90% 左側転用

第306号住居跡（第172図）

位置 調査6区南部，N13a区。

覆層関係 第303～305号住居跡の上部に構築されており，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸[3.30]m，短軸[3.16]mの方形と推定される。

主軸方向 [N-92° E]

壁溝 南壁下で確認した。上幅15cm，下幅8cm，深さ10cmほどである。断面形はU字形である。

床 ほぼ平出であるが，北東コーナー付近が傾斜している。電前面が踏み固められているが，全体に敷らかい。

竈 東壁南東コーナー寄り付設されている。規模は長さ95cm，袖幅78cm，壁への掘り込みは65cmである。

袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は帯円形に浅く掘りくぼめられ，煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子・炭化物微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量，焼土小ブロック微量

覆土 4層からなり，人為堆積である。

土層解説

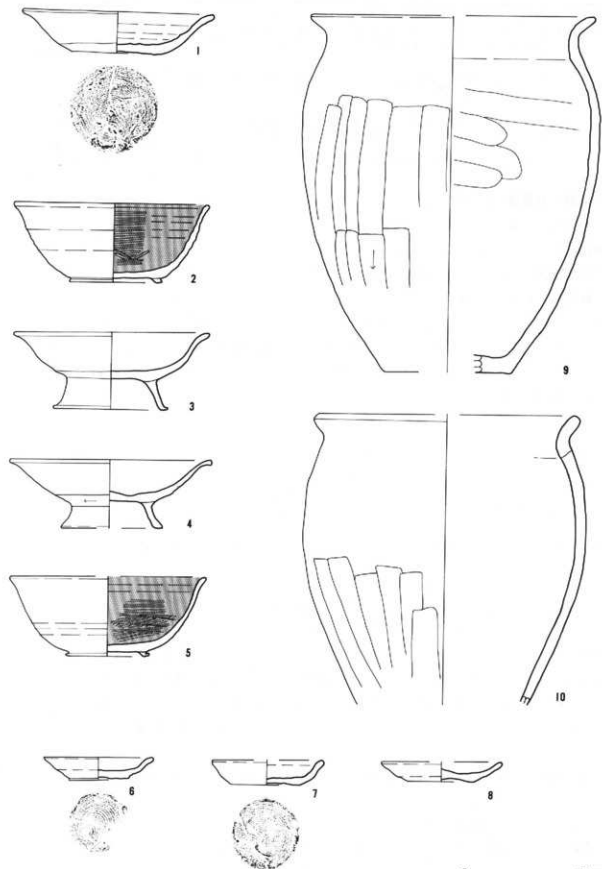
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片528点，須壺器片64点が出土している。1の土師器杯は中央付近の覆土下層から逆位で，2の土師器高台付碗は北壁際の覆土下層から，3の土師器足高台付杯は西壁際の覆土下層から逆位で，4の土師器足高台付杯は中央付近の覆土下層から逆位で，5の土師器高台付碗は北西コーナー付近の覆土下層から，7の土師器小皿は東壁際の覆土下層から逆位で，8の土師器小皿，9，10の土師器蓋は層内からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。

第306号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第411図 1	杯 土師器	A 15.0 B 8.4 C 7.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外積して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面クロコナダ。底部回転軸削り。	砂粒・雲母・スロリア・ ア・ヒイロ褐色 赤褐色 煤片着	P1371 90% 中央付近覆土下層



第411图 第306号住居跡出土物实测图

図説番号	製 種	寸法(mm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第11図 2	高台付饅 土師器	A 15.6 B 7.4 D 7.3 E 0.3	口縁部 薄欠損。高台は短く、ハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面へラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒 外面にぶい褐色 内面黒色 良好	P1372 80% 北壁際履上下層
3	足高台付 土師器	A 15.6 B 9.0 D 9.1 E 2.5	口縁部一部欠損。高台は長く開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部内面ナデ。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒 褐色 普通	P1373 80% 西壁際履上下層
4	足高台付 土師器	A 16.0 B 6.4 D 8.0 E 2.0	高台・口縁部一部欠損。高台は長く開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部内面ナデ。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい褐色 普通 煤付着	P1374 80% 中央付近 履上下層
5	高台付饅 土師器	A[15.6] B 6.4 D 6.7 E 0.4	底部から口縁部にかけての破片。高台は短く、ハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・スコリア 外面にぶい赤褐色 内面黒色 普通 煤付着	P1375 80% 北西コーナー 付近履上下層
6	小 皿 土師器	A 8.8 B 1.7 C 4.8	底部 薄欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転系切り。	砂粒・雲母・スコリア 褐色 普通	P1376 80% 履上中
7	小 皿 土師器	A 8.7 B 2.0 C 5.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転系切り。	砂粒・スコリア にぶい褐色 普通	P1377 80% 東壁際履上下層
8	小 皿 土師器	A 9.6 B 1.6 C 5.4	口縁部 薄欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転系切り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P1378 60% 履内
9	堊 土師器	A[22.4] B 28.7 C[10.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨り。内面ナデ。	砂粒・長石・スコリア 褐色 普通 内・外面煤付着	P1379 35% 履内
10	罎 土師器	A[20.4] B(23.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨り。内面ナデ。	砂粒・長石・スコリア 褐色 普通	P1380 20% 履内

第307号住居跡 (第412号)

位置 調査6区南部, N13e9区。

重複関係 第304・308号住居跡の上部に構築されており、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸4.33m, 短軸3.42mの長方形と推定される。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は21cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南壁下を除き巡っている。上幅15cm, 下幅8cm, 深さ5cmほどで、断面形はU字形である。

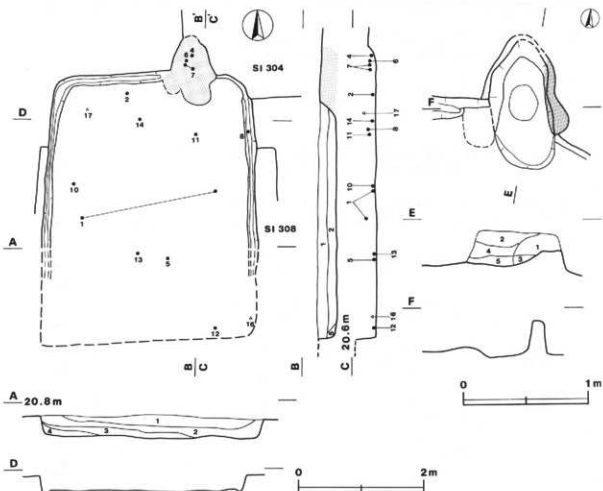
床 全体的に平坦で、軟らかい。

竈 北壁中央部に付設されている。左袖は確認できなかったが、規模は長さ110cm, 袖幅85cm, 壁外への掘り込みは48cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。竈内から空母片岩が出七しており、袖部の補強材に使用したと思われる。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ、煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

産土層解説

- 1 黒褐色 産土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子少量, 炭化物少量
- 2 黒褐色 産土粒子中量, 炭化粒子少量
- 3 黒褐色 産土粒子・炭化粒子中量, 焼土小ブロック少量
- 4 黒褐色 産土粒子・炭化粒子少量
- 5 紫褐色 産土粒子多量, 炭化粒子中量, 炭化物少量

覆土 5層からなり、自然堆積である。



第412図 第307号住居跡実測図

土層解説

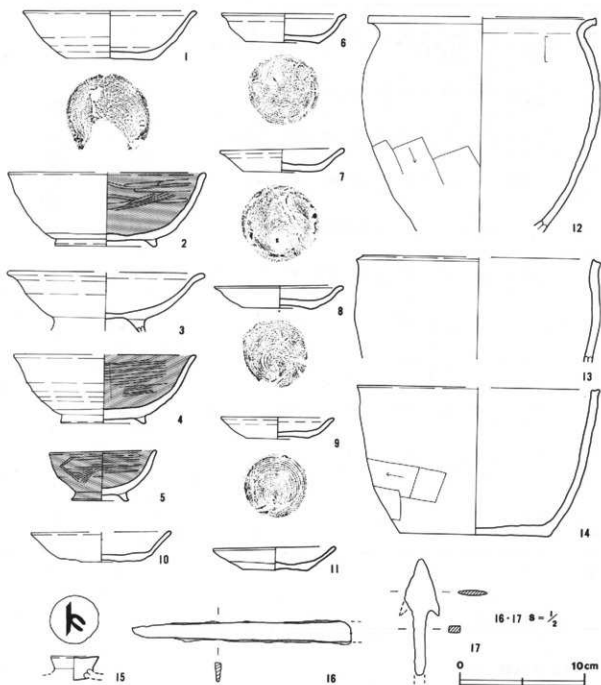
- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片1403点、須恵器片410点、陶器10点、鉄製品2点、鉄滓7点、礫3点が出土している。1の土師器坏は西壁際と東壁際の覆土下層から出土し接合している。2の土師器高台付椀は左袖部付近の覆土下層から正位で、4の土師器高台付椀、6、7の土師器小皿は竈内から、5の土師器小形高台付椀は中央付近の覆土下層から正位で、8の土師器小皿は東壁際の覆土中層から正位で、10の土師器小皿は西壁際の覆土下層から正位で、16の刀子は南東コーナー付近の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。

第307号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第413図 1	坏 土師器	A 14.0 B 4.0 C 6.9	底部から口縁部にかけての破片。平底。底部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。底部回転切り。	砂粒・スコリア 褐色 普通	P1386 40% 東・西壁 際覆土下層



第413図 第307号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第413図 2	高台付碗 土師器	A [15.8] B 6.0 D 8.0 E 0.6	口縁部一部欠損。高台は短く、ハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面へラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 外面灰黄褐色 内面黒色 良好	P1387 70% 左軸付近 覆土下層
3	高台付碗 土師器	A [15.8] B 4.6 E [1.0]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け後、ナデ。磨減が著しい。	砂粒・雲母・スコリア 褐色 普通	P1388 40% 覆土中
4	高台付碗 土師器	A [14.6] B 5.5 D 6.7 E 0.6	底部から口縁部にかけての破片。高台は短く開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面へラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 外面褐色 内面黒色 普通	P1389 40% 甕内

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・施装	備考
第413図	小 形 土 師 器 高台付輪 上 部 器	A 8.5	口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は内側に立ち上がり、口縁部に至る。	内・外面へり磨き。高台貼り付け後、ナデ。内・外面施色処理。	砂粒・雲母 内・外面黒色 良好	P1308 90% 中央付近重土下層
		B 7.4				
		D 4.4				
		E 0.8				
6	小 皿 土 師 器	A 10.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに反する。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。底部回転未切り。	砂粒・石英・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P1381 99% 壺内
		B 2.3				
		C 5.8				
7	小 皿 上 部 器	A 10.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。底部回転未切り。	石英・雲母・スコリア ア 褐色 普通	P1382 99% 壺内
		B 2.0				
		C 6.0				
8	小 皿 土 師 器	A 10.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。底部回転未切り。	砂粒・雲母 褐色 普通 二次焼成 煤付着	P1383 96% 東室階覆土中層
		B 1.9				
		C 5.1				
9	小 皿 土 師 器	A 9.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。底部回転未切り。	石英・雲母・スコリア ア にぶい褐色 普通	P1384 99% 覆土中
		B 1.8				
		C 5.0				
10	小 皿 土 師 器	A 11.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。底部回転へり切り。	石英・長石・雲母・スコリア 淡黄色 普通	P1385 90% 西室階覆土下層
		B 2.4				
		C 6.4				
11	小 皿 上 部 器	A 9.9	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。底部回転へり切り。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通 内面ターム付着	P1389 100% 壺内近覆土下層
		B 2.0				
		C 5.1				
12	小 形 土 師 器	A 18.0	体部から口縁部にかけての破片。体部は内側に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へり磨り。内面へりナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 灰黄褐色 普通	P1390 40% 南東コーナ ー付近重土下層
		B 17.0				
13	鉢 土 師 器	A 18.6	口縁部片。口縁部は直立気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P1391 10% 中央付近覆土下層
		B 8.3				
14	鉢 土 師 器	A 18.4	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へり磨り。内面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P1392 40% 壺内近覆土下層
		B 11.8				
		C 12.0				
15	遺 須 器	F 3.8	つまみ片。覆土球状のつまみが付く。	つまみ上面に朱書。	砂粒・石英・長石・雲母 灰褐色 良好	P1393 10% 覆土中
		G 1.9				

図版番号	種別	寸 法			出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
16	瓦 了	(11.8)	1.1	0.4	南東コーナ・付近重土下層	M1024
17	鉄 線	(6.3)	1.9	0.4	北西コーナ・付近重土下層	M1025 50%

第308号住居跡(第414図)

位置 調査6区南部、N13ca区。

重複関係 第307号住居跡、第166号土坑に掘り込まれており、本跡が古い。また第309号住居跡を掘り込んでいるので、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸4.40m、短軸4.00mの長方形である。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は53~56cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南壁を除き確認した。上幅15~18cm、下幅10~15cm、深さ8~10cmほどで、断面形は逆台形である。

床 全体的に平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。第307号住居跡に掘り込まれて遺存状況が悪く、規模は長さ170cm、袖幅120cm、壁外への掘り込みは89cmである。袖部は遺存状況から、砂質粘土で構築されていたと思われる。火

床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ、煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子多量、炭化粒子中量
- 2 黒褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量、炭化物微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子中量
- 5 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、焼土小ブロック少量
- 6 黒褐色 炭化粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 7 灰褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量
- 8 灰褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック微量
- 9 暗褐色 炭化粒子中量、焼土粒子少量

炉 中央部に付設されている。長径110cm、短径95cmの楕円形で、浅く掘りくぼめた地床である。火床面は硬く焼き締まっている。

炉土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

ピット 2か所（P₁、P₂）。P₁は径25cmの円形で、深さ30cmである。出入り口に伴うピットと考えられる。P₂は中央部東壁寄りに付設されている。長径80cm、短径55cmの楕円形で、深さ50cmである。断面形は鍋底状である。1層は、粘土が要である状態であった。性格は不明である。

P₂土層解説

- 1 濃い黄褐色 粘土多量
- 2 黒褐色 焼土粒子・粘土少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 粘土中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

覆土 9層からなり、自然堆積である。

土層解説

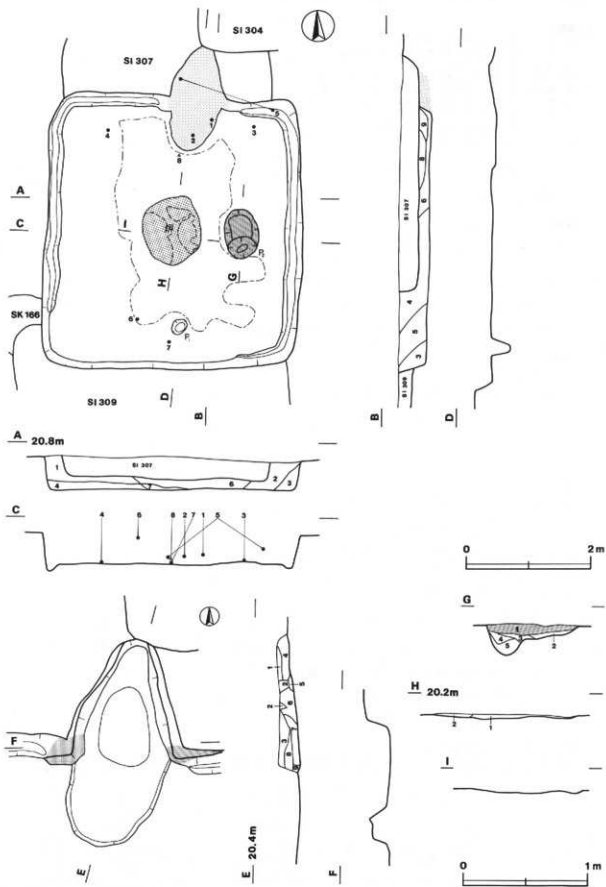
- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 6 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子中量
- 7 黒褐色 炭化粒子多量、焼土粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
- 8 黒褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 9 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子多量

遺物 土師器片101点、須恵器片117点、鉄製品1点が出土している。1、2の土師器片は竈内から、3の土師器高台付片は北東コーナー付近の覆土下層から正位で、4の土師器高台付片は北燃際床面直上から正位で、7の須恵器片は南燃際の床面直上から、8の刀子は竈付近の覆土下層からそれぞれ出土している。

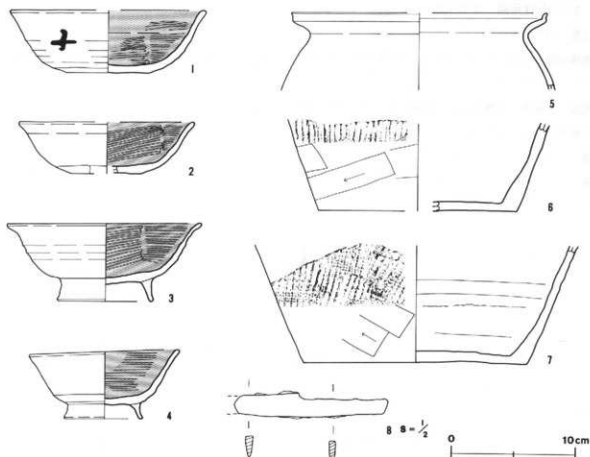
所見 本跡の時期は、遺物の形態や出土遺物から平安時代の9世紀後半と考えられる。

第308号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第415図 1	土師器	A 15.67	体部から口縁部一部欠損。平底。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面口ロナデ。体部下端手持ちへり削り。内面へり削き。底部へり削り。内面黒色処理。体部外面に黒書。	砂粒・灰母 外面黄褐色 内面黒色 良好 黒点着	P1394 50% 竈内
		B 5.0				
		C 6.7				
2	土師器	A 14.0	底部から口縁部にかけての破片。体部は内側気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面口ロナデ。体部下端手持ちへり削り。内面へり削き。内面黒色処理。	砂粒・灰母・スコリア 外面にぶら褐色 内面黒色 良好	P1395 40% 竈内
		B 4.1				
		C 5.4				



第414图 第308号住居跡実測图



第415図 第308号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第415図 3	高台付環土師器	A 15.7 B 6.2 D 7.5 E 1.9	口縁部一部欠損。高台は長く、ハの字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面口クロナデ。体部内面へラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 外面褐色 内面黒色 普通	P1396 80% 北東コーナ 一付近覆土下層
4	高台付環土師器	A 12.0 B 5.6 D 6.0 E 1.4	口縁部一部欠損。高台は長く、ハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面口クロナデ。体部内面へラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒 外面浅黄褐色 内面黒色 普通	P1397 70% 北壁際直
5	壺土師器	A[20.6] B(6.2)	口縁部片。口縁部は強く外反する。残部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P1400 10% 北東コー ナ一付近覆土中層
6	壺須恵器	B(7.0) C[16.0]	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部下位へラ削り。内面ナデ。体部外面に縦方向の平行叩き。	砂粒・雲母 褐色 普通	P1401 20% 南壁際覆土上層
7	壺須恵器	B(9.6) C[19.0]	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部下位へラ削り。内面ナデ。体部外面に平行叩き。	砂粒・石英・長石・雲母 黄灰色 普通	P1402 20% 南壁際直

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
8	刀子	(8.2)	1.3	0.4	(12)	壺付近覆土下層	M1026

第310号住居跡（第416図）

位置 調査6区西部，N13d9区。

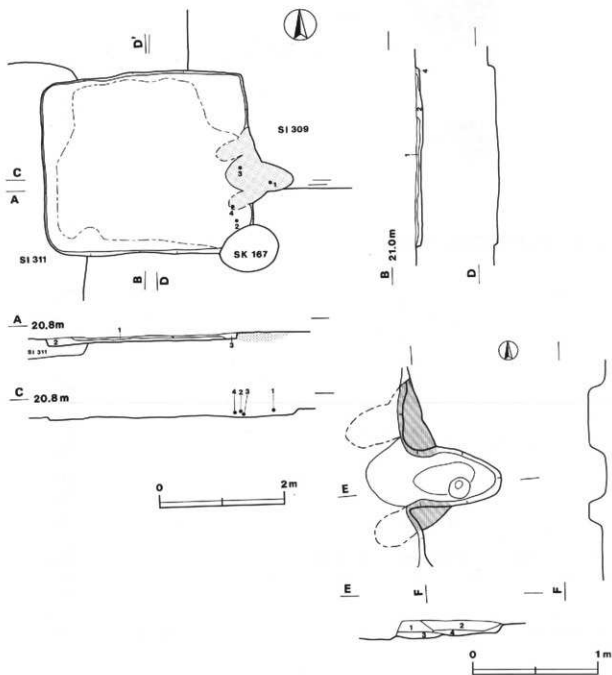
重複関係 第309・311号住居跡の上部に構築されており，本跡が新しい。また第167号土坑に掘り込まれているので，本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.32m，短軸2.89mの長方形である。

主軸方向 N-90°-E

壁 壁高は10cmほどで，緩やかに立ち上がる。

床 全体的に平坦で，中央部がよく踏み固められている。



第416図 第310号住居跡実測図

竈 東壁中央部に付設されている。削平により袖部の遺存状況は悪く、規模は長さ110cm、袖幅[120]cm、壁外への掘り込みは65cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ、煙道部は削平され不明である。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化粒子多量、焼土中・小ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土大ブロック微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
- 4 黒褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量

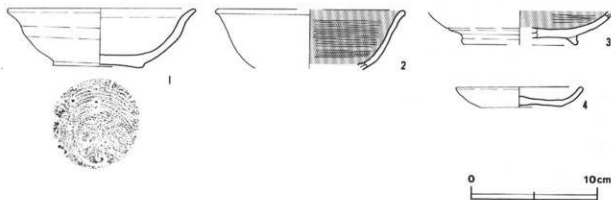
覆土 4層からなるが、覆土が浅く堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片117点、須恵器片32点が出土している。1の土師器坏は竈内から逆位で、2の土師器碗、4の土師器小皿は右袖部付近の覆土下層から、3の土師器高台付坏は竈内からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。



第417図 第310号住居跡出土遺物実測図

第310号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第417図 1	坏 土師器	A 14.8	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転系切り。	砂粒・ 褐色 普通	P1403 95% 竈内
		B 4.6				
		C 7.0				
2	碗 土師器	A[14.4]	口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面へラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア 外面褐色 内面黒色 普通	P1404 15% 右袖付近覆土下層
		B(4.7)				
3	高台付坏 土師器	B(2.7)	底部片。高台は短く、ハの字状に開く。	内面へラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア 外面褐色 内面黒色 普通	P1405 20% 竈内
		D[9.0]				
		E 0.8				
4	小皿 土師器	A 10.0	口縁部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ切り。	スコリア 褐色 普通	P1406 90% 右袖付近覆土下層
		B 2.1				
		C 6.5				

第311号住居跡（第418図）

位置 調査6区西部、N13区。

重複関係 第312号住居跡に掘り込まれており、また第310号住居跡が本跡の上部に構築されているので、本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.04m、短軸4.78mの方形である。

主軸方向 N-1° W

壁 壁高は34～37cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 第312号住居跡に掘り込まれている部分を除き、ほぼ全周している。上幅20cm、下幅10cm、深さ6cmほどで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ120cm、幅115cm、壁外への掘り込みは15cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ、袖の内壁は火熱を受け赤変している。煙道部は火床部から外傾して立ち上がる。

産土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒少量、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒中量、炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒少量、焼土小ブロック、炭化粒中量
- 5 黒褐色 焼土粒中量、炭化粒少量
- 6 黒褐色 焼土粒中量、焼土小ブロック、炭化粒少量
- 7 極暗褐色 焼土粒中量、炭化粒中量、焼土小ブロック中量
- 8 灰褐色 焼土小ブロック、焼土粒少量、炭化粒中量

ピット 2か所(P₁、P₂)。P₁、P₂は径42cmの円形で、深さ41～50cmである。いずれも主柱穴と考えられる。

覆土 6層からなり、ロームブロックが多量に見られ、人為堆積である。

土層解説

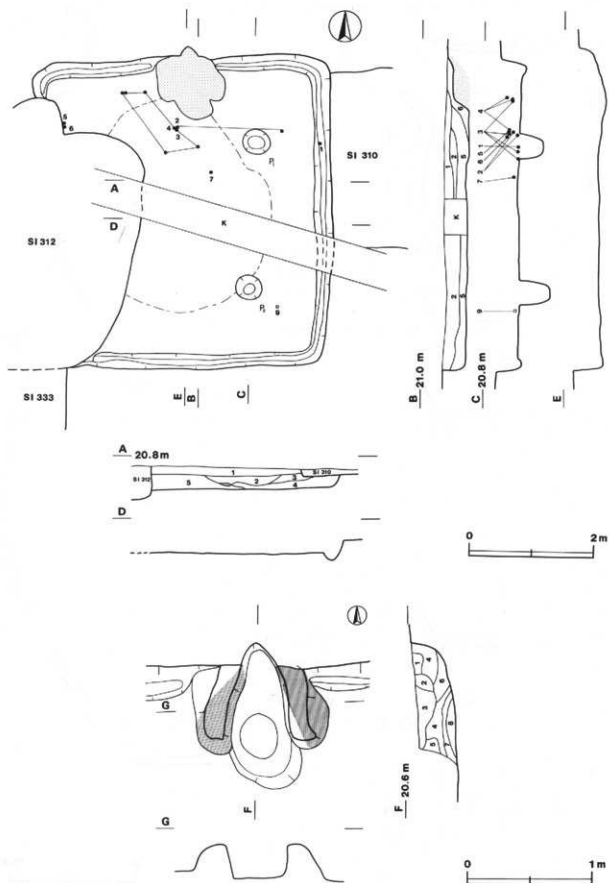
- 1 黒褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒中量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック微量
- 3 極暗褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 4 極暗褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒中量、ローム大・中ブロック微量
- 6 極暗褐色 焼土粒中量、炭化粒少量、ローム粒少量

遺物 土師器片256点、須恵器片40点、石製品1点が出土している。1の土師器片は東壁際の覆土下層から逆位で、2の土師器片はP₁付近の覆土下層から、3の土師器片、4の土師器小形片は竈付近の覆土下層と中層から、5の須恵器片、6の須恵器高台付片は北西コーナー付近から、5は覆土下層から逆位で、6は覆土中層から、7の須恵器高台付片は中央付近の覆土下層から逆位でそれぞれ出土している。

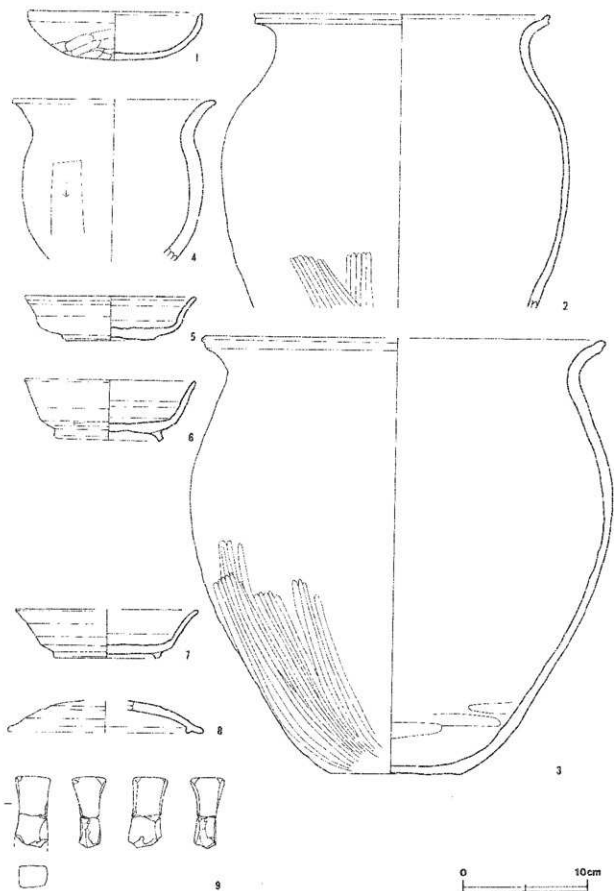
所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から奈良時代の8世紀前半と考えられる。

第311号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(mm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第119図 1	坏 土師器	A 14.0 B 3.9	口縁部一部欠損、丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部へリ痕り。	白粒・雲母 赤褐色 普通	P1407 95% 東壁際覆土下層
2	甕 土師器	A 23.6 B (24) 7	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部へリ痕り。内・外面剥離が著しい。	白粒・赤石・雲母 スロリア 赤褐色 色 普通 保存素	P1408 50% P ₁ 付近覆土下層



第418图 第311号住居跡实测图



第419图 第311号住居跡出土遺物実測図

図版番号	図 名	計測値(cm)	断面の特徴	手法の特徴	土質・色調・構成	備 考
第419図 3	棟上縁部	A:32.0 B:34.9 C:10.3	庇部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面直ナデ。体部外面中位から下位にかけて縦方向のへら引き。体部内面ナデ。底部へら削り。	砂粒・石英・長石・雲母 褐色 黄褐色 外葉層付着	P1409 40% 通行近覆土上層
4	小形竈上縁部	A:16.07 B:13.07	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面直ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。	砂粒・石英 にみい・褐色 黄褐色	P1410 55% 通行近覆土中層
5	須忠器	A:13.6 B:3.5 C:7.4	口縁部一部欠損。平底。二次底面がある。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底面回転へら削り。	長石 灰色 良層	P1411 75% 北西コーナー 有蓋覆土上層
6	高台付埴須忠器	A:13.6 B:4.8 C:8.1 D:0.8	体部一部欠損。高台は短く、ハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底面回転へら削り後、高台磨り付け。	砂粒・長石 灰白色 良層	P1412 95% 北西コーナー 付覆土上層
7	高台付埴須忠器	A:14.6 B:5.0 C:8.6 D:0.5	口縁部一部欠損。高台は短く開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底面回転へら削り後、高台磨り付け。	砂粒・長石 灰白色 良層	P1413 70% 中央付近覆土上層
8	須忠器	A:15.4 B:2.67	口縁部一部欠損。口縁部内側に短いかえりが付く。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 は黄褐色 黄褐色	P1414 15% 型か中

図版番号	図 名	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
9	瓦 心	(5.2)	2.2	1.7	(41)	南東コーナー付近覆土上層	Q1005 影灰石

第312号住居跡(第420図)

位置 調査6区西部, N13区E。

重複関係 第311号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。また第333号住居跡が上部に構築されているので、本跡が古い。

規模と平面形 本跡の西部は調査区域外に延びているが、長軸4.00m、短軸3.50mの長方形と推定される。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は56cmで、外傾して立ち上がる。

掘溝 東壁下で確認した。上幅20cm、下幅8~12cm、深さ7cmほどで、断面形は逆台形である。

床 全体的に平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。耕作によって袖部が荒廃されており遺存状況は悪く、規模は長さ105cm、袖幅100cm、壁外への掘り込みは53cmである。袖部は砂質粘土で構築されており、袖の内壁は火熱を受け赤変している。火床部は楕円形に残り掘りくぼめられ、煙道部は火床部から外傾して立ち上がる。

遺土層解説

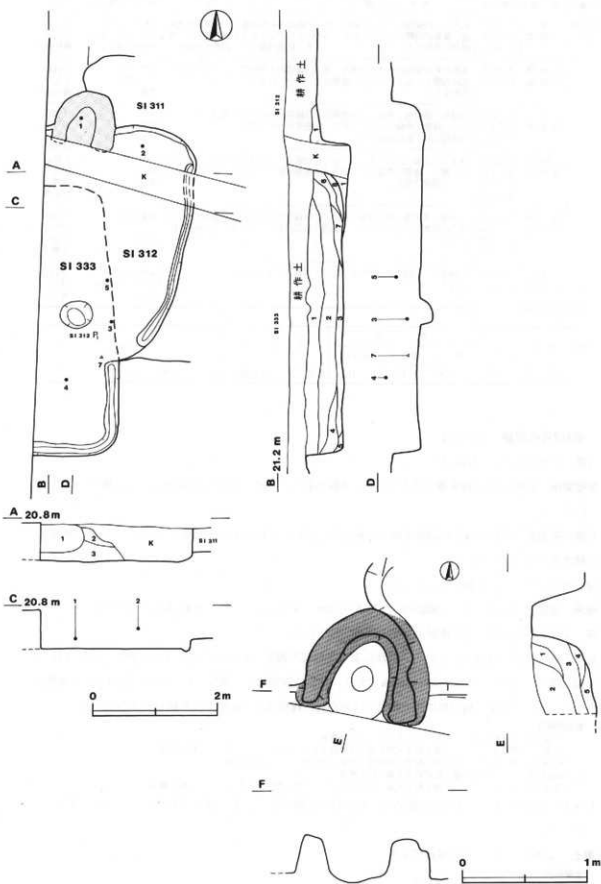
- 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量・炭化物・ローム粒子微量
- 黒褐色 ローム粒子中量・炭化粒子・焼土粒子微量
- 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム粒子微量

ピット 1か所(P1)。P1は長径55cm、短径45cmの楕円形で、深さ21cmである。出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土 3層からなり、自然堆積である。

土層解説

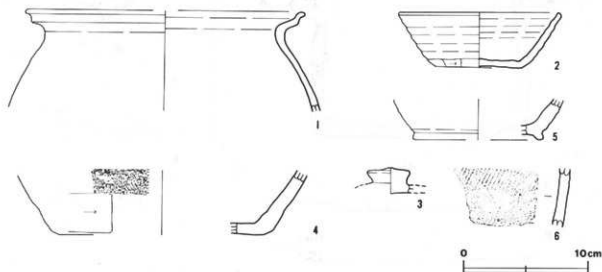
- 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量



第420图 第312・333号住居跡实测图

遺物 土師器片313点、須恵器片73点、鉄滓2点が出土している。1の土師器甕は竈内から、2の須恵器坏は北東コーナー付近の覆土上層から正位でそれぞれ出土している。6は須恵器甕の体部片で、外面には縦位の平行叩きが施されている。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代の8世紀後半と考えられる。



第421図 第312号住居跡出土遺物実測図

第312号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第421図 1	壺 土師器	A[22.0] B(8.0)	口縁部片。口縁部は強く外反する。 頸部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母・ スコリア 褐色 普通	P1415 15% 竈内
2	坏 須恵器	A 15.0 B 4.5 C 7.0	平底。体部は外傾して立ち上がり、 口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部一方 向の手持ちヘラ削り。	砂粒・長石 黄灰色 良好	P1416 100% 北東コー ナー付近覆土上層
3	蓋 須恵器	F 3.4 G 1.3	つまみ片。擬宝珠状のつまみが付く。	内面ロクロナデ。	砂粒 黄灰色 普通	P1417 5% 覆土中
4	壺 須恵器	B(5.2) C[16.4]	底部片。平底。体部は外傾して立ち 上がる。	体部外面下位ヘラ削り。内面ナデ。 外面に平行叩き。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄褐色 普通	P1418 5% 覆土中
5	壺 須恵器	B(3.3) D[10.0] E 0.6	底部片。高台は短く、ハの字状に開 く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母 にぶい黄褐色 普通	P1419 5% 覆土中

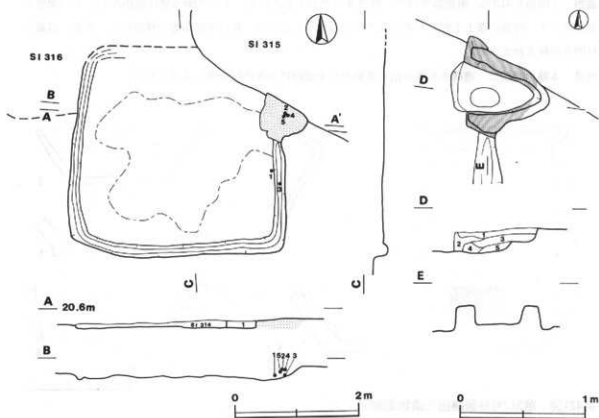
第313号住居跡 (第422図)

位置 調査6区西部、N13b8区。

重複関係 第315号住居跡に掘り込まれ、第314号住居跡が本跡の上部に構築されているので、本跡が古い。また第316号住居跡を掘り込んでいるので、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.43m、短軸[3.40]mの方形と推定される。

主軸方向 N-90°-E



第422図 第313号住居跡実測図

壁 壁高は20cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁下を除き確認した。上幅15cm、下幅7cm、深さ5cmほどである。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 東壁北東コーナー寄りに付設されている。規模は長さ80cm、袖幅75cm、壁外への掘り込みは45cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ、煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化物・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量、焼土大・中ブロック微量
- 4 黒褐色 焼土粒子多量、炭化粒子中量
- 5 黒褐色 焼土粒子中量、焼土中・小ブロック・炭化粒子少量

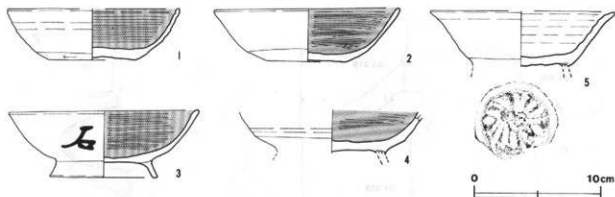
覆土 単一層であり、覆土が浅く堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子微量

遺物 土師器片77点、須恵器片29点が出土している。1の土師器杯、3の土師器高台付杯は東壁際の覆土下層から逆位で、2の土師器杯、4の土師器高台付杯、5の須恵器高台付杯が竈内からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。



第423図 第313号住居跡出土遺物実測図

第313号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第423図 1	坏 土 師 器	A [13.6] B 4.1 C 6.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部内面に沈線が通る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面へう磨き。底部回転へう切り。内面黒色処理。	砂粒・石英・雲母 外面赤褐色 内面黒色 普通	P1430 60% 東壁際覆土下層
2	坏 土 師 器	A 14.4 B 4.4 C 6.2	体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちへう削り。内面へう磨き。底部へう削り。内面黒色処理。	砂粒・長石・雲母・スコリア 外面褐色 内面黒色 普通	P1421 55% 壺内
3	高台付坏 土 師 器	A 14.9 B 5.4 D 8.4 E 1.4	高台は長く、ハの字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面へう磨き。高台貼り付け後、ナデ。体部外面に磨面。内面黒色処理。	砂粒・石英・雲母・スコリア 外面褐色 内面黒色 普通	P1422 95% 東壁際覆土下層
4	高台付坏 土 師 器	B (3.1)	底部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。内面へう磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア 外面にぶい赤褐色・内面黒色 普通	P1423 30% 壺内
5	高台付坏 須 恵 器	A [14.5] B (4.4) E (0.3)	高台部、口縁部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部に菊花状調整痕。	砂粒・雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P1424 40% 壺内

第314号住居跡 (第424図)

位置 調査6区西部, N13b区。

重複関係 第313号住居跡の上部に構築され、第316号住居跡を掘り込んでいるので、本跡が新しい。また第315号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸[3.40]m、短軸[1.95]mの長方形と推定される。

主軸方向 N-93°-E

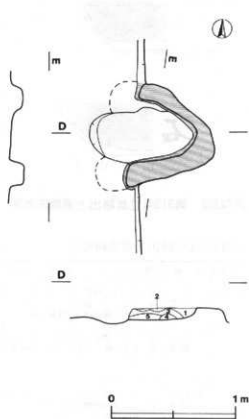
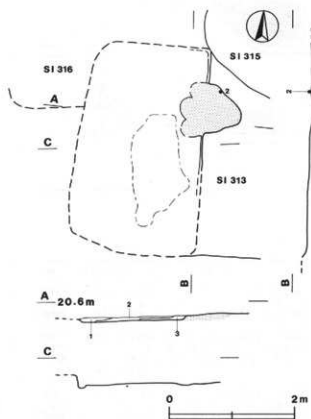
壁 壁高は5cmほどで、緩やかに立ち上がる。

床 全体的に平坦で、中央部から南壁にかけてよく踏み固められている。

竈 東壁北東コーナー寄りに付設されている。袖部の遺存状況は悪く、規模は長さ95cm、袖幅[85]cm、壁外への掘り込みは55cmである。袖部は遺存状況から、砂質粘土で構築されていたと思われる。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ、煙道部は削平され不明である。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量、炭化物微量 | 5 黒褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、焼土小ブロック微量 | |



第424図 第314号住居跡実測図



第425図 第314号住居跡出土遺物実測図

覆土 3層からなるが、覆土が浅く堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片48点、須恵器片14点が出土している。2の土師器鉢は壺内から出土している。

所見 本跡に伴う遺物が少なく時期を明確にできないが、10世紀以降とみられる第313号住居跡の上部に構築されていることから、平安時代の10世紀以降と考えられる。

第314号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第425図 1	坏 土師器	A[15.2] B(3.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面へラ磨き。	砂粒・雲母・スコリアにぶい・褐色 普通	P1426 10% 覆土中
2	鉢 土師器	B(4.6) C[8.2]	底部片。体部は外傾して立ち上がる。	体部下端手持ちへラ磨り。内面へラ磨き。	砂粒・長石・スコリアにぶい・褐色 普通	P1425 10% 壺内

第315号住居跡（第426図）

位置 調査6区西部，N13aa区。

重複関係 第313・314・316号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.65m，短軸3.60mの方形である。

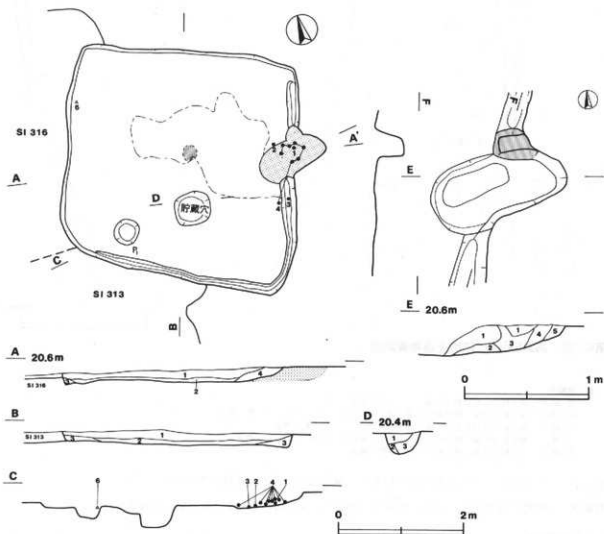
主軸方向 N-110°-E

壁 壁高は13cmで，外傾して立ち上がる。

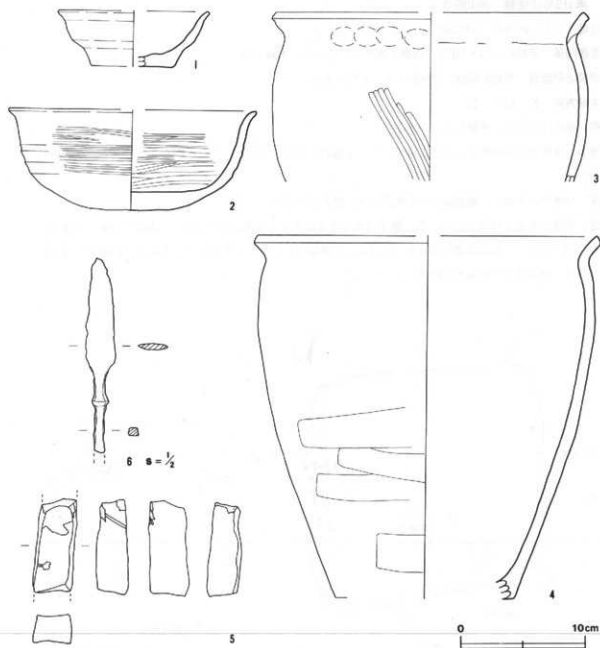
壁溝 東壁下から南壁下にかけて確認した。上幅12~15cm，下幅5~7cm，深さ5cmほどで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で，竈前面から中央部がよく踏み固められている。

竈 東壁中央部に付設されている。袖部の遺存状況は悪く，規模は長さ120cm，袖幅(95)cm，壁外への掘り込みは55cmである。袖部は遺存状況から砂質粘土で構築されていたと思われる。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ，煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。



第426図 第315号住居跡実測図



第427図 第315号住居跡出土遺物実測図

電土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量、焼土大・中・小ブロック・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 焼土粒子中量、焼土中・小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 5 黒褐色 炭化粒子少量、焼土粒子・ローム粒子微量

ピット 1か所(P₁)。P₁は径42cmの円形で、深さ21cmである。性格は不明である。

貯蔵穴 南壁際に付設されている。径55cmの円形で、深さ34cmである。断面形は鍋底状をしている。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大・中ブロック微量

覆土 4層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子多量、焼土粒子中量、焼土小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒少量
- 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

遺物 土師器片313点、須恵器片45点、鉄製品1点、土製品1点が出土している。1の土師器杯、4の土師器甕は甕内から、2の土師器鉢は甕付近の覆土下層から、3の土師器甕は東壁際からそれぞれ出土している。
 所見 本跡の時期は、遺構の形態や川土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。

第315号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
単42図 1	杯 土師器	A(12.0) B 4.5 C(7.0)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ、底面回転車切り。	砂粒・長石・スコリア 黄褐色	P1427 30% 甕内
2	鉢 土師器	A(19.7) B 8.1	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ、内・外面ヘラ磨き。	砂粒・長石・スコリア 黄褐色	P1428 45% 甕付近覆土下層
3	甕 土師器	A(24.8) B(19.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦方向のヘラ磨き。内面ナデ。体部外面に指環押花。	砂粒・石英・雲母、スコリア 黄褐色	P1429 10% 甕壁跡覆土下層
4	甕 土師器	A(27.2) B 29.0 C(14.4)	底部から口縁部にかけての破片。多孔式。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内面横ナデ。体部外面ヘラ磨り。内面ナデ。	砂粒・スコリア 褐色	P1430 20% 甕内

図版番号	器種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)		
5	不明土製品	(4.0)	2.3	1.0	(21)	覆土中	D P1005
6	鉄 鏝	(10.5)	1.6	0.4	(12)	西壁跡覆土下層	M1027 70%

第317号住居跡(第428図)

位置 調査6区西部、M13j区。

重複関係 第318号住居跡を廻り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.30m、短軸3.16mの方形である。

主軸方向 N-6°-E

壁 壁高は14~21cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

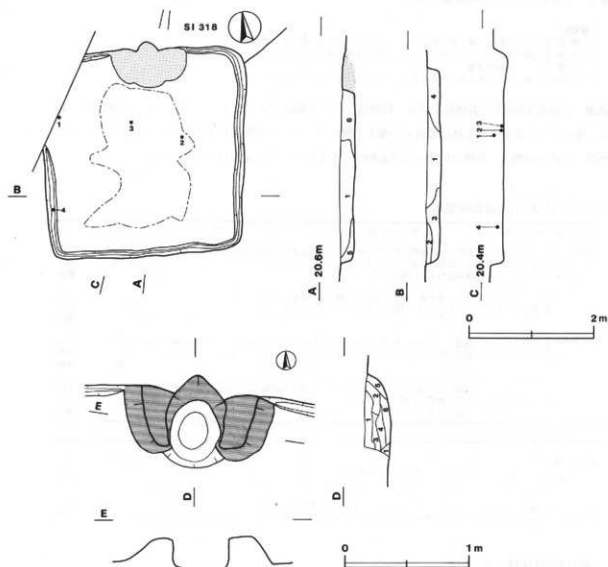
壁溝 上幅8~12cm、下幅5~8cm、深さ5cmほどで、断面形はじ字形である。ほぼ全周している。

床 全体的に平坦で、遺構面から中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ80cm、袖幅115cm、壁外への掘り込みは10cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は円形に浅く掘りくぼめられ、煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

覆土解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化粒子多量、焼土粒子中量、焼土小ブロック少量
- 3 黄褐色 焼土粒子少量
- 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子多量
- 5 黒褐色 炭化粒子多量、焼土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 6 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子多量



第428図 第317号住居跡実測図

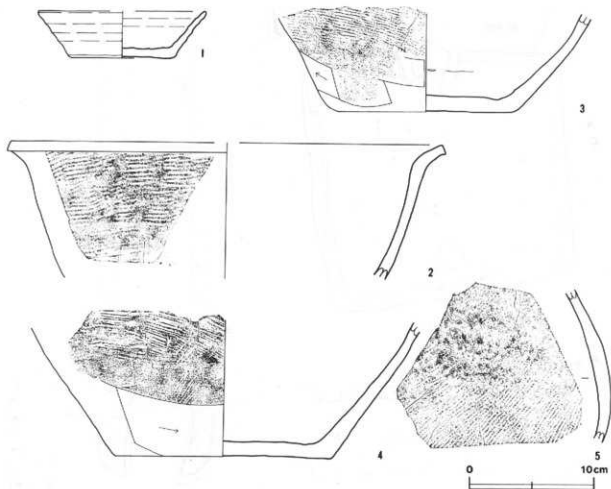
覆土 6層からなり、ブロック状の堆積で人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中・小ブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量
- 4 極暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 5 極暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片142点、須恵器片11点が出土している。1の須恵器杯は北西コーナー付近の覆土上層から逆位で、2、3の須恵器甕は中央付近の覆土下層からそれぞれ出土している。5は須恵器甕の体部片で、外面には横位の平行叩きが施されている。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代の8世紀中葉と考えられる。



第429図 第317号住居跡出土遺物実測図

第317号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第429図 1	坏 須恵器	A[13.4] B 3.8 C 8.0	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 オリーブ灰色 良好	P1437 50% 北西コー ナー付近覆土上層
2	甕 須恵器	A[34.6] B(10.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面に横方向の平行叩き。	砂粒・雲母 灰黄色 良好	P1438 10% 中央付近覆土下層
3	甕 須恵器	B(7.9) C 14.0	底部片。平底。体部は内傾して立ち上がる。	体部外面に横方向の平行叩き。体部下位ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母 灰黄色 良好	P1439 30% 中央付近覆土下層
4	甕 須恵器	B(11.0) C 17.4	底部片。平底。体部は内傾して立ち上がる。	体部外面に横方向の平行叩き。体部下位ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・石英・雲母 灰黄色 普通	P1440 30% 西壁階覆土中層

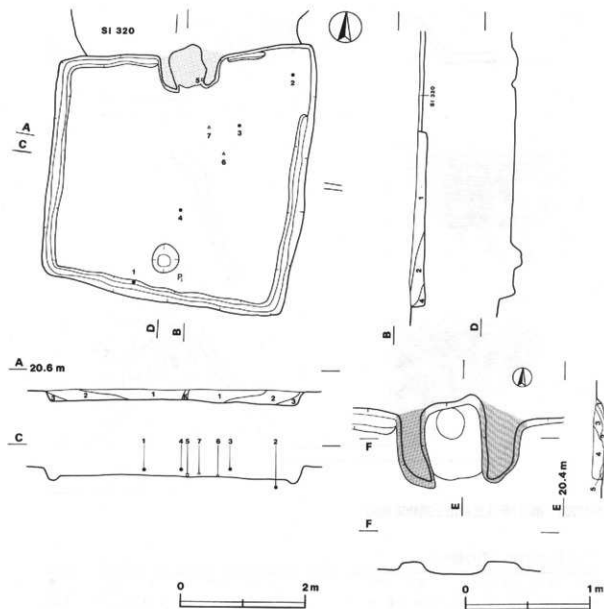
第319号住居跡 (第430図)

位置 調査6区西部, M13i9区。

重複関係 第320号住居跡が上部に構築されており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.00m, 短軸3.86mの方形である。

主軸方向 N-6°-E



第430図 第319号住居跡実測図

壁 壁高は12~23cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北東コーナーを除き全周している。上幅13cm、下幅8cm、深さ5cmほどで、断面形はU字形である。

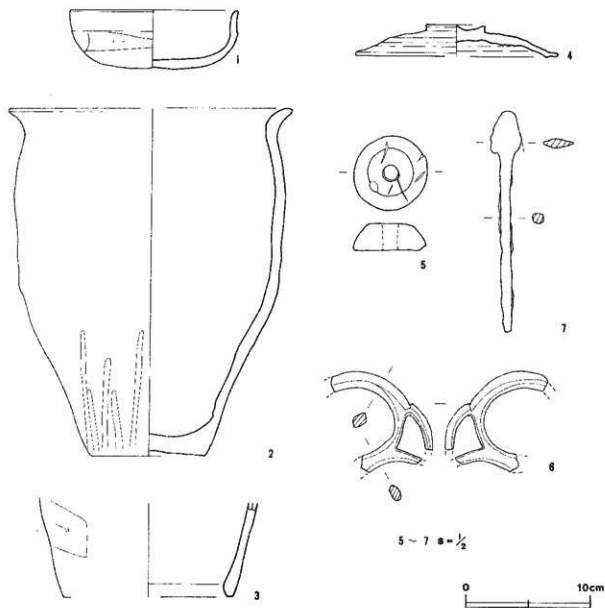
床 全体的に平坦で、軟らかい。

竈 北壁中央部に付設されている。袖部の遺存状況は悪く、規模は長さ85cm、袖幅[98]cm、壁外への掘り込みは30cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は円形に浅く掘りくぼめられ、煙道部は第320号住居跡に掘り込まれ不明である。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 棕褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 3 棕褐色 焼土粒子中量、焼土中ブロック微量
- 4 棕褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック微量
- 5 黒褐色 砂多量

ピット 1か所(P₁)。P₁は径45cmの円形で、深さ18cmである。出入り口に伴うピットと考えられる。



第431図 第319号住居跡出土遺物実測図

覆土 4層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片120点、須恵器片9点が出土している。1の土師器片は南壁際の覆土中層から逆位で、2の土師器片は北東コーナー付近の床面に底部が埋もれた状態で正位で出土している。4の須恵器蓋は中央付近の覆土中層から正位で、6の不明銅製品、7の鉄鏝は中央付近の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から奈良時代の8世紀前半と考えられる。

第319号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色・焼成	備 考
第431図 1	土 師 器 上 部 器	A 13.1 B 4.7	口縁部・底欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面磨ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 褐色 青透 外面磨ナデ	P1445 80% 中央付近覆土中層
2	土 師 器 十 部 器	A 22.7 B 27.9 C 9.0	体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面磨ナデ。体部下位裏方向のへラ磨き。内面ナデ。	砂粒・長石・長石・雲母 にぶい褐色 青透 外面磨ナデ	P1446 60% 北東コーナー 一層十度底
3	土 師 器 七 部 器	B (7.5) C (13.4)	底部から体部にかけての破片。体部は外彎して立ち上がる。	体部外面下位へラ削り。	砂粒・雲母 にぶい黄褐色 青透	P1447 5% 中央付近覆土中層
4	土 師 器 須 臈 器	A 16.4 B 2.5 F 4.7 G 0.5	口縁部一部欠損。ボタン状のつまみが付く。大母部は等形をしている。口縁部内面に、短いかえりが付く。	大母部外面へラ削り。内面クロコナデ。口縁部内・外面クロコナデ。	砂粒・長石 深黄褐色 青透	P1448 60% 中央付近覆土中層

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
5	物 師 器	3.9	1.5	0.9	33	竈内	Q1006 滑石 90%

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
6	平物製製品	(5.4)	5.3	0.6	(26)	中央付近覆土下層	M1028
7	土 師 器	11.8	(1.7)	0.6	(14)	中央付近覆土下層	M1029 80%

第320号住居跡 (第432図)

位置 調査6区西部, M130a区。

重複関係 第319・323号住居跡の上部に構築されており、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.34m, 短軸「2.92」mの長方形と推定される。

主軸方向 N-65°-E

壁 壁高は14~18cmで、外傾して立ち上がる。

床 第319号住居跡の上部に床を構築しており、ほぼ平坦で全体的に軟らかい。

竈 東壁中央部に付設されている。規模は長さ75cm, 袖幅78cm, 壁外への掘り込みは35cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りこぼめられ、煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

産土層解説

- 1 暗褐色 粘土中量, 焼土粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子中量
- 4 黒褐色 炭化粒子多量, 焼土粒子中量

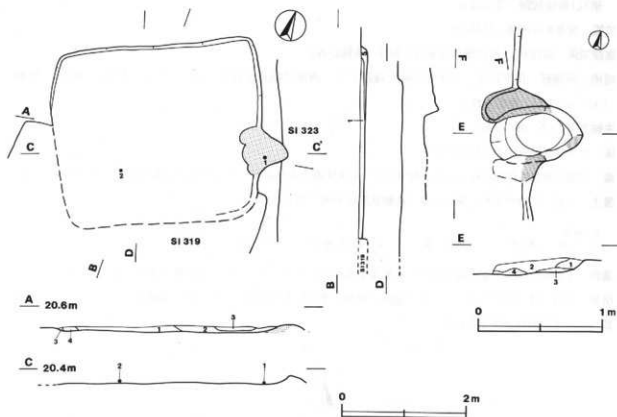
覆土 5層からなり、自然堆積である。

土層解説

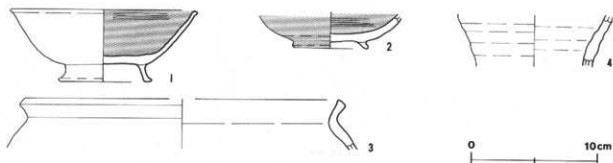
- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 産土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 産土小ブロック・産土粒子・炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 産土粒子・炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 産土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量, 産土粒子少量

遺物 土師器片93点, 須臈器片4点が出土している。1の土師器高台付碗は竈内から、2の土師器高台付碗は中央付近の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。



第432図 第320号住居跡実測図



第433図 第320号住居跡出土遺物実測図

第320号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第433図 1	高台付輪 土 師 器	A 14.6 B 5.8 D 7.2 E 1.4	体部一部欠損。高台は長く、ハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面へラ磨き。体部貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 外面褐色 内面黒色 普通	P1449 60% 壺内
2	高台付輪 土 師 器	B(2.9) D 5.8 E 0.7	底部片。高台は短く開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。内面へラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 内・外面黒色 普通	P1450 20% 中央付近置土下層
3	粟 土 師 器	A[24.8] B(3.9)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母 灰黄褐色 普通	P1451 5% 覆土中
4	長頸瓶 須 恵 器	B(4.0)	頸部片。頸部は外傾して立ち上がる。	頸部内・外面ロクロナデ。	砂粒 褐色 普通	P1452 5% 覆土中

第321号住居跡（第434図）

位置 調査6区西部, M13g区。

重複関係 第169号土坑に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 削平によって床面のみを確認した。西部は調査区域外に延びており, 長軸[3.65]m, 短軸[3.60]mの方形と推定される。

主軸方向 [N-80°-E]

床 中央部が踏み固められている。

竈 東壁中央部に付設されている。削平によって火床部のみを確認した。火床部は浅く掘りくぼめられている。

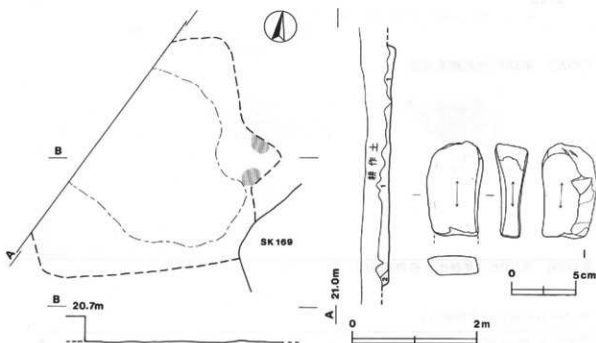
覆土 2層からなるが, 覆土が浅く堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量 2 黒褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片16点, 須恵器片2点, 石製品1点が出土している。1の砥石は覆土中から出土している。

所見 本跡に伴う遺物は少なく, また遺構の規模や平面形も不明な点が多いが, 東竈を有していることと土師器片から平安時代と推定される。



第434図 第321号住居跡・出土遺物実測図

第321号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第434図1	砥石	(7.6)	4.5	1.7	(99)	覆土中	Q1007 凝灰岩

第322号住居跡（第436図）

位置 調査6区西部，M13rdK。

重複関係 第169号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.30m，短軸2.50mの長方形である。

主軸方向 N-130°-E

壁 壁高は5～13cmで，緩やかに立ち上がる。

床 全体的に平坦で，竈前面がよく踏み固められている。

竈 南壁南東コーナー寄りに付設されている。削平により袖部の遺存状況は悪く，規模は長さ86cm，袖幅(45)cm，壁外への掘り込みは55cmである。粘土が散在していることから，袖部は砂質粘土で構築されていたと思われる。火床部は円形に浅く掘りくぼめられ，煙道部は削平され確認できなかった。

竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子少量
- 4 赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量

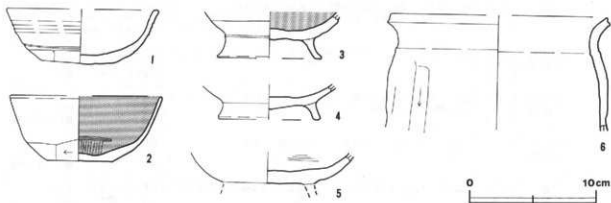
覆土 2層からなるが，覆土が浅く堆積状況は不明である。

土層解説

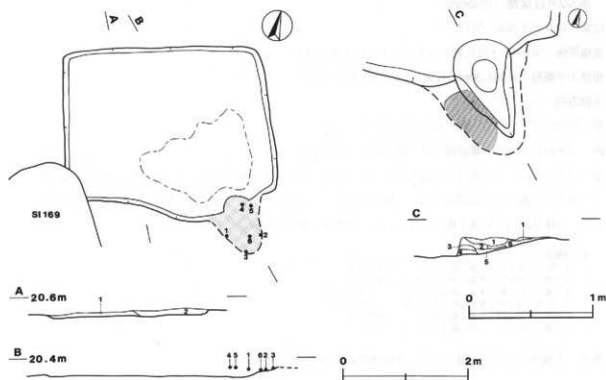
- 1 暗褐色 ローム粒子少量，ローム中・小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量

遺物 土師器片39点，須恵器片2点が出土している。1，2の土師器坏，3の土師器高台付椀は竈内から，4，5の土師器高台付椀は竈付近の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。



第435図 第322号住居跡出土遺物実測図



第436図 第322号住居跡実測図

第322号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第435図 1	坏 土器	A [11.8] B 4.8 C 5.8	体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。体部下端手持ちへら削り。底部へら削り。	砂粒・長石 褐色 普通	P1453 45% 壺内
2	坏 土器	A [11.9] B 5.2 C 5.1	体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面クロコナデ。内面へら磨き。体部下端手持ちへら削り。底部へら削り。内面黒色処理。	砂粒・石英・長石・雲母 外面にぶい褐色 内面黒色 普通	P1454 50% 壺内
3	高台付碗 土器	B (3.7) D [8.2] E 1.6	底部片。高台は長く、ハの字状に開く。	高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 外面にぶい黄褐色 内面黒色 普通	P1455 30% 壺内
4	高台付碗 土器	B (2.8) D [8.0] E 1.3	底部片。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面へら磨き。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母 褐色 普通	P1456 20% 壺付近覆土中層
5	高台付碗 土器	B (2.5)	底部片。高台欠損。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面へら磨き。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P1457 20% 壺付近覆土中層
6	壺 土器	A [17.2] B (8.9)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。	砂粒・長石・雲母・スコリア 褐色 普通	P1458 10% 壺内

第324号住居跡（第180図）

位置 調査6区西部、M13a区。

重複関係 第323・325号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.76m、短軸3.21mの長方形である。

主軸方向 N 13° - W

壁 壁高は12cmで、緩やかに立ち上がる。

壁溝 北東コーナー付近を除き確認した。上幅12～15cm、下幅8～10cm、深さ6cmほどで、断面形は逆台形である。

床 全体的に平坦で、出入り口から竈前面にかけてよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ90cm、袖幅110cm、壁外への掘り込みは45cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部には雲母片岩の支脚が二つ並んで置かれている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ、竈道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量、焼土中ブロック散見
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子散見
- 3 黒褐色 焼土粒子少量、炭化物・ローム粒子散見
- 4 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子・ローム小ブロック散見
- 5 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 焼土粒子少量、炭化粒子中量、焼土小・小ブロック・炭化粒子少量
- 7 黒褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子散見
- 8 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子散見

ピット 1か所（P1）。P1は径30cmの円形で、深さ18cmである。出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土 4層からなるが、覆土が浅く堆積状況は不明である。

土層解説

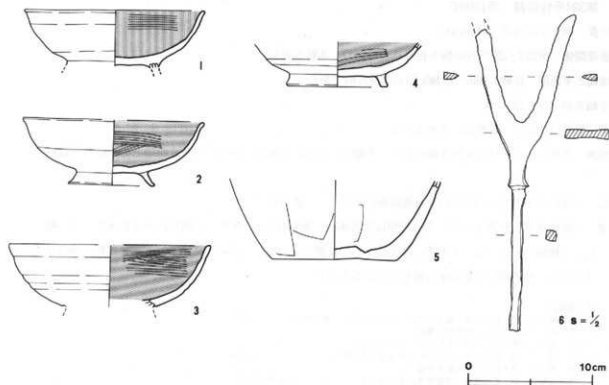
- 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子散見
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック散見
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子散見
- 4 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子散見

遺物 土師器片194点、須恵器片9点、鉄製品1点が出土している。1の土師器高台付杯は竈右袖部付瓦と東壁際の覆土上下層から、2～4の土師器高台付碗、5の土師器蓋は遺内から、6の鉄鏝は北西コーナー付近の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。

第324号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第437番 1	高台付杯 土師器	A 14.4 B (4.7)	高台欠損。体部は内彎して上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面のクロナデ。内面へう磨き。内面黒色処理。	長石・炭粉・スコリア・片赤褐色 内面黒色 青漆 二次焼成	P1462 90% 右袖・竈壁際 覆土下層
2	高台付碗 土師器	A(14.5) B 5.2 D 7.0 E 1.0	体部・高台欠損。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面のクロナデ。内面へう磨き。高台縁部付付後、ナデ。内面黒色処理。	長石・長石 外面に白い褐色 内面黒色 青漆	P1463 35% 遺内



第437図 第324号住居跡出土物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第437図 3	高台付碗 土師器	A[16.2] B 5.0	体部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母 外面明赤褐色 内面黒色 普通	P1464 30% 壺内
4	高台付碗 土師器	B(3.6) D 7.8 E 0.9	底部片。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面ヘラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	石英・長石・雲母 外面にふい褐色 内面黒色 普通	P1465 35% 壺内
5	浅 土師器	B(6.3) C 10.1	底部片。平底。体部は外彎して立ち上がる。	体部外面下位ヘラ削り。内面ヘラナデ。	石英・長石・雲母 にふい褐色 普通	P1466 10% 壺内

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	鉄 鏝	(17.0)	5.2	0.5	(30)	北西コーナー付近覆土中層	M1000 70%

第326号住居跡 (第438図)

位置 調査6区西部, M1411区。

重複関係 第288号住居跡を掘り込んでおり、また第325号住居跡の上部に構築されているので、本跡が新しい。

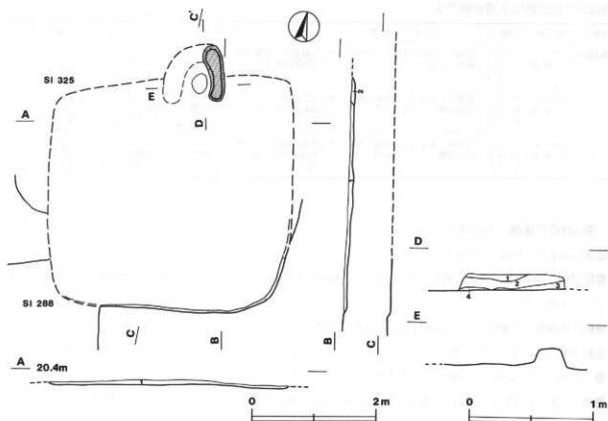
規模と平面形 長軸[3.84]m, 短軸[3.79]mの方形と推定される。

主軸方向 [N-9°-W]

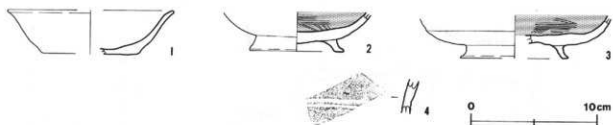
壁 壁高は4~5cmで、緩やかに立ち上がる。

床 ほぼ平坦である。

竈 北壁中央部に付設されている。削平により火床部のみを確認した。遺存状況から、袖部は砂質粘土で構築されていたと思われる。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられている。



第438図 第326号住居跡実測図



第439図 第326号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子多量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子多量
- 3 黒褐色 炭化粒子中量、焼土粒子少量
- 4 黒暗褐色 焼土粒子多量

覆土 2層からなるが、覆土が浅く堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土中・小ブロック・炭化物・炭化粒子微量

遺物 土師器片155点、須恵器片5点が出土している。1の土師器坏，2，3の土師器高台付坏は覆土中からそれぞれ出土している。4は須恵器甕の口縁部片で、外面には2本の平行沈線と櫛歯の刺突文が施されている。
 所見 本跡に伴う遺物が少なく明確な時期を断定できないが、出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。

第326号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
新439図 1	坏 上 胎 部	A〔13.1〕 H 3.4 C〔7.4〕	体部片。体部は外傾して上がり、口 唇部に穿る。	口縁部から体部外面口クロナデ。底 部両転赤切り。	長台・灰母 にふい松色 普通	P1467 25% 覆土中
2	高台付坏 土 胎 部	B〔3.1〕 D 7.5 E 1.9	底部片。高台はハの字状に開く。体 部は内傾して立ち上がる。	体部外面口クロナデ。内面へう磨き、 灰台貼り付け後、ナデ。内面黒色焼 埋。	砂粒・灰母 内面にふい褐色 内面赤色 普通	P1473 40% 覆土中
3	高台付坏 土 胎 部	B〔3.4〕 D 8.6 E 1.0	底部片。高台はハの字状に開く。体 部は内傾して立ち上がる。	体部外面口クロナデ。内面へう磨き 灰台貼り付け後、ナデ。内面黒色焼 埋。	砂粒・灰石・灰母 内面にふい褐色 内面赤色 普通	P1474 15% 覆土中

第329号住居跡 (第440図)

位置 調査6区西部, M14a1区。

重複関係 第339号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。また第327・328・330号住居跡を掘り込んでい
るので、本跡が新しい。

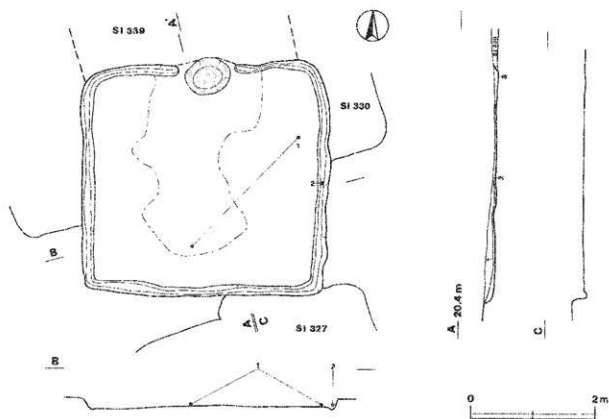
規模と平面形 長軸3.97m、短軸3.72mの方形である。

主軸方向 N 2°-W

壁 壁高は12~22cmで、外傾して立ち上がる。

土溝 上幅10~20cm、下幅10~12cm、深さ5cmほどで、断面形は逆台形である。全周している。

床 全体的に平坦で、中央部がよく踏み固められている。



第440図 第329号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されている。第339号住居跡に掘り込まれ、火床部の一部を確認しただけである。

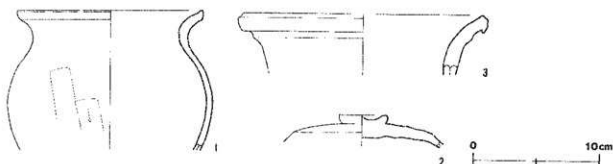
覆土 3層からなるが、覆土が浅く堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片31点、須恵器片8点が出土している。1の土師器甕は東壁際と中央付近の覆土下層から、2の須恵器蓋は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から奈良時代の8世紀前後と考えられる。



第441図 第329号住居跡出土遺物実測図

第329号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第441図 1	甕 土師器	A 14.4 B(11.0)	体部から口縁部にかけての破片、器底に内埋して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外両面ナデ。体部外面への磨り、内面ナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア 褐色 普通	P1485 35% 中央・東壁際覆土下層
2	蓋 須恵器	B(2.5) F 3.7 G 0.7	口縁部欠損。ボタン状のつまみが付く。	天牛部外面へラ削り。内面口ロナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア に濃い褐色 普通	P1486 35% 東壁際覆土下層
3	破片 須恵器	A 19.0 B(4.8)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 黒色 普通	P1487 5% 覆土中

第333号住居跡(第420図)

位置 調査6区西部, N13a区。

重複関係 第312号住居跡の上部に構築されており、本跡が新しい。

規模と平面形 本跡の西部が調査区域外に延びており、南北軸(4.32)m、東西軸(1.30)mで平面は不明である。

長軸方向 「N-0°」

壁 壁高は44cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南東コーナー付近で確認した。上幅15cm、下幅10cm、深さ3cmほどである。断面形はじ字形である。

床 全体的に平坦で、中央部に凹みが見られる。

竈 調査区域外に付設されていたものと考えられる。

覆土 8層からなり、ロームブロックが多量に見られ人為堆積である。

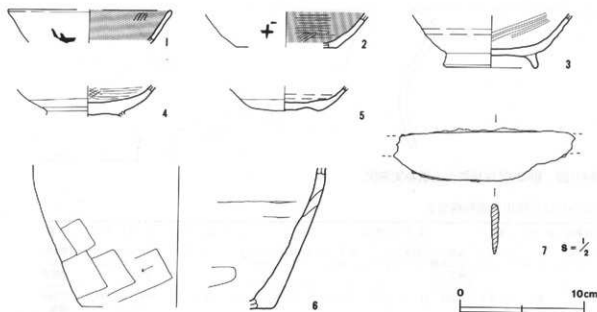
土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量

- 3 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子微量
 4 黒褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック微量
 5 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、焼土粒子微量
 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子・ローム大・中ブロック微量
 7 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 8 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片132点、須恵器片185点、鉄製品2点が出土している。3の土師器高台付杯、5の須恵器杯は東壁際の覆土中層と上層から、4の土師器高台付杯は南東コーナー付近の覆土上層から、7の鉄製手鎌は東壁際覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代の9世紀後葉と考えられる。



第442図 第333号住居跡出土遺物実測図

第333号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第442図 1	杯 土師器	A[13.0] B(2.7)	口縁部片、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部外面クロコナデ。体部内面へラ磨き。体部外面に墨書。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄褐色 普通	P1496 5% 覆土中
2	杯 土師器	B(2.8) C[8.0]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面クロコナデ。体部内面へラ磨き。体部外面に墨書。内面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア にぶい褐色 内面黒色 普通	P1497 5% 覆土中
3	高台付杯 土師器	B(4.4) D 7.6 E 1.2	底部から体部にかけての破片。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面クロコナデ。体部内面へラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・石英・雲母・ スコリア にぶい黄 褐色 普通	P1498 5% 東壁際覆土中層
4	高台付杯 土師器	B(2.5) E(0.5)	底部から体部にかけての破片。高台欠損。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面クロコナデ。内面へラ磨き。	砂粒・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P1499 30% 南東コー ナー付近覆土上層
5	杯 須恵器	B(2.0) C 5.4	底面片。平底。体部は外反して立ち上がる。	体部下端手持ちへラ削り。底部へラ削り。	砂粒・雲母 灰黄色 普通 煤付着	P1500 30% 東壁際覆土上層
6	壺 須恵器	B(11.3) C[15.2]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下位へラ削り。内面ナデ。輪横み痕。	砂粒・石英・長石・ 雲母 にぶい黄褐色 普通	P1501 10% 覆土中

図版番号	種別	計測値				出土地点	番号
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第443図7	手鏡	(9.6)	3.0	0.4	(25)	東野高麗土中層	M1032 G05

第335号住居跡 (第444図)

位置 調査6区南部、O139a区。

規模と平面形 本跡の南部は調査区域外に延びており、南北軸(0.90)m、東西軸3.41mで、平面形は不明である。

主軸方向 N-15°-E

壁 壁高は12~14cmで、外傾して立ち上がる。

竃溝 北壁下で確認した。上幅15cm、下幅10cm、深さ8cmほどで、断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦で、竃前面がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ95cm、袖幅120cm、壁外への張り込みは15cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りこぼめられ、煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

壁土層解説

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 焼土粒子多量 | 7 にぶい赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 赤褐色 焼土大ブロック多量 | 8 暗赤褐色 炭化粒子中量、焼土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 炭化粒子多量、焼土粒子少量 | 9 暗赤褐色 炭化粒子中量 |
| 4 にぶい赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、炭化粒子少量 | 10 明黄褐色 ローム大ブロック少量 |
| 5 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土中・小ブロック少量 | 11 暗赤褐色 焼土粒子微量 |

ピット 1か所(P₁)。P₁は長径95cm、短径65cmの楕円形で、深さ10cmである。断面形は皿状である。位置や土層から灰を捨てたものと思われる。

ピット土層解説

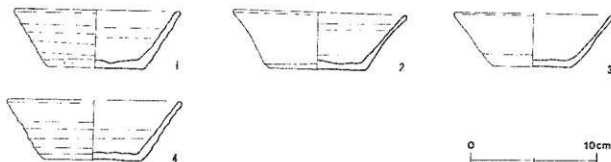
- 1 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量 2 暗赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子少量、焼土小ブロック・炭化物微量

覆土 4層からなるが、覆土が浅く堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子小量
2 暗褐色 ローム粒子少量
3 黒褐色 焼土粒子微量
4 黒褐色 焼土粒子少量、炭化粒子・ローム粒子微量

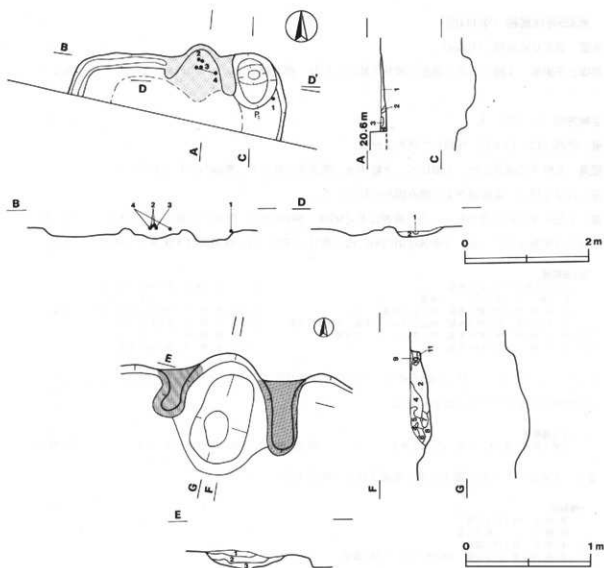
遺物 土師器片85点、須恵器片22点、不明鉄製品2点が出土している。1の須恵器杯は東壁際の床面直上から



第443図 第335号住居跡出土遺物実測図

正位で、2、3、4の須恵器環は竈内からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から奈良時代の8世紀後半と考えられる。



第444図 第335号住居跡実測図

第335号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第443図 1	坏 須恵器	A 13.0 B 4.6 C 7.6	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ、体部下端回転ヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄褐色 普通	P1504 90% 東壘跡床直
2	坏 須恵器	A 13.5 B 4.6 C 7.6	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ、底部多方向のヘラ削り。	砂粒・石英・長石・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P1505 50% 竈内
3	坏 須恵器	A[12.4] B 4.2 C 6.0	体部口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ、体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・石英・長石・雲母 褐色 普通	P1506 30% 竈内

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第445図 4	埴 須臾器	A 13.6 B 4.8 C 7.6	口縁部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部四角へう切り状。へう削り。	砂粒・石灰・雲母 磁鉄質黄色 青褐色	P1507 20% 産内

第337号住居跡（第445図）

位置 調査6区南西部、N13ra区。

重複関係 第336号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.86m、短軸3.58mの方形である。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は32cmで、外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で、竈前面から出入り口にかけてよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。袖部の遺存状況は悪く、規模は長さ75cm、袖幅「85」cm、壁外への掘り込みは5cmほどである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ、煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

遺土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 焼土粒子少量、炭化物・炭化物少量
- 4 暗褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック少量、炭化粒子微量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック少量、炭化粒子微量

ピット 2か所(P₁、P₂)。P₁は径20cmの円形で、深さ53cmである。主柱穴と考えられる。P₂は径40cmの円形で、深さ35cmである。出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土 7層からなり、自然堆積である。

土層解説

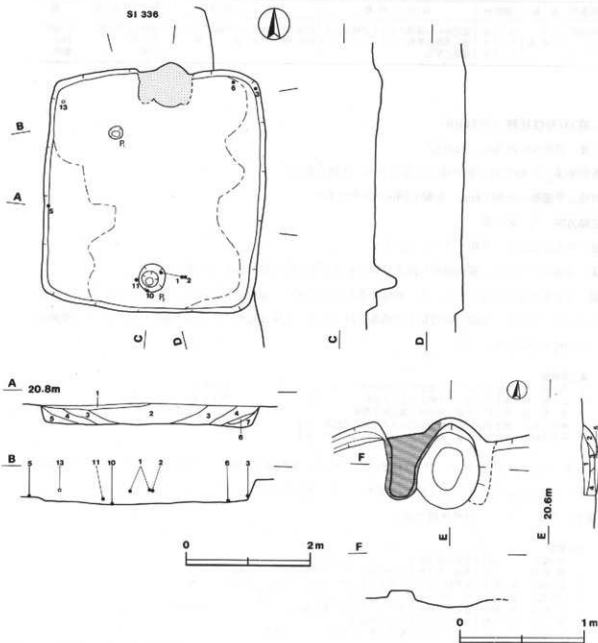
- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック少量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・ローム中・大ブロック微量
- 6 褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量

遺物 土部器片440点。須臾器片83点、石製品2点が出土している。1、2の須臾器片はP₂付近の覆土中層から逆位で、3の須臾器片は北東コーナー付近の覆土下層から、5の須臾器片は西壁際の覆土下層から逆位で、6の須臾器片は北東コーナー付近の覆土下層から、11の須臾器片はP₂付近の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から奈良時代の8世紀中葉と考えられる。

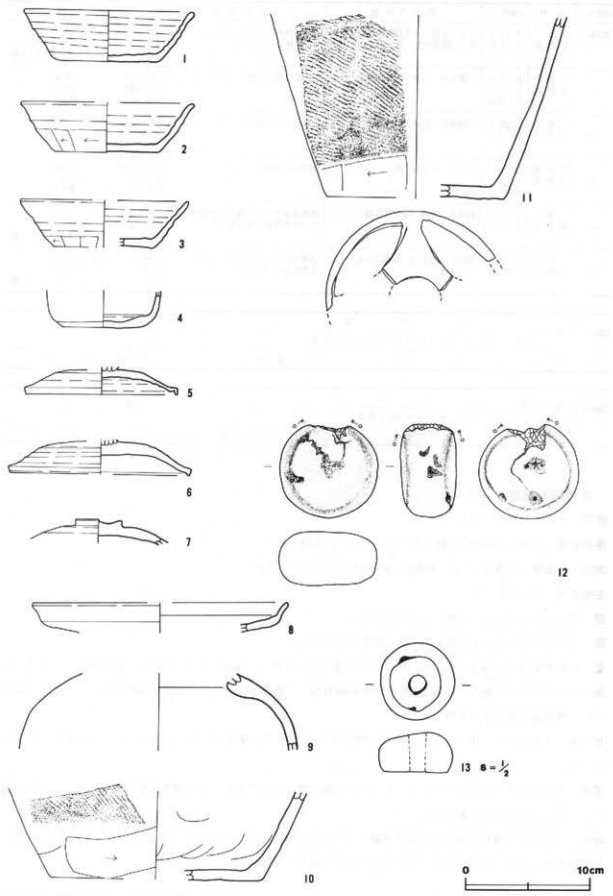
第337号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第446図 1	埴 須臾器	A 13.5 B 4.1 C 8.0	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部四角へう切り状。へう削り。	砂粒・石灰・雲母 磁鉄質黄色 青褐色	P1514 60% P ₂ 付近覆土中層



第445図 第337号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第446図 2	環 須恵器	A[13.8] B 4.1 C 8.4	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 灰黄色 普通	P1515 40% P ₂ 付近覆土中層
3	環 須恵器	A[13.5] B(3.8) C[8.0]	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 灰黄色 良好	P1516 40% P ₂ 付近覆土下層
4	環 須恵器	B(3.0) C 6.2	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 黄灰色 普通	P1517 30% 覆土中
5	蓋 須恵器	A 12.4 B(2.2)	つまみ欠損。天井部は笠形をしている。口縁部は折り返されている。	天井部外面ヘラ削り。内面ロクロナデ。口縁部ロクロナデ。	砂粒・石英・雲母 灰色 良好	P1518 90% 西壁際覆土下層



第446图 第337号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第449図 6	須 恵 器	A(14.7) B(2.8)	つまみ欠損。天井部は整形をしている。口縁部に短く新り施されている。	天井部外面ヘラ削り。内面ロクロナデ。口縁部ロクロナデ。	緑粒・長石 灰色 普通	P1519 50% 北東コ ナヘ付近層土下層
7	須 恵 器	B(1.9) F(3.7) G(0.5)	天井部片。ボタン状のつまみが付く。	天井部外面ヘラ削り。内面ロクロナデ。	緑粒・雲母 にぶい褐色 普通	P1530 50% 層土中
8	須 恵 器	A(20.4) B(2.4)	口縁部片。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ロクロナデ。	緑粒・雲母 黄灰色 普通	P1521 5% 層土中
9	長 頸 曲 須 恵 器	B(6.2)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母 黄灰色 良好	P1523 5% 層土中
10	須 恵 器	B(7.2) C(15.8)	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下位ヘラ削り。内面ヘラナデ。体部外面に平行印き。	砂粒・長石・雲母 灰色 良好	P1524 10% P=付近層土下層
11	飯 器	B(14.7) CF(4.4)	底部片。多孔式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下位ヘラ削り。内面ナデ。体部外面に平行印き。	砂粒・石英・雲母 灰色 普通	P1525 20% P=付近層土下層

図版番号	種 別	計 測 値					出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
12	磨 石	7.4	8.0	4.4		412	層土中	Q1009 安山岩 100%

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
13	持 鉢	3.9~4.2	2.2	0.9	46	北西コナヘ付近層土中層	Q1010 凝灰岩 100%

第339号住居跡(第447図)

位置 調査6区西部, N14区。

重複関係 第329・330号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸[4.31]m, 短軸[3.46]mの長方形と推定される。

主軸方向 「N-20°-W」

壁 壁高は12~22cmで、外傾して立ち上がる。

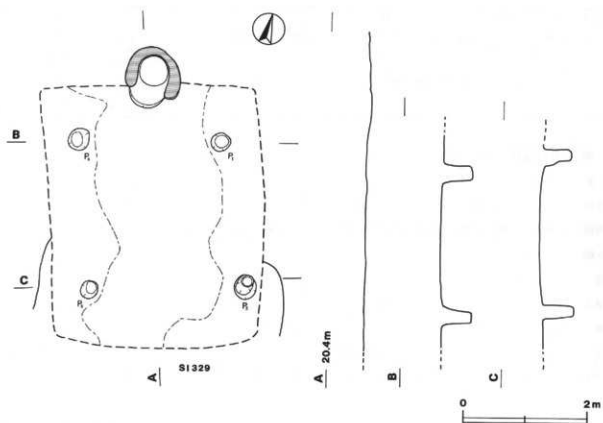
床 全体的に平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。削平により遺存状況は悪く、規模は長さ(100)cm, 袖幅(80)cm, 壁外への掘り込みは(50)cmである。袖部は遺存状況から砂質粘土で構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ、煙道部は削平され不明である。

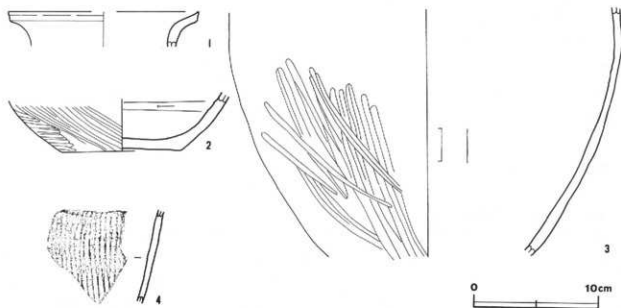
ピット 4か所(P₁~P₄)。P₁~P₃は径25~35cmの円形で、深さ44~52cmである。いずれも1柱穴と考えられる。

遺物 須恵器片4点が出土している。1~3の土師器類は混入である。4は須恵器製の体部片で、外面には横位後、縦位の平行印きが施されている。

所見 本跡に伴う遺物が少なく時期を明確にすることは難しいが、出土した土師器片や8世紀前半の第329号住居跡を掘り込んでいることから平安時代の9世紀後半と推定される。



第447図 第339号住居跡実測図



第448図 第339号住居跡出土遺物実測図

第339号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第448図 1	素 土 陶 器	A[15.7] B(2.7)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P1526 5% 覆土中

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第428図 2	美土師器	B: 4.6 C: 9.6	底部片。平底。体部は内傾して立ち上がる。	体部外面下位・底部ヘリ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・石英・雲母に富み黄色普通 外面煤付着	P1591 40% 覆土中
3	美土師器	B: (19.4)	底部片。体部は内傾して立ち上がる。	体部外面ヘリ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・石英・雲母に富み黄色普通 外面煤付着	P1528 50% 覆土中

第340号住居跡（第449図）

位置 調査6区中央部，M15g1区。

重複関係 第186号住居跡，また第14・15号溝に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 本跡の東側は調査区域外に延びているが，長軸[4.40]m，短軸4.00mの長方形と推定される。

主軸方向 N-8°-E

壁 壁高は12~23cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 西壁下から南壁下で確認した。上幅12~15cm，下幅5~8cm，深さ6cmほどで，断面形は逆台形である。

床 全体的に平坦で，竈前面から出入り口にかけてよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。第14号溝に掘り込まれ，袖部の遺存状況は悪く，規模は長さ(95)cm，袖幅(100)cm，壁外への掘り込みは30cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りこぼめられている。煙道部は削平され不明である。

竈土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量，焼土粒子少量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量
- 3 黒褐色 細小ブロック・炭土粒子少量，炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量
- 5 暗褐色 焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 6 暗褐色 炭化粒子少量，焼土粒子少量

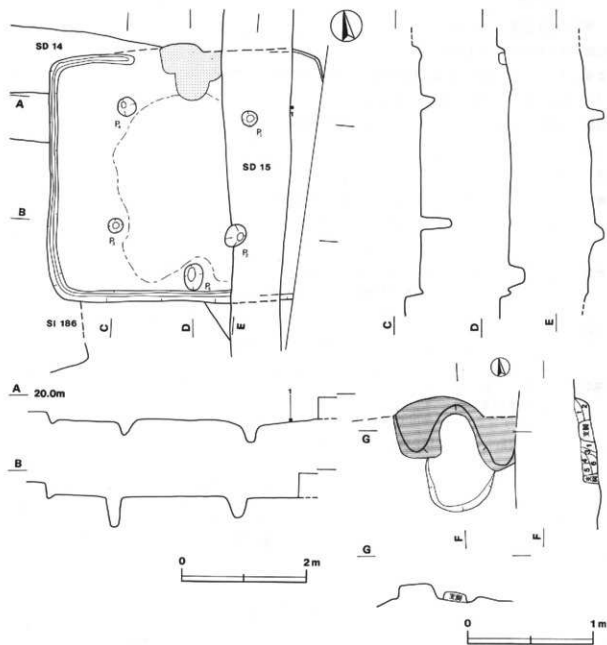
ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁~P₄は径25~40cmの円形で，深さ24~52cmである。いずれも主柱穴と考えられる。P₅は長径40cm，短径31cmの楕円形で，深さ26cmである。出入り口に伴うピットと考えられる。

遺物 土師器片130点，須恵器片8点が出土している。1の土師器片は北東コーナー付近の覆土下層から，2の須恵器片は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から奈良時代の8世紀前半と考えられる。

第340号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第450図 1	美土師器	A: 24.2 B: 8.7	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。底部は外上方につまみ上げられている。	砂粒・雲母・スコリアに富み赤褐色普通 外面煤付着	P1599 10% 北東コーナー 付近覆土下層
2	須恵器	A: 10.6 B: 3.9 C: 5.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。体部下端回転ヘリ磨り。底部ヘラ磨り。断面が若い。	砂粒・石英・長石・雲母 灰黄色普通	P1590 10% 覆土中



第449图 第340号住居跡实测图



第450图 第340号住居跡出土遺物实测图

③ 時期不明

第203号住居跡 (第282図)

位置 調査6区北部, M15j₄区。

重複関係 第204号住居跡の上部に構築されており, 第6号掘立柱建物跡に掘り込まれていることから, 第204号住居跡より新しく, 第6号掘立柱建物跡より古い。

規模と平面形 長軸[3.70]m, 短軸[3.50]mの方形と推定される。

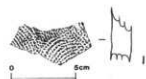
主軸方向 [N-25°-E]

床 全体的に平坦である。

竈 北側に付設されている。削平されており, 竈の痕跡しか確認できなかった。

ピット 2か所(P₁, P₂)。P₁は長径52cm, 短径42cmの楕円形, 深さ24cm, 断面形は逆台形で, 支柱穴と考えられる。P₂は長径46cm, 短径[40]cmの楕円形, 深さ10cmで, 性格は不明である。

貯蔵穴 南西コーナー部に位置する。長径84cm, 短径78cmの不整楕円形, 深さ30cm, 断面形は逆台形である。



第451図 第203号住居跡
出土遺物実測図

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量, ローム粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子中量

覆土 残っていた覆土が浅く土層が確認できなかった。

遺物 土師器片34点, 須恵器片2点が出土している。第451図1の須恵器葉の体部片は, 体部外面に同心円状の叩きが施され, 南西コーナー付近の覆土中から出土している。

所見 本跡は, 遺物も少なく時期を判断するのは困難であるが, 出土遺物から古墳時代後期以降と考えられる。

第263号住居跡 (第453図)

位置 調査6区中央部, M14e₃区。

重複関係 第198・266・267号住居跡の上部に構築されており, 本跡が新しい。また第146・161号土坑に掘り込まれているので, 本跡が古い。

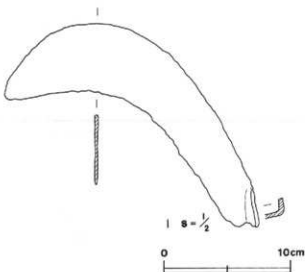
規模と平面形 床面と竈袖部を確認しただけであるが, 長軸[4.15]m, 短軸[3.02]mの長方形と推定される。

主軸方向 [N-90°-E]

壁 壁高は10~22cmで, 外傾して立ち上がる。

床 よく踏み固められている。

竈 東壁に付設されており, 削平により袖の一部を確認しただけである。袖部は砂質粘土で構築されている。



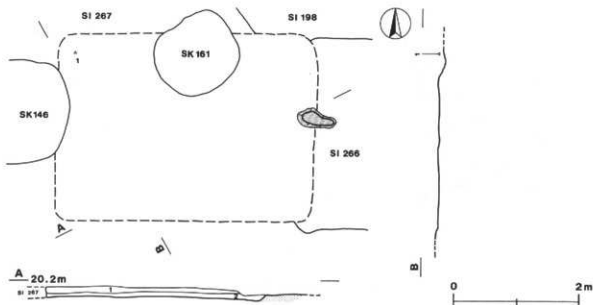
第452図 第263号住居跡出土遺物実測図

覆土 2層からなるが, 覆土が浅く堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, ローム粒子少量

遺物 土師器片199点, 須恵器片27点, 白磁片1点, 鉄製品1点が出土している。1の鉄製鎌は北西コーナー付近の覆土下層から出土している。



第453図 第263号住居跡実測図

所見 本跡に伴う遺物が少なく、明確な時期を断定できないが、遺構の形態や出土遺物から平安時代以降と推定される。

第263号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第452B1	錢	(14.7)	8.6	0.25	(49)	北西コーナー覆上下層	M1010 70%

第280号住居跡 (第454図)

位置 調査6区中央部, M14g区。

重複関係 第281～283号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸5.58m, 短軸3.50mの長方形である。

長軸方向 N-85°-E

壁 壁高は40～70cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁下から西壁下にかけて確認した。上幅15～20cm, 下幅10～15cm, 深さ5cmである。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、中央部がよく踏み固められている。

ピット 1か所(P₁)。P₁は径30cmの円形で、深さ39cmである。性格は不明である。

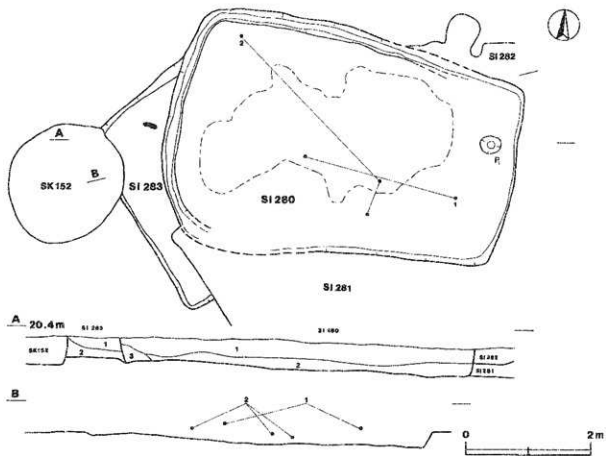
覆土 3層からなり、ロームブロックが大量にみられることから人為堆積である。

土層解説

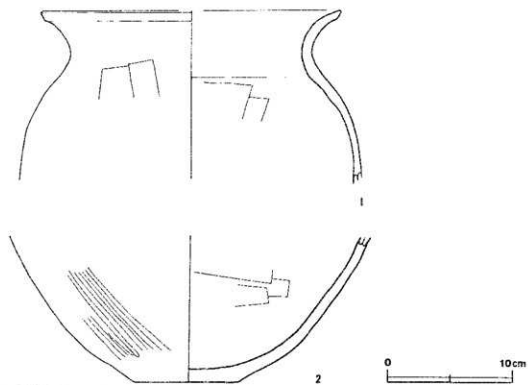
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム大・中ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック多量, 炭化物・ローム中ブロック中量, 焼土粒子・ローム大ブロック微量

遺物 土師器片700点, 須恵器片97点が出土している。1の土師器片, 2の土師器片は混入である。

所見 本跡に伴う遺物が少なく時期を断定できないが、第282号住居跡を掘り込んでいることから平安時代の10世紀以降と考えられる。



第454图 第280・283号住居跡实测图



第455图 第280号住居跡出土遺物实测图

第280号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第455図 1	甕土師器	A〔24.0〕 B 13.9	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	石英・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P1229 5% 中央付近覆土中層
2	甕土師器	B〔11.8〕 C 8.3	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面縦方向のヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 橙色 普通	P1230 10% 南壁際覆土中層

第338号住居跡（第196・197図）

位置 調査6区南西部，N137区。

重複関係 第336号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸2.13m，短軸1.96mの方形である。

長軸方向 N-18°-E

壁 壁高は54cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。南壁中央部を掘り込んで，出入口口と思われる階段が付設されている。

床 平坦で，踏み固めはみられない。

ピット 4か所（P₁～P₄）。P₁～P₄は径20cmの円形で，深さ7～30cmである。いずれも支柱穴と考えられる。

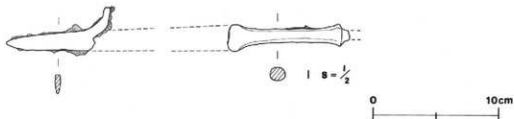
覆土 12層からなり，ブロック状の堆積をしており人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・炭化粒子・ローム粒子少量，焼土小ブロック・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量，焼土小ブロック・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム大・中・小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 極暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 極暗褐色 ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック微量
- 8 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック微量
- 9 極暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 10 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・ローム大・中ブロック微量
- 11 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 12 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片108点，須恵器片23点，鉄製品1点，礫1点が出土している。1の鉄製刀子は中央付近から出している。

所見 本跡に伴う遺物が少なく時期を明確にすることは難しいが，古墳時代後期の第336号住居跡を掘り込んでいることから，古墳時代後期以降と考えられる。



第456図 第338号住居跡出土遺物実測図

第338号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第456図1	刀 子	(18.0)	1.4	0.8	(21)	中央付近覆土下層	M1035

表4 熊の山遺跡6区住居跡一覽表

住居跡番号	方位	長軸方向	平面積	縦横(㎡)	縦横(尺)	用途	西	南	東	北	遺物	出土遺物	備註	
131	L15a	N 30° W	方形	5.30 × 5.70	4-10	平屋	全周	3	1	壁 2	自然	土師器(杯、甕、甗、甌、小皿、小瓶、土師器)	SI142・本跡→SI161、162	
132	L14b	N 30° E	方形	4.78 × 4.30	25-34	平屋	全周	4	1	壁 1	自然	土師器(杯、甕、甗、甌)	SI211・本跡→SI142	
133	L14g	S 31° W	長方形	6.90 × 6.30	18-25	平屋	全周	4	1	壁 1	人工	土師器(杯、甕、甗、甌、小皿、小瓶)	SI137・本跡	
134	L14h	N 30° E	方形	3.80 × 3.30	—	平屋	—	—	—	—	壁 1	人工	土師器(杯)	SI194・本跡
135	L14i	N 34° E	方形	3.40 × 3.00	30	平屋	—	—	—	—	壁 1	人工	土師器(杯)	SI194・本跡
136	L14c	N 30° E	長方形	4.00 × 3.00	—	平屋	—	—	—	—	壁 1	人工	土師器(杯)	SI137・本跡
137	L14f	N 13° W	方形	5.70 × 5.70	6-20	平屋	一部	4	1	壁 1	自然	土師器(杯、甕、甗、甌)	本跡→SI136, 138, 139	
138	L14d	N 6° E	方形	4.65 × 4.80	4-18	平屋	全周	2	1	壁 1	人工	土師器(杯、甕、甗、甌) 須磨器(甌)	SI137, 143→本跡・SI170	
139	L14e	N 30° E	長方形	3.85 × 2.95	8-12	平屋	一部	—	—	—	壁 1	人工	土師器(杯、甕、甗、甌) 須磨器(甌)	SI137, 138→本跡
140	L14a	N 1° E	方形	4.80 × 4.40	15-20	平屋	全周	4	1	壁 1	人工	土師器(杯、甕、甗、甌、小皿、小瓶)	SI141・本跡	
141	L14d	N 30° E	方形	6.76 × 6.80	28-34	平屋	一部	4	1	壁 1	人工	土師器(杯、甕、甗、甌、白土)	SI142・本跡→SI140	
142	L15b	N 30° W	方形	3.30 × 3.30	6	平屋	一部	1	—	—	人工	—	本跡→SI131, 141	
143	L13g	N 47° E	方形	4.30 × 4.30	8-30	平屋	一部	4	—	壁 1	人工	土師器(杯、鉢、甕)	本跡→SI138, 144→146	
144	L14g	N 3° E	方形	4.54 × 3.70	19-25	平屋	一部	—	—	—	壁 1	土師器(甕、甗、甌、小皿、小瓶、土師器)	SI143・本跡→SI145, 146	
145	L14g	N 30° E	方形	3.44 × 3.43	—	—	—	—	—	—	壁 1	土師器(高台付)	SI143, 144, 147, 147→本跡	
146	L14a	N 30° E	長方形	6.10 × 5.20	8-19	平屋	一部	2	—	北西壁	1	人工	土師器(杯) 小皿、土師器	SI139, 144, 147→本跡→SI145, 146
147	L14a	N 40° E	方形	3.70 × 3.70	—	平屋	—	1	—	—	壁 1	人工	土師器(甕、甗)	SI144・本跡→SI145, 146
148	L14i	N 30° E	長方形	4.20 × 3.60	2-5	平屋	全周	—	1	壁 1	人工	土師器(杯、甕、甗、甌、小皿、小瓶)	SI146・本跡	
149	M14a	N 1° E	方形	5.35 × 3.20	5-16	平屋	一部	—	—	—	壁 1	人工	須磨器(甌、須磨器)	SI133, 371→本跡→SI150
150	M14a	N 13° E	方形	3.32 × 3.30	39-46	平屋	全周	—	1	壁 1	人工	須磨器(杯、高台付杯、甕、甌)	SI140→本跡・SI151	
151	M14a	N 30° E	長方形	4.30 × 3.10	2-16	平屋	一部	—	—	—	壁 1	土師器(杯、甕、甗、甌、小皿、小瓶、土師器)	SI150, 152, 153→本跡	
152	M14a	N 25° E	長方形	3.60 × 3.85	18-25	平屋	全周	—	2	1	人工	土師器(杯、甕、甗、甌、小皿、小瓶、土師器)	本跡→SI151, 152→152, 155, 157	
153	L14e	N 30° E	長方形	3.80 × 2.80	10	平屋	一部	—	—	—	壁 1	人工	土師器(甕、甗、甌、小皿、小瓶、土師器)	SI155→本跡→SI154
154	L14g	N 30° E	長方形	4.30 × 3.80	13-18	平屋	一部	3	1	壁 1	人工	土師器(小皿、甕) 須磨器(土師器)	SI155, 156→本跡	
155	L14a	N 3° E	長方形	4.30 × 2.60	5-18	平屋	全周	1	1	壁 1	人工	土師器(甕) 須磨器(杯) 刀子、釘	本跡→SI153	
156	L14g	N 30° E	方形	3.85 × 3.20	6-20	平屋	—	—	—	—	壁 1	人工	土師器(杯、甕、高台付杯)	本跡→SI154
157	L15h	N 5° E	方形	3.35 × 3.38	10-15	平屋	一部	—	—	—	壁 1	人工	土師器(杯、甕、甗、甌、小皿、小瓶、土師器)	SI167→本跡
158	L15d	N 30° W	長方形	3.40 × 3.40	8	—	—	—	—	—	壁 1	人工	須磨器(甌) 刀子	本跡→SI131
159	L14d	N 30° W	長方形	6.00 × 5.95	12-21	平屋	一部	4	1	壁 1	人工	土師器(杯、甕、甗、甌) 須磨器(甌)	本跡→SI130	
160	L15d	N 6° W	長方形	3.40 × 3.12	30-40	平屋	—	—	—	—	壁 1	人工	須磨器(杯、甕)	SI159→本跡
161	L15a	N 30° E	方形	3.30 × 3.12	10	平屋	—	3	—	—	壁 1	人工	土師器(杯、高台付杯、甕、甌)	SI131, 162→本跡
162	L15g	N 30° E	方形	5.65 × 5.48	23-27	平屋	全周	4	1	壁 1	人工	土師器(杯、甕、甗、甌) 小皿、砥石	SI151→本跡→SI161, 152	
163	L15f	N 20° E	方形	4.40 × 4.20	6-18	平屋	—	—	—	—	壁 1	人工	—	SI162, 163→本跡
164	L15g	N 2° E	方形	4.70 × 4.10	10-12	平屋	全周	4	1	壁 1	自然	土師器(甕) 須磨器(高台付杯)	SI165, 166→本跡	
165	L15g	N 30° E	長方形	18.20 × 8.08	22-34	平屋	一部	6	1	—	人工	土師器(杯、甕、甗、甌) 須磨器(甌)	SI167→本跡・159→163, 166, 169	
166	L15b	N 30° W	長方形	3.78 × 2.20	25	平屋	全周	—	—	—	壁 1	人工	土師器(足高台付杯、小皿、甕、甌)	SI166, 167→本跡→SI132, 133
167	L15h	N 30° W	方形	3.60 × 3.60	—	—	—	—	—	—	壁 1	人工	土師器(甕、甗、甌)	本跡→SI137, 168, 169, SI132, 133
168	L15g	N 3° E	長方形	6.77 × 6.70	10-16	平屋	一部	3	1	壁 1	人工	不明石製品	本跡→SI161, 169, 170	
169	L15a	N 2° E	方形	5.30 × 4.82	8-12	平屋	全周	4	1	壁 1	人工	土師器(甕) 須磨器(杯、甕) 平屋	SI168→本跡	
170	L15g	N 6° E	長方形	3.90 × 3.20	6	平屋	一部	—	—	—	壁 1	—	SI168→本跡	
171	M15a	N 1° E	長方形	4.40 × 3.70	—	平屋	—	2	—	—	壁 1	—	—	
172	M15d	N 2° E	方形	3.30 × 3.1	4-20	平屋	—	1	1	壁 1	人工	須磨器(杯、甕、甌)	—	
173	M15g	N 30° W	方形	3.60 × 3.30	—	平屋	—	—	—	—	壁 1	人工	七郎器(高台)	—

住居調査 番号	位置	主軸方向 長軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸 (m)	壁高 (m)	内 部 施 設										備 考					
						壁 主軸	壁 入軸	壁 出軸	壁 出軸	壁 出軸	壁 出軸	壁 出軸	壁 出軸	壁 出軸	壁 出軸		壁 出軸				
174	M156j	N-87°E	[方形]	4.20×4.60	2~4	平	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土階層(坪)				
175	M155d	N-87°W	[方形]	4.80×4.48	8~10	平	—	4	1	—	—	—	—	—	—	—	人為土階層(要) 磁石	SH76→本誌			
176	M154d	N-87°E	[長方形]	5.70×4.80	2~6	平	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	本誌→SH75			
177	M152b	N-3°E	[方形]	4.22×4.80	8~10	平	—	4	1	—	—	—	—	—	—	—	自然土階層(要) 須磨器(蓋) 支脚				
178	M156d	N-11°E	[長方形]	3.60×3.00	2~8	平	—	3	1	—	—	—	—	—	—	—	自然土階層(要) 須磨器(坪、蓋)				
179	M14b	N-32°E	[方形]	7.13×6.88	20~30	平	全	6	1	2	1	—	—	—	—	—	人為土階層(高坪、埋、要)	本誌→SK134,137			
180	M14c	N-11°E	[方形]	4.30×4.48	20~30	平	全	4	—	—	—	—	—	—	—	—	自然土階層(要) 須磨器(坪、高坪付坪、小)	SH22,181→本誌→SH182,185			
181	M14a	N-85°W	[方形]	4.70×4.70	3~20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	人為土階層(高坪付坪、小)	SH192→本誌→SH189,195			
182	M14d	N-3°W	[方形]	3.60×4.80	20~30	平	全	3	—	—	—	—	—	—	—	—	人為土階層(高坪付坪、小)	SH192,180→本誌→SH183			
183	M14e	N-80°E	[方形]	3.30×3.60	18~20	平	一	1	—	—	—	—	—	—	—	—	人為土階層(高坪付坪、小)	SH192→本誌			
184	M15a	N-80°E	[長方形]	3.76×3.20	3~12	平	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	人為土階層(坪、小皿、要)	本誌→SD15			
185	M14f	N-80°E	[長方形]	4.22×3.70	3~12	平	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	自然土階層(要) 須磨器(蓋)	SH360→本誌→SD14,5,SD29不明			
186	M14g	N-3°E	[長方形]	4.68×3.82	10~20	平	一	3	—	—	—	—	—	—	—	—	自然土階層(要) 高坪付坪、小	SH202,SH40→本誌			
187	M16c	N-30°E	[長方形]	4.38×(1.30)	16~40	平	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	人為土階層(要) 高坪付坪、小	本誌→SH199			
188	L14j	N-80°E	[長方形]	3.40×2.80	8~15	平	全	—	—	—	2	—	—	—	—	—	人為土階層(坪、小皿、磁石、下階層)	SH194→本誌			
189	L14i	N-2°W	[長方形]	3.70×3.30	32~40	平	全	4	1	—	—	—	—	—	—	—	人為土階層(要) 須磨器(坪、蓋)	SH12→本誌			
191	M14a	N-12°E	[長方形]	3.80×2.80	8~14	平	全	—	—	—	—	—	—	—	—	—	自然土階層(高坪付坪、要)				
192	M14e	N-10°E	[長方形]	3.00×2.60	4~10	平	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	人為土階層(要) 須磨器(蓋)				
193	M14d	N-17°E	[方形]	4.50×4.80	41	平	全	4	—	—	—	—	—	—	—	—	自然土階層(坪、要) 須磨器(坪、高坪付坪、小)	SH192,197,198→本誌			
194	L14i	N-8°E	[方形]	3.86×4.66	5	平	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土階層(高坪、埋、要) 磁石	本誌→SH25,188			
195	M14b	N-1°E	[方形]	3.60×3.40	4~12	平	全	—	1	—	—	—	—	—	—	—	須磨器(坪、盤、磁石) 助磁石	SH150,152,180,181→本誌→SH19			
197	M14c	N-1°W	[方形]	3.88×5.60	43~50	平	全	3	—	—	1	—	—	—	—	—	人為土階層(坪、磁石) 須磨器(坪、要) 高坪付坪、小	SH152,180→本誌→SH183,184,185			
198	M14a	N-30°W	[方形]	8.04×8.00	40	平	全	2	—	—	—	—	—	—	—	—	人為土階層(坪、磁石) 須磨器(坪、要) 高坪付坪、小	SH197→本誌→SH193,194,195,196,198,199			
199	M154a	N-85°E	[方形]	0.60×(1.30)	29~36	凸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土階層(高坪付坪、要) 須磨器(坪)	SH187→本誌			
200	M15a	N-3°W	[長方形]	3.80×3.70	2	平	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
201	L15a	N-30°E	[方形]	3.40×(3.40)	—	平	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土階層(坪、小皿、要) 須磨器(要)	SH204→本誌→SH6		
202	M15a	N-1°E	[長方形]	4.00×3.30	1~4	平	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土階層(坪) 須磨器(蓋)	SH203→本誌		
203	M15j	N-10°E	[方形]	3.70×3.50	—	平	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SH204→本誌→SH6		
204	L15a	N-25°W	[方形]	6.40×6.10	27	平	—	4	1	—	—	—	—	—	—	—	—	人為土階層(坪、要) 須磨器(蓋、要)	本誌→SH201,203,SH6		
205	M14i	N-10°E	[長方形]	3.16×3.58	8~10	平	全	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	自然土階層(高坪付坪、小)	SH206,213,SK141→本誌		
206	M14a	N-80°E	[方形]	3.50×(1.00)	22~24	平	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	本誌→SH205,213		
207	M14b	N-100°E	[方形]	3.10×(2.80)	—	平	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	人為土階層(高坪付坪、小)	SH213→本誌→SH208	
208	M14a	N-80°E	[長方形]	4.44×3.86	30~25	平	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	人為土階層(高坪付坪、小)	SH207,209,210→本誌	
209	M14b	N-20°E	[長方形]	4.18×3.20	28	平	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	人為土階層(要)	SH212→本誌→SH208,210	
210	M14a	N-100°E	[長方形]	4.16×3.38	14~17	平	全	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	人為土階層(高坪付坪、要)	SH209→本誌	
211	L14j	N-8°E	[方形]	3.38×(3.70)	2~4	平	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	本誌→SH192,149	
212	L14j	N-8°W	[方形]	3.53×(2.00)	28	平	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	本誌→SH189	
213	M14b	N-25°E	[方形]	5.01×5.00	25~38	平	全	4	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SH206→本誌→SH208,207,209,SK138,139	
214	M14c	N-100°E	[長方形]	4.70×4.30	13	平	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SH213,216→本誌→SH222	
215	M14d	N-10°E	[方形]	3.38×3.30	20~30	平	全	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	本誌→SH214	
216	N14b	N-10°E	[方形]	4.70×4.30	23~44	平	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	本誌→SH214,217	
217	N14a	N-10°E	[長方形]	4.94×4.25	38~32	平	全	6	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SH216,218→本誌	
218	N14a	N-3°E	[長方形]	3.66×(1.42)	12	平	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	本誌→SH217,225	
219	N14c	N-80°E	[長方形]	3.68×2.98	24~20	平	全	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
220	N14a	N-10°E	[方形]	3.30×4.36	8~14	平	全	4	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
221	N14a	N-1°W	[長方形]	4.80×3.98	07	平	全	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SH225→本誌→SH223

住居種 番 号	位置	主軸方向 長軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	階高 (m)	内 部 設 計							備 考				
						床	壁	上柱	天井	平	電	不		障	土		
222	N15a	Y 3°-W	-	3.80×3.90	10	平	部	-	-	-	北	障	-	-	土障	SD21→本誌	
223	N14c	N 3°-E	長方形	4.10×3.70	16-22	平	部	-	2	-	障	1	-	-	人為	土障(障、壁、窓、天井、床、障、壁)	
224	M14a	N 3°-E	長方形	3.01×2.69	19-27	平	部	-	-	-	障	-	-	-	人為	土障器(高台付桝、小皿)	
225	N14c	N 3°-E	刀形	4.48×4.00	41-58	平	全	障	-	1	障	-	-	-	人為	土障器(障、壁)須磨器(障、壁)	
226	N14d	N 3°-W	-	4.00×3.80	38-54	平	部	-	1	-	-	-	-	-	人為	須磨器(障、高台付桝)	
227	N14a	N 3°-E	刀形	3.01×2.30	13-24	平	部	-	-	-	障	-	-	-	自然	須磨器(障)鉄障	
228	N14a	N 3°-W	刀形	4.07×4.25	15	平	全	障	1	-	障	-	-	-	-	土障器(障、壁)	
229	N14c	N 3°-E	刀形	3.16×3.14	13	中	部	-	-	-	-	-	-	-	-	須磨器(壁)	
230	O14a	N 3°-E	長方形	3.42×3.08	25	平	全	障	-	1	障	1	-	-	人為	須磨器(障、壁)	
231	N14a	N 3°-E	刀形	4.15×3.90	12-18	平	全	障	4	-	障	-	-	-	自然	土障器(障、壁)	
232	N14a	N 3°-E	刀形	3.36×3.34	14-20	平	全	障	-	1	障	2	-	-	自然	土障器(障、高台付桝、障)須磨器(障)	
233	N14a	N 3°-E	刀形	4.44×3.14	24-36	平	全	障	4	1	障	1	-	-	自然	土障器(障、壁、窓、天井、障、壁、障、壁)	
234	N14c	N 3°-E	刀形	3.00×3.06	16	平	全	障	2	-	障	-	-	-	自然	土障器(障、壁、窓、天井、障、壁、障、壁)	
235	N13a	N 3°-E	刀形	3.47×3.20	25-33	平	全	障	-	-	障	-	-	-	自然	土障器(障)支脚	
236	N14a	N 7°-E	長方形	4.00×3.49	42-60	中	部	-	-	-	障	-	-	-	自然	土障器(壁)須磨器(障)針	
237	N14a	N 6°-W	長方形	2.96×3.53	15	平	全	障	-	-	-	-	-	-	-	土障器(高台付桝、小皿)	
238	N14a	N 1°-E	長方形	4.281×3.58	20-22	平	全	障	-	2	-	障	1	-	自然	土障器(障、壁、高台付桝、小皿)	
239	N14a	N 7°-E	長方形	3.03×2.71	22	平	全	障	-	-	障	-	-	-	人為	SD28→本誌	
240	N14a	N 3°-E	長方形	3.10×2.38	15-20	中	部	-	-	-	障	-	-	-	自然	土障器(小皿)小須磨器	
241	N14a	N 1°-E	刀形	3.42×3.33	25-34	平	全	障	-	-	障	-	-	-	自然	土障器(障)須磨器(障、障、障、障)	
242	N14a	N 3°-E	長方形	4.26×3.20	20-25	平	部	-	-	-	障	-	-	-	自然	土障器(高台付桝)須磨器(壁)	
243	N14a	N 1°-E	刀形	4.08×4.44	20-38	平	全	障	4	-	障	-	-	-	人為	土障器(障、壁、障、須磨器(障、障、障、障))	
244	O14a	E 0°	刀形	3.35×3.30	30-31	平	全	障	2	1	障	1	-	-	自然	土障器(障)須磨器(障、障、障、障)	
245	O14a	N 3°-W	刀形	3.42×3.28	4-10	平	全	障	-	-	障	2	-	-	自然	土障器(高台付桝、小皿、壁)須磨器	
246	N13a	N 3°-E	長方形	3.40×3.23	17	平	全	障	-	-	障	-	-	-	-	土障器(高台付桝、高台付桝)	
247	N13a	N 3°-E	刀形	3.26×3.00	13-16	平	全	障	-	1	障	1	-	-	人為	土障器(障、高台付桝、障、障)障	
248	N13a	N 3°-E	長方形	3.441×2.94	20	平	部	-	-	-	障	-	-	-	人為	土障器(壁)	
249	N13a	N 3°-W	刀形	3.10×4.98	48-52	平	全	障	4	1	障	-	-	-	人為	土障器(障、高台付桝、高台付桝、障、障、障、障)	
250	N13a	N 1°-W	刀形	3.38×3.88	11-13	平	部	-	-	-	障	-	-	-	-	土障器(障、壁)	
251	N13a	N 1°-E	刀形	3.88×3.68	49-51	平	全	障	4	1	障	-	-	-	自然	土障器(障)須磨器(障、障)	
252	O13a	N 3°-E	長方形	3.34×2.20	8-22	平	全	障	-	2	-	障	1	-	人為	土障器(障、高台付桝、高台付桝)	
253	O13a	N 0°	刀形	4.92×4.68	38-44	平	部	-	4	1	障	-	-	-	人為	土障器(障、壁、障)	
254	N13a	N 3°-E	刀形	3.68×3.30	38-46	平	全	障	1	障	-	-	-	-	人為	土障器(障、障、須磨器(障、障、障、障))	
255	N13a	N 0°	長方形	4.75×3.52	36	平	部	-	2	-	障	-	-	-	自然	土障器(壁、障)須磨器(障)	
257	N13a	N 3°-E	-	2.20×1.90	13	平	部	-	-	-	障	-	-	-	自然	土障器(障、高台付桝、小皿)	
258	N12a	N 3°-E	刀形	2.02×4.20	16-25	平	部	-	4	1	障	-	-	-	自然	土障器(壁、障)須磨器(障)	
259	M15a	N 3°-W	-	6.00×4.00	12-17	平	部	-	-	-	障	1	-	-	-	土障器(障)	
260	M14a	N 3°-W	長方形	5.36×4.70	6-10	平	全	障	4	1	障	-	1	-	-	土障器(障、壁)	
261	M14a	N 3°-E	刀形	3.30×5.10	20-30	平	全	障	4	1	障	-	1	-	自然	土障器(障、障)須磨器(障、障、障、障)	
262	M14a	N 3°-E	長方形	4.401×3.26	25-48	平	部	-	-	-	障	1	1	-	-	土障器(高台付桝)	
263	M14a	N 3°-E	長方形	4.151×3.00	10-22	平	全	障	-	-	障	-	-	-	-	障	
264	M15a	N 3°-E	長方形	3.001×2.72	6-12	平	全	障	-	-	障	2	-	2	-	-	土障器(高台付桝、壁、羽釜)鉄障
265	M14a	N 3°-E	長方形	3.70×3.10	1-6	平	全	障	-	-	障	-	-	-	-	土障器(障、高台付桝、障)須磨器(障、障)	
266	M14a	N 0°	刀形	3.24×3.10	25-42	平	全	障	-	1	障	-	-	-	自然	土障器(障、障)須磨器(障、障)	
267	M14a	N 3°-W	刀形	5.801×5.70	10-22	平	全	障	3	1	障	1	-	-	-	土障器(高台、壁、壁)	
268	M14a	N 3°-E	長方形	4.001×3.28	22-31	平	全	障	-	-	障	-	-	-	自然	土障器(障、高台付桝、障、障)	

序號	位置	坐標方向	面積	規模	建築	用途	備註	出產物	備註
序號	位置	坐標方向	面積	規模	建築	用途	備註	出產物	備註
269	N14E	N 30° E	方 形	4.06 × 3.02	18-20 平房	一部	—	—	—
270	M14E	N 30° E	長方形	3.71 × 3.25	7-20 平房	全部	—	—	—
271	M14E	N 30° E	長方形	4.20 × 3.30	11-20 平房	全部	—	—	—
272	M14E	N 30° E	方 形	3.50 × 3.87	23-25 平房	全部	4	1	—
273	N14E	N 30° E	—	—	—	—	—	—	—
274	M14E	N 30° E	方 形	4.96 × 4.70	30 平房	部	4	1	—
275	M14E	N 30° E	—	—	—	—	—	—	—
276	M14E	N 30° E	—	—	—	—	—	—	—
277	M14E	N 30° E	長方形	3.32 × 2.40	18-20 平房	—	—	—	—
278	M14E	N 30° E	長方形	3.38 × 2.87	30-35 平房	全部	—	—	—
279	M14E	N 30° E	方 形	5.15 × 5.15	10-20 平房	—	1	5	1
280	M14E	N 30° E	長方形	5.58 × 3.50	40-50 平房	一部	—	—	—
281	M14E	N 30° E	方 形	8.40 × 8.28	44-50 平房	全部	4	1	—
282	M14E	N 30° E	長方形	16.40 × 14.80	30-35 平房	一部	—	—	—
283	M14E	N 30° E	—	—	—	—	—	—	—
284	M14E	N 30° E	長方形	3.22 × 2.53	14-20 平房	部	—	—	—
285	M14E	N 30° E	方 形	3.81 × 3.88	16-20 平房	全部	—	—	—
286	N14E	N 30° E	長方形	3.80 × 2.86	13-20 平房	部	—	—	—
287	N14E	N 30° E	長方形	3.75 × 3.22	16-20 平房	全部	—	—	—
288	M14E	N 30° E	長方形	2.64 × 2.18	6 平房	—	—	—	—
289	M14E	N 30° E	長方形	4.28 × 2.88	30-35 平房	全部	—	—	—
290	N14E	N 30° E	長方形	6.11 × 5.14	10 平房	—	—	—	—
291	N14E	N 30° E	方 形	3.40 × 5.28	35-40 平房	全部	—	—	—
292	N14E	N 30° E	方 形	73.30 × 5.28	10-18 平房	一部	2	1	—
293	N14E	N 30° E	方 形	4.28 × 4.12	30-35 平房	全部	2	1	—
294	N14E	N 30° E	長方形	4.12 × 3.38	11-20 平房	一部	—	—	—
295	N14E	N 30° E	方 形	3.30 × 5.21	20-30 平房	全部	4	1	—
296	N13E	N 30° E	方 形	4.18 × 3.78	30-35 平房	全部	—	—	—
297	N13E	N 30° E	方 形	3.20 × 3.16	34-36 平房	部	1	1	—
298	N14E	N 30° E	—	—	—	—	—	—	—
299	N13E	N 30° E	長方形	1.28 × 3.82	31-41 平房	—	—	—	—
300	M14E	N 30° E	長方形	4.58 × 4.07	34-36 平房	全部	2	1	—
301	M13E	N 30° E	長方形	3.71 × 4.20	16-27 平房	—	—	—	—
302	N13E	N 30° E	長方形	3.30 × 2.60	34 平房	一部	—	—	—
303	N13E	N 30° E	方 形	4.06 × 3.87	38 平房	全部	1	1	—
304	N13E	N 30° E	方 形	3.83 × 3.30	38 平房	全部	1	1	—
305	N13E	N 30° E	—	—	—	—	—	—	—
306	N13E	N 30° E	長方形	3.80 × 3.16	—	—	—	—	—
307	N13E	N 30° E	長方形	4.33 × 3.42	21 平房	部	—	—	—
308	N13E	N 30° E	長方形	4.40 × 4.00	35-36 平房	部	—	—	—
309	N13E	N 30° E	方 形	4.32 × 3.99	30-35 平房	全部	4	1	—
310	N13E	N 30° E	長方形	3.32 × 2.89	10 平房	—	—	—	—
311	N13E	N 30° E	方 形	3.04 × 3.18	31-35 平房	部	2	—	—
312	N13E	N 30° E	長方形	4.00 × 3.50	36 平房	一部	1	—	—
313	N13E	N 30° E	方 形	3.43 × 3.40	30 平房	一部	—	—	—
314	N13E	N 30° E	長方形	3.40 × 1.85	5 平房	—	—	—	—

住居跡番号	上軸方向 長軸方向	平面形状	規模(m)		壁高 (m)	築年 (西暦)	内 部 施 設								備 考 新旧関係(古→新)										
			長軸×短軸	(㎡)			設 置 有 無	主 次 火 口	入 口 有 無	中 心 礎 石 有 無	平 礎 石 有 無	上 層 有 無	土 間 有 無	出 土 遺 物											
315	N13ba	N-10° E	方 形	3.85 × 3.60	13	平	部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土間葺 (坪、鉢、甕、瓶) 鉄器	SI313、314、316 → 本跡				
316	N13ar	N-10° W	方 形	4.94 × 4.82	—	平	部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土間葺 (高坪、甕) 鉄器	本跡 → SI313 ~ 315				
317	M13r	S-6° E	方 形	3.30 × 3.16	14-22	平	部	全	部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	須恵器 (坪、甕)	SI318 → 本跡				
318	M13a	S-30° E	—	5.101 × (4.20)	8-11	平	部	全	部	3	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土間葺 (坪、甕)	本跡 → SI317			
319	M13a	N-6° E	方 形	4.00 × 3.86	13-23	平	部	全	部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土間葺 (平、高坪、甕) 須恵器 (甕) 鉄器	本跡 → SI320			
320	M13b	N-6° S	長方形	3.34 × (2.82)	14-18	平	部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土間葺 (高台付坪、甕) 須恵器 (甕)	SI319、325 → 本跡			
321	M13g	N-30° E	方 形	3.85 × (3.69)	—	平	部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	破石	本跡 → SK169		
322	M13d	N-10° E	長方形	3.30 × 2.50	5-13	平	部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土間葺 (坪、高台付坪、甕)	本跡 → SK169		
323	M13a	S-30° W	方 形	6.91 × 6.30	1-14	平	部	全	部	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土間葺 (高坪、甕)	本跡 → SI329、324 ~ 326		
324	M13e	S-10° W	長方形	3.26 × 3.21	12	平	部	全	部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土間葺 (高台付坪、高台付坪、甕)	SI323、325 → 本跡		
325	M14b	K-2° E	方 形	5.07 × 4.86	16-22	平	部	全	部	4	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土間葺 (坪、甕)	SI323 → 本跡 → SI324、326	
326	M1a	[N 3° W]	方 形	3.84 × 3.70	4-5	平	部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土間葺 (坪、高台付坪)	SI288、325 → 本跡	
327	M14f	N-10° W	方 形	4.04 × 3.75	20-34	平	部	全	部	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土間葺 (坪、甕) 須恵器 (甕)	SI329 → 本跡 → SI329	
328	M14f	S 22° W	方 形	6.00 × (5.85)	8-16	平	部	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土間葺 (坪、鉢、甕)	本跡 → SI327、329、330、339	
329	M14e	S 2° W	方 形	3.97 × 3.72	12-22	平	部	全	部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土間葺 (甕) 須恵器 (甕、甕)	SI327、328、330 → 本跡 → SI330	
330	M14e	S-30° W	方 形	6.40 × 6.24	3-25	平	部	全	部	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土間葺 (坪、甕) 須恵器 (坪) 鉢	SI329 → 本跡 → SI329、339	
331	O13f	K 30° W	長方形	4.27 × 2.98	2-8	平	部	部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土間葺 (甕) 須恵器 (平瓶) 破石		
332	O13f	N-10° E	方 形	3.46 × 3.42	28	平	部	全	部	4	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土間葺 (坪)		
333	N13a	N-8°	—	(4.20) × (1.30)	41	平	部	部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土間葺 (坪、高台付坪) 須恵器 (坪、甕) 平礎	SI312 → 本跡	
334	O13b	N-11° W	方 形	3.86 × 3.36	5-22	平	部	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土間葺 (坪、甕)		
335	O13b	S-10° E	—	3.44 × (0.90)	12-11	平	部	部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	須恵器 (坪)		
336	N13f	K 3° E	方 形	6.33 × 6.40	15-30	平	部	部	4	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土間葺 (坪、高坪) 須恵器 (坪、平瓶) 刀子、鏝、須恵器 (甕)	本跡 → SI337、338
337	N13f	K-5° E	方 形	3.86 × 3.88	32	平	部	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土間葺 (坪、高坪、甕、鉢、平瓶)	SI336 → 本跡
338	N13f	N 18° E	方 形	2.13 × 1.96	54	平	部	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土間葺 (坪)	SI336 → 本跡
339	M14e	N-30° W	長方形	4.21 × (3.45)	12-22	平	部	—	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土間葺 (甕)	SI329、330 → 本跡
340	M15g	S-8° E	長方形	4.40 × 4.00	12-23	平	部	部	4	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土間葺 (甕) 須恵器 (坪)	本跡 → SI186、SB14、15

* 重複している住居跡の壁溝は、ほぼ推定できるものは全周とし、推定するには困難なものは一部とした。

(2) 掘立柱建物跡

調査6区の北部から、掘立柱建物跡1棟を検出した。以下、検出した建物跡の特徴や出土遺物について記載する。

第6号掘立柱建物跡（第458図）

位置 調査6区北部，M15a1区。

重複関係 第165・167・201・203・204号住居跡を掘り込んでいることから、第165・167・201・203・204号住居跡より新しい。第210号土坑と重複しているが、切り合いがないため、新旧関係は不明である。

規模 東西4間，南北2間の建物跡で，東西9.10m，南北6.10mである。柱間寸法は桁行1.05～1.57m，梁行2.10～2.25mである。柱穴の掘り方は，平面形が長軸85～130cm，短軸65～112cmの不整形長方形で，深さ60～80cmである。柱痕は，P₂，P₃，P₆～P₉，P₁₁で確認されている。柱は，径23～31cmである。

桁行方向 N-83°-Wの東西棟である。

覆土 ロームブロックを中量に含んでおり，人為堆積と考えられる。

掘り方土層解説

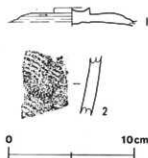
- 1 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック少量，ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量，黄土粒子微量
- 5 明褐色 ローム大ブロック少量
- 6 明褐色 ローム大ブロック中量

遺物 土師器片152点，須恵器片18点が出土している。第457図1の須恵器蓋はP₅の覆土中から出土している。2の須恵器甕の体部は，P₅の覆土中から出土している。

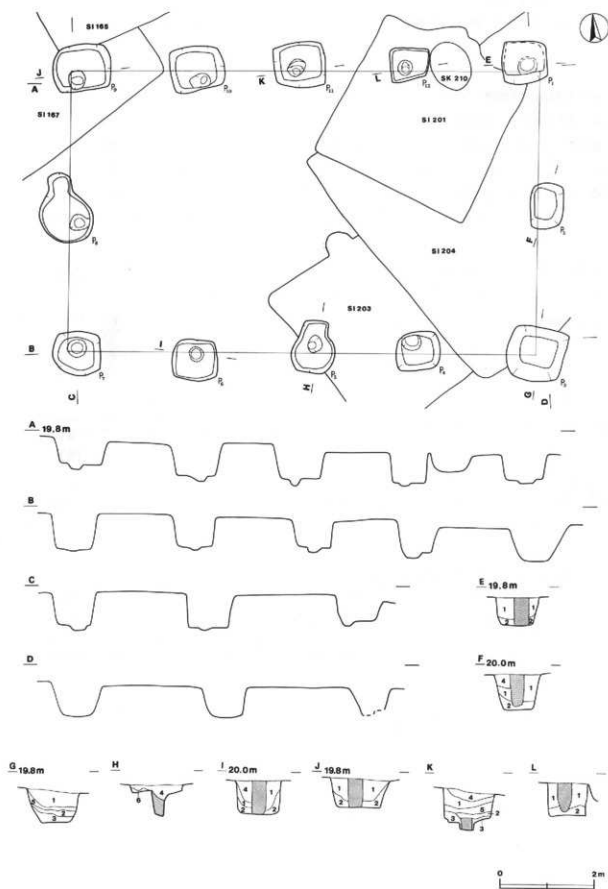
所見 本跡は，古墳時代前期から平安時代の10世紀中葉にかけての住居跡を切っていることから，10世紀後葉以降のものと考えられる。

第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第457図 1	蓋 須恵器	B(1.5) F[2.8] G 0.6	蓋のつまみ部・天井部片。つまりは扁平なボタン状を呈する。	天井部回転へう削り。	砂粒・長石 灰色 良好	P511 20% P ₅ の覆土中



第457図 第6号掘立柱建物跡出土遺物実測図



第458图 第6号掘立柱建物跡実測図

(3) 土坑

調査6区で、土坑62基を検出した。中でも、しっかりしたものや特徴的なものについて記載し、その他は一覧表に掲載した。

第129号土坑 (第459図)

位置 調査6区北部, L14区。

規模と平面形 長径0.72m, 短径0.65mの不整形である。

長径方向 N-7°-E

壁 深さは26~33cmで、外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

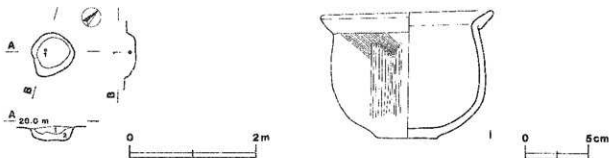
覆土 2層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物 土師器片2点が出土している。第459図1の土師器小形甕はほぼ完形で、覆土中層から逆位で出土している。

所見 本跡は、土器に刷毛目調整が施されていることなどから古墳時代前期と考えられる。



第459図 第129号土坑・出土遺物実測図

第129号土坑出土遺物観察表

図録番号	器名	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第459図 1	小形甕 土師器	A 13.5 B 10.2 C 4.6	平底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は折り返し口縁で、外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面刷毛目調整後、ヘラ磨き。内部備付着。	石英・長石・赤色粒子 3.5%程度 普通	P533 100% 壺土中層

第137号土坑 (第460図)

位置 調査6区北西部, M14区。

重複関係 第179号住居跡を掘り込んでいることから、本跡が新しい。

規模と平面形 長径1.37m, 短径1.28mの円形である。

長径方向 N-83°-W

壁 深さは75cmで、外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

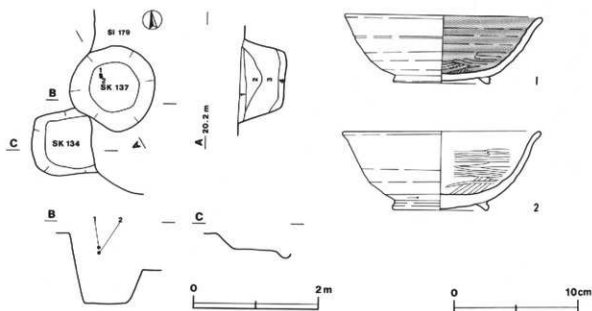
覆土 4層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒色 炭化粒子・ローム粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒色 炭化粒子多量、ローム粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子・ローム中ブロック少量、焼土粒子微量
- 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量

遺物 土師器片 2点が出土している。第460図1の土師器高台付坏は、内面が黒色処理され、覆土上層から完形で出土している。2の土師器高台付碗は、覆土上層からほぼ完形で出土している。

所見 本跡は、出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。



第460図 第134・137号土坑・出土遺物実測図

第137号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第460図 1	高台付坏 土師器	A 15.6	体部は丸みをもって立ち上がり、口縁部に至る。高台は短く、フラップ状に開き、わずかに反る。	体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。高台貼り付け後、ナデ。	長石・雲母・赤色粒子 外面にぶい黄褐色 内面黒色 普通	P608 100% 覆土上層
		B 5.5				
		D 7.6				
		E 0.6				
2	高台付碗 土師器	A 15.6	口縁部一部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はやや外反する。ハの字状に開く短い高台が付く。	内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。体部内面ヘラ磨き。底部ヘラナデ後、高台貼り付け。	長石・雲母・赤色粒子 ぶい褐色 普通	P609 95% 覆土上層
		B 6.5				
		D 7.4				
		E 0.8				

第144号土坑 (第461図)

位置 調査6区中央部, M14a区。

重複関係 第205号住居跡が上部に構築されており、本跡が古い。

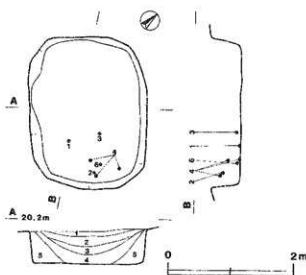
規模と平面形 長軸2.40m, 短軸1.86mの長方形である。

長軸方向 N-51°-W

壁 深さは43~50cmで、外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 5層からなり、人為堆積と考えられる。



第461図 第144号土坑実測図

土層解説

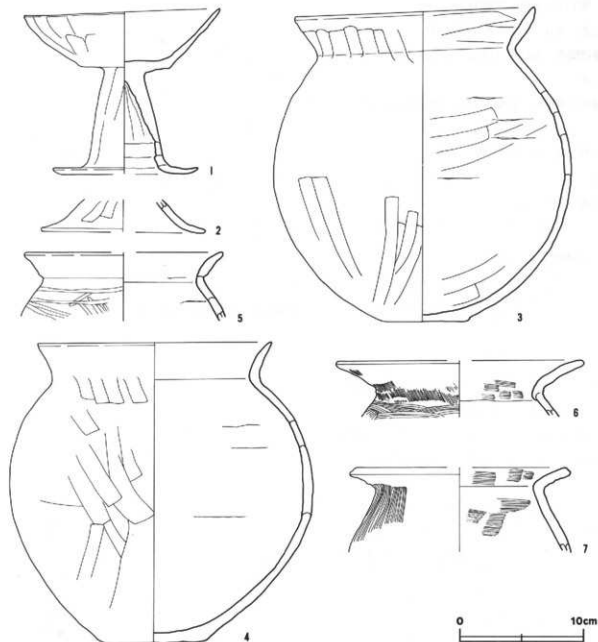
- 1 褐色褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム中・小ブロック微量

遺物 土師器片118点が出土している。第462図1の土師器高坏は、床面から、2の土師器高坏は覆土中層から出している。3の土師器壺は、覆土下層から出している。4の土師器壺は、覆土中層から、5、7の土師器壺は、覆土中層から出している。6の土師器壺は、覆土下層から出している。

所見 本跡は、出土遺物から古墳時代中期と考えられる。

第144号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第462図	高土師器	A 15.7 B 13.3 D [11.7] K 8.6	胴部はエンタシス状の膨らみを持ち、胴部はくの字状に強く開く。	胴部内面ヘラナデ。外面ヘラ削り。胴部外面ヘラ削り。胴部内面ナデ。外面ヘラ削り。	砂粒・赤色粒子 褐色 普通	P540 80% 床面
2	高土師器	D [13.0] E (8.6)	胴部片。胴部は外に開く。	胴部外面ヘラ削り。	砂粒 明赤褐色 普通	P541 5% 覆土中層
3	壺土師器	A 19.1 B 25.3 C 6.3	平底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部はくの字状に外反する。	口縁部内・外面ヘラナデ。外面ヘラ削り。輪轆み取。	砂粒・赤色粒子 灰黄褐色 普通	P542 80% 覆土下層
4	壺土師器	A 18.6 B 24.0 C 7.4	体部・口縁部一部欠損。体部は内傾して立ち上がる。口縁部はくの字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面ヘラ削り。輪轆み取。	長石・赤色粒子 普通	P543 30% 覆土中層
5	壺土師器	A [15.8] B (5.5)	体部から口縁部にかけての破片。口縁部はくの字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・赤色粒子 淡黄褐色 普通	P544 5% 覆土中層
6	壺土師器	A [19.6] B (4.5)	口縁部片。体部からくの字状に折れて口縁部で外反する。	口縁部内・外面刷毛目調整後、ナデ。体部外面刷毛目調整。	砂粒・赤色粒子 淡黄褐色 普通	P545 5% 覆土下層
7	壺土師器	A [16.8] B (6.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部からくの字状に折れて口縁部で外反する。	口縁部内面刷毛目調整。	砂粒・石英・長石・赤色粒子 に濃い赤褐色 普通	P546 5% 覆土中層



第462図 第144号土坑出土遺物実測図

第145号土坑 (第463図)

位置 調査6区中央部, M14e7区。

重複関係 第198号住居跡・第14号溝・第1号大形竪穴状遺構を掘り込んでいることから, 本跡が新しい。

規模と平面形 長径[1.90]m, 短径1.80mの楕円形である。

長径方向 [N-42°-W]

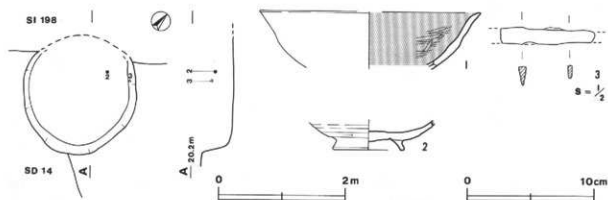
壁 深さは48cmで, 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

遺物 土師器片51点, 須恵器片5点, 鉄鏃1点が出土している。第463図1の土師器杯は, 内面が黒色処理され, 覆土中から出土している。2の土師器高台付杯は, 覆土中層から出土している。3の鉄鏃は, 覆土中層から

ら出土している。

所見 本跡は、出土遺物から平安時代と考えられる。



第463図 第145号土坑・出土遺物実測図

第145号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
第463図 1	坏 土 師 器	A[17.4] B(4.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾し、口縁部に至る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。内面黒色処理。	砂粒 外面黄褐色 内面黒色 普通	P547 5% 覆土中	
2	高台付坏 土 師 器	B(2.4) D 5.5 E 0.9	底部から体部にかけての破片。高台は、ハの字状に開く。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転へラ磨り。底部回転へラ磨り後、高台磨り付け。	砂粒・赤色粒子・雲母 褐色 普通	P548 40% 覆土中層	
図版番号	種別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
3	鉄 蒔	(5.0)	0.9	0.4	(4.18)	覆土中層	M55

第208号土坑 (第464図)

位置 調査6区中央部, M14j₆区。

規模と平面形 長軸1.94m, 短軸1.35mの不整長方形である。

長軸方向 N-90°-W

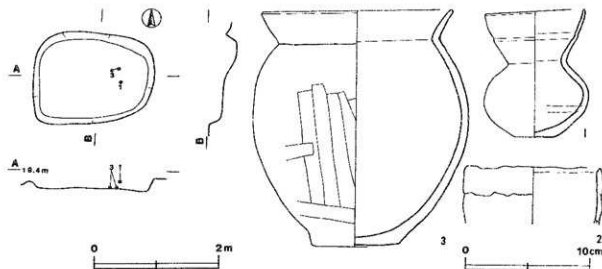
壁 深さは10~22cmで、外傾して立ち上がる。

底面 凹凸である。

遺物 土師器片7点, 須恵器片2点が出土している。第464図1の土師器器は、覆土中層から出土している。

2の土師器器は、覆土中から出土している。3の土師器器は、覆土下層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



第464図 第208号土坑・出土遺物実測図

第208号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第464 1	用 土 器	A 7.9 B 10.3	平底。体部は扁平気味であり、内彎して立ち上がり、口縁部は中位に接を有し、やや内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。輪襷み尻。底部外面へラ削り。	砂粒・長石 浅黄褐色 普通	P564 95% 覆土中層
2	頸 土 器	A 10.6 B(4.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に立ち上がる。口縁部は二重に折り返している。	口縁部外面ナデ。	砂粒・長石・小礫 にふい褐色 普通	P565 20% 覆土中
3	頸 土 器	A 15.2 B 19.5 C 7.0	体部一部欠損。体部は内彎して立ち上がる。口縁部でくの字状に折れて外反して立ち上がる。口縁部は折り返している。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。	砂粒・長石・小礫 にふい赤褐色 普通 二次焼成	P566 90% 覆土下層

第215号土坑 (第465図)

位置 調査6区中央部、L147区。

規模と平面形 長径1.36m、短径0.88mの楕円形である。

長径方向 N-41°-W

壁 深さは10cmで、外傾して立ち上がる。

底面 凹凸である。

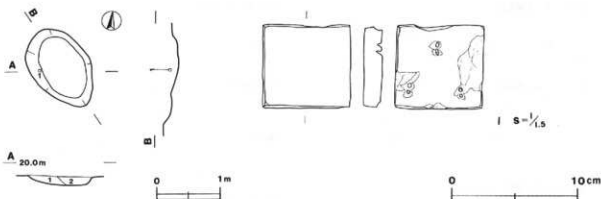
覆土 2層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量

遺物 石製品1点が出土している。第465図1の石鈴(巡方)は、覆土上層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物の石鈴が、平安時代初頭頃のものと考えられる。詳細な時期は不明である。



第465図 第215号土坑・出土遺物実測図

第215号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第465図 22	石磨(透刃)	3.3	3.5	0.7	19.0	覆土上層	Q37 粘板岩 表面には2か所1組のもぐり穴が、3か所穿けられている。

第130号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム少ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第132号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第133号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量, ローム中・小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム中・小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量

第140号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第141号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第143号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム中・小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム大・中ブロック少量, ローム粒子微量
- 3 黒褐色 炭化物・ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 極暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量

第146号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 4 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

第147号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子極微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量, 炭化物極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム大・中ブロック微量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子微量, ローム小ブロック極微量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

第148号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量, 炭化粒子極微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

第150号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量, 炭化粒子極微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量, 焼土粒子極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

第151号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量、焼土粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第152号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック少量

第153号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック微量
- 2 赤褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量

第154号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・粘土小ブロック微量、炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

第157号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量

第158号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子微量、ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

第159号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量

第160号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第161号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中・小ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック微量

第162号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック中量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中・中ブロック中量、ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量

第163号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、ローム中・小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック微量

第164号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物・ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、炭化粒子微量

第165号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子多量、ローム大ブロック少量

第166号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量

第169号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子微量、ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

第170号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量、炭化粒子極微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

第171号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量、炭化粒子極微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量、焼土粒子極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

第172号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

第173号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子微量

第174号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量

第175号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第176号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量、ローム中・小ブロック中量
- 2 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック微量

第177号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子多量、ローム大ブロック中量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中・中ブロック中量

第178号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量、ローム中・小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック微量

第179号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物・ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、炭化粒子微量

第180号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子多量、ローム大ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子多量

第181号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子微量、ローム小ブロック極微量
- 5 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子多量

第182号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子・ローム中ブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量

第183号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量、炭化粒子極微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

第184号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量、炭化粒子極微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量、焼土粒子極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

第209号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子・ローム中ブロック・炭化物微量

第210号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量、炭化粒子極微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

第212号土坑土層解説

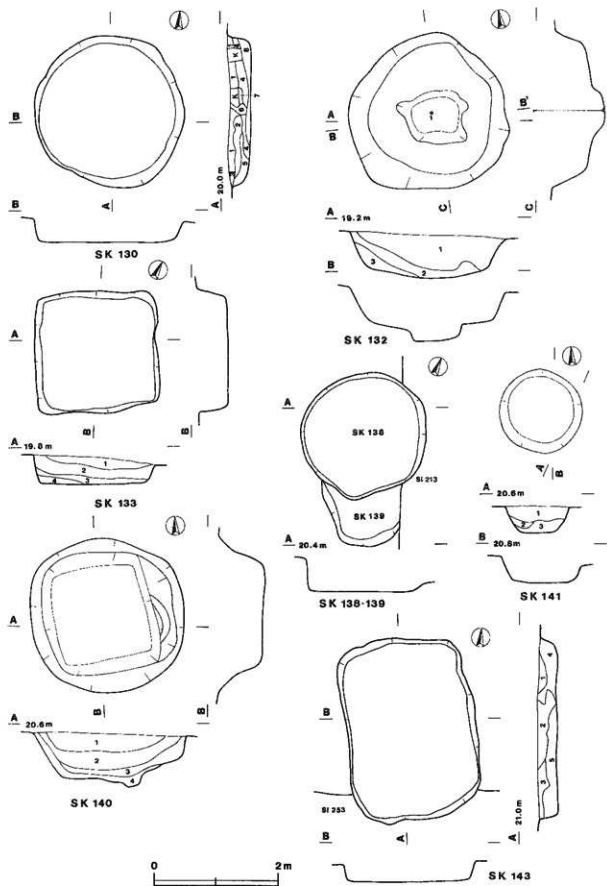
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量、炭化粒子極微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量、焼土粒子極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量

第213号土坑土層解説

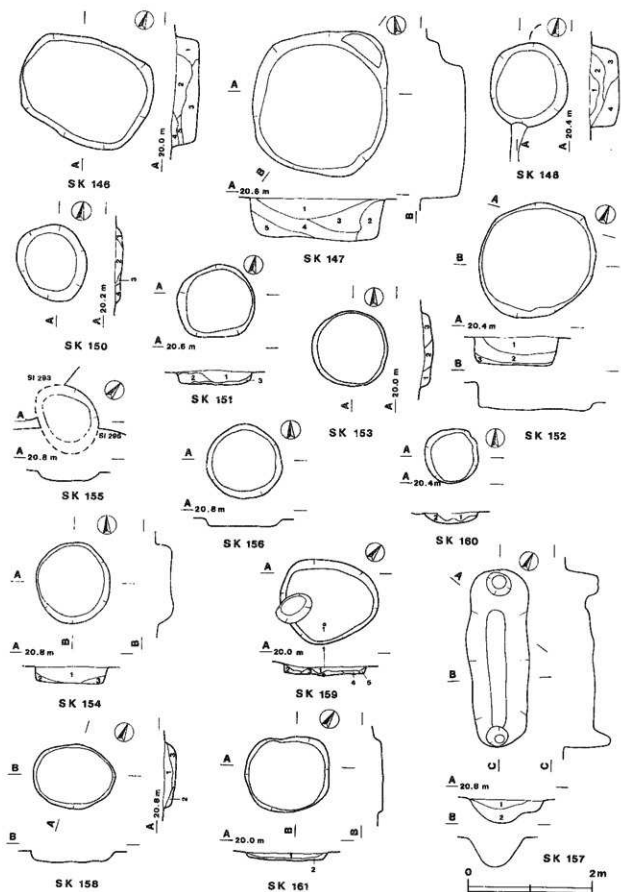
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量、焼土粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

第214号土坑土層解説

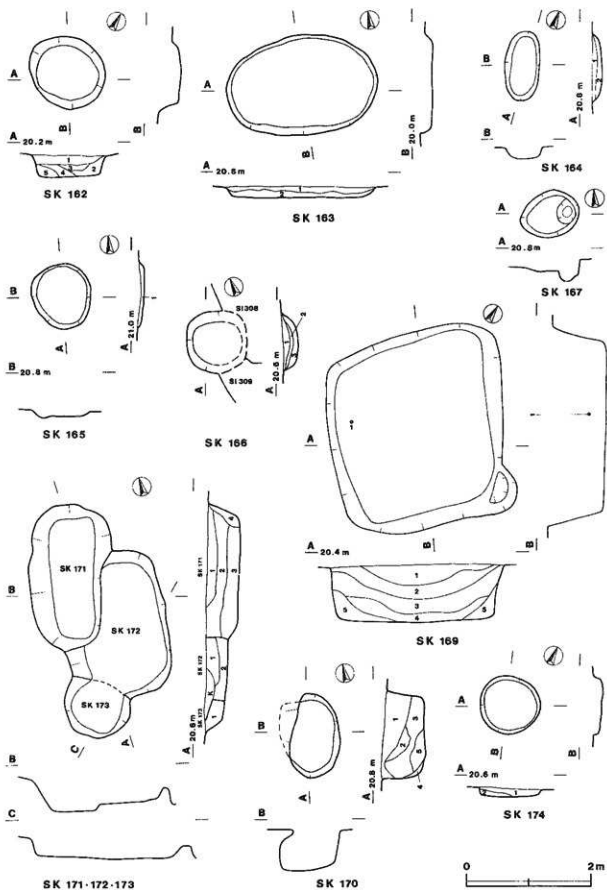
- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子微量、ローム小ブロック極微量



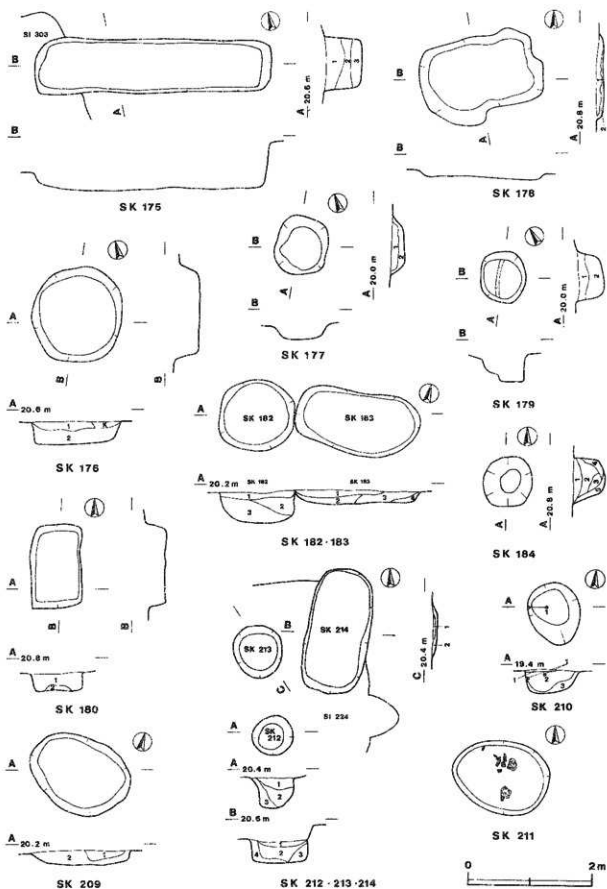
第466图 6区土坑实测图(1)



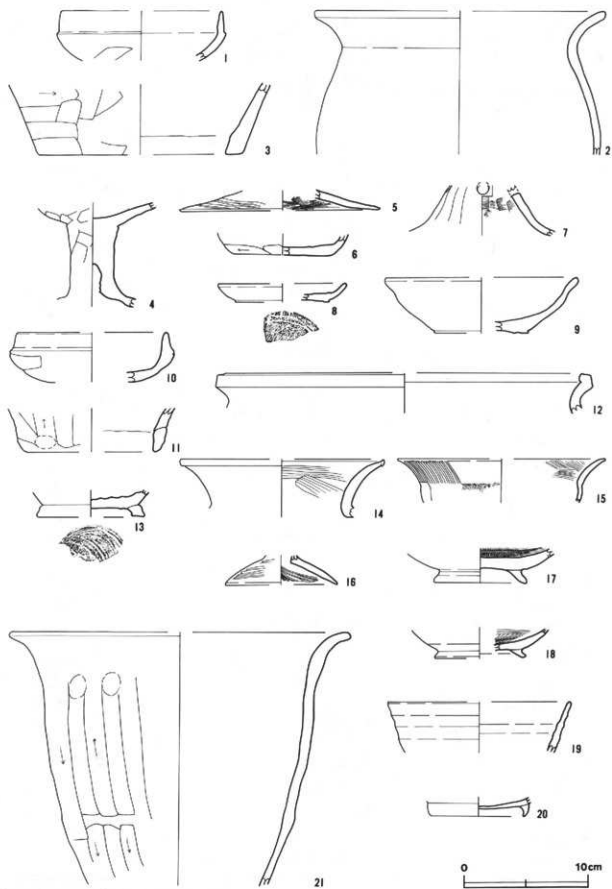
第467图 6区土坑实测图(2)



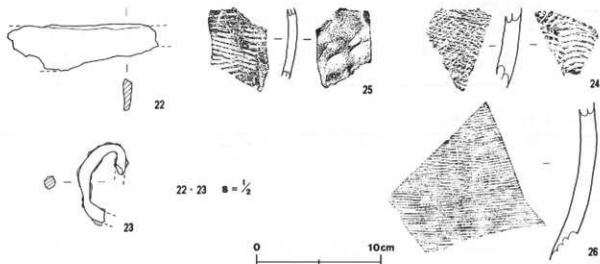
第468图 6区土坑实测图(3)



第469图 6区土坑实测图(4)



第470图 6区土坑出土文物实测图(1)



第471図 6区土坑出土遺物実測図(2)

第131号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 1	坏 土器器	A[12.8] B(4.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部と口縁部の境に段を有する。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。	石英・長石・雲母に多い黄褐色普通	P534 5% 覆土中

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第471図2	縁	(8.0)	1.5	0.6	(20.0)	覆土中	M54

第132号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 2	甕 土器器	A[23.0] B(10.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はくの字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。	石英・長石・雲母・赤色粒子明赤褐色普通	P535 5% 覆上下層

第134号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 3	甕 土器器	B(5.7) C[16.4]	底部から体部下半の破片。体部は直線的に立ち上がる。	体部下端部へラ削り。体部内面口ロナデ。	石英・長石・雲母灰色普通	P611 5% 覆土中

26は須恵器の体部片で、外面に平行印きが施されている。

第140号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 4	高 土器器	B(8.4)	脚部片。脚部はやや内傾し、基部は外に開く。坏部は外傾して立ち上がる。	脚部外面へラ削り後、ナデ。	砂粒・赤色粒子に多い褐色普通	P536 5% 覆土中
5	高 土器器	E(1.6) D[16.6]	脚部片。脚部はラッパ状に緩やかに開く。	脚部外面へラ磨き。内面刷毛目調整。	砂粒・長石明赤褐色普通	P537 5% 覆土中

第141号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 6	坏 須臾器	B(1.7) C(7.8)	底部から体部にかけての破片。体部は直線的に立ち上がる。	体部下端手持ちへう割り。底部一方のへらナデ。	砂粒・長石・紫褐色 黄灰色 普通	P589 5% 覆土中

第147号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 7	器 土師器	E(4.0)	脚部。脚部はラッパ状に下方に開く。4か所に透かし孔をもつ。	脚部内面刷毛目調整。脚部外面ナデ。	砂粒・赤色粒子 褐色 普通	P549 5% 覆土中

第154号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 8	小 土師器	A(10.2) B(1.5) C(7.6)	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部にはいる。	内・外面クロコナデ。底部回転糸切り。	砂粒・赤色粒子 別赤褐色 普通	P560 5% 覆土中

第156号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 9	坏 土師器	A(15.3) B(4.5) C(7.6)	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部にはいる。	内・外面クロコナデ。底部回転糸切り後、無調整。	砂粒・赤色粒子 淡褐色 普通	P551 10% 覆土中

24に須臾器の体部片で、外面に格子目状の印きが施され、内面に同心円状の当て具痕が残されている。

第159号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 10	坏 土師器	A(11.8) B(4.0)	体部から口縁部にかけての破片。口縁部の境に稜をもち、口縁部は直立する。	体部内・外面横ナデ。	砂粒・赤色粒子 紫褐色 普通	P582 20% 覆土中
11	瓶 土師器	B(3.5) C(10.2)	体部破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面へう割り。体部外面下端に指頭押圧。輪轆み痕。	砂粒 ふい褐色 普通	P583 5% 覆土中

第163号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 12	須臾器	A(28.6) B(3.2)	体部上方から口縁部の破片。体部は外方に開きながら立ち上がる。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面クロコナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P564 5% 覆土中
13	長頸瓶 須臾器	B(2.2) D(8.4) E(1.0)	高台部片。高台はハの字状に開く。	体部外面クロコナデ。底部回転糸切り後、高台貼り付け。高台に自然磨付着。	砂粒・赤色粒子 褐色 普通	P565 5% 覆土中

第167号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 14	器 土師器	A(16.2) B(4.7)	口縁部片。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部外面ナデ。口縁部内面刷毛目調整。	砂粒・長石・赤色粒子 褐色 普通	P566 5% 覆土中
15	器 土師器	A(16.6) B(3.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部で外反する。	口縁部内面刷毛目調整。口縁部外面へう割り。体部外面刷毛目調整後、へう割り。	砂粒 明赤褐色 普通	P567 5% 覆土中

第169号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 16	器台 土師器	E(2.4) D: 9.0	脚部片。脚部はラッパ状に下方に開く。1か所に孔をもつ。	脚部内・外面へラ磨き。	砂粒・長石・赤色粒子 散在 普通	P558 20% 覆土下層

第172号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 17	高台付杯 土師器	B(2.8) D 7.6 E 1.1	高台部から体部にかけての破片。ハの字状に開く高台が付く。体部は内磨して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部・体部内面へラ磨き。内面黒色処理。高台部貼り付け。	砂粒・長石 黄褐色 普通	P559 20% 覆土中
18	高台付杯 土師器	B(2.5) D: 7.6 E 0.7	高台部から体部にかけての破片。体部は内磨して立ち上がる。高台はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。高台部貼り付け。	砂粒・長石・赤色粒子 にふい褐色 普通	P560 20% 覆土中

第174号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 19	杯 須恵器	A[14.6] B(4.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに直線的に開きながら立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石・雲母・赤色粒子 にふい赤褐色 普通	P561 5% 覆土中

第178号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 20	高台付杯 灰輪陶器	B(1.6) D 7.6 E 1.1	高台部片。高台は、内磨気味にふんばる。	底部内面ロクロナデ。高台部貼り付け。	砂粒・長石 黄褐色 普通	P563 10% 覆土中

20は須恵器製の体部片で、外面に平行研ぎ、内面に当て具痕が見られる。

第182号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第471図2	全量鉄製	(4.5)	0.7	0.6	(8.4)	覆土中	M36

第210号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 21	瓶 土師器	A[27.0] B(20.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに内磨して立ち上がり、口縁部で外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面へラ磨り。体部外面に指痕特存。	砂粒・石英・長石・雲母 にふい褐色 普通	P567 20% 覆土上層

表5 熊の山遺跡6区土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な遺物	備考
				長径(軸×短径(軸))(m)	厚さ(m)					
129	L14ia	N-7°-E	不整形	0.72 × 0.65	33	外傾	凹状	自然	土師器(甕)	
130	L14jr		円形	2.42 × 2.42	37	外傾	平坦	人為	土師器片(40)	
131	L15da	N-0°	長方形	2.36 × 1.00	42	外傾	平坦	人為	土師器(坏) 鎌	本跡・SI158
132	M15br		円形	2.50 × 2.50	90	外傾	凹凸	自然	土師器(甕)	
133	L15ha	N 30°-W	方形	1.98 × 1.98	48	外傾	平坦	自然		SI166, 167・本跡
134	M1ka	N 0°	長方形	[0.95] × 1.04	24	外傾	平坦	自然	須恵器(甕)	本跡→SI179

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 新田関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(m)					
136	M14b	N-0°	長方形	1.38 × (0.75)	26	緩斜	平坦	自然	土師器片26	SI197→本跡
137	M14c		円形	1.37 × 1.28	110	外傾	平坦	人為	土師器(高台付坏,高台付椀)	SI179→本跡
138	M14i		円形	2.00 × 1.98	53	外傾	平坦	自然		SI213,SK139→本跡
139	M14i	N-0°	不整形	1.05 × (1.20)	32	外傾	平坦	不明		SI213,SK139→本跡
140	N14a		円形	2.44 × 2.41	72	外傾	平坦	自然	土師器(高坏)	
141	N14f		円形	1.34 × 1.33	39	外傾	平坦	自然	須恵器(坏)	
142	N14f		円形	2.02 × 2.00	62	緩斜	平坦	自然		
143	N14g	N-8°-E	楕丸長方形	2.95 × 2.05	20	外傾	平坦	人為		SI233→本跡
144	M14a	N-51°-W	長方形	2.40 × 1.86	50	外傾	平坦	自然	土師器片115	本跡・SI205
145	M14e	N-42°-W	楕円形	1.90 × 1.80	48	緩斜	平坦	自然	土師器(坏,高台付坏)鉄鎌	SI198,人形1,SD14→本跡
146	M14a	N-0°	楕丸長方形	2.16 × 1.68	22	外傾	平坦	人為	土師器片55 須恵器片4 鉄1	SI263,267→本跡
147	N14b	N-27°-E	楕丸長方形	2.25 × 2.16	65	外傾	平坦	自然	土師器(蓋付)	
148	M14i		円形	1.35 × 1.28	69	垂直	平坦	人為	土師器片22 須恵器片4	SI271→本跡
149	M14j		円形	0.86 × 0.80	30	緩斜	平坦	自然		
150	M14b	N-31°-W	楕円形	1.26 × 1.04	10	緩斜	平坦	人為		SI277→本跡
151	M14i	N-20°-W	楕円形	1.24 × 1.16	17	緩斜	平坦	自然	土師器片6	SI278→本跡
152	M14g	K-33°-W	楕円形	1.92 × 1.78	40	垂直	平坦	自然	土師器片21 須恵器片4	SI283→本跡
153	M14c		円形	1.23 × 1.21	14	緩斜	平坦	自然	土師器片15 須恵器片1	SI198→本跡
154	N14e		円形	1.28 × 1.17	26	外傾	平坦	自然	土師器(小皿)	
155	N14e	N-0°	楕円形	1.20 × 0.92	15	外傾	平坦	不明		SI293,295→本跡
156	N14i		円形	1.18 × 1.18	12	緩斜	平坦	人為	土師器(坏)	
157	N14j	N-29°-W	楕円形	2.83 × 0.94	48	緩斜	凹凸	自然	土師器片16 須恵器片2	
158	N13a	N-110°-W	楕円形	1.32 × 1.03	15	外傾	平坦	自然		
159	M15f	N-42°-E	楕円形	1.58 × 1.38	13	外傾	凹凸	人為	土師器(坏, 椀)	SI259→本跡
160	M14a		円形	0.88 × 0.87	32	緩斜	平坦	自然	土師器片19 須恵器片1	SI260→本跡
161	M14a	N-33°-W	楕円形	1.36 × 1.20	10	外傾	平坦	自然	土師器片10	SI263,267→本跡
162	M14f	N-3°-E	楕円形	1.28 × 1.10	36	外傾	平坦	人為	土師器片9 須恵器片1	SI267→本跡
163	M14a	K-86°-W	楕円形	2.42 × 1.60	19	外傾	平坦	自然	須恵器(甕, 長頸瓶)	
164	M14a	N-42°-E	楕円形	1.09 × 0.54	16	緩斜	平坦	自然	須恵器片1	
165	M14a	N-0°	楕円形	1.03 × 0.96	33	緩斜	凹凸	自然		SI284
166	N13a		円形	1.02 × 1.02	22	外傾	平坦	自然	土師器片23 須恵器片2	SI308,309→本跡
167	N13a	N-30°-W	楕円形	0.88 × 0.66	20	外傾	凹凸	不明	土師器(甕, 壺)	SI310→本跡
169	M13g	N-46°-E	方形	3.10 × 2.90	92	外傾	平坦	自然	土師器(器台)	SI321,322→本跡
170	N13f	K-7°-E	長方形	1.36 × 0.78	67	外傾	平坦	人為	土師器片10 須恵器片6	
171	N14a	N-15°-K	長方形	2.30 × 1.32	72	外傾	平坦	自然		
172	N14a	N-11°-E	長方形	2.35 × 1.70	43	垂直	平坦	自然	土師器(高台付坏)	
173	N14a		円形	1.10 × 1.06	28	外傾	平坦	自然		
174	M14g		円形	0.96 × 0.94	16	外傾	凹凸	自然	須恵器(坏)	
175	N14b	K-18°-E	長方形	3.80 × 0.86	72	垂直	平坦	自然	土師器片12 須恵器片8	SI303→本跡
176	M14j		円形	1.51 × 1.45	40	外傾	平坦	人為		
177	Li4b		円形	0.94 × 0.94	24	緩斜	平坦	人為	土師器片1	
178	O13g	N-75°-E	不整形	2.00 × 1.18	10	緩斜	平坦	人為	灰釉陶器(高台付坏)	
179	Li4a		円形	0.81 × 0.74	43	外傾	平坦	人為	土師器片21	
180	N13f	N-0°	長方形	1.37 × 0.81	33	垂直	平坦	人為		
181	O14b	N-57°-E	楕円形	(2.75) × 2.36	188	外傾	凹凸	人為	土師器片4	大形3→本跡
182	M14a		円形	1.21 × 1.14	52	外傾	平坦	自然	不明鉄製品	SK183→本跡

上段 番号	方位 (真方位)	平面形	規模		築 年	築 材	備 考	備 考
			長さ(m)	幅(m)				
189	M14a	N-54°-W	横円形	1.58 × 0.95	21	横割 平掘 自然	土器器片18 須恵器片3	SI252→本跡
181	N19b		円形	0.78 × 0.75	62	外堀 円凸 人工		SI258→本跡
208	M11b	N-20°-W	不整形方形	1.04 × 1.25	20	外堀 円凸 人工	土器器片20 須恵器片5	
205	M14a	N-57°-W	横円形	1.02 × 1.18	14	外堀 平掘 人工	土器器片20 須恵器片5	
210	M15a	N-0°	横円形	1.01 × 0.80	26	外堀 平掘 不明	土器器片 須恵器片	SI201,204→本跡
211	M14a	N-70°-W	横円形	1.51 × 1.14	30	横割 平掘 人工		
212	M14a		円形	0.95 × 0.64	73	外堀 平掘 自然		SI231→本跡
212	M14a		円形	0.65 × 0.79	30	横割 平掘 人工	土器器片5	SI234→本跡
214	M14a	N-14°-E	不整形方形	2.02 × 1.00	55	外堀 平掘 自然		SI234→本跡
215	M14a	N-0°-W	横円形	1.26 × 0.60	10	横割 円凸 人工	石製器(石剣)	

(4) 大形竪穴状遺構

調査6区において、大形竪穴状遺構3基を検出した。大形竪穴状遺構(円形有段遺構)は、茨城県南部から千葉県北部、栃木県中央部にかけて検出される例が多く、これまで「井戸または井戸状遺構」として報告されてきた。当初、井戸として調査してきたが、ここでは「大形竪穴状遺構」という名称で扱うことにする。以下、その特徴と出土遺物について記載する。

第1号大形竪穴状遺構(第472区)

位置 調査6区中央部、M14a区。

規模と形状 掘り方の上面は長さ2.82m、幅2.52mの楕円形である。断面形は漏斗状で、確認面から1.10mの深さの所に段をもつ。底面は平坦である。深さは確認面から1.80mであり、底面径は0.75~1.05mである。

覆土 8層からなり、自然堆積と考えられる。

土層構成

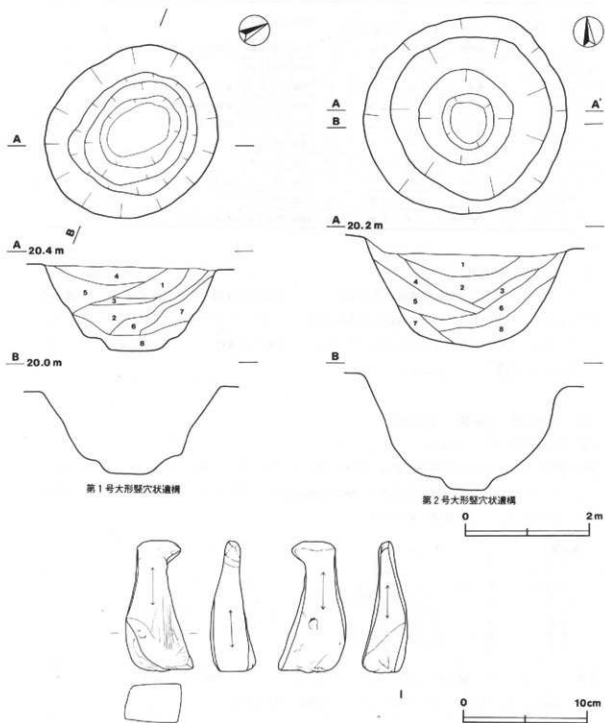
- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム中・小ブロック中量、ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、脱土粒7・炭化物少量
- 6 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量、ローム中ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量
- 8 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物 土器器片189点、須恵器片2点、磁石1点が出土している。1の磁石は、覆土中から出土している。

所見 本跡は、出土遺物がいずれも前片のため、時期は不明である。

第1号大形竪穴状遺構出土遺物観察表

調査区	種別	計測値				出土地	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第472区	磁石	10.5	5.8	3.7	180	覆土中	Q36 濁灰色



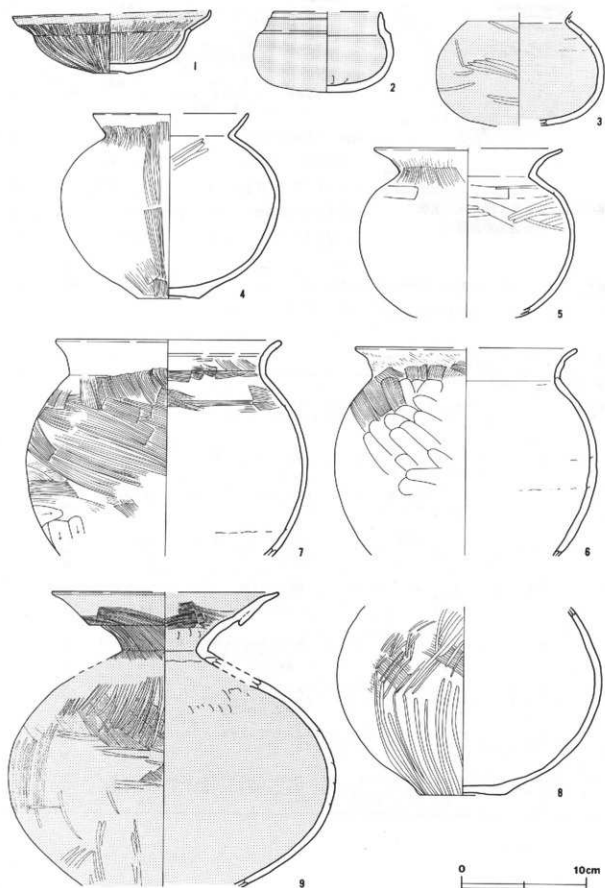
第472図 第1・2号大形竪穴状遺構・第1号大形竪穴状遺構出土遺物実測図

第2号大形竪穴状遺構 (第472図)

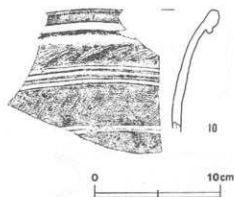
位置 調査6区中央部、M14f区。

規模と形状 掘り方の上面は径3.20mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から115cmの深さの所に段をもつ。底面は平坦である。深さは確認面から1.95mであり、底面径は0.6~0.9mである。

覆土 8層からなり、人為堆積と考えられる。



第473图 第2号大形竖穴状遺構出土遺物実測図(1)



第474図 第2号大形堅穴状遺構
出土遺物実測図(2)

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 炭化物・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム中・小ブロック少量
- 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 5 暗褐色 炭化物微量。焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量。ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量。ローム小ブロック微量
- 8 極暗褐色 ローム粒子中量。炭化物・ローム小ブロック・粘土小ブロック微量。焼土粒子微量

遺物 土師器片110点、須恵器片3点が出土している。第473図1の土師器杯、3の埴は、内・外面赤彩され、覆土中から出土している。4と5の土師器小形壺、6～9の土師器甕は、それぞれ体部外面に刷毛目調整がなされ、覆土中から出土している。2の埴は、覆土中から出土している。10の須恵器甕は、覆土中から出土している。

所見 本跡は、当初、古墳時代前期から後期の遺物が多く出土していることから、古墳時代の遺構と考えていたが、遺構の特徴等から性格不明な点が多く、正確な時期は不明である。

第2号大形堅穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第473図1	杯 土師器	A 15.7 B 5.2 C 2.6	体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に段を有する。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へう磨き。内・外面赤彩。	砂粒・石英・雲母にぶい黄褐色 普通	P512 60% 覆土中
2	埴 土師器	A[8.6] B 6.5	丸底。底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に段を有する。	体部内面から口縁部外面横ナデ。体部内面へう磨き。体部表面割離。内・外面赤彩。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい褐色 普通	P513 70% 覆土中
3	埴 土師器	B(9.2)	体部片。体部は内彎して立ち上がり中位に最大径を有する。	体部内・外面横ナデ。体部外面へう磨き。内・外面赤彩。	砂粒・長石にぶい褐色 普通	P514 50% 覆土中
4	小形壺 土師器	A[12.3] B 14.9 C 4.9	平底。体部は内彎して立ち上がり、くの字状に外反し、口縁部に至る。	口縁部内・外面刷毛目調整後横ナデ。体部外面刷毛目調整。体部内面へう磨き。	砂粒・長石褐色 普通	P515 40% 覆土中
5	小形壺 土師器	A[15.0] B(13.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内面へう磨き。体部外面刷毛目調整後、へう磨き。体部内面へう磨き。輪積み痕有り。	砂粒・長石褐色 普通	P516 20% 覆土中
6	壺 土師器	A[17.6] B(16.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、くの字状に外反し、口縁部に至る。	口縁部内・外面刷毛目調整後、横ナデ。体部外面刷毛目調整後、へう磨き。輪積み痕有り。	砂粒・長石・雲母褐色 普通	P518 50% 覆土中
7	壺 土師器	A 17.7 B(17.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに立ち上がる。口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面刷毛目調整後、体部下端へう磨き二次焼成。輪積み痕有り。	石英・長石・雲母にぶい黄褐色 普通	P519 40% 覆土中
8	壺 土師器	B(15.2) C 6.9	底部から体部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径を有する。	体部外面刷毛目調整後、へう磨き。底部へう磨き。	砂粒・長石にぶい黄褐色 普通	P520 50% 覆土中
9	壺 土師器	A[18.0] B[23.7]	体部から口縁部にかけて破片。体部は内彎し、ソロバン玉状の球形を呈し口縁部にいたる。有段口縁である	口縁部内・外面刷毛目調整。体部外面刷毛目調整後、へう磨き。内・外面赤彩。	砂粒・石英・長石にぶい黄褐色 普通	P521 60% 覆土中

第3号大形窓穴状遺構 (第175図)

位置 調査6区中央部、014a区。

規模と形状 掘り方の土面は長さ2.62m、短径1.96mの楕円形である。断面形は楕円状で、確認面から1.50mの深さの所に段をもつ。さらに、2.10mのところまで細くなり底面に達する。底面は平坦で、段は確認面から2.35mである。底面径は1.10~1.30m、掘り込み面の径は0.80mである。

覆土 1層からなり、小礫や砂を少量に含む層があり、一部人為堆積の可能性はあるが、その他は自然堆積と考えられる。

土層解説

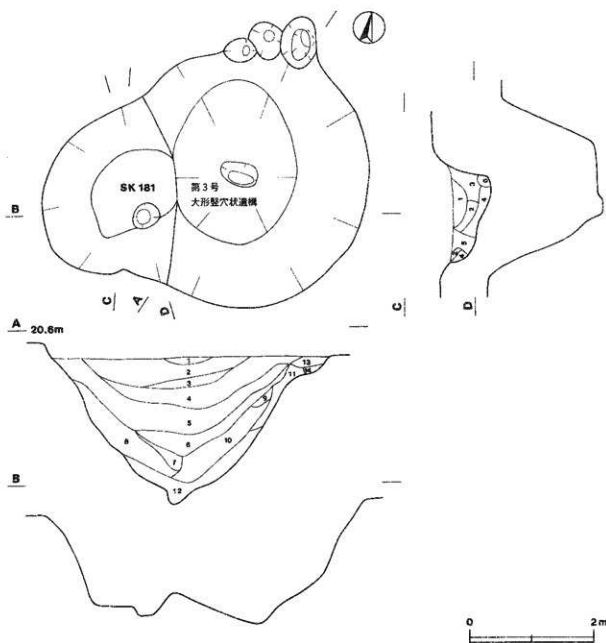
- | | | | |
|-------|-------------------------------------|--------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | 灰化粒多量、ローム粒子少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・砂・砂少量 |
| 2 緑褐色 | ローム粒子少量、炭化物少量 | 8 緑褐色 | 粘土粒子多量、砂・砂少量、ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 | 9 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 黄褐色 | ローム中・小ブロック少量、粘土粒子・炭化粒子少量 | 10 緑褐色 | 粘土粒子・炭化粒子・ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 5 緑褐色 | ローム小ブロック中量、砂少量、粘土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量 | 11 褐色 | ローム粒子少量 |
| 6 黒褐色 | ローム中・小ブロック中量、炭化粒子少量 | 12 緑褐色 | 砂・粘土中量、ローム粒子少量 |
| | | 13 緑褐色 | ローム粒子少量、炭化物少量 |
| | | 14 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |

遺物 土師器片670点、須恵器片108点、埴土片が出土している。第46層1、2の土師器片、3~5の高台付杯は、内面が淡色処理され、覆土層からそれぞれ出土している。6の土師器小皿、7の土師器鉢、8の須恵器杯、9の須恵器蓋、10の土師器、高土中からそれぞれ出土している。12の須恵器鉢は、体部外面に同心円状の印画が施され、高土中から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から平安時代と考えられる。

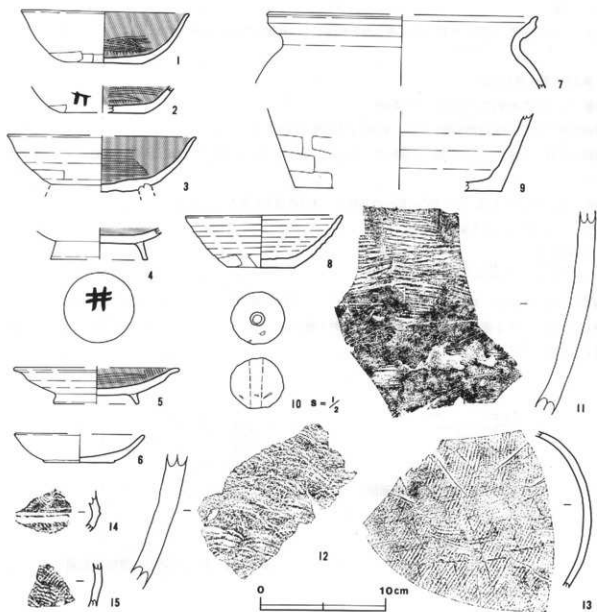
第3号大形窓穴状遺構出土遺物観察表

採取番号	器種	寸法(cm)	器形の概要	手法の特徴	胎土・色調・施文	備考
第46層	1 土師器	A 13.8 B 1.7 C 6.8	平底、体部に内側して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内面から体部外面のクロコナデ、緑褐色土層からへり出し、体部・体部内面へうろつき、内面黒色処理。	緑石・赤石、写石・赤土・赤土、内面黒色、内面黒色	P502 30% 覆土中
2 土師器	厚 A 9.2 B 2.8	底面から体部にかけての破片、体部は内側して立ち上がる。	体部外面クロコナデ、底面・体部内面へうろつき、内面黒色処理。体部外面に墨書。	緑石・赤石、写石・赤土・赤土、内面黒色、内面黒色	P503 30% 覆土中	
3 高台付杯 土師器	A 16.0 B 4.3	高台から口縁部にかけての破片、体部は外側から内側して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内面クロコナデ、底面・体部内面へうろつき、内面黒色処理。	赤石・赤土、赤土・赤土、外側に赤褐色、内面黒色	P504 30% 覆土中	
4 高台付杯 土師器	B 2.5 D 6.8 E 1.2	高台部から体部にかけての破片、高台はハの字状に開く。	体部外面クロコナデ、底面・体部内面へうろつき、内面黒色処理。高台部はハの字状に開く。体部外面に墨書。	赤石・赤土、写石・赤土・赤土、内面黒色、内面黒色	P505 30% 覆土中	
5 高台付杯 土師器	A 16.0 B 3.9 D 6.8 E 0.8	体部から口縁部にかけての破片、体部と口縁部の間に狭やかな段を有し、口縁部で外反する。高台はハの字状に開く。	体部外面クロコナデ、底面・体部内面へうろつき、内面黒色処理。	赤石・赤土、赤石・赤土、内面黒色	P506 30% 覆土中	
6 小土師器	A 10.2 B 2.8 C 5.2	底面から口縁部にかけての破片、体部は内側して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面クロコナデ、底面・底面黒土層。	緑石・赤土・赤土、赤土	P507 30% 覆土中	
7 土師器	A 21.6 B 3.7	体部から口縁部にかけての破片、体部は外側して立ち上がり、口縁部に至る。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面クロコナデ。	赤石・赤土、赤土・赤土、赤土	P508 30% 覆土中	



第475図 第3号大形壺穴状遺構・第181号土坑実測図

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	下法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
第476図 8	坏 甕 器	A 12.5 B 4.3 C 5.4	口縁部一部欠損。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	底部内面から体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部・方向のヘラナデ。	緑粒・石英・長石 黄灰色 普通	P530 95% 覆土中	
9	甕 須 器	B(6.3) C(16.6)	底部から体部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面ロクロナデ。体部外面ヘラナデ。	石英・長石・赤母・赤色粒子 黄灰色 普通	P532 5% 覆土中	
図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
10	上玉	2.7	2.8	0.5~0.6	18.0	覆土中	D P27



第476図 第3号大形堅穴状遺構出土遺物実測図

表6 熊の山遺跡6区大形堅穴状遺構一覧表

大形堅穴状遺構番号	位置	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な遺物	備考
			長さ(軸)×幅(軸)(m)	深さ(cm)					
1	M14e	楕円形	2.82 × 2.52	135	急傾	平坦	自然	土師器片189 須恵器片2 礫石1	時期不明
2	M14f	円形	3.20 × 3.20	195	急傾	平坦	人為	土師器(杯、碗、甕、埴)	時期不明
3	O14h	楕円形	2.62 × 1.96	235	急傾	平坦	自然	土師器(杯、高台打杯、甕、小皿) 須恵器(杯、甕) 土瓦	平安時代

(5) 溝

調査6区の南部，東部，西部から，溝3条を検出した。検出した溝の特徴や出土遺物について記載する。

第13号溝（第477図）

位置 調査6区南東部，N14a0区～N14j0区。

重複関係 第229号住居跡を掘り込み，第229号住居跡より新しい。

規模と形状 上幅0.56～0.75m，下幅0.35～0.45m，深さ23～25cm，断面形は逆台形で，確認長は(59.3)mである。

方向 N14a0区から北東(N-25°-E)の方向に，ほぼ直線的に延びている。

覆土 2層であり，自然堆積である。

土層解説

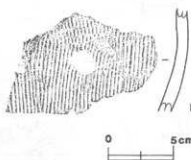
- 1 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器片31点，須恵器片3点が出土している。1の須恵器甕は，体部外面に平行叩きが施されている。

所見 本跡は，出土遺物が少なく，第229号住居跡を掘り込んでいることから，平安時代以降と考えられるが，性格は不明である。



第477図 第13号溝断面図



第478図 第13号溝出土遺物実測図

第14号溝（第479図）

位置 調査6区西部，M14c1区～M14f1区。

重複関係 第185・198・261・262・340号住居跡・第145号土坑を掘り込んでいるので，本跡が新しい。

規模と形状 上幅1.05～1.55m，下幅0.90～1.35m，深さ16～25cm，断面形は浅いU字状で，確認長は(48.0)mである。

方向 M14c1区から東西(N-110°-E)の方向に直線的に延びている。

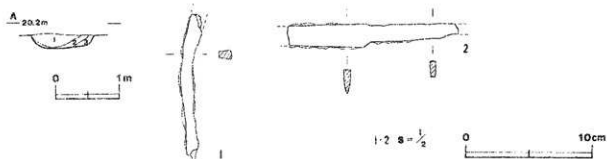
覆土 3層であり，自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量
- 3 褐色 ローム粒子多量

遺物 土師器片218点，須恵器片11点，礫3点が出土している。第479図1の不明鉄製品，2の刀子は，覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，第198号住居跡を掘り込んでいることから古墳時代後期以降と考えられるが，性格は不明である。



第479図 第14号溝・出土遺物実測図

第14号溝出土遺物観察表

図録番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(mm)	重量(g)		
第479図1	不明鉄片	(7.8)	0.8	0.5	(11.0)	覆土中	M51
2	刀子	(9.0)	1.8	0.4	(13.0)	覆土中	M55

第15号溝 (第480図)

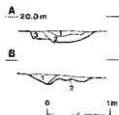
位置 調査6区東部、M15a区～M15f区。

重複関係 第184・340号住居跡を掘り込んでいるので、本跡が新しい。

規模と形状 上幅1.00～1.95m、下幅1.00～1.55m、深さ10～23cm、断面形は浅いU字状で、確認長は(20.0)mである。

方向 M15a区から南北(N-9°-E)の方向に、ほぼ直線的に延びている。

覆土 3層であり、自然堆積である。



第480図
第15号溝断面図

土層解明

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量

遺物 遺構に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡は、第184号住居跡を掘り込んでいることから、平安時代の10世紀以降と考えられるが、性格は不明である。

表7 熊の山遺跡6区溝一覧表

調査号	位置	方向	形状	規模 (m)				壁面(底面/層)	出土遺物	備考
				確認長	上幅	下幅	深さ			
13	N14区	北東-南西	直線状	(50.3)	0.56~0.75	0.35~0.45	23~25	傾斜 平型/自然	土師器片 31点 須恵焼片 3点	SI229→本跡
14	M14区	東-西	直線状	(48.0)	1.05~1.55	0.90~1.35	16~25	傾斜 直状/自然	刀子	SI185, 198, 201, 262, 260, 281, 45 →本跡
15	M25区	北-南	直線状	(20.0)	1.00~1.95	1.00~1.58	10~23	傾斜 直状/自然		SI181, 310 →本跡

(6) 不明遺構

調査6区の北東部斜面に黒褐色の堆積土が広がっていたことから、土層ベルトを設定した結果、不明遺構を1基検出した。検出した不明遺構の特徴について記載する。

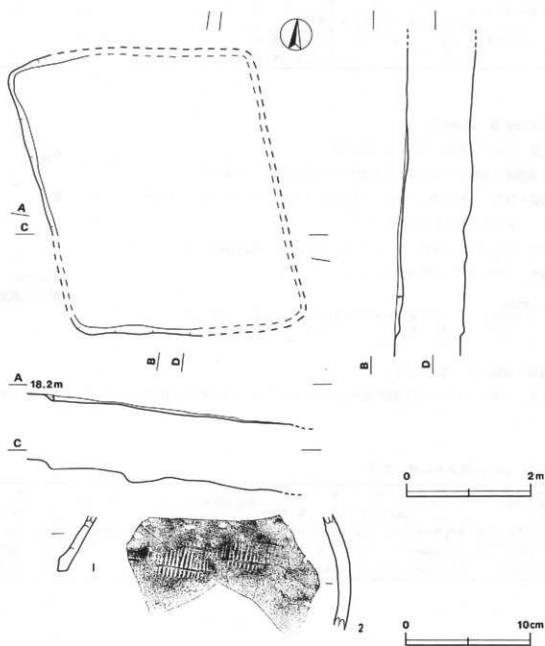
第3号不明遺構 (第481図)

位置 調査6区北東部, L15f区。

規模と平面形 長軸[4.62]m, 短軸[3.76]mの長方形と推定される。

長軸方向 [N-12°-W]

壁 壁高は12cm前後であり、緩やかに立ちあがる。



第481図 第3号不明遺構・出土遺物実測図

底面 西側から東側にかけて傾斜している。

覆土 単一層で、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒色 炭化粒子・ローム粒子中量、焼土粒子少量

遺物 土師器片87点、須恵器片9点が出土している。1の須恵器甕、2の陶器甕体部片は、覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、出土遺物が細片のため、時期は不明である。

第3号不明遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(mm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第464図 1	須恵器 須恵器	B(4.4)	体部片。体部は直線的に外傾して開く。	体部外周へり削り。輪縁みぬ。	砂粒・雲母 赤褐色 共通	D508 5% 覆土中

(7) 遺構外出土遺物(第482~486図)

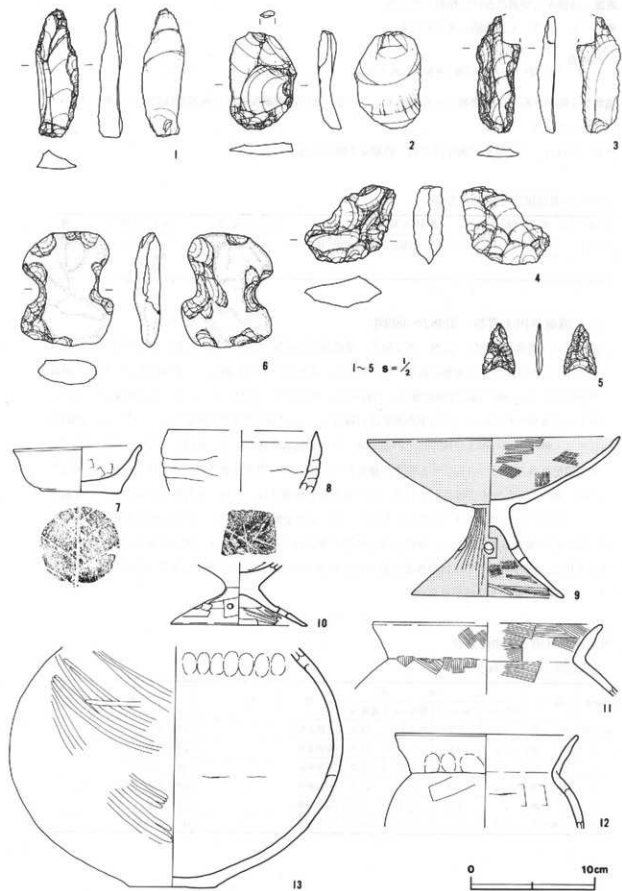
調査6区の遺構外遺物は、試掘、表土除去、遺構確認の段階で出土した旧石器、縄文時代から奈良、平安時代、および近世にかけての遺物である。その中から、特色あるものを抽出し、実測図及び 型表で掲載した。

第486図62, 67, 69, 74の須恵器甕は、口縁部片、体部片で、外面に4~5本単位の櫛歯状工具による波状文が1~2条施されている。63の須恵器甕は口縁部片で、外面に平行叩きが施されている。64, 65の須恵器甕体部片は、横位の平行叩きが施されている。66, 71の須恵器甕体部片は、縦位の平行叩きが施されている。68の須恵器甕は体部片で、外面に平行叩きが施されている。70の須恵器甕体部片は、外面に縦位の平行叩きを施した後、斜位の平行叩きが施されている。72の須恵器甕体部片は、外面に平行叩きが施され、自然袖が付着している。内面に同心円状の当て具痕が見られる。73の須恵器甕は体部片で、外面に格子目叩きが施されている。75, 76, 78の須恵器甕体部片は、横位の平行叩きが施された後、縦位の平行叩きが施されている。77の須恵器甕体部片は、同心円状の叩き目が外面に施されている。79の平瓦は、内面に正方形の格子目叩きに加えられ、凹面には糸切り痕と布目痕が見られる。

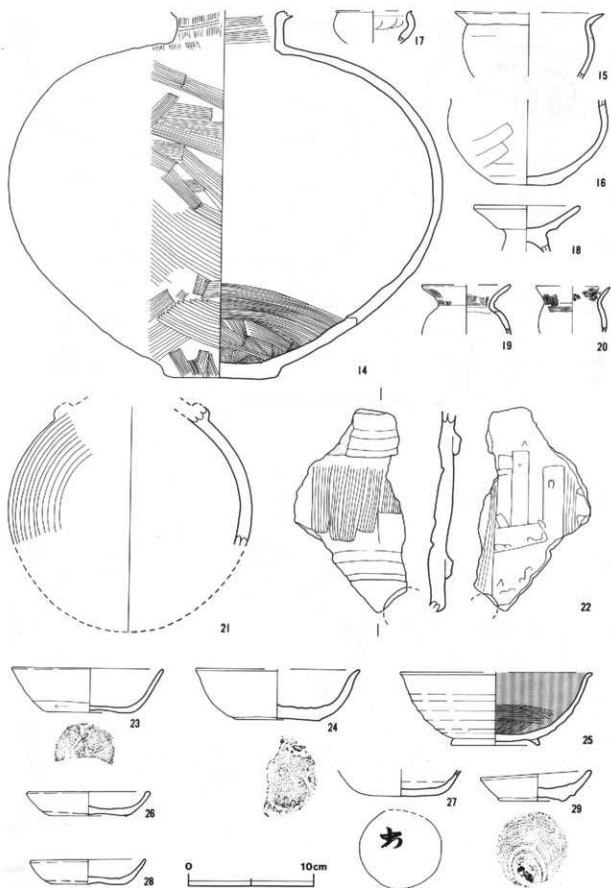
6区遺構外出土遺物観察表

(旧石器時代、縄文時代)

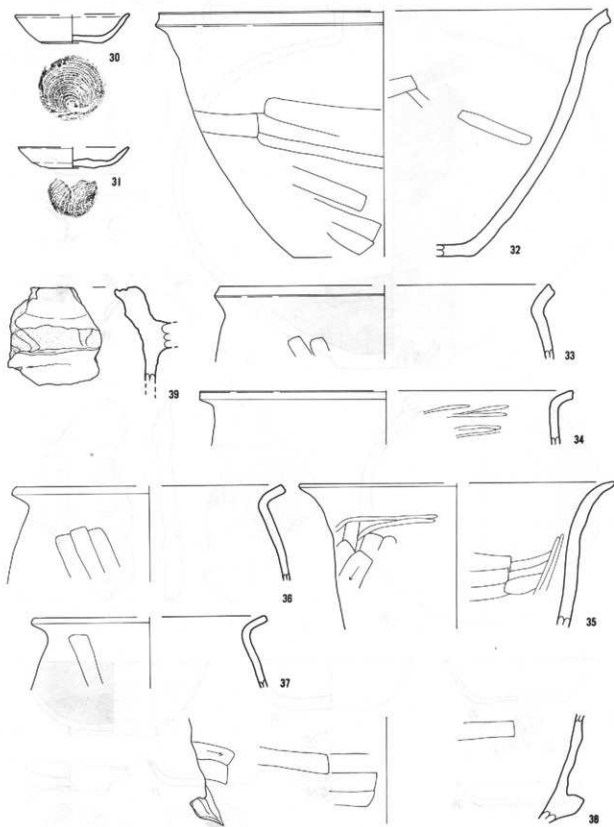
図版番号	種別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第482図1	削 器	6.9	2.3	1.3	19.0	6区表採	Q38 頁岩
2	削 器	5.2	3.6	1.1	17.0	6区表採	Q30 頁岩
3	削 器	6.3	2.3	1.0	11.0	6区表採	Q40 メノウ
4	石 匙	4.2	4.8	1.6	24.0	6区表採	Q39 頁岩
5	石 匙	2.7	1.7	0.4	1.32	6区表採	Q49 頁岩
6	打製石片	9.2	7.3	2.1	160.0	6区表採	Q41 花崗岩



第482图 6区遗構外出土遺物実測図(1)

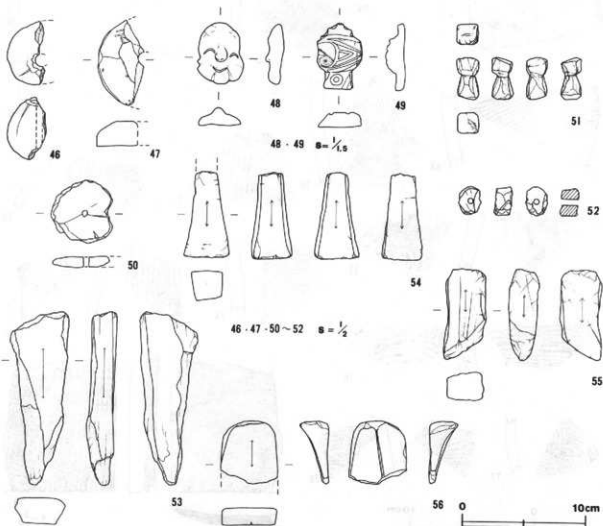
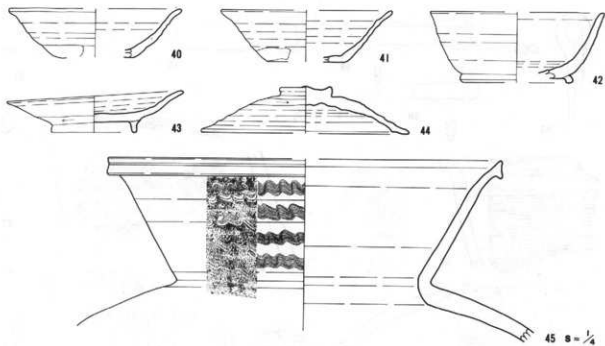


第483图 6区遺構外出土遺物実測図(2)



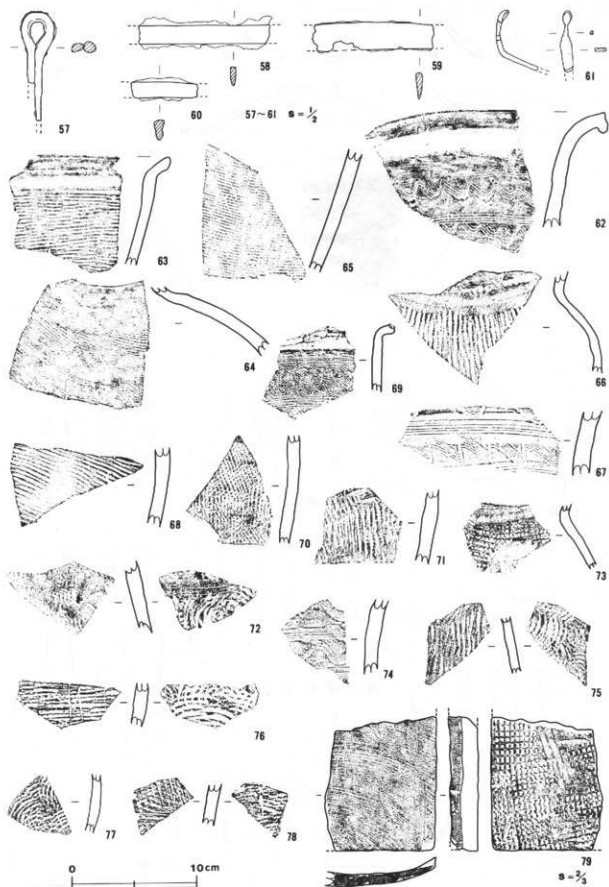
第484图 6区遺構外出土遺物実測図(3)

1/2 図中実測図に基き上出尺縮小図 2/3 縮小図



第485图 6区遗構外出土遺物実測図(4)

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.



第486图 6区遺構外出土遺物実測図(5)

(古墳時代)

| 国庫番号 | 器種 | 寸法(mm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|-------------|------------|-------------------------------------|---|--|-------------------------------------|----------------------|
| 第182回
7 | 陶
土師器 | A 10.0
B 3.9
C 6.4 | 体部は丸みをもって立ち上がり、口縁部に至る。器壁は厚い。 | 口縁部内面から体部外面横ナデ。底部外面に木炭痕。 | 砂粒・石英
褐色
普通 | P576
100%
6区表採 |
| 8 | 陶
土師器 | A[11.87]
B(4.9) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部内・外面横ナデ。輪横み痕。 | 砂粒・赤色粒子
にぶい褐色
普通 | P577
20%
6区表採 |
| 9 | 高
土師器 | A 20.2
B 13.0
D 12.2
E 7.1 | 口縁部・頸部一部欠損。坯部は緩やかに内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。脚部は、ラッパ状に外に開く。4か所に透かし孔を有する。 | 脚部外面へラ磨き。脚部内面刷毛目調整後、へラ磨き。坯部内面刷毛目調整。内・外面赤彩。 | 砂粒・長石・赤色粒子
にぶい褐色
普通 二次焼成 | P589
70%
6区表採 |
| 10 | 高
土師器 | B(5.0)
D 11.0
E 3.0 | 頸部片。緩やかに広がりながら、腹部に至る。脚部中位に4か所の透かし孔を有する。 | 腹部外面へラ削り。腹部内面へラ削り後、へラ磨き。 | 砂粒・長石・小礫
にぶい褐色
普通 | P570
20%
6区表採 |
| 11 | 赤
土師器 | A[18.0]
B(5.7) | 体部から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に折れる。 | 口縁部内・外面刷毛目調整後、ナデ。体部内・外面刷毛目調整。 | 砂粒・長石・雲母
浅黄褐色
普通 | P590
20%
6区表採 |
| 12 | 赤
土師器 | A 14.4
B(7.5) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、くの字状に外反する。口縁部は折り返している。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。口縁部下方指差押圧。体部内面へラナデ。輪横み痕。 | 砂粒・長石・赤石・
赤色粒子
褐色
普通 | P588
20%
6区表採 |
| 13 | 赤
土師器 | B(19.3)
C 7.0 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部外面へラナデ後、へラ磨き。体部内面に指差押圧。輪横み痕。 | 砂粒・赤色粒子
褐色
普通 | P591
70%
6区表採 |
| 第453回
14 | 赤
土師器 | H(28.6)
C 9.7 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎し、中位に最大径を呈する球状で、頸部は直線的に立ち上がる。 | 体部外面刷毛目調整後、へラ磨き。頸部外面刷毛目調整。内面へラ磨き。底部木炭痕。 | 砂粒・長石
灰褐色
普通 | P589
60%
6区表採 |
| 15 | 赤
土師器 | A[11.87]
B(5.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、口縁部でくの字状に外反する。口縁部は折り返している。 | 口縁部内・外面横ナデ。輪横み痕。 | 砂粒
にぶい褐色
普通 | P575
20%
6区表採 |
| 16 | 小形
土師器 | B(6.8)
C 5.0 | 底部から体部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。体部中位に最大径を呈する。 | 体部外面へラナデ。体部外面へラ削り。 | 砂粒・石英・赤色粒子
褐色
普通 | P610
20%
6区表採 |
| 17 | 赤
土師器 | A 6.0
B(2.6) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部端部はつまみ上げられている。 | 体部内・外面ナデ。 | 砂粒・長石
褐色
普通 | P572
20%
6区表採 |
| 18 | 赤
土師器 | A 8.4
B(3.8) | 頸部から口縁部にかけての破片。坯部と頸部との境に段を有し、坯部は外反する。脚部はハの字状に開く。 | 坯部内・外面ナデ。 | 砂粒・石英
灰黄褐色
普通 | P571
20%
6区表採 |
| 19 | 赤
土師器 | A[7.2]
B(4.0) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、くの字状に外反し、口縁部に至る。 | 口縁部内・外面刷毛目調整後、横ナデ。輪横み痕。 | 砂粒
褐色
普通 | P573
30%
6区表採 |
| 20 | 赤
土師器 | A 6.0
B(3.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、口縁部でくの字状に外反する。 | 口縁部内・外面、体部外面刷毛目調整。 | 砂粒・赤色粒子
にぶい褐色
普通 | P574
30%
6区表採 |
| 21 | 埴
土師器 | B(11.0) | 体部破片。体部は内彎して、最大径は中位にある。体部上位に南瓜形の把手が付く。 | 体部内・外面口コロナデ。体部外面自然釉。 | 砂粒・長石
良好 | P605
30%
6区表採 |
| 22 | 円筒形
土師器 | B(16.2) | 胴部破片。突起は2条以上あり、断面部は台形をなしている。透かし孔が、1か所確認できる。 | 突起間にはタテハケ。突起ナデ。 | 砂粒・石英・長石・
雲母・赤色粒子
にぶい褐色
普通 | P606
10%
6区表採 |

(奈良・平安～近世)

| 図版番号 | 器種 | 寸法値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|-------|----------|-----------------------------------|--|----------------------------------|-------------------------------------|----------------------|
| 第483図 | 23 坏土師器 | A 12.0
B 3.6
C 6.8 | 底部から体部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。 | 体部下端回転ヘリ削り。底部回転系切り。 | 砂粒・赤色粒子・雲母にぶい・褐色
普通 | P578
80%
6区表採 |
| 24 | 坏土師器 | A 13.0
B 4.1
C 6.8 | 底部から体部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は外反する。 | 内・外面クロコナデ。底部回転系切り。 | 砂粒・長石・赤色粒子
にぶい・褐色
普通 | P579
40%
6区表採 |
| 25 | 高台付碗土師器 | A 15.0
B 5.9
C 7.2
E 0.6 | 高台部から体部にかけての破片。体部は丸みをもって立ち上がる。高台はハの字状に開く。 | 体部内面へう磨き。内面黒色処理。底部ヘリ削り後、高台貼り付け。 | 砂粒・長石・雲母
外面にぶい・赤褐色
内面黒色
普通 | P580
60%
6区表採 |
| 26 | 小皿土師器 | A 9.6
B 2.0
C 6.4 | 平底。体部はわずかに内傾気味に立ち上がり、口縁部は内反する。 | 体部内・外面クロコナデ。底部回転ヘリ削り後、無調整。 | 砂粒・雲母・赤色粒子
にぶい・褐色
普通 | P581
100%
6区表採 |
| 27 | 小皿土師器 | B (2.2)
C 6.0 | 底部から体部にかけての破片。体部はわずかに内傾気味に立ち上がる。 | 体部内・外面クロコナデ。底部不定方向のヘリ削り。底部外面に磨き。 | 砂粒・雲母・赤色粒子
にぶい・褐色
普通 | P582
60%
6区表採 |
| 28 | 小皿土師器 | A 9.0
B 2.1
C 6.0 | 底部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内傾気味に立ち上がる。体部外面下端に沈線をもつ。 | 内・外面クロコナデ。底部回転ヘリ削り後、無調整。 | 砂粒・長石・雲母
にぶい・褐色
普通 | P583
60%
6区表採 |
| 29 | 小皿土師器 | A 8.8
B 2.3
C 6.0 | 底部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内傾気味に立ち上がる。 | 内・外面クロコナデ。底部回転系切り後、無調整。 | 砂粒・長石・雲母・
赤色粒子
にぶい・褐色
普通 | P584
70%
6区表採 |
| 第494図 | 30 小皿土師器 | A 9.0
B 2.3
C 5.0 | 底部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内傾気味に立ち上がる。口縁部ははや外反する。 | 内・外面クロコナデ。底部回転系切り後、無調整。 | 砂粒・長石・雲母
にぶい・褐色
普通 | P585
50%
6区表採 |
| 31 | 小皿土師器 | A 8.8
B 1.7
C 3.8 | 底部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内傾気味に立ち上がる。 | 内・外面クロコナデ。底部回転系切り後、無調整。 | 砂粒・長石・雲母・
赤色粒子
褐色
普通 | P586
40%
6区表採 |
| 32 | 壺土師器 | A 36.0
B 19.8
C 14.4 | 底部から口縁部の破片。体部は緩やかに内傾して立ち上がる。口縁部は短くくの字状に折れ、肩部は上方つまみ上げられている。 | 口縁部内・外面磨ナデ。体部外面ヘリ削り。内面ヘラナデ。 | 砂粒・長石・長石・
小粒
褐色
普通 | P592
30%
6区表採 |
| 33 | 壺土師器 | A 26.4
B (6.0) | 体部から口縁部の破片。体部は緩やかに内傾して立ち上がる。口縁部はくの字状に折れ、肩部はつまみ上げられている。 | 口縁部内・外面磨ナデ。体部外面ヘラナデ。 | 砂粒・長石・長石・
雲母
褐色
普通 | P596
5%
6区表採 |
| 34 | 壺土師器 | A 29.8
B (4.3) | 体部から口縁部の破片。体部は直線的に立ち上がり、口縁部はくの字状に折れる。 | 口縁部内・外面クロコナデ。体部内面ヘラ削き。 | 砂粒・長石
赤褐色
普通 | P598
5%
6区表採 |
| 35 | 壺土師器 | A 25.2
B (11.7) | 体部から口縁部の破片。体部は緩やかに内傾して立ち上がる。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面磨ナデ。体部内・外面ヘリ削り後、ヘラ磨き。 | 砂粒・長石・小粒
にぶい・褐色
普通 | P594
10%
6区表採 |
| 36 | 壺土師器 | A 21.3
B (7.7) | 体部は緩やかに内傾しながら立ち上がり、口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面磨ナデ。体部外面ヘリ削り。 | 長石・長石・雲母・
赤色粒子
褐色
普通 | P595
5%
6区表採 |
| 37 | 壺土師器 | A 18.6
B (5.7) | 体部は緩やかに内傾しながら立ち上がり、口縁部はくの字状に外反する。 | 口縁部内・外面磨ナデ。体部外面ヘラナデ。 | 砂粒・長石
赤褐色
普通 | P597
5%
6区表採 |
| 38 | 甕土師器 | B (8.6) | 体部片。体部は内傾して立ち上がる。最大径は体部上位にある。体部上位に小形の把手が付く。 | 体部外面ヘラナデ。体部内面ヘリ削り。 | 砂粒・長石・長石・
雲母
褐色
普通 | P598
10%
6区表採 |
| 39 | 羽釜土師器 | H (7.8) | 口縁部から体部上位の破片。体部上位に筋が付く。 | 体部外面ヘラナデ。 | 砂粒・赤色粒子
にぶい・褐色
普通 | P599
5%
6区表採 |
| 第505図 | 40 坏土師器 | A 13.6
B 3.9
C 6.2 | 底部から口縁部にかけての破片。体部はやや内傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は丸くおさまる。 | 内・外面クロコナデ。体部下端手持ちヘリ削り。 | 長石・長石・雲母
にぶい・褐色
普通
二次焼成 | P600
30%
6区表採 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 胎形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・施成 | 備考 |
|-------------|---------------|--------------------------------------|--|---|--------------------------|---------------------|
| 第485図
41 | 坏
形 甕 器 | A(13.6)
B 4.2
C. 6.4 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は筒筒的に立ち上がり、口縁部でやや外反する。 | 内・外面ロクロナデ。体部下端半持ちへり削り。 | 砂粒・石英・長石・雲母
灰色
青濁 | P601
40%
6区表採 |
| 42 | 高台付坏
形 甕 器 | A(13.8)
B 5.7
D(8.6)
E 0.6 | 高台部から口縁部にかけての破片。底部と体部との境は縁をなして折れる。高台はわずかに外に開き、ふんばる。 | 内・外面ロクロナデ。高台貼り付け。 | 砂粒・長石
灰色
青濁 | P602
40%
6区表採 |
| 43 | 高台付坏
形 甕 器 | A 14.2
B 3.4
D 6.8
E 1.1 | 底部から口縁部にかけての破片。体部はやや内彎して立ち上がり、口縁部に至る。高台はほぼ接地面に垂直である。 | 内・外面ロクロナデ。体部下端回転へり削り。底部回転へり切り後、高台貼り付け。 | 砂粒・石英・長石
灰色
青濁 | P603
80%
6区表採 |
| 44 | 竈
形 甕 器 | A(16.6)
B 3.8
F 4.2
G 0.8 | 口縁部・肩部欠損。頸部は平底で、口縁部内面に地いかりがつく。つまみは扁平なボタン状である。 | 天井部外面回転へり削り。内面ロクロナデ。 | 砂粒・石英・長石・雲母
灰白色
青濁 | P604
70%
6区表採 |
| 45 | 甕
形 甕 器 | A(41.5)
B(19.4) | 底部から口縁部にかけての破片。底部から口縁部にかけてくの字状に外反し、口縁部に至る。口縁部は上方につまみ上げられている。 | 口縁部外面には1〜8本単位の欄間状突起による絞状文が施されている。体部外面に自然釉。体部内面ナデ。 | 小石
灰色
青濁 | P531
30%
6区表採 |

| 図版番号 | 種別 | 計 測 値 | | | | 出 土 地 点 | 備 考 |
|------|-----|--------|-------|--------|--------|---------|-------|
| | | 長さ(cm) | 径(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | |
| 46 | 土 瓦 | (3.3) | (2.0) | (0.8) | (13.0) | 6区表採 | D P28 |

| 図版番号 | 種別 | 計 測 値 | | | | 出 土 地 点 | 備 考 |
|------|-------|-------|--------|--------|--------|---------|----------|
| | | 径(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | |
| 47 | 紡 輪 車 | (4.1) | 1.3 | (0.8) | (13.0) | 6区表採 | D P29 砂岩 |

| 図版番号 | 種別 | 計 測 値 | | | | 出 土 地 点 | 備 考 |
|-------|-------|--------|-------|--------|---------|--------------|---------|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | |
| 48 | 泥 函 子 | 2.4 | 1.8 | 0.8 | 2.14 | 6区表採 | D P30 |
| 49 | 泥 函 子 | 2.5 | 1.8 | 0.8 | 2.22 | 6区表採 | D P31 |
| 50 | 紡 輪 車 | 3.6 | 3.2 | 0.6 | 11.0 | 6区表採 孔径0.3cm | Q42 滑石 |
| 51 | 不明な製品 | 2.2 | 1.1 | 1.1 | 4.4 | 6区表採 | Q43 滑石 |
| 52 | 不明な製品 | 1.5 | 1.2 | 1.0 | 2.34 | 6区表採 孔径0.3cm | Q44 凝灰岩 |
| 53 | 紙 石 | 13.9 | 4.7 | 2.4 | 166.0 | 6区表採 | Q45 凝灰岩 |
| 54 | 紙 石 | (6.9) | 3.6 | 3.3 | (85.0) | 6区表採 | Q46 凝灰岩 |
| 55 | 紙 石 | 7.3 | 3.4 | 2.6 | 62.0 | 6区表採 | Q47 凝灰岩 |
| 56 | 紙 石 | (5.0) | 4.7 | 2.2 | (47.0) | 6区表採 | Q48 凝灰岩 |
| 第486図 | 惣 全 | (5.9) | (0.7) | 0.6 | (8.8) | 6区表採 | M57 |
| 58 | 刀 子 | (7.1) | 1.0 | 0.3 | (13.0) | 6区表採 | M58 |
| 59 | 刀 子 | (6.5) | 1.1 | 0.4 | (10.0) | 6区表採 | M59 |
| 60 | 刀 子 | (3.5) | 1.3 | 0.6 | (3.74) | 6区表採 | M60 |
| 61 | かんざし | (3.2) | 0.6 | 0.2 | (2.9) | 6区表採 | M61 |

3 8区の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

① 古墳時代

第506号住居跡 (第487図)

位置 調査8区西部, N8a1K。

重複関係 第510号住居跡の上部に構築されているので, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸5.16m, 短軸[4.94]mの方形と考えられる。

主軸方向 N-43°-W

壁 壁高は15~25cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北西コーナー付近の壁下から南コーナー付近の壁下にかけて確認され, 上幅16~28cm, 下幅3~8cm, 深さ3~7cmで, 断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北西壁中央部に砂質粘土で構築されている。規模は長さ107cm, 袖幅130cm, 壁外への掘り込みは44cmである。右袖は黄褐色の粘土で構築されており, 左袖は黄褐色の粘土のまわりに, さらにローム混じりの砂質粘土を貼り付けて構築している。袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床部は床面を楕円形状に浅く掘りくぼめている。煙道はほぼ垂直に立ち上がる。

土層解説

- 1 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・粘土中ブロック少量, ローム小ブロック微量
- 2 淡赤褐色 粘土大ブロック多量, 焼土中ブロック中量
- 3 橙褐色 焼土中ブロック・粘土小ブロック中量
- 4 明赤褐色 焼土中・小ブロック多量
- 5 明黄褐色 焼土小ブロック微量
- 6 にぶい赤褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土小ブロック少量
- 7 にぶい赤褐色 焼土中ブロック・粘土粒子中量
- 8 にぶい黄褐色 粘土中ブロック少量, 炭化粒子微量
- 9 暗赤褐色 焼土小ブロック多量, 炭化物微量
- 10 明褐色 焼土小ブロック・炭化物・粘土小ブロック少量
- 11 明褐色 ローム中ブロック多量, 粘土小ブロック少量
- 12 黄褐色 粘土粒子多量

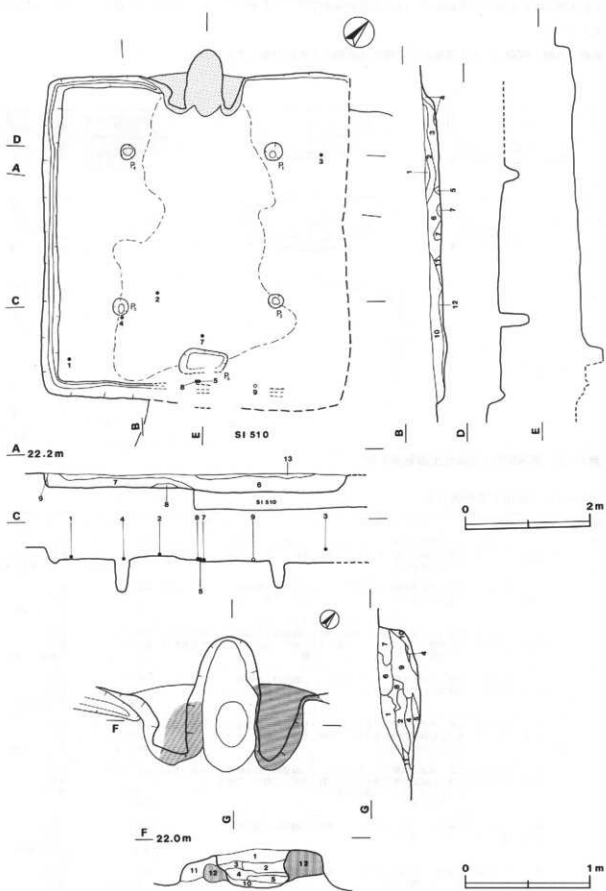
ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁は, 径28cmの円形で, 深さ26cmである。P₂は, 径23cmほどの円形で, 深さ43cmである。P₃は, 径26cmほどの円形で, 深さ55cmである。P₄は, 径23cmほどの円形で, 深さ50cmである。いずれも主柱穴と考えられる。P₅は, 長径73cm, 短径36cmの楕円形で, 深さ33cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 13層からなり, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 砂少量, 焼土粒子微量, 炭化物極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂少量
- 4 暗赤褐色 砂多量, 粘土粒子中量, 炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム大ブロック多量, 炭化物極微量
- 6 黒褐色 ローム粒子・砂中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 黒褐色 ローム中ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子・砂少量
- 9 褐色 ローム粒子多量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量, 粘土粒子・炭化粒子少量
- 11 黒褐色 ローム粒子中量, 砂少量, 炭化粒子微量, 焼土粒子極微量
- 12 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック極微量
- 13 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

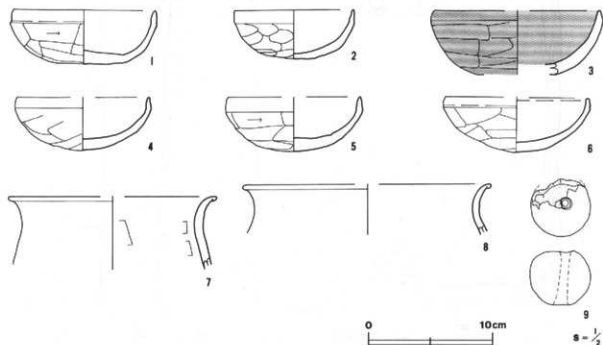
遺物 土師器片618点, 須恵器片16点, 土製品1点, 鉄製品1点が出土している。1の土師器片が南コーナー付近の覆土下層から, 2の土師器片が中央寄りの床面から, 3の土師器片が北側覆土上層から, 7の土師器片がP₅北側の床面から, 8の土師器片がP₅南側の床面から, 4の土師器片がP₅南側の床面から正位で, 5の



第487图 第506号住居跡実測図

土師器が8に近接した床面から、9の土玉が南東壁近くの床面から、6の土師器が覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から古墳時代後期の7世紀中葉と考えられる。



第488図 第506号住居跡出土遺物実測図

第506号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|----------|--------------------|--|------------------------------------|-------------------------|----------------------------------|
| 第488図
1 | 坏
土師器 | A 11.1
B 4.4 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。底部肥厚。 | 砂粒・雲母・スコリア・石末にふいじ色 普通 | P2144
95% 南コーナ一付近覆土下層 |
| 2 | 坏
土師器 | A 9.6
B 3.9 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。 | 砂粒・スコリアにふいじ黄褐色 普通 | P2145
70% 中央寄り床面 |
| 3 | 坏
土師器 | A[13.4]
B(5.2) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はやや内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母
黄灰色 普通 | P2151
20% 北側覆土上層 |
| 4 | 坏
土師器 | A[10.6]
B 4.3 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア・石末
灰黄色 普通 | P2148
70% P ₃ 南側床面 |
| 5 | 坏
土師器 | A[10.6]
B 4.4 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。口縁部内面直下に一条の沈線をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア
黄灰色 普通 | P2149
50% 8の近く床面 |
| 6 | 坏
土師器 | A[11.6]
B 4.5 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。口縁部内面直下に一条の沈線をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア
灰黄褐色 普通 | P2150
40% 覆土中 |
| 7 | 壊
土師器 | A[16.8]
B(5.9) | 口縁部片。口縁部は外反する。端部のつくりが雑である。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・スコリア
黄褐色 普通 | P2146
5% P ₃ 北側床面 |
| 8 | 壊
土師器 | A[19.8]
B(4.1) | 口縁部片。口縁部は外反する。端部のつくりが雑である。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒
にふいじ黄褐色 普通 | P2147
5% P ₃ 南側床面 |

| 採取番号 | 種別 | 計測値 | | | | 出土地点 | 備考 | |
|-------|----|--------|-------|--------|-------|---------|--------|-----|
| | | 長さ(cm) | 径(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | | |
| 第488号 | 土玉 | 2.9 | 3.3 | 0.6 | 27 | 湯家壁近く床面 | DP2010 | 70% |

第508号住居跡(第489図)

位置 調査8区西部, M8:a区。

重複関係 第504号住居跡に掘り込まれているので, 本跡が古い。

規模と平面形 本跡の北側が調査区域外に延びており, 第504号住居跡と重複しているため, 東西(2.20)m以上であること以外は不明である。

壁 壁高は8cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 南壁下で確認され, 上幅28~30cm, 下幅5~11cm, 深さ12cmで, 断面形はU字形である。

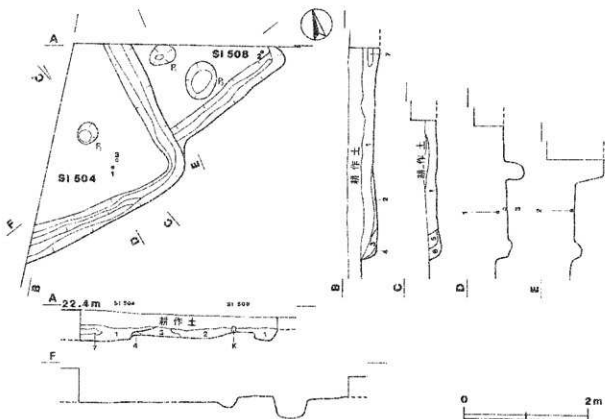
床 全体的に平坦である。

ピット 2か所(P₁, P₂)。P₁は, 北側が調査区域外になるため大きさは不明で, 深さ47cmである。P₂は, 長径61cm, 短径50cmの楕円形で, 深さ30cmである。いずれも性格は不明である。

覆土 4層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子中量, ローム粒少量 | 4 褐色 ローム粒子少量 |



第489図 第504・508号住居跡実測図

遺物 土師器片35点, 須恵器片2点, 土製品1点が出土している。1の土師器環が覆土中から, 2の土師器環が東コーナー付近の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から古墳時代後期の7世紀前半と考えられる。



第490図 第508号住居跡出土遺物実測図

第508号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|------------|-------------------|--|---------------------------------------|-------------------------|------------------------------|
| 第490図
1 | 土師器
土師器 | A[13.4]
B 4.1 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は短く内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母・スコリア・石英
黒褐色 普通 | P2154
40%
覆土中 |
| 2 | 土師器
土師器 | A[14.3]
B(3.5) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 体部と口縁部の境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母・スコリア
黒褐色
普通 | P2155
10% 東コーナー
付近覆土中層 |

第509号住居跡 (第491図)

位置 調査8区西部, M8j4区。

規模と平面形 北側のほとんどが調査区域外に延びており, 南東(1.80)m, 北東(1.45)mである。平面形は不明である。

壁 壁高は26cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 南コーナー付近の壁下で確認され, 上幅22~40cm, 下幅7~11cm, 深さ7~15cmで, 断面形はU字形である。

床 全体的に平坦である。

覆土 4層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片14点が出土している。1の土師器環が, 南コーナーの壁際の覆土上層から出土している。

第491図 第509号住居跡・出土遺物実測図

所見 本跡の時期は, 出土遺物から古墳時代後期の7世紀後半と考えられる。

第509号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 寸法(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|----------|----------------|--|---|--------------------------|------------------------------|
| 第491図
1 | 坏
土前型 | A 8.5
B 3.3 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり、
体部と口縁部の境に稜をもつ。口縁
部は内彎袋状に直立する。 | 口縁部内・外面滑ナデ。体部・底部
外面へう張り。内面ナデ。内・外面
黒色処理。 | 砂粒・紫白・スクリ
ア。灰褐色
普通 | P2156
96% 厨コーナ
-早期埋土上層 |

第510号住居跡(第492・493図)

位置 調査8区西部, N8a区。

重複関係 第515号住居跡を掘り込み、上位に第503・506・507・513号住居跡が構築されているので、第515号住居跡より新しく、第503・506・507・513号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸8.35m, 短軸8.32mの方形である。

主軸方向 N 28°-W

壁 壁高は15~52cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北西壁下から南東壁下にかけて確認され、上幅12~15cm, 下幅4~22cm, 深さ4~16cmで、断面形はJ字形である。

床 全体的に平坦で、中央部が踏み固められている。さらに床面をはがした結果、ほぼ前面にわたって深さ4~18cmほど掘り込んでいることを確認した。

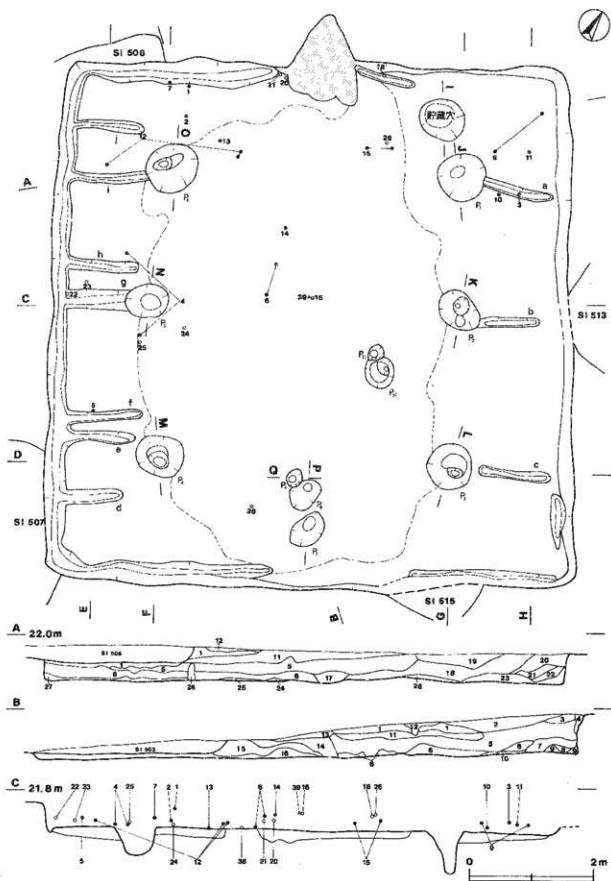
間仕切溝 10条(a~j)。北東壁から3条(a~c)、南西壁から7条(d~j)、それぞれ中央に向かって延びている。上幅13~23cm, 下幅3~10cm, 深さ6~20cmで、断面形はU字形である。間仕切溝 aとP₁、bとP₂、gとP₃、iとP₄はそれぞれ連結している。

竈 北西壁中央部に砂質粘土で構築している。規模は長さ143cm, 袖幅115cm, 壁外への掘り込みは75cmである。袖部は、床面を掘り込んで構築している。左袖は右袖に比べ短く、一部が崩れ落ちたと考えられる。天井部は、厚さ22cmほどで砂質粘土で構築している。火床部は、火熱を受けて赤変している。煙道部は、ほぼ垂直に立ち上がる。煙出し口は残存状態が良く、長径33cm, 短径28cmの楕円形で、赤変硬化している。

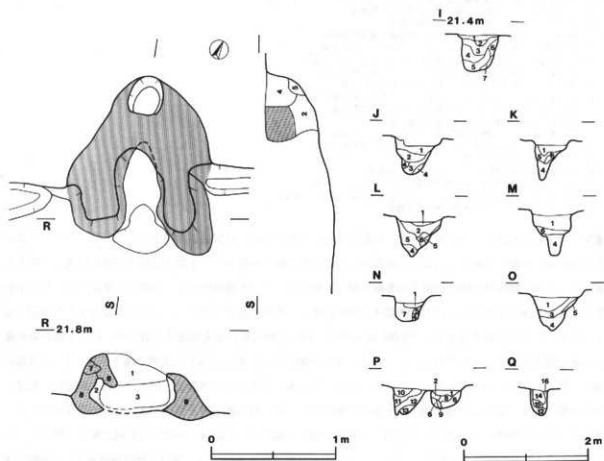
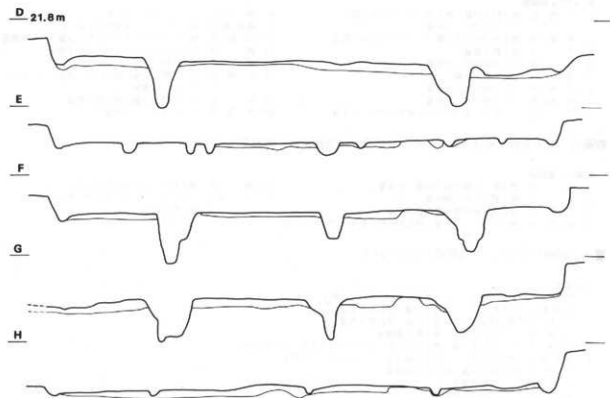
竈土層解説

- 1 にぶい黄褐色 焼土小ブロック・熟土大ブロック中量、炭化物少量
- 2 にぶい赤褐色 焼土中ブロック中量、砂少量
- 3 にぶい赤褐色 焼土小ブロック多量、粘土中ブロック少量
- 4 にぶい赤褐色 焼土中ブロック・炭化物中量、粘土小ブロック少量
- 5 明赤褐色 粘土粒多量
- 6 にぶい黄褐色 焼土大ブロック・砂中量、焼土小ブロック少量
- 7 にぶい黄褐色 粘土大ブロック中量
- 8 にぶい褐色 粘土粒子多量

ピット 11か所(P₁~P₁₁)。P₁は、径77cmほどの円形で、深さ58cmである。P₂は、長径73cm, 短径53cmの楕円形で、深さ68cmである。P₃は、径73cmほどの円形で、深さ69cmである。P₄は、長径75cm, 短径62cmの楕円形で、深さ82cmである。P₅は、長径68cm, 短径54cmの楕円形で、深さ43cmである。P₆は、長径85cm, 短径73cmの楕円形で、深さ70cmである。いずれも主柱穴と考えられる。P₇は、長径65cm, 短径43cmの楕円形で、深さ43cmである。P₈は、長径56cm, 短径42cmの楕円形で、深さ46cmである。P₇、P₈の新旧関係は不明であるが、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられ、作り替えられたものと思われる。P₉は、長径30cm, 短径25cmの楕円形で、深さ48cmである。P₁₀は、径48cmほどの円形で、深さ28cmである。P₁₁は、長径30cm, 短径25cmの楕円形で、深さ38cmである。性格は、いずれも不明である。



第492图 第510号住居跡实测图(1)



第493图 第510号住居跡实测图(2)

P₁～P₇土層解説

| | | | |
|--------|-------------------------------|---------|------------------------------|
| 1 灰 褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量 | 9 黒 褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 2 緑 褐色 | 焼土小ブロック少量、ローム小ブロック微量 | 10 強暗褐色 | 焼土中ブロック・炭化物中量、砂少量 |
| 3 褐色 | 焼土粒子微量 | 11 暗 褐色 | 焼土小ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量 |
| 4 褐色 | ローム中ブロック中量 | 12 褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子少量 | 13 褐色 | ローム粒子少量 |
| 6 暗 褐色 | ローム小ブロック少量 | 14 暗 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 7 明 褐色 | ローム中ブロック中量 | 15 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 8 褐色 | ローム中・小ブロック・焼土小ブロック少量 | 16 明 褐色 | ローム大ブロック中量 |

貯蔵穴 竈の東側で確認されている。長径73cm、短径63cmの楕円形で、深さ57cmである。

貯蔵穴土層解説

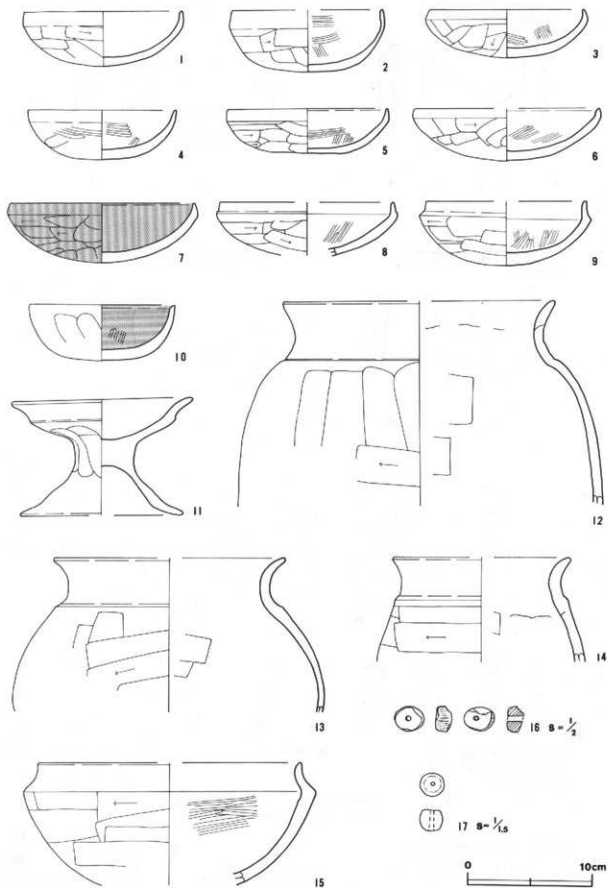
| | | | |
|--------|---------------------------|---------|------------------------|
| 1 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量、砂少量 | 5 褐色 | 焼土粒子・砂・粘土粒子少量 |
| 2 褐色 | 焼土粒子・炭化物少量 | 6 にぶい褐色 | ローム大ブロック中量、焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 3 灰 褐色 | 炭化物・砂中量、焼土粒子少量 | 7 褐色 | ローム中ブロック中量 |
| 4 暗 褐色 | 焼土小ブロック中量、炭化物・砂・粘土小ブロック少量 | | |

覆土 28層からなり、人為堆積と考えられる。

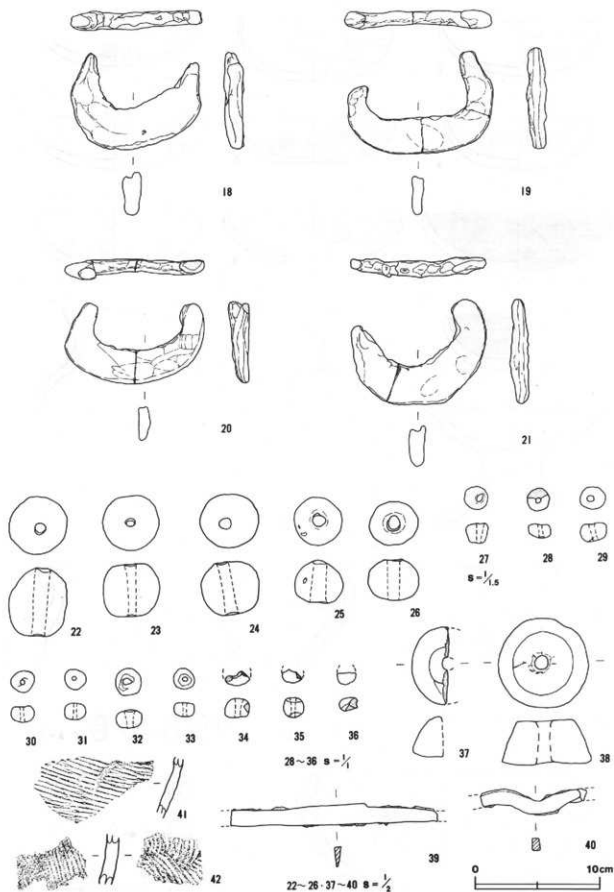
土層解説

| | |
|----------|--------------------------------|
| 1 黒 褐色 | ローム中ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒 褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 4 暗 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子微量 |
| 5 黒 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・ローム中ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 6 極暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・砂少量、ローム小ブロック微量 |
| 7 黒 褐色 | 焼土粒子少量、炭化物・砂微量 |
| 8 黒 褐色 | ローム粒子微量 |
| 9 極暗褐色 | ローム粒子・砂少量 |
| 10 暗 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 |
| 11 黒 褐色 | 焼土粒子多量、炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 12 黒 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 13 黒 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 14 極暗褐色 | 炭化粒子・ローム粒子・砂少量、焼土粒子微量 |
| 15 極暗褐色 | 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 16 黒 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック微量 |
| 17 暗 褐色 | 粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量 |
| 18 黒 褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂少量 |
| 19 暗 褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 20 極暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 21 黒 褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・砂少量 |
| 22 黒 褐色 | ローム粒子・砂少量、ローム小ブロック微量 |
| 23 暗 褐色 | 砂中量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量 |
| 24 にぶい褐色 | 粘土粒子少量 |
| 25 黒 褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量、砂微量 |
| 26 褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量、ローム中ブロック少量 |
| 27 黒 褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、粘土粒子微量 |
| 28 暗 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子微量 |

遺物 土師器片2725点、須恵器片38点、石製品3点、土製品19点、鉄製品2点が出土している。1の土師器片が北西壁近くの覆土上層から、2の土師器片が1の南側の覆土中層から、3の土師器片が間仕切溝aの覆土上層から、5の土師器片が間仕切溝fの北側の覆土中層から、7の土師器片が1の西側の北壁際から、9の土師器片が北側の覆土上層から、10の土師器片が間仕切溝aの南側の覆土下層から、11の土師器片が北東側の覆土上層から、13の土師器片がP₆の東側の床面から、14の土師器片が中央部覆土上層から、15の土師器片が竈の南側の覆土中層からそれぞれ出土している。4の土師器片は、間仕切溝hの北側の覆土下層、P₃の南側の覆土下層から出土した破片と接合している。16のF1玉、39の刀子が中央部覆土上層から、18の鋤先形土製品が北西壁際の覆土上層から、19の鋤先形土製品が竈内から、20、21の鋤先形土製品が竈と袖際の覆土中層から、22の土玉が南西壁際から、23の土玉が22の北東側の覆土中層から、24の土玉がP₃の東側の覆土下層から、25の土玉がP₃の南側の覆土中層から、26の土玉が15の北側の覆土上層から、38の土製紡錘車がP₇の西側の床面から、8の土師器片、27の小玉、37の土製紡錘車が覆土中からそれぞれ出土している。また、床面をはがし



第494圖 第510号住居跡出土遺物実測圖(1)



第495图 第510号住居跡出土遺物実測図(2)

て調査した結果、28～36の上製小玉が南西側から出土している。41は須恵器製の体部片で、外面に横位の平行叩きが施されている。42は須恵器製の体部片で、外面に縦位の平行叩きが、内面に当て具痕が見られる。

所見 本跡からは、鋤先形土製品が出土している。県内では、尾島遺跡の祭祀場から出土しているが、住居跡からの出土は県内初である。時期は、出土遺物から古墳時代後期の7世紀前半と考えられる。

第510号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(a)
B | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|----------|--------------------------------------|--|--|---------------------------------------|----------------------------------|
| 第494回
1 | 坏
土師器 | A 12.6
B 4.4 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり、
口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部・底部
外面へラ削り。内面ナデ。内・外面
磨減。 | 砂粒・雲母・スコリア
にぶい黄褐色
普通 | P2157
60% 北西近
く覆土上層 |
| 2 | 坏
土師器 | A[12.0]
B 5.0 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり、
口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部外面横ナデ。体部・底部外面
へラ削り。内面へラ磨き。 | 砂粒・雲母・スコリア
にぶい褐色
普通 | P2158
70%
Iの南側覆土中層 |
| 3 | 坏
土師器 | A 12.4
B 3.9 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり、
口縁部は短く内彎する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部・底部
外面へラ削り。内面へラ磨き。 | 砂粒・雲母・スコリア
にぶい褐色
普通 | P2159
95% 同仕切溝
aの覆土上層 |
| 4 | 坏
土師器 | A 11.8
B 4.0 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり、
口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部・底部
外面へラ削り後、へラ磨き。内面へ
ラ磨き。 | 砂粒・雲母・スコリア
にぶい褐色
普通 | P2160
63% 同仕切溝
bの覆土上層 |
| 5 | 坏
土師器 | A 12.8
B 3.7 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり、
口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部・底部
外面へラ削り。内面へラ磨き。内面
磨減。 | 砂粒・雲母・スコリア
にぶい黄褐色
普通 | P2161
70% 同仕切溝
fの覆土中層 |
| 6 | 坏
土師器 | A[14.8]
B 4.2 | 底部から口縁部にかけての破片。丸
底。体部は内彎して立ち上がり、口
縁部は短く直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部・底部
外面へラ削り。内面へラ磨き。内面
磨減。 | 砂粒・雲母・スコリア
にぶい褐色
普通 | P2162
30% 中央内面
覆土中層 |
| 7 | 坏
土師器 | A 14.6
B 4.7 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり、
体部と口縁部の境に弱い痕をもつ。
口縁部は短くやや内彎する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部・底部
外面へラ削り。内・外面色処理。 | 砂粒・雲母・スコリア
にぶい褐色
普通 | P2163
100%
Iの西側北東隅 |
| 8 | 坏
土師器 | A[14.0]
B(4.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体
部は内彎して立ち上がり、体部と口
縁部の境に段を有し、口縁部はほぼ
直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ
ラ削り。内面へラ磨き。内面磨減。 | 砂粒・雲母・スコリア
にぶい褐色
普通 | P2164
30%
覆土中層 |
| 9 | 坏
土師器 | A[12.9]
B 5.2 | 口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎
して立ち上がり、体部と口縁部の境
に段を有し、口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部・底部
外面へラ削り。内面へラ磨き。外面
磨減。 | 砂粒・雲母・スコリア
にぶい黄褐色
普通 | P2165
80%
北側覆土上層 |
| 10 | 坏
土師器 | A 11.5
B 4.4 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり、
口縁部に至る。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部・底部
外面へラ削り。内面へラ磨き。内面
黒色処理。内・外面磨減。 | 砂粒・雲母・スコリア
内面黒褐色・15%
内面黄褐色 普通 | P2166
55% 同仕切溝
aの覆土下層 |
| 11 | 高
土師器 | A 14.3
B 9.4
D[13.0]!
E 5.6 | 胴部は円柱状で、肩部はハの字状に
開く。坏体部は内彎して立ち上がり
体部と口縁部の境に痕をもつ。口縁
部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。坏体部外面
へラ削り。胴部外面へラ削り。 | 砂粒・雲母
伏雲
普通 | P2167
60%
北東側覆土上層 |
| 12 | 変
土師器 | A[21.6]
B(16.4) | 体部上位から口縁部にかけての破片
体部は内彎して立ち上がり、体部と
口縁部の境に痕をもつ。口縁部はや
や外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ
ラ削り。内面へラナデ。 | 砂粒・雲母
にぶい褐色
普通 | P2168
20%
P a西側・東側
覆土中層 |
| 13 | 変
土師器 | A[18.4]
B(12.4) | 体部上位から口縁部にかけての破片
体部は内彎して立ち上がり、体部と
口縁部の境に弱い痕をもつ。口縁部
は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ
ラ削り。内面へラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア
にぶい褐色
普通 | P2169
20%
P a東側床面 |
| 14 | 変
土師器 | A[14.0]
B(8.4) | 体部上位から口縁部にかけての破片
体部は内彎して立ち上がり、体部と
口縁部の境に部分的に弱い痕をもつ。
口縁部は短く外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ
ラ削り。内面へラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア
・石英
にぶい褐色 普通
二次焼成 | P2170
15%
中央覆土上層 |
| 15 | 鉢
土師器 | A 21.07
B(9.9) | 体部から口縁部にかけての破片。体
部は内彎して立ち上がり、体部と口
縁部の境に段を有し、口縁部は短く
直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ
ラ削り。内面へラ磨き。 | 砂粒・雲母・スコリア
にぶい黄褐色
普通 | P2171
35%
南側覆土中層 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 出土地点 | 備考 |
|--------|----|-------|--------|--------|-------|--------|----------------|
| | | 径(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | |
| 第49図16 | 白玉 | 0.8 | 0.9 | 0.3 | 2.16 | 中央覆土上層 | Q2006 滑石片岩 80% |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 出土地点 | 備考 |
|------|------|--------|-------|--------|-------|------|---------------|
| | | 長さ(cm) | 径(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | |
| 17 | 右軀丸玉 | 0.8 | 1.0 | 0.2 | 0.86 | 覆土中 | Q2013 頁岩 100% |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 出土地点 | 備考 |
|--------|-------|--------|-------|--------|-------|----------|---------------|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | |
| 第49図18 | 鍍形土器片 | 7.8 | 10.5 | 1.6 | 84 | 北西壁際覆土上層 | D P 2011 100% |
| 19 | 鍍形土器片 | 8.1 | 11.9 | 1.8 | 58 | 竈内 | D P 2012 100% |
| 20 | 鍍形土器片 | 6.5 | 11.2 | 1.6 | 49 | 竈左地際覆土中層 | D P 2013 100% |
| 21 | 鍍形土器片 | 8.4 | 10.9 | 1.5 | 66 | 竈左地際覆土中層 | D P 2014 100% |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 出土地点 | 備考 |
|------|----|--------|-------------|--------|--------|-----------------------|---------------|
| | | 長さ(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | |
| 22 | 土玉 | 3.5 | 3.1 | 0.6 | 33 | 南西壁際 | D P 2015 100% |
| 23 | 上玉 | 2.8 | 3.0 | 0.5 | 26 | 22の北東側覆土中層 | D P 2016 100% |
| 24 | 土玉 | 2.9 | 3.1 | 0.7 | 24 | P ₂ 東側覆土下層 | D P 2017 100% |
| 25 | 土玉 | 2.4 | 2.6 | 0.7 | 14 | P ₁ 南側覆土中層 | D P 2018 100% |
| 26 | 土玉 | 2.2 | 2.7 | 0.7 | 12 | 15の北側覆土上層 | D P 2019 100% |
| 27 | 小玉 | 0.7 | 0.9 | 0.4 | 0.68 | 覆土中 | D P 2020 100% |
| 28 | 小玉 | 0.4 | 0.6 | 0.15 | 0.12 | 床下 | D P 2023 100% |
| 29 | 小玉 | 0.5 | 0.7 | 0.2 | 0.19 | 床下 | D P 2024 100% |
| 30 | 小玉 | 0.45 | 0.6 | 0.1 | 0.15 | 床下 | D P 2025 100% |
| 31 | 小玉 | 0.1 | 0.55 | 0.1 | 0.15 | 床下 | D P 2026 100% |
| 32 | 小玉 | 0.5 | 0.7 | 0.25 | 0.23 | 床下 | D P 2027 100% |
| 33 | 小玉 | 0.4 | 0.55 | 0.15 | 0.12 | 床下 | D P 2028 100% |
| 34 | 小玉 | 0.5 | (0.3)~(0.5) | 10.2 | (0.1) | 床下 | D P 2029 40% |
| 35 | 小玉 | 0.5 | (0.5) | [0.15] | (0.08) | 床下 | D P 2030 40% |
| 36 | 小玉 | 0.35 | (0.3)~(0.5) | — | (0.03) | 床下 | D P 2031 20% |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 出土地点 | 備考 |
|------|--------|-------|--------|--------|-------|---------------------|--------------|
| | | 径(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | |
| 27 | 土製粘土器片 | 4.1 | 2.4 | 10.7 | (16) | 覆土中 | D P 2021 50% |
| 38 | 土製粘土器片 | 4.8 | 2.3 | 0.7 | 35 | P ₂ 西側床面 | D P 2036 65% |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 出土地点 | 備考 |
|------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | |
| 39 | 刀子 | (11.0) | 1.1 | 0.3 | (13) | 中央覆土上層 | M2009 |
| 40 | 不明な器片 | (5.6) | 1.3 | 0.4 | (7) | 覆土中 | M2010 |

第515号住居跡 (第496図)

位置 調査8区西部, N8₃区。

重複関係 上位に第503号住居跡が構築され, 第510号住居跡に掘り込まれているので, 兩住居跡より古い。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが, 長軸[3.55]m, 短軸[3.40]mの方形と推定される。

長軸方向 [N-0°]

壁 南東コーナー付近で確認され, 壁高は12cmで, 外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦である。

ピット 3か所(P₁~P₃)。P₁は, 径30cmほどの円形で, 深さ48cmである。P₂は, 長径58cm, 短径45cmの楕円形で, 深さ40cmである。いずれも性格は, 不明である。P₃は, 長径40cm, 短径25cmの楕円形で, 深さ37cmである。出入り口施設に伴うピットの可能性がある。

覆土 2層からなり, 人為堆積と推測される。

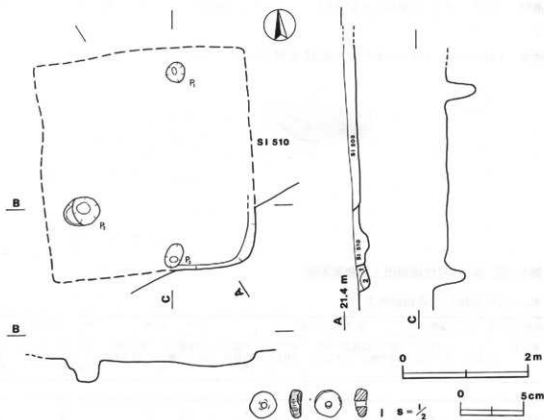
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量

2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片12点, 須恵器片1点, 石製品1点が出土している。1の白玉が覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺物が少なく時期判断は難しいが, 第510号住居跡より古いことから7世紀前葉以前と考えられる。



第496図 第515号住居跡・出土遺物実測図

第515号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 出土地点 | 備考 | |
|-------|----|-------|--------|--------|-------|------|------------|------|
| | | 径(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | | |
| 第498図 | 白玉 | 1.6 | 1.6 | 0.3 | 1.66 | 覆土中 | Q2007 滑石片岩 | 100% |

第516号住居跡 (第498図)

位置 調査8区西部, N8c₂区。

重複関係 第502号住居跡に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 重複により, 長軸4.05m, 短軸(1.05)mである。平面形は不明である。

長軸方向 [N-2°-W]

壁 壁高は1~22cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 南東コーナー壁下から南西コーナー壁下にかけて確認され, 上幅は12~22cm, 下幅3~8cm, 深さ3~10cmで, 断面形はU字形である。

床 全体的に平坦である。

覆土 2層からなり, 人為堆積と推測される。

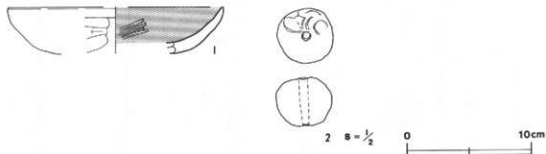
土層解説

1 褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量

2 褐色 ローム粒子多量

遺物 土師器片40点, 土製品1点が出土している。1の土師器坏, 2の土玉が覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から古墳時代後期の7世紀と考えられる。

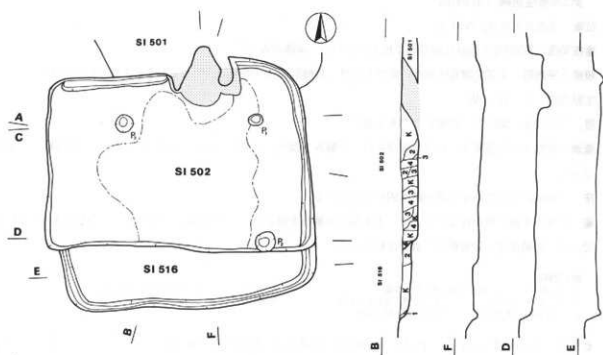


第497図 第516号住居跡出土遺物実測図

第516号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|----------|-------------------|--------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|---------------------|
| 第497図
1 | 坏
土師器 | A[17.3]
B(3.5) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して立ち上がり, 口縁部に至る。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラ磨き。内面黒色地。 | 砂粒・雲母・スコリア
外面灰褐色
内面黒色 普通 | P2129
10%
覆土中 |

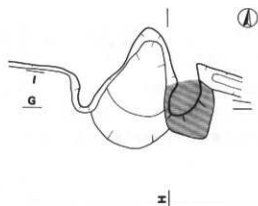
| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 出土地点 | 備考 | |
|------|----|--------|-------|--------|-------|------|----------|-----|
| | | 長さ(cm) | 径(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | | |
| 2 | 土玉 | 2.6 | 2.9 | 0.4 | 20 | 覆土中 | D P 2007 | 90% |



A 22.2m

C 22.0m

0 2m



G 21.8m

0 1m

第498图 第502·516号住居跡実測图

第526号住居跡（第499図）

位置 調査8区東部，N10₄区。

重複関係 第524号住居跡に掘り込まれているので，本跡が古い。

規模と平面形 東部が調査区域外に延びており，長軸5.69m，短軸(2.95)mである。平面形は不明である。

主軸方向 N-17°-W

壁 壁高は3～23cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁下から南壁下にかけて確認され，上幅8～22cm，下幅3～8cm，深さ4～12cmで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部と思われるところに，火床部と左袖部を確認した。火床部は，長径42cm，短径32cmの楕円形である。左袖部は，砂質粘土で構築されている。

壁土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・焼土粒子少量 | | |

ピット 2か所(P₁，P₂)。P₁は，長径92cm，短径75cmの楕円形で，深さ63cmである。P₂は，長径72cm，短径54cmの楕円形で，深さ53cmである。位置から主柱穴と考えられる。

P₁土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子・ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子・粘土小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | | |

P₂土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化物・ローム小ブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・砂質土 |

覆土 6層からなり，自然堆積と思われる。

土層解説

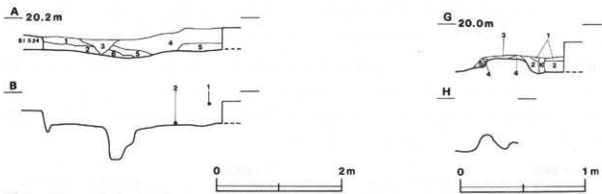
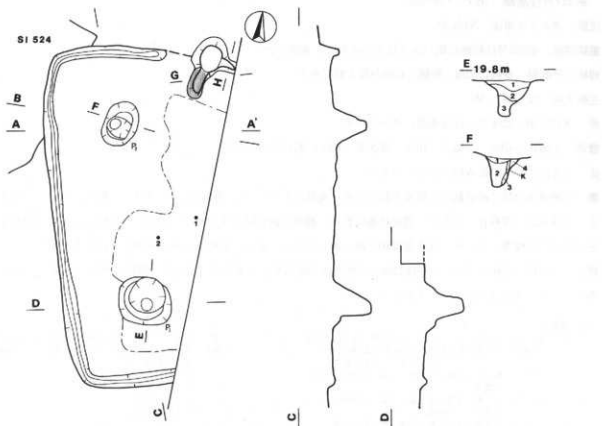
- | | | | |
|-------|--------------------|-------|--------------------------|
| 1 灰黄色 | ローム粒子中量，焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 5 黒褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量，ローム大ブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子微量 |

遺物 土師器片252点，須恵器片22点，鉄滓1点が出土している。1の土師器小皿が中央部覆土上層から，2の土師器甕が1の南西側の床面からそれぞれ出土している。1は，混入と考えられる。

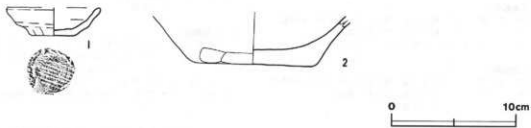
所見 本跡の時期は，遺構の形態と出土遺物から古墳時代後期と考えられる。

第526号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 顔土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|------|-------------------------|-------------------------|---------------------------------------|--------------------------------|--------------------------|
| 第500図
1 | 小土師器 | A 7.4
B 2.3
C 3.6 | 平底。体部は外傾気味に立ち上がり口縁部に変る。 | 口縁部から体部にかけての内・外面口クロナデ。底部内転系切り後，概日状圧痕。 | 砂粒・雲母・スコリア
褐色，普通
口縁部に灰付着 | P 2225
70%
中央部覆土上層 |
| 2 | 土師器 | B (4.2)
C 9.6 | 底部片。平底。 | 体部・底部外面へう崩り。内面磨減。 | 砂粒・雲母・スコリア
にぶい褐色
普通 | P 2226
15%
1の南内側床面 |



第499图 第526号住居跡実測図



第500图 第526号住居跡出土遺物実測図

第527号住居跡 (第502・503図)

位置 調査8区東部, N10es区。

重複関係 第525号住居跡に掘り込まれているので、本跡が古い。

規模と平面形 長軸7.32m, 短軸5.12mの長方形である。

主軸方向 N-28°-W

壁 壁高は40~52cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 上幅16~40cm, 下幅5~16cm, 深さ8~10cm, 断面形はU字形で、全周している。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

竈 北西壁中央部に砂質粘土で構築されている。規模は長さ153cm, 袖幅156cm, 壁外への掘り込みは40cmである。天井部は一部残存しており、遺存状態は良い。袖部は砂質粘土を芯材に、周りに砂質粘土混じりの褐色土を貼り付けて構築している。火床部は10cmほど掘りくぼめており、奥壁はかなり火熱を受け赤変している。

煙出し口も良く残存しており、長径12cm, 短径8cmの楕円形で赤変硬化している。煙道は外傾して立ち上がり、煙出し口付近ではほぼ垂直に立ち上がる。

土層解説

| | | | |
|----------|--|-----------|-------------------------------|
| 1 暗 褐色 | 炭化粒子・ローム粒子・砂少量, 焼土粒子微量 | 9 にぶい赤褐色 | 粘土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 砂中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 10 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 粘土粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量 | 11 薄 色 | 焼土小ブロック・砂中量 |
| 4 赤 褐色 | 粘土粒子多量, 焼土粒子中量, 炭化物少量, 焼土中ブロック微量 | 12 明 赤 褐色 | 焼土粒子多量 |
| 5 暗 赤 褐色 | 炭化粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子少量 | 13 明 黄 褐色 | 粘土粒子多量 |
| 6 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック少量 | 14 暗 色 | 粘土粒子中量 |
| 7 暗 赤 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量, 焼土大ブロック微量 | 15 暗 赤 褐色 | ローム小ブロック中量 |
| 8 暗 赤 褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子・粘土粒子少量 | 16 明 黄 褐色 | 粘土粒子中量, 焼土中ブロック少量 |
| | | 17 褐色 | 焼土中ブロック中量 |
| | | 18 褐色 | 粘土小ブロック・粘土粒子少量 |
| | | 19 にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量 |
| | | 20 赤 褐色 | 焼土小ブロック中量 |

ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁は、長径98cm, 短径73cmの楕円形で、深さ68cmである。P₂は、径76cmほどの円形で、深さ71cmである。P₃は、長径64cm, 短径46cmの楕円形で、深さ62cmである。P₄は、長径73cm, 短径66cmの楕円形で、深さ66cmである。いずれも主柱穴と考えられる。P₅は、長径73cm, 短径54cmの楕円形で、深さ64cmである。出入り口に伴うピットと考えられる。

P₁土層解説

| | |
|----------|-------------------------|
| 1 暗 赤 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, 砂微量 |
| 2 暗 褐色 | 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 薄 色 | ローム粒子中量, 砂少量, 炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |

P₂土層解説

| | |
|--------|-----------------------|
| 1 暗 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物・砂微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | 粘土粒子・焼土大ブロック・炭化物微量 |

P₃土層解説

| | |
|--------|------------------------|
| 1 暗 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量 |

P₄土層解説

| | |
|--------|-------------------------------|
| 1 暗 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂微量 |
| 3 灰 褐色 | ローム粒子中量, 砂少量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 |
| 4 薄 色 | 炭化粒子・ローム粒子・砂少量, ローム小ブロック微量 |

P₅土層解説

| | |
|----------|------------------------------------|
| 1 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 粘土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗 赤 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子微量 |
| 3 暗 褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・砂微量 |
| 4 褐色 | 炭化粒子・砂・焼土粒子・炭化物微量 |

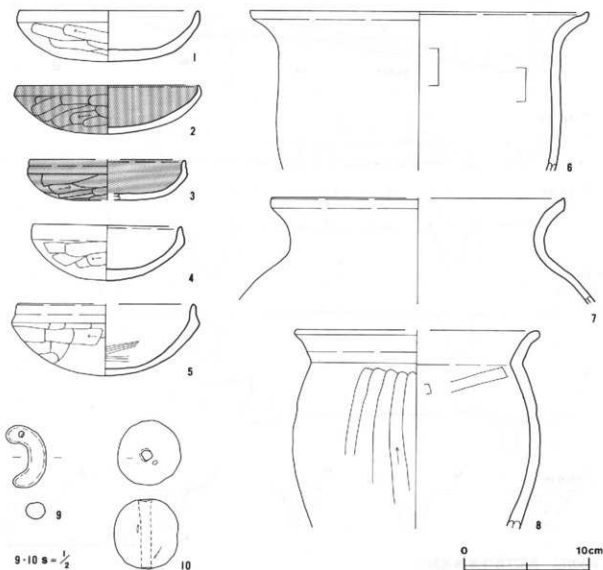
覆土 15層からなり、自然堆積と考えられる。

土層解説

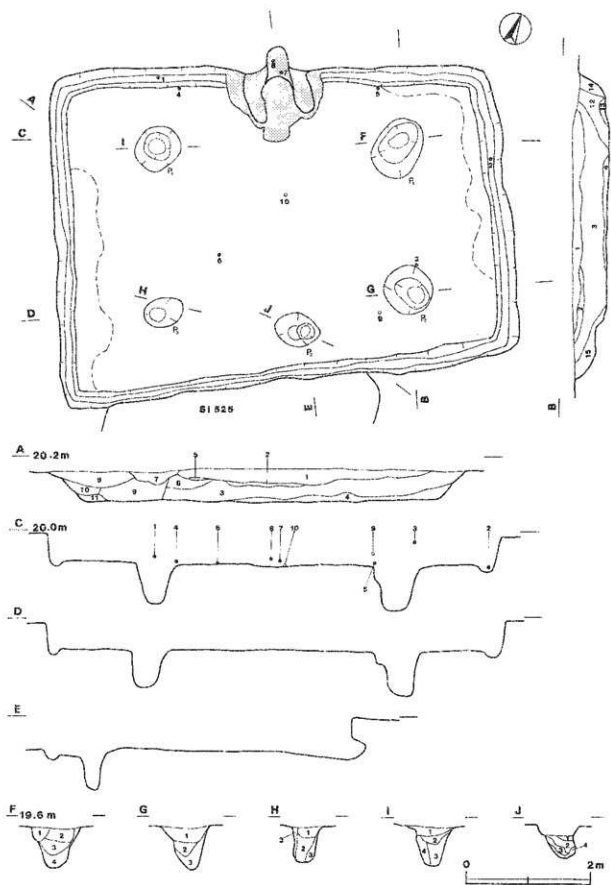
- | | | | |
|-------|------------------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量 | 8 暗褐色 | 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量、炭化物微量 | 9 暗褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量 | 11 黒褐色 | 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子極微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 焼土小ブロック・炭化物微量 | 13 暗褐色 | ローム粒子・砂少量、炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量、炭化物微量 | 14 黒褐色 | ローム粒子・砂少量、焼土粒子微量 |
| | | 15 黒褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化物微量 |

遺物 土師器片366点、須恵器片13点、土製品2点、炭化物が出土している。1の土師器坏が竈西側の北西壁際から、2の土師器坏が北東壁際から、3の土師器坏がP₂の北側の覆土上層から、4の土師器坏が1の北西側の覆土下層から、5の土師器坏が竈東側の北西壁付近の覆土下層から、6の土師器甕が中央やや南西寄りの床面から、7、8の土師器甕が竈内から、9の土製勾玉がP₂の南西側の覆土中層から、10の球状土鍾が中央の床面からそれぞれ出土している。

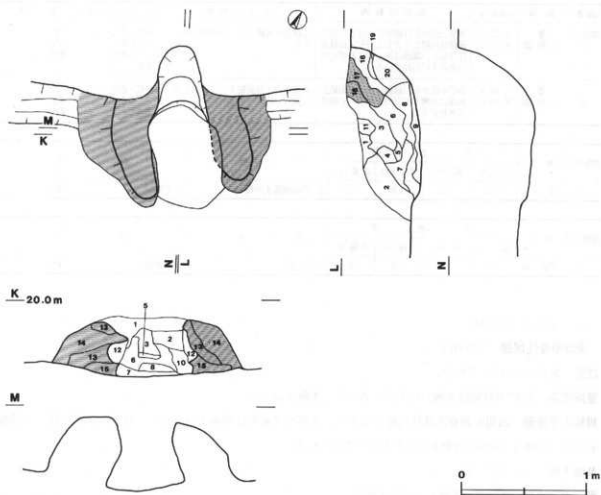
所見 本跡の時期は、出土遺物から古墳時代後期の7世紀前半と考えられる。



第501図 第527号住居跡出土遺物実測図



第502图 第527号住居跡実測図



第503図 第527号住居跡窺実測図

第527号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|------------|--------------------|---|--|---------------------------|----------------------------------|
| 第501図
1 | 坏
土 甕 器 | A 14.4
B 4.1 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内彎気味に直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア
にぶい褐色
普通 | P2227
80%
縄西側北西壁際 |
| 2 | 坏
土 甕 器 | A 14.5
B 3.9 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に弱い稜をもつ。口縁部はやや内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。磨減。 | 砂粒・雲母・スコリア
黒褐色
普通 | P2228
75%
北東壁際 |
| 3 | 坏
土 甕 器 | A [12.4]
B 3.3 | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に弱い稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部外面は、工具を使用した横ナデと思われ。沈線のような工具痕を残す。口縁部内面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母・スコリア
黒褐色
普通 | P2229
30%
P2北側厚土上層 |
| 4 | 坏
土 甕 器 | A 11.8
B 4.4 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はやや内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。内面磨減。 | 砂粒・雲母
反黄褐色
普通 | P2230
50% 1の
北西側覆土下層 |
| 5 | 坏
土 甕 器 | A [14.0]
B 5.8 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に段を有し、口縁部はわずかに内傾する。 | 口縁部外面は、工具を使用した横ナデと思われ。沈線のような工具痕を残す。口縁部内面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面へラ磨き。 | 砂粒・雲母・スコリア
にぶい褐色
普通 | P2231
45%
縄東側北西壁
付近覆土下層 |
| 6 | 差
土 甕 器 | A 37.2
B (12.8) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反し、端部は外上方に短くつまみ上げられている。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面へラナデ。 | 砂粒・雲母・石英
にぶい褐色
普通 | P2232
25%
中央床面 |

| 図版番号 | 器 種 | 計測値(cm) | 器 材 の 特 徴 | 手 立 の 特 徴 | 胎土・色割・焼戻 | 備 考 |
|------------|-----|--------------------|---|---------------------------------|------------------------------|--------------------|
| 第504図
7 | 堊土器 | A(23.3)
B(8.5) | 体部上段から口縁部にかけての破片
体部は内彎して立ち上がり、口縁部
は外反し、底部は外上方にわずかに
つまみ上げられている。 | 口縁部外面横ナデ。口縁部内面ヘ
ラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア・石英
に濃い褐色
青緑 | P2233
10%
壺内 |
| 8 | 堊土器 | A(19.4)
B(15.9) | 体部中位から口縁部にかけての破片
体部は内彎して立ち上がり、口縁部
は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面
ヘラナデ。内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア
褐色 | P2234
15%
壺内 |

| 図版番号 | 種 別 | 計 測 値 | | | | 出 土 地 点 | 備 考 |
|------|-----|--------|-------|--------|-------|------------------------|------------------|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | |
| 9 | 写 玉 | 3.3 | 2.2 | 0.9 | 5 | P ₃ 南内側覆土中層 | D P 2033
100% |

| 図版番号 | 種 別 | 計 測 値 | | | | 出 土 地 点 | 備 考 |
|------|------|--------|-------|--------|-------|---------|------------------|
| | | 長さ(cm) | 径(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | |
| 10 | 球状土罐 | 3.8 | 3.5 | 0.6 | 45 | 中央床面 | D P 2034
100% |

② 奈良・平安時代

第500号住居跡(第504図)

位置 調査8区西部, N8a区。

重複関係 第505号住居跡を掘り込んでいるので、本跡が新しい。

規模と平面形 西側が調査区域外に延びており、規模や平面形は明確ではないが、残存する壁や床から長軸4.84m、短軸(1.75)mの方形または長方形と考えられる。

長軸方向 [N-13°-E]

壁 壁高は14~16cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北コーナーから南壁下に確認され、上幅10~34cm、下幅4~12cm、深さ4~7cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、踏み固められている。

ピット 4か所(P₁~P₄)。P₁は、長径42cm、短径35cmの楕円形で、深さ17cmである。P₂は、長径35cm、短径30cmの楕円形で、深さ13cmである。P₃は、径25cmほどの円形で、深さ16cmである。P₄は、長径42cm、短径35cmの楕円形で、深さ34cmである。P₄は、位置から柱穴と考えられる。P₁~P₃は、性格が不明である。

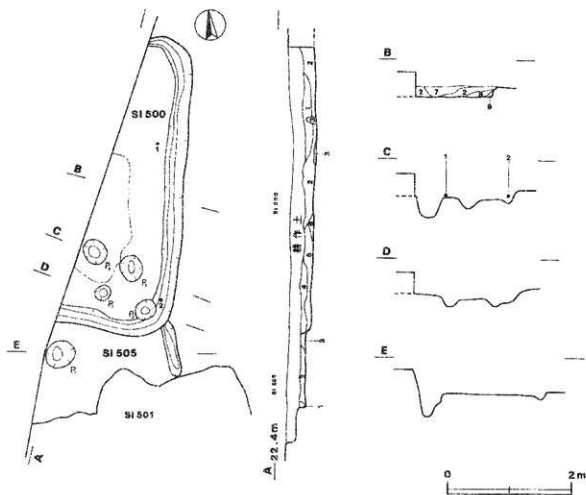
覆土 9層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・砂少量、炭化粒子微量
- 2 棕褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・砂少量、炭化粒子微量、炭化物極微量
- 3 棕褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・粘土粒子少量
- 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 5 棕褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量、ローム中ブロック極微量
- 6 灰褐色 焼土粒子・ローム粒子微量
- 7 棕褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
- 8 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量、焼土小ブロック極微量
- 9 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

遺物 土師器片183点、須恵器片1点、陶器片1点が出土している。1の上層器坏が東側覆土下層から、2の須恵器が南東壁際覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から奈良時代の8世紀中葉と考えられる。



第504図 第500・505号住居跡実測図



第505図 第500号住居跡出土遺物実測図

第500号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|----------|-------------------|---|----------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 第505図
1 | 坏
土器器 | A[18.6,
B[3.4] | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内灣して立ち上がり、口縁部はやや外傾する。 | 口縁部外側削ナデ。体部外面へラ削り。内面へフ磨き。 | 砂粒・灰母・スコリア
赤色
新灰 | P2125
30%
東側覆土下層 |
| 2 | 甕
須器 | A[27.0,
B[2.9] | 体部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部から体部にかけての内・外面
ロクロナデ。 | 砂粒・灰母・スコリア
褐灰色
普通 | P2126
10%
南東側覆土中層 |

第501号住居跡（第506図）

位置 調査8区西部，N8a区。

重複関係 第505号住居跡を掘り込み，第502号住居跡，第5号井戸に掘り込まれているので，第505号住居跡より新しく，第502号住居跡，第5号井戸より古い。

規模と平面形 一边が3.40mの方形である。

主軸方向 N-12°-W

壁 壁高は9～14cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 北東コーナーで確認され，上幅15～20cm，下幅5～7cm，深さ4cmで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

竈 北壁に付設されている。規模は長さ100cm，袖幅145cm，壁外への掘り込みは45cmである。袖部は，砂質粘土で構築している。火床部は厚さが7cmほどあり，長期間使用したものと考えられる。煙道は外傾して立ち上がる。火床部には，土製支脚が確認されている。

葺土層解説

- | | |
|-----------|-----------------------------|
| 1 桃 赤 褐色 | 焼土小ブロック・粘土大ブロック少量 |
| 2 赤 褐色 | 焼土大ブロック中量，焼土小ブロック・粘土中ブロック少量 |
| 3 暗 褐色 | 焼土小ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム中ブロック少量，焼土粒子微量 |
| 5 暗 褐色 | 焼土小ブロック少量，炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 6 に近い赤褐色 | 焼土小ブロック中量，粘土小ブロック少量，炭化物微量 |
| 7 暗 赤 褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量 |
| 8 暗 褐色 | ローム小ブロック・砂少量 |
| 9 褐色 | ローム中ブロック少量，焼土粒子微量 |
| 10 暗 褐色 | ローム小ブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 11 黒 褐色 | ローム小ブロック少量，焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 12 に近い赤褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 13 赤 褐色 | 焼土小ブロック中量，焼土粒子少量 |

葺土 8層からなり，自然堆積である。

土層解説

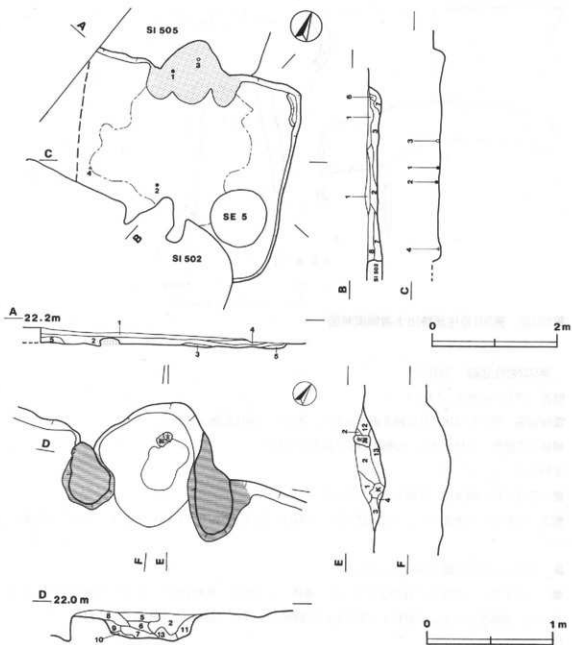
- | | | | |
|--------|----------------------|--------|------------------|
| 1 暗 褐色 | 焼土小ブロック微量 | 5 褐色 | ローム中ブロック中量 |
| 2 暗 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 6 暗 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 3 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム中ブロック中量 |
| 4 暗 褐色 | ローム中ブロック中量，焼土粒子微量 | 8 黒 褐色 | ローム粒子・炭土粒子少量 |

遺物 土師器片218点，須恵器片58点，土製品1点，鉄製品3点，炭化材が出土している。1の土師器蓋，3の上製支脚が竈内から，2の須恵器蓋が南側上下層から，4の鉄鍔が西側葺土下層から，5の鉄製カンヌキが葺土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から奈良時代の8世紀後半と考えられる。

第501号住居跡出土遺物観察表

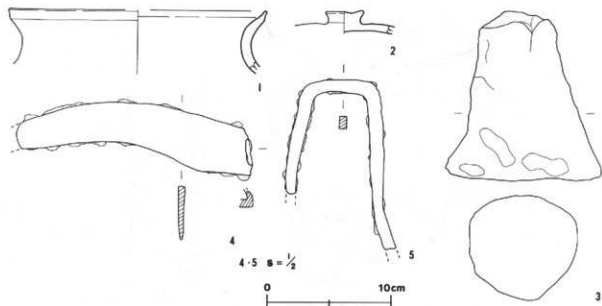
| 図版番号 | 器種 | 目録値(α) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|-----------------|--------------------------|---------------------------------|----------------------|-----------------------|------------------------|
| 第507図
1 | 土師器
7 | A[20.6]
B(5.1) | 口縁部片。口縁部は外反し，底部は外上方につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面滑ナデ。 | 砂粒・雲母・スコリアに多い褐色
普通 | P2127
5%
選内 |
| 2 | 須恵器
須恵器
蓋 | B(1.9)
F 3.0
G 1.0 | 天井部片。天井部は平坦である。ボタン状のつまみがつく。 | 天井部外面回転ヘラ磨り。内面ロクロナデ。 | 砂粒・雲母・石灰に多い褐色
普通 | P2128
10%
南側葺土下層 |



第506図 第501号住居跡実測図

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | 出土地点 | 備考 |
|--------|----|--------|----------|--------|------|----------|
| | | 長さ(cm) | 径(cm) | 重量(g) | | |
| 第507図3 | 支脚 | (13.6) | 8.5~12.6 | (1170) | 竈内 | D P 2006 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 出土地点 | 備考 |
|------|------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | |
| 4 | 鏝 | (12.7) | 3.4 | 0.2 | (40) | 西側覆土下層 | M2005 |
| 5 | カンヌキ | (9.1) | 0.8 | 0.4 | (22) | 覆土中 | M2006 |



第507図 第501号住居跡出土遺物実測図

第502号住居跡 (第498図)

位置 調査8区西部, N8c2区。

重複関係 第501・516号住居跡を掘り込んでいるので、両住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸4.18m, 短軸3.13mの長方形である。

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は10~24cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁下から東壁下にかけて確認され、上幅11~23cm, 下幅3~10cm, 深さ3~6cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

竈 北壁中央やや東寄りにつ設されている。規模は長さ95cm, 袖幅115cm, 壁外への掘り込みは17cmである。袖部は、黄褐色土の上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は、床面を浅く掘りくぼめている。煙道は、緩やかに立ち上がる。

遺土層解説

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 焼土小ブロック中量, 砂少量 | 7 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・砂微量 |
| 2 黄褐色 ローム小ブロック中量 | 8 赤褐色 焼土中ブロック中量 |
| 3 明赤褐色 焼土中ブロック多量, 砂微量 | 9 にぶい黄褐色 砂多量, 焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・砂少量 | 10 暗褐色 ローム小ブロック少量 |
| 5 褐色 ローム粒子・砂少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量 | 11 にぶい褐色 ローム小ブロック・砂少量 |
| 6 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量 | |

ピット 3か所(P₁~P₃)。P₁は、長径22cm, 短径19cmの楕円形で、深さ21cmである。P₂は、径31cmほどの円形で、深さ18cmである。P₃は、径27cmほどの円形で、深さ24cmである。いずれも主柱穴と考えられる。

覆土 4層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム中ブロック少量 | 3 灰褐色 ローム中ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量 | 4 褐色 ローム中ブロック中量, 炭化粒子微量 |

遺物 土師器片272点が出土している。いずれも細片で、覆土中からの出土である。

所見 本跡は遺物が細片のため時期判断は難しいが、第501・516号住居跡よりも新しいことから、奈良時代の8世紀後葉以降と考えられる。

第503号住居跡（第508図）

位置 調査8区西部、N8a1区。

遺構関係 第510・515号住居跡の上部に構築されているので、両住居跡より新しい。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが、長軸[4.05]m、短軸[3.80]mの方形と考えられる。

主軸方向 N-29°-E

壁 壁高は20cmで、外傾して立ち上がる。

床 全体的に平垣であるが、南西壁近くの中央に8cmほどの馬の背状に盛り上がりが見られる。

竈 北東壁中央寄りに付設されている。規模は長さ110cm、袖幅120cmである。天井部は崩落している。袖部は砂質粘土で構築している。火床部は10cmほど掘りくぼめられており、火熱を受けて赤変している。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1 赤 褐色 焼土中ブロック多量 | 11 暗赤褐色 焼土小ブロック中量、炭化物・焼土小ブロック少量 |
| 2 明赤褐色 焼土小ブロック中量、焼土小ブロック少量 | 12 暗赤褐色 炭化物中量、焼土中ブロック少量 |
| 3 にぶい黄褐色 焼土大ブロック中量、焼土小ブロック少量 | 13 暗褐色 ローム小ブロック少量 |
| 4 明黄褐色 焼土小ブロック中量 | 14 明赤褐色 焼土小ブロック・焼土小ブロック中量 |
| 5 橙褐色 焼土大ブロック中量 | 15 暗赤褐色 焼土大ブロック多量 |
| 6 明黄褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・焼土小ブロック少量 | 16 にぶい赤褐色 砂少量 |
| 7 にぶい赤褐色 炭化物中量、焼土粒子・焼土小ブロック少量 | 17 灰褐色 粘土粒子少量、焼土小ブロック少量 |
| 8 にぶい赤褐色 炭化物中量、焼土粒子・焼土小ブロック少量 | 18 黒褐色 焼土粒子少量 |
| 9 にぶい赤褐色 焼土粒子少量 | |
| 10 暗赤褐色 焼土粒子多量 | |

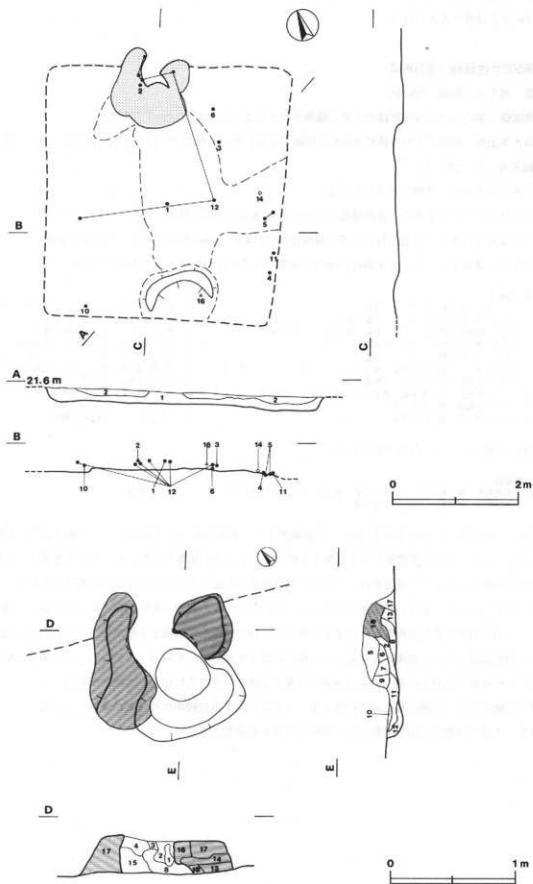
覆土 2層からなり、自然堆積である。

土層解説

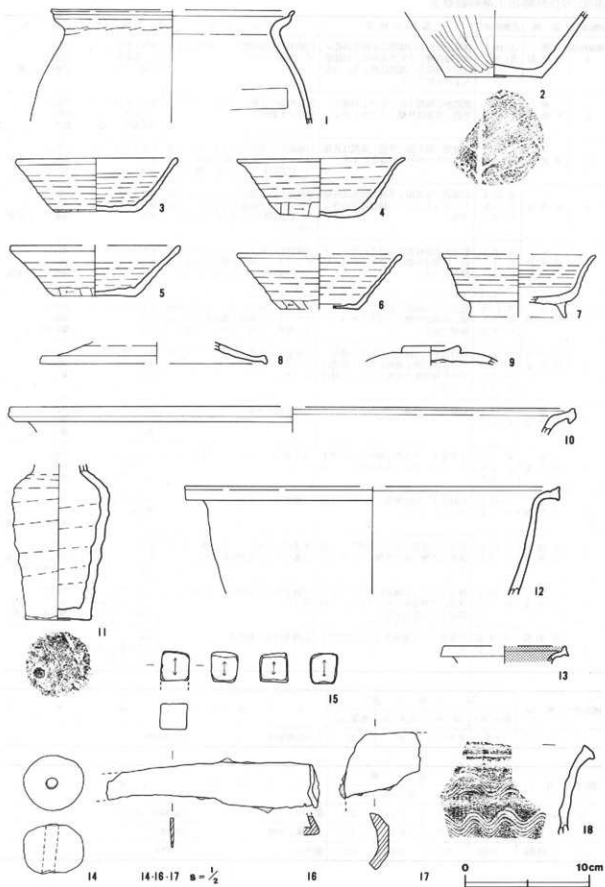
- 1 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化物粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量

遺物 土師器片62点、須恵器片148点、灰釉陶器1点、陶器片6点、土製品1点、鉄製品2点、石製品1点が出土している。1の土師器片が中央部覆土層から、2の土師器片が竈内から、3の須恵器片が中央東側寄りの覆土中層から逆位で、南東壁近くから4の須恵器片が床面から正位で、5の須恵器片が床面から、11の須恵器片が長頸瓶いっゆる「壺G」が床面から斜位で、14の上玉が5の北側の床面から、6の須恵器片が竈右側の床面から、10の須恵器片が南西壁近くの覆土中層から、16の鉄鏝が南側覆土中層から、7の須恵器片が台付付、8、9の須恵器蓋、13の灰釉陶器片長頸瓶、15の砥石が覆土中からそれぞれ出土している。12の須恵器片は、竈内、中央やや東寄りの覆土中層、および西寄りの覆土上層からそれぞれ出土した破片が接合している。18は須恵器蓋の口縁部片で、外面に築位の平行叩き後、2段に5条1組の溝歯状波状文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から平安時代の9世紀前葉と考えられる。



第508图 第503号住居跡实测图



第509图 第503号住居跡出土遺物実測図

第503号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 寸法(cm) | 形状の特徴 | 手法の特徴 | 粘土・色調・成成 | 備考 |
|------------|-------------|---------------------------------------|---|--|-----------------------------------|--------------------------------|
| 第509図
1 | 壺
土師器 | A(19.4)
B(9.1) | 体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は内傾して立ち上がり、口縁部は短く外反し、端部は外上方につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面横ナデ。内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア
赤褐色
普通 | P2130
10%
中央覆土上層 |
| 2 | 壺
土師器 | B(5.4)
C(7.8) | 底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。 | 体部外面ヘラ磨き。内面ヘラナデ。底部に人差痕。 | 砂粒・雲母・スコリア
赤褐色
明赤褐色
普通 | P2131
10%
覆土内 |
| 3 | 杯
須恵器 | A(12.8)
B(4.3)
C(6.4) | 口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部から体部にかけての内・外面口クロナデ。体部下端手持ちヘラ磨り。底部回転ヘラ切り後、縦ナデ。 | 砂粒・雲母・灰石
灰色
普通 | P2132
90%
中央東側
寄り覆土中層 |
| 4 | 杯
須恵器 | A(13.4)
B(4.9)
C(6.4) | 口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。 | 口縁部から体部にかけての内・外面口クロナデ。体部下端手持ちヘラ磨り。底部回転ヘラ切り後、手持ちヘラ磨り。 | 砂粒・雲母
灰褐色
普通 | P2133
85%
南東壁近く床面 |
| 5 | 杯
須恵器 | A(13.6)
B(4.7)
C(6.6) | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部から体部にかけての内・外面口クロナデ。体部下端手持ちヘラ磨り。底部回転ヘラ切り後、手持ちヘラ磨り。 | 砂粒・雲母・石灰
灰石
灰色
普通 | P2134
45%
南東壁近く床面 |
| 6 | 杯
須恵器 | A(18.0)
B(4.5)
C(6.2) | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部から体部にかけての内・外面口クロナデ。体部下端手持ちヘラ磨り。底部一方の手持ちヘラ磨り。 | 砂粒・雲母・灰石
赤褐色
普通 | P2135
30%
覆土側床面 |
| 7 | 高台付杯
須恵器 | A(12.4)
B(5.1)
D(7.8)
R(1.3) | 高台部から口縁部にかけての破片。ハの字状に開く高台がつく。体部はやや外反状に立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部から体部にかけての内・外面口クロナデ。体部下端高台斜り付け後、ナデ。 | 砂粒・雲母
灰褐色
普通 | P2136
30%
覆土中 |
| 8 | 壺
須恵器 | A(19.3)
B(1.7) | 口縁部片。内面に短いかえりがつく。 | 口縁部内・外面口クロナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア
灰色
普通 | P2137
10%
覆土中 |
| 9 | 壺
須恵器 | B(1.5)
F(4.8)
G(0.6) | 大井部片。大井部は緩やかに下降する。ボタン状のつまみがつく。 | 大井部回転ヘラ磨り。内面口クロナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア
赤褐色
黄灰色
普通 | P2138
20%
覆土中 |
| 10 | 壺
須恵器 | A(45.2)
B(3.1) | 口縁部片。口縁端部は上方につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母・石灰
赤褐色
普通 | P2138
5%
南西壁覆土中層 |
| 11 | 長頸瓶
須恵器 | B(12.5)
C(5.2) | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は内傾状に外傾して立ち上がる。 | 体部内・外面口クロナデ後、部分的に縦ナデ。底部回転糸切り。 | 砂粒
灰白色
普通 | P2139
65%
南東壁近く床面
土中 |
| 12 | 壺
須恵器 | A(30.0)
B(8.7) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は上下に突出する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア
赤褐色・石灰
赤褐色
普通 | P2140
5%
覆土内
覆土中・上層 |
| 13 | 長頸瓶
灰胎陶器 | A(9.6)
B(1.4) | 口縁部片。口縁端部は上下に突出する。 | 口縁部内面に斜付着。 | 砂粒
赤褐色・内面黄褐色
普通 | P2141
5%
覆土中 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | 出土地点 | 備考 |
|------|--------|--------|---------|-------|------|-------------------|
| | | 長さ(cm) | 径(cm) | 重量(g) | | |
| 14 | 土
瓦 | 2.6 | 2.9-3.2 | 0.5 | 23 | 5の北側床面
D)P2008 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | 出土地点 | 備考 |
|------|--------|--------|-------|-------|------|------------------|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 重量(g) | | |
| 15 | 瓦
石 | (2.4) | 2.3 | 2.1 | (21) | 覆土中
Q2004 製灰岩 |
| 16 | 磚 | (11.8) | (2.9) | 0.2 | (28) | 南側覆土中層
M3007 |
| 17 | 不明硬質品 | (4.0) | (3.5) | 0.6 | (32) | 覆土中
M3008 |

第504号住居跡（第489図）

位置 調査8区西部，M8ja区。

重複関係 第508号住居跡を掘り込んでいるので，本跡が新しい。

規模と平面形 本跡の大部分が調査区域外に延びており，東西(3.05)m，南北(2.35)mである。平面形は不明である。

壁 壁高は18cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁下から南壁下にかけて確認され，上幅25～50cm，下幅4～19cm，深さ7cmで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦である。

ピット 1か所(P₁)。P₁は，長径36cm，短径30cmの楕円形で，深さ31cmである。位置から主柱穴と考えられる。

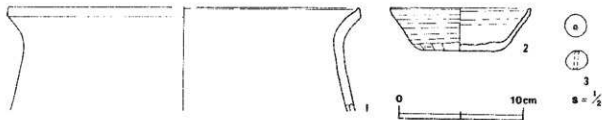
覆土 7層からなり，自然堆積である。

土層解説

- 1 灰褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 7 褐色 焼土粒子少量，ローム粒子少量

遺物 土師器片217点，須恵器片6点，土製品1点が出土している。1の土師器片が南側覆土上層から，3の小玉が1の北東側の覆土下層から，2の須恵器杯が覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から奈良時代の8世紀中葉と考えられる。



第510図 第504号住居跡出土遺物実測図

第504号住居跡出土遺物観察表

| 図取番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 粘土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|-----|--------------------------|--|--|---------------------------|-----------------------|
| 第510図
1 | 土師器 | A 128.21
W (8.3) | 口縁部片。口縁部は外反し，肩部は上方につまみ上げられている。 | 口縁部の・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア・石英
にぶい褐色 普通 | P2142
5%
南側覆土上層 |
| 2 | 須恵器 | A 11.3
B 3.5
C 6.9 | 平底，体部は外傾して立ち上がり，口縁部は短く直線的に立ち上がる。二次底部をもつ。 | 口縁部から体部にかけての内・外面
クロコナテ。体部下端手持ちへラ削り。肩部回転へラ切り後，手持ちへラ削り。 | 砂粒・雲母
灰黄色
普通 | P2143
70%
覆土中 |

| 図取番号 | 器種 | 計 測 値 | | | | 出 土 地 点 | 備 考 |
|------|-----|--------|-------|--------|-------|-----------|-----------------|
| | | 長さ(cm) | 径(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | |
| 3 | 小 玉 | 1.0 | 1.2 | 0.2 | 1.44 | 1の北東側覆土下層 | D P2009
100% |

第507号住居跡（第512図）

位置 調査8区西部、N8c4区。

重複関係 第510号住居跡の上部に構築されているので、本跡が新しい。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが、長軸2.93m、短軸2.86mの方形と考えられる。主軸方向 N-0°

壁 壁高は10~22cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 西壁下から南壁下の一部で確認され、上幅13~20cm、下幅3~5cm、深さ4~7cmで、断面形はU字形である。

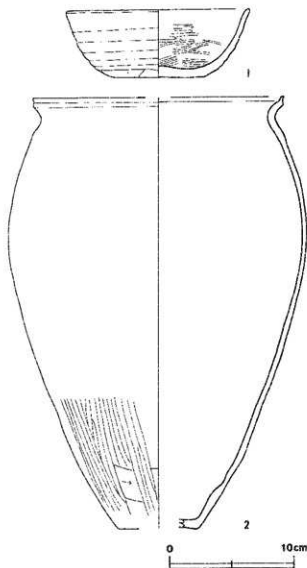
床 全体的に平坦で踏み固められている。

竈 北壁中央部に砂質粘土で構築されている。規模は長さ[83]cm、袖幅120cmである。天井部は崩落している。袖部は黄褐色の粘土で構築されている。火床部は床面をほぼ円形に浅く掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 明赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
- 2 明赤褐色 炭化材中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
- 3 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 4 明赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子多量
- 5 明赤褐色 焼土中ブロック・ローム大ブロック中量、炭化物少量
- 6 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、ローム小ブロック少量
- 7 明赤褐色 焼土大ブロック・炭化材多量
- 8 赤褐色 焼土大ブロック多量
- 9 黄褐色 ローム小ブロック中量、焼土中ブロック少量
- 10 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム小ブロック少量
- 11 黄褐色 粘土小ブロック中量

覆土 4層からなり、人為堆積と推測される。



第511図 第507号住居跡出土遺物実測図

土層解説

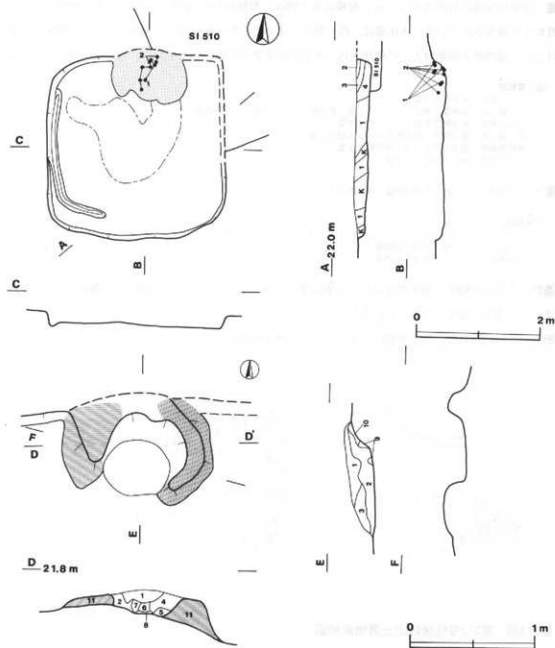
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量、炭化物極少量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

第507号住居跡出土遺物観察表

| 図取番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|----------|-----------------------------|--|--|---------------------------|--------------------|
| 第511図
1 | 坏
土師器 | A 14.7
B 5.5
C 7.3 | 平底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部から体部にかけての外側ロケナデ。体部下端手持ちへラ削り。内面へラ磨き。底部回転へラ切り後、手持ちへラ削り。 | 砂粒・雲母・石英
褐色
普通 | P2152
80%
壺内 |
| 2 | 埴
土師器 | A[20.2]
B 34.7
C[6.4] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は短く外反する。口縁端部は、上方につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ロケナデ。体部外面の中位から下位にかけてへラ削り後、へラ磨き。内面へラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア・石英
褐色
普通 | P2153
40%
壺内 |

遺物 土師器片185点, 須恵器片23点, 陶器片1点, 炭化物が出土している。1の土師器杯, 2の土師器甕はともに竈内から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から平安時代の9世紀後葉と考えられる。



第512図 第507号住居跡実測図

第512号住居跡 (第514図)

位置 調査8区西部, N8c区。

規模と平面形 長軸3.18m, 短軸3.10mの方形である。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は6~22cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁下から南東コーナー壁下にかけて確認され、上幅15~32cm、下幅3~9cm、深さ3~8cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ78cm、袖幅105cm、壁外への掘り込みは38cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は、浅く掘りくぼめており火熱を受けて赤変している。煙道部の立ち上がり付近に、竈内壁の補強材として使用されたとと思われる堧片が確認されている。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 にぶい褐色 粘土粒子多量
- 2 暗褐色 砂多量、焼土小ブロック中量、焼土中ブロック少量、炭化物微量
- 3 にぶい褐色 粘土粒子多量、ローム粒子中量
- 4 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 極暗赤褐色 焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 6 明赤褐色 焼土大ブロック中量

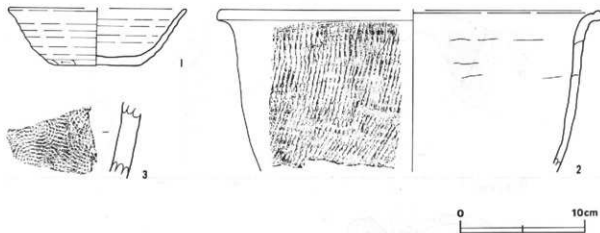
覆土 3層からなり、人為堆積と推測される。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、砂微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子中量、砂微量

遺物 土師器片69点、須恵器片16点、土製品2点が出土している。1の土師器片が竈内から、2の須恵器片が竈前面の覆土下層からそれぞれ出土している。

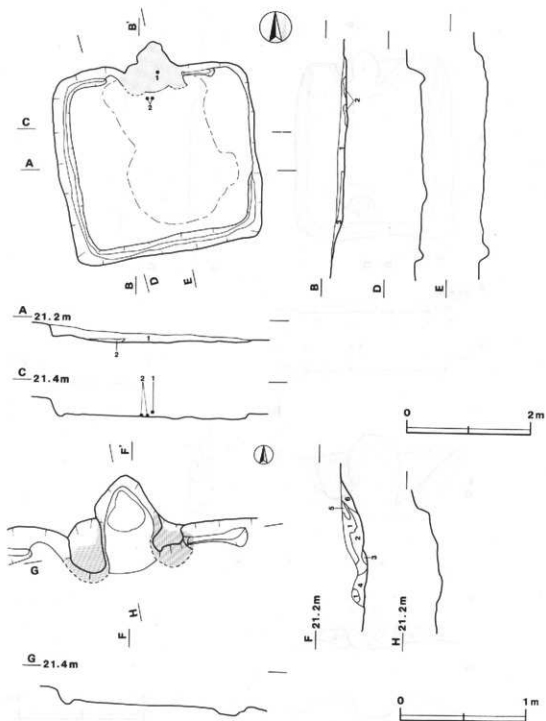
所見 本跡の時期は、出土遺物から平安時代の9世紀中葉と考えられる。



第513図 第512号住居跡出土遺物実測図

第512号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|----------|---------------------------|--|---|-----------------------------------|-------------------------|
| 第513図
1 | 坏
土師器 | A[14.2]
B 4.7
C 7.0 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部から体部にかけて内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部回転へラ切り後、手持ちへラ削り。 | 砂粒・雲母・スコリア
50%
にぶい黄褐色
普通 | P2173
50%
竈内 |
| 2 | 須恵器 | A[30.8]
B(13.0) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外反する。口縁部内面直下に一条の沈線をもつ。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。内面ナデ。 | 砂粒・雲母
にぶい橙色
普通 | P2174
25%
竈前面覆土下層 |



第514図 第512号住居跡実測図

第513号住居跡 (第515図)

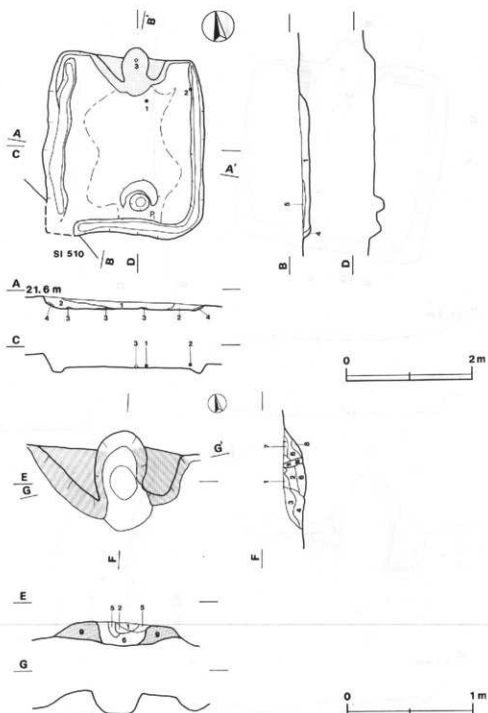
位置 調査8区西部, M8j₄区。

重複関係 第510号住居跡の上部に構築されているので, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸2.78m, 短軸2.55mの方形である。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は11~20cmで, 外傾して立ち上がる。

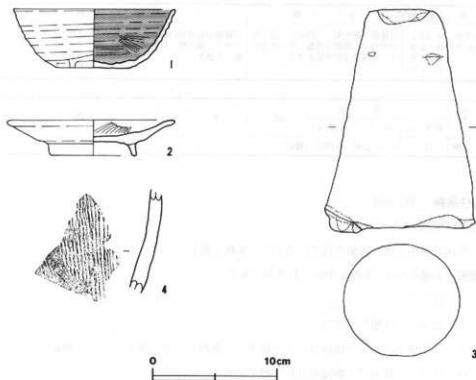


第515図 第513号住居跡実測図

壁溝 東壁下から南壁下、および西壁下で確認され、上幅16~36cm、下幅7~20cm、深さ5~7cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、中央部が踏み固められている。P₁の周りに、馬の背状に盛り上がりが見られる。

竈 北壁中央部に砂質粘土で構築している。規模は長さ80cm、袖幅110cm、壁外への掘り込みは15cmである。内壁は、火熱を受けて赤変している。天井部は崩落している。火床部は楕円形状に浅く掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。



第516図 第513号住居跡出土遺物実測図

甕土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------|----------|------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土中ブロック中量, 粘土中ブロック少量 |
| 2 褐色 | 砂多量, 焼土粒子中量 | 7 にぶい黄褐色 | 粘土小ブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 | 8 赤褐色 | 焼土小ブロック中量, 焼土材少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・砂少量 | 9 橙褐色 | 粘土大ブロック多量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 にぶい黄褐色 | 粘土大ブロック多量 | | |

ピット 1か所(P₁)。P₁は、長径32cm、短径28cmの楕円形で、深さ16cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層からなり、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|--------|-------------------------------------|
| 1 極暗褐色 | 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム中ブロック・砂微量, 焼土粒子極微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 粘土粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量 |
| 5 極暗褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 |

遺物 土師器片172点, 須恵器片9点, 土製品1点が出土している。1の土師器が甕前面の覆土下層から、2の土師器高台付皿が東壁近くの覆土上層から、3の土製支脚が甕内からそれぞれ出土している。4は須恵器甕の体部片で、外面に縦位の平行叩きが施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から平安時代の9世紀後葉と考えられる。

第513号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|----------|--------------------------|---------------------------------|--|-------------------------------|-------------------------|
| 第516図
1 | 杯
土師器 | A 12.9
B 4.8
C 5.8 | 口縁部一部欠損。平底。体部は内脷して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部から体部にかけての内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部一方向の手持ちへラ削り。内面へラ磨き。内面黒色処理。 | 砂粒・窯母・スコリア
外面褐色・内面黒色
普通 | P2175
90%
甕前面覆土下層 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|--------------|-----------------------------------|---|---------------------------------------|--------------------------|------------------------------|
| 第516図
2 | 高台付皿
土器 器 | A 13.1
B 2.9
D 6.8
E 1.0 | 口縁部一部欠損。ハの字状に開く高台がつく。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。 | 口縁部から体部にかけての外面口ロナデ。高台貼り付け後、ナデ。内面へう磨き。 | 砂粒・雲母・スコリア
明赤褐色
普通 | P2176
90%
東壁近く
覆土上層 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | 出土地点 | 備考 |
|------|----|--------|----------|--------|------|--------|
| | | 長さ(cm) | 径(cm) | 重量(g) | | |
| 3 | 支脚 | (17.7) | 8.8~12.6 | (1770) | 壙内 | DP2032 |

第517号住居跡 (第518図)

位置 調査8区東部, N9c区。

重複関係 第16号溝の上部に構築されているので, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸4.10m, 短軸3.03mの長方形である。

主軸方向 N-11°-E

壁 壁高は1~22cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁下から南壁下, および南西コーナー壁下から北西コーナー壁下にかけて確認され, 上幅10~21cm, 下幅3~9cm, 深さ5~10cmで, 断面形はU字形である。

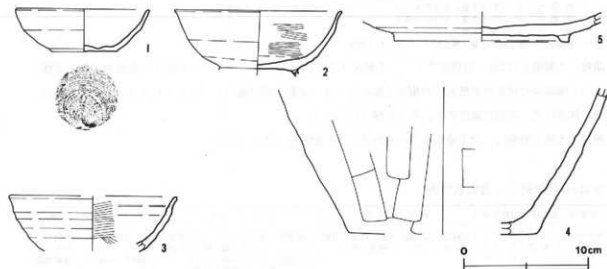
床 全体的に平坦で, 中央部から東寄りにかけて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ120cm, 袖幅80cm, 壁外への掘り込みは71cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。天井部は崩落している。内壁は, 火熱を受けて赤変している。左壁には, 袖の補強材に使用したと思われる雲母片岩が確認されている。煙道は外傾して立ち上がる。

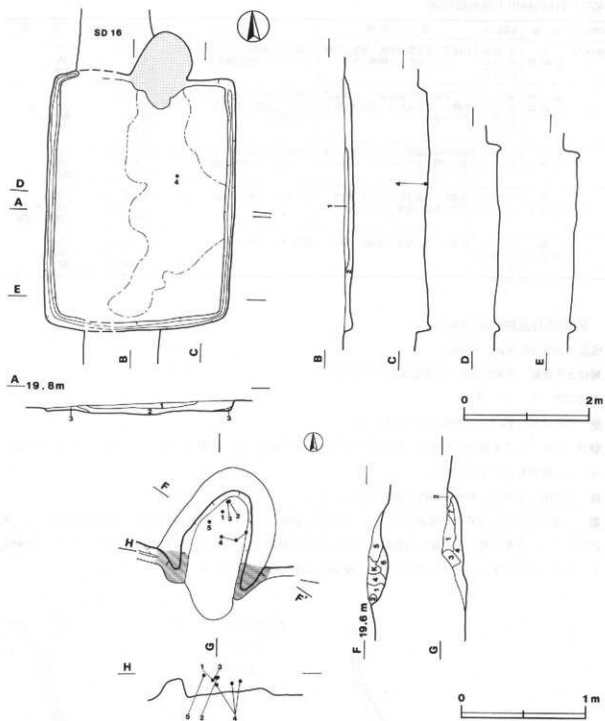
富士層解説

- | | |
|-----------------------|--|
| 1 極暗赤褐色 焼土大ブロック中量 | 5 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土中ブロック・粘土粒子少量 |
| 2 赤褐色 焼土粒子中量 | 6 明赤褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子中量 |
| 3 赤褐色 焼土粒子・粘土粒子少量 | 7 極暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化物・砂微量 |
| 4 暗赤褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子少量 | |

覆土 3層からなり, 自然堆積である。



第517図 第517号住居跡出土遺物実測図



第518図 第517号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック極微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物 土師器片152点、須恵器片30点、礫3点が出土している。1の土師器坏、2の土師器高台付坏、3の土師器坏、5の須恵器盤がそれぞれ竈内から出土している。1～3は、逆位で出土している。4は、竈内から出土した破片と中央覆土下層から出土した破片が接合している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から平安時代の10世紀前葉と考えられる。

第517号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 寸法(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・硬度 | 備考 |
|------------|-------------|---|---|---|--------------------------------|--------------------------------|
| 第517図
1 | 坏
土 器 | A 10.6
B 3.5
C 5.2 | 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部から体部にかけての内・外面
ロクロナデ。底部は軸糸切り。 | 砂粒・雲母・スコリア
褐色
普通 | P2177
75%
磁内 |
| 2 | 高台付坏
土 器 | A 13.4
B (5.3)
D (6.4)
E (0.8) | ハの字状に開く高台がつく。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短くやや外反する。 | 口縁部から体部にかけての外側ロクロナデ。高台は軸糸付け後、ナデ。内面へう磨き。 | 砂粒・雲母・スコリア
褐色
普通
二次焼成 | P2178
75%
磁内 |
| 3 | 坏
土 器 | A (13.4)
B (4.5) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短くやや外反する。 | 口縁部から体部にかけての内・外面
ロクロナデ。内面へう磨き。 | 砂粒・雲母・スコリア
明赤褐色
普通 | P2179
15%
磁内 |
| 4 | 壁
土 器 | H (11.9)
C (15.0) | 底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。 | 体部外面へう磨り。内面へうナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア
明赤褐色
普通 | P2180
16% 磁内・
20% 中央覆土下層 |
| 5 | 瓶
須 器 | B (2.4)
D (14.0)
E 0.7 | 底部片。高台は短く直線的に開く。 | 底部回転へう磨り。 | 砂粒・雲母・スコリア・石英
にぶい黄褐色 普通 | P2181
20%
磁内 |

第519号住居跡 (第520図)

位置 調査8区東部, N8a区。

規模と平面形 長軸2.90m, 短軸2.87mの方形である。

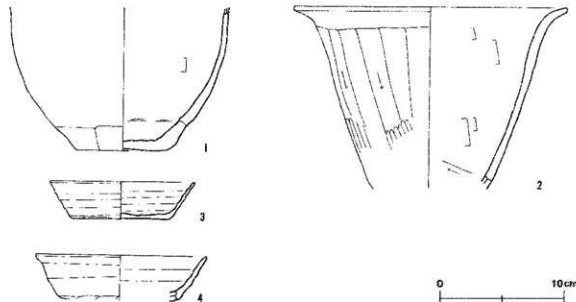
主軸方向 N-4°-W

壁 壁高は36~48cmで、外傾して立ち上がる。

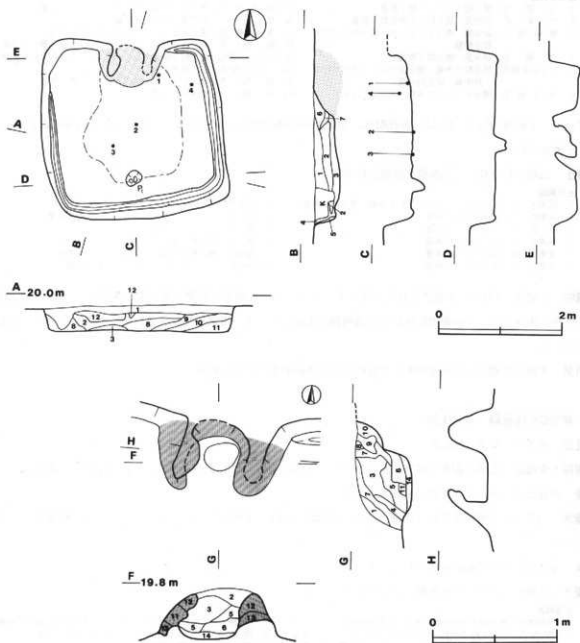
壁溝 西壁下から東壁下にかけて、および北壁下の一部で確認され、上幅16~34cm, 下幅3~9cm, 深さ3~5cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に砂質粘土で構築している。天井部は崩落している。規模は長さ60cm, 袖幅102cmである。袖部は、ロームを削り残して壁面に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床面は厚さ5cmほどあり、亦変硬化しており、かなり使い込んだと考えられる。煙道はほぼ垂直に立ち上がる。



第519図 第519号住居跡出土遺物実測図



第520図 第519号住居跡実測図

第519号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(m) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|-------|----------------------------|--|--|----------------------------|-------------------------|
| 第519図
1 | 小形土師器 | B(11.6)
C 7.6 | 底部から体部中位にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部・底部外面へラ削り。内面へラナデ。内面に輪横み痕。 | 砂粒・雲母・スコリア・石英
にぶい褐色 普通 | P2182
40%
竈東側床面 |
| 2 | 甗土師器 | A 22.0
B(14.7) | 体部下位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、へラ磨き。内面へラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア・石英
にぶい黄褐色 普通 | P2183
40%
中央床面 |
| 3 | 坏須恵器 | A 11.5
B 3.0
C 7.8 | 口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部から体部にかけての内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部手持ちへラ削り。 | 砂粒・雲母・石英
灰色 普通 | P2184
85%
2の南西側床面 |
| 4 | 坏須恵器 | A 13.6
B 3.7
C[9.0] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。 | 口縁部から体部にかけての内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部手持ちへラ削り。 | 砂粒・雲母
灰黄褐色 普通 | P2185
60%
東側甗土中層 |

覆土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------|-----------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・砂少量 |
| 2 灰褐色 | 砂中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | 砂多量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 砂少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 砂少量、焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土中ブロック・炭化粒子・砂中量、炭化物少量 | 11 にぶい赤褐色 | 焼土粒中量、ローム小ブロック・炭化粒子・砂少量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土大ブロック多量、焼土粒子少量 | 12 にぶい褐色 | 粘土粒子多量 |
| | | 13 暗褐色 | 粘土粒子多量、炭化物・ローム粒子微量 |
| | | 14 赤褐色 | 焼土粒子中量 |

ピット 1か所(P₁)。P₁は、長径31cm、短径22cmの楕円形で、深さ21cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 12層からなり、人為堆積と推測される。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム中ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量 | 8 褐色 | ローム中ブロック中量、ローム粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム中ブロック中量 | 9 褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 明褐色 | ローム小ブロック多量 | 10 褐色 | 焼土粒子・ローム小ブロック少量 |
| 5 明褐色 | ローム中ブロック多量 | 11 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ローム小ブロック中量 | 12 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量 |

遺物 土師器片104点、須恵器片19点が出土している。1の土師器小形差が竈東側の床面から、2の土師器飯が中央の床面から、3の須恵器杯が2の南西側の床面から、4の須恵器杯が東側の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から奈良時代の8世紀前葉と考えられる。

第520号住居跡(第521坑)

位置 調査8区東部、N9部×。

規模と平面形 北部が調査区域外に延びており、東西3.34m、南北(1.30)mである。平面形は不明である。

壁 壁高は43～49cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 西壁下から東壁下にかけて確認され、上幅21～63cm、下幅3～12cm、深さ6～7cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

覆土 8層からなり、自然堆積と考えられる。

土層解説

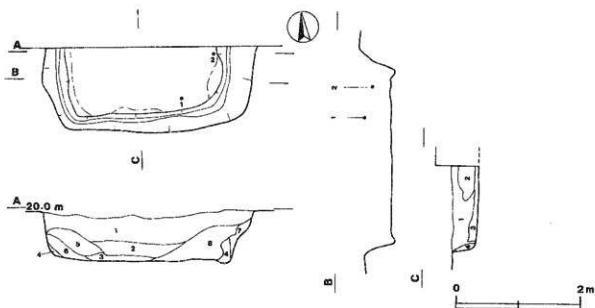
- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・ローム中ブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム中・小ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量 | 7 褐色 | 焼土粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量 | 8 暗褐色 | 焼土小ブロック・炭化物中量 |

遺物 土師器片74点、須恵器片28点が出土している。1の土師器壺が南側の覆土上層から、2の須恵器杯が東壁近くの覆土中層からそれぞれ出土している。

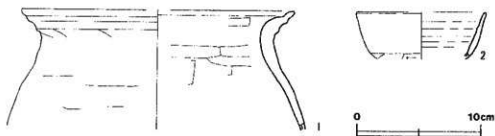
所見 本跡の時期は、出土遺物から奈良時代の8世紀前葉と考えられる。

第520号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|-----|-------------------|--|---|---------------------------|--------------------------|
| 第522図
1 | 土師器 | A:21.8
B:(9.5) | 体部上位から口縁部にかけての破片
口縁部は外反し、頸部は外上方につ
まみ上げられている。 | 口縁部外面磨ナデ。口縁部内面工具
による磨ナデ。体部外面へラ磨り後、
ナデ。内面へラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア・石英
にぶい褐色 普通 | P2186
15%
南側覆土上層 |
| 2 | 須恵器 | A:19.4
B:(3.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体
部は外傾して立ち上がり、口縁部に
至る。 | 口縁部から体部にかけての内・外面
クロコナデ。体部下縁部持ちへラ磨
り。 | 砂粒・雲母
灰色
普通 | P2188
30%
東壁近く覆土中層 |



第520図 第520号住居跡実測図



第522図 第520号住居跡出土遺物実測図

第521号住居跡 (第523・524図)

位置 調査8区東部, N9eol区。

重複関係 上位に第522号住居跡が構築されており, 第523号住居跡を掘り込んでいるので, 第522号住居跡より古く, 第523号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸4.05m, 短軸3.96mの方形である。

主軸方向 N-1°-E

壁 壁高は42~54cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁下から西壁下にかけて, および北壁下の一部で確認され, 上幅12~33cm, 下幅3~12cm, 深さ8~12cmで, 断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で, 踏み固められている。

竈 北壁中央部に砂質粘土で構築している。規模は長さ125cm, 袖幅127cm, 壁外への掘り込みは65cmである。内壁や火床面は赤変硬化しており, かなり使い込んだと思われる。煙道の立ち上がり部は, 壁面に砂質粘土を貼り付けて構築している。煙道は外傾して立ち上がる。

覆土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|----------|-------------------|
| 1 暗赤褐色 | 砂少量、ローム粒子微量 | 6 赤褐色 | 粘土大ブロック多量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土中ブロック中量、焼土粒子・粘土粒子少量 | 7 褐色 | 粘土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化物少量 | 8 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量 |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子少量 | 9 褐色 | 焼土中ブロック中量、粘土粒子中量 |
| 5 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 | 粘土粒子中量、ローム中ブロック少量 |

ピット 6か所(P₁～P₆)。P₁は、長径28cm、短径24cmの楕円形で、深さ40cmである。P₂は、長径29cm、短径24cmの楕円形で、深さ44cmである。P₃は、長径53cm、短径33cmの楕円形で、深さ61cmである。P₄は、径27cmほどの円形で、深さ52cmである。いずれも土柱穴と考えられる。P₅は、径18cmほどの円形で、深さ16cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。P₆は、長径90cm、短径67cmの不整形円形で深さ20cmである。性格は不明である。

P₁土層解説

- 1 褐色
- 2 暗褐色
- 3 褐色
- 4 明褐色

P₂土層解説

- 1 暗褐色
- 2 褐色

P₃土層解説

- 1 褐色
- 2 褐色
- 3 暗褐色

P₄土層解説

- 1 黒褐色
- 2 黒褐色
- 3 暗褐色

P₅土層解説

- 1 褐色
- 2 にぶい赤褐色
- 3 にぶい赤褐色
- 4 褐色

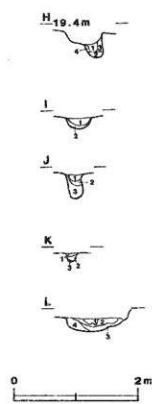
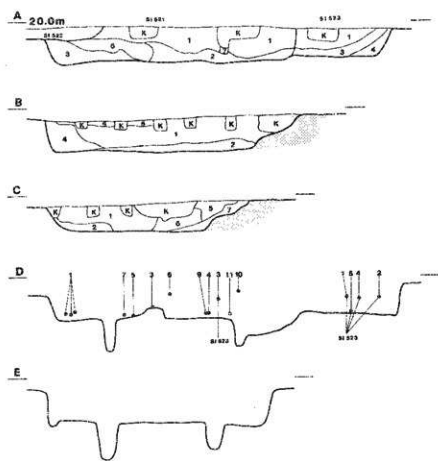
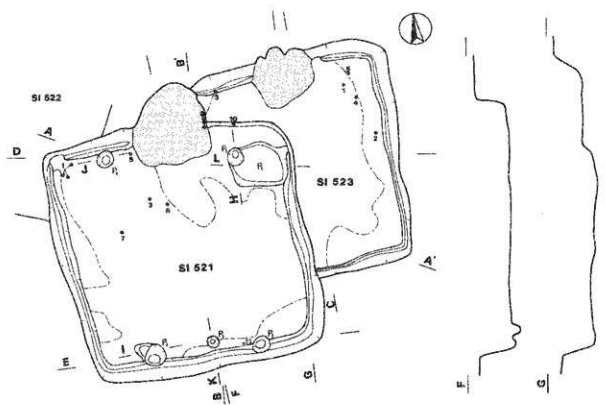
覆土 7層からなり、人為堆積と推測される。

土層解説

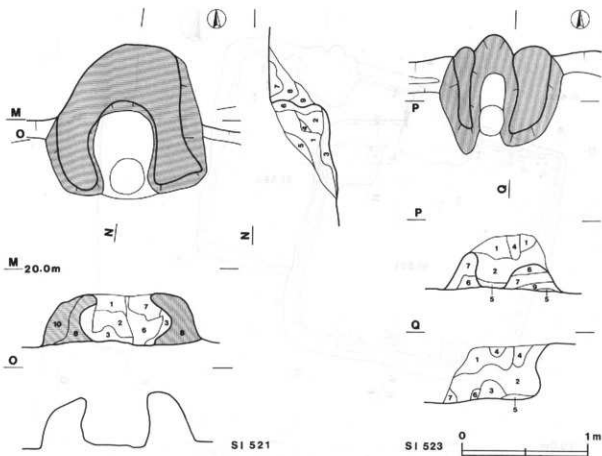
- 1 褐色
- 2 暗褐色
- 3 褐色
- 4 暗褐色
- 5 暗褐色
- 6 暗褐色
- 7 暗褐色

遺物 土師器片441点、須恵器片91点が出土している。1の土師器壺が北西コーナ一付近の覆土中層から、3の上輪器甕が中央部覆土中層から、4の須恵器杯、9の須恵器蓋が竈右袖際から、5の須恵器杯が竈左袖付近の床面から正位で、6の須恵器杯が3の南側の覆土上層から、7の須恵器杯が中央やや西側寄りの覆土下層から、10の須恵器壺が北壁際から、11の石製紡錘車が南壁際から、2の土師器甕、8の須恵器高台付杯が覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から奈良時代の8世紀中葉と考えられる。



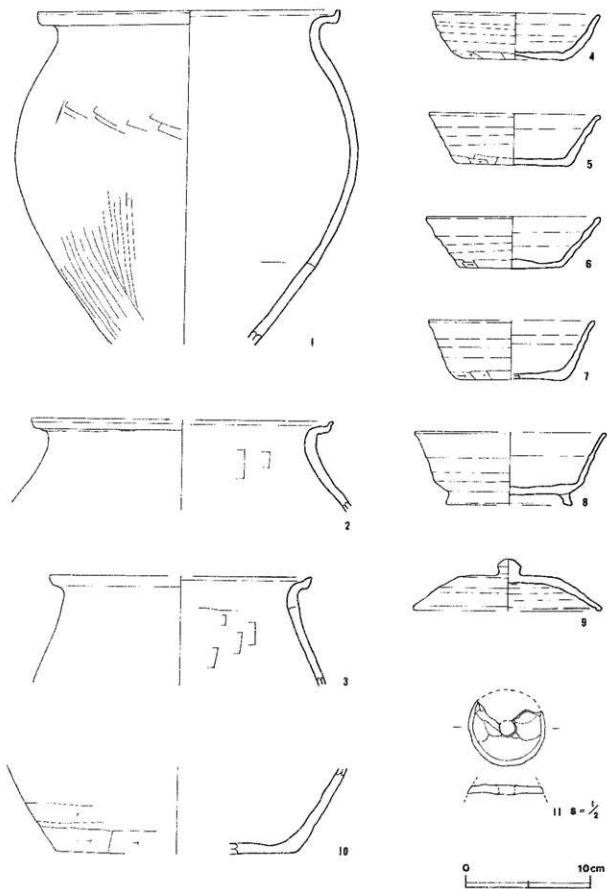
第523图 第521·523号住居跡実測图



第524図 第521・523号住居跡竈実測図

第521号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|-------------|----------|-----------------------------|---|--|-------------------------------|------------------------------|
| 第52506
1 | 甕
土師器 | A 24.1
B (27.3) | 体部下位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中央にもつ。口縁部は強く外反し、端部は上方につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位へラ削り後、ナデ。中位から下位にかけてへラ磨き。内面ナデ。内面に輪横み痕。 | 砂粒・雲母・スコリア・石英
褐色
普通 | P2189
35%
北西コーナー付近覆土中層 |
| 2 | 甕
土師器 | A(24.0)
B(7.3) | 体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は強く外反し、端部は上方につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア・石英
灰にぶい黄褐色 普通 | P2190
10%
覆土中 |
| 3 | 甕
土師器 | A(21.0)
B(8.8) | 体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は強く外反し、端部は外上方につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。内面に輪横み痕。 | 砂粒・雲母・スコリア・石英
灰にぶい褐色 普通 | P2191
10%
中央覆土中層 |
| 4 | 坏
須恵器 | A 13.3
B 3.7
C 8.2 | 平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部から体部にかけての内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部回転へラ切り後、一方向の手持ちへラ削り。 | 砂粒・雲母・スコリア・石英・長石
黄灰色
普通 | P2192
95%
甕石補隙 |
| 5 | 坏
須恵器 | A 13.7
B 4.2
C 9.0 | 平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部から体部にかけての内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部回転へラ切り後、一方向の手持ちへラ削り。 | 砂粒・雲母・石英
灰色
普通 | P2193
65%
甕左袖付近床面 |
| 6 | 坏
須恵器 | A 13.9
B 4.3
C 8.4 | 平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部から体部にかけての内・外面ロクロナデ。体部下端、底部手持ちへラ削り。 | 砂粒・雲母・石英・礫
灰色
普通 | P2194
50%
3の南側覆土上層 |
| 7 | 坏
須恵器 | A(13.2)
B 4.8
C(8.4) | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部から体部にかけての内・外面ロクロナデ。体部下端、底部手持ちへラ削り。 | 砂粒・雲母・石英
灰白色
普通 | P2195
25% 中央やや西寄り覆土下層 |



第525图 第521号住居跡出土遺物実測図

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|-------------|--------------------------------------|---|--|---------------------------------------|---------------------|
| 第525図
8 | 高台付坏
須恵器 | A[15.2]
B 5.9
D[10.2]
R 1.1 | ハの字状に開く高台がつく。体部は
外反気味に立ち上がり、口縁部に至
る。 | 口縁部から体部にかけての内・外面
ロクロナデ。体部下端、底部回転
ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・石英
灰黄色
普通 | P2196
20%
覆土中 |
| 9 | 須
恵器 | A[15.0]
B 4.2
F 1.9
G 1.2 | 中央部に突出したつまみがつく。天
井部は緩やかに下降する。口縁部内
面に一条の沈線をもつ。 | 天井部回転ヘラ削り。内・外面ロク
ロナデ。 | 砂粒・雲母・石英
灰色
普通 | P2197
5%
覆土粘層 |
| 10 | 須
恵器 | B(7.0)
C[19.2] | 底部から体部下位にかけての破片。
平底。体部は外傾して立ち上がる。 | 体部・底部ヘラ削り。内面ナデ。 | 砂粒・雲母・石英
内面にぶい黄色
外面オリーブ茶色
普通 | P2198
5%
北壁際 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 出土地点 | 備考 |
|------|-----|-------|--------|--------|-------|------|-----------|
| | | 径(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | |
| 11 | 紡錘車 | [4.1] | (0.5) | 0.8 | (9) | 両壁際 | Q2008 粘板岩 |

第522号住居跡（第526図）

位置 調査8区東部，N9a4区。

重複関係 第521号住居跡の上部に構築されており，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.53m，短軸2.90mの長方形である。

主軸方向 N-111°-E

壁 壁高は9～15cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 北西壁下から南東壁下，南西壁下の一部で確認され，上幅13～36cm，下幅3～11cm，深さ4～5cmで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 南東壁中央から南東コーナー寄りに付設されている。規模は長さ82cm，袖幅81cm，壁外への掘り込みは46cmである。袖部は褐色上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床面は中央から右内壁寄りにあり，火熱を受けて赤変している。煙道はほぼ垂直に立ち上がる。

甕土層解説

| | | | | | | | |
|---|-----|-----|--------------------------|----|-----|-----|---------------------------|
| 1 | 褐 | 色 | 焼土粒子・粘土粒子少量 | 9 | 灰 | 褐色 | 粘土粒子多量 |
| 2 | にぶい | 褐色 | 粘土小ブロック中量，焼土小ブロック少量 | 10 | 灰 | 褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量 |
| 3 | 赤 | 褐色 | 粘土粒子中量，焼土中ブロック少量 | 11 | 黒 | 褐色 | 粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量 |
| 4 | 赤 | 褐色 | 焼土中ブロック・粘土中ブロック中量 | 12 | にぶい | 赤褐色 | 焼土粒子多量，炭化物微量 |
| 5 | 褐 | 色 | 粘土粒子少量 | 13 | 黒 | 褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量，焼土小ブロック・炭化物微量 |
| 6 | 褐色 | | 焼土小ブロック・炭化物・粘土小ブロック少量 | 14 | 灰 | 褐色 | 粘土粒子多量，焼土粒子少量，炭化物微量 |
| 7 | にぶい | 赤褐色 | 焼土粒子中量，砂少量，焼土小ブロック・炭化物微量 | 15 | 黒 | 褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化物粒子微量 |
| 8 | 褐 | 色 | 粘土小ブロック少量 | | | | |

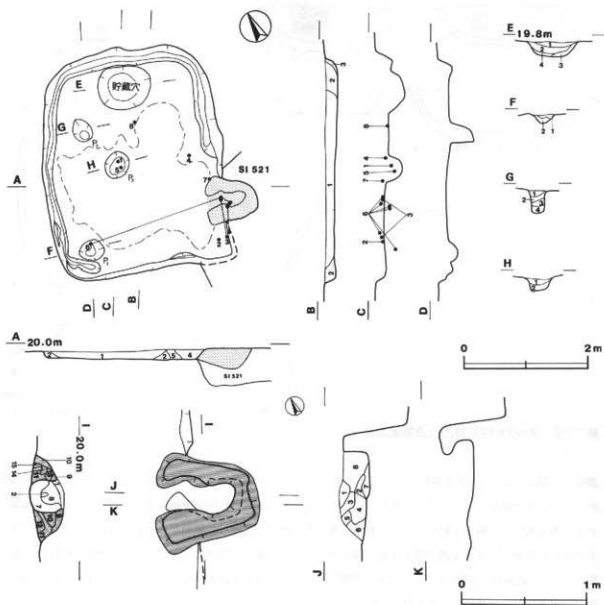
ピット 3か所(P1～P3)。P1は，長径40cm，短径32cmの楕円形で，深さ17cmである。P2は，長径38cm，短径29cmの楕円形で，深さ41cmである。P3は，長径44cm，短径36cmの楕円形で，深さ26cmである。P2は，主柱穴と考えられるが，P1，P3は，性格は不明である。

P1土層解説

| | | | |
|---|---|----|----------------|
| 1 | 極 | 褐色 | 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 | 暗 | 褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 |

P2土層解説

| | | | | | | | |
|---|-----|-----|---------------------------|---|----|---------|---------|
| 1 | 暗 | 赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物中量，粘土粒子少量 | 3 | 褐色 | ローム粒子多量 | |
| 2 | にぶい | 褐色 | 砂多量，焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック微量 | 4 | 暗 | 褐色 | ローム粒子中量 |



第526図 第522号住居跡実測図

P、土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・ローム大ブロック・粘土粒子微量

貯蔵穴 北東壁際中央部に確認されている。長径85cm、短径68cmの楕円形で、深さ26cmである。

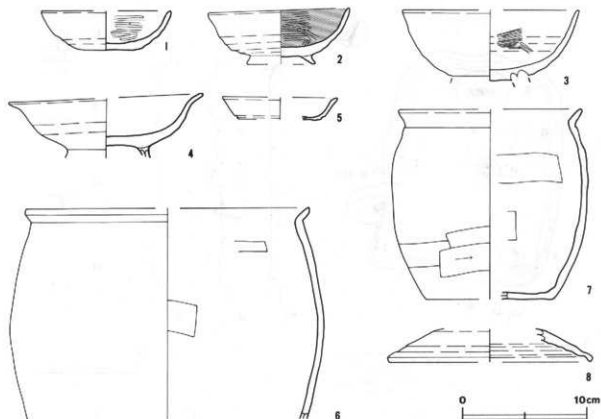
貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム中ブロック中量
- 4 褐色 ローム中ブロック少量

覆土 5層からなり、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子・砂少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・砂少量、焼土粒子微量



第527図 第522号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片181点、須恵器片46点が出土している。1の土師器杯、5の土師器小皿がP₃内から、2の土師器高台付杯が南東コーナー付近の覆土下層から、4の土師器高台付杯が東側の覆土下層から、7の土師器小形甕が竈左袖付近の覆土中層から、8の須恵器蓋が中央部やや北寄りの床面からそれぞれ出土している。3の土師器高台付碗は、2の東側の覆土下層と竈内から出土した破片が接合している。6の土師器甕は、P₁内、竈内、および竈右袖の南側から出土した破片が接合している。8は床面から出土しているが、混入と考えられる。
所見 本跡は、出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。

第522号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|-------------|-------------------------------------|---|--|-------------------------------------|----------------------------------|
| 第527図
1 | 杯
土師器 | A[10.4]
B 3.2
C 4.4 | 底部から口縁部にかけての破片。丸底気味の平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部から体部にかけて内・外面クロコナデ。内面へう磨き。外面磨減。 | 砂粒・雲母にぶい褐色
普通 | P2199
45%
P ₃ 内 |
| 2 | 高台付杯
土師器 | A 11.1
B 4.3
D[5.4]
E 0.7 | ハの字状に開く高台がつく。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部から体部にかけて内・外面クロコナデ。高台貼り付け後、ナデ。内面へう磨き・黒色処理。 | 砂粒・雲母・スコリア
外面にぶい褐色
内面黒色
普通 | P2200
90%
南東コーナー
付近覆土下層 |
| 3 | 高台付碗
土師器 | A[14.2]
B(5.7) | 高台部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部から体部にかけて内・外面クロコナデ。体部下端は、高台貼り付け後、ナデあり。内面へう磨き。外面磨減。 | 砂粒・雲母
暗赤褐色
普通 | P2201
50%
2の東側覆土下層・竈内 |
| 4 | 高台付杯
土師器 | A[15.6]
B(5.0)
E(0.7) | 高台部から口縁部にかけての破片。ハの字状に開く高台がつく。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。 | 口縁部から体部にかけて内・外面クロコナデ。高台貼り付け後、ナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア
にぶい赤褐色
普通 | P2202
30%
東側覆土下層 |

| 図版番号 | 器 種 | 寸法(cm) | 器 形 の 特 徴 | 手 法 の 特 徴 | 胎土・色調・焼成 | 備 考 |
|------------|----------------|--------------------------------|---|--------------------------------|----------------------------|----------------------------------|
| 第527図
5 | 小 器
土 師 器 | A[9.2]
B 1.8
C[6.6] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外壁して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・スコリア
褐色 普通 | P2203
25%
Pα内 |
| 6 | 腰
上 師 器 | A[22.8]
B (17.0) | 体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内壁して立ち上がり、口縁部は廻り外反する。 | 口縁部内・外面削ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・石英
にぶい褐色
普通 | P2204
25%
Pα内・
蓋内・裏右袖内面 |
| 7 | 小 形 腰
上 師 器 | A[14.6]
B 15.4
C[10.2] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内壁して立ち上がり、口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面削ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア・石英
にぶい赤褐色 普通 | P2205
40% 裏生袖
付蓋蓋十中層 |
| 8 | 蓋
須 器 | A[16.2]
B: 2.7 | 天半部から口縁部にかけての破片。口縁部内面に廻りかえりがつく。 | 内・外面口クロナデ。 | 砂粒・雲母・石英
反色
普通 | P2206
15%
中央北寄り裏面 |

第523号住居跡（第523・524図）

位置 調査8区東部、N10区。

重複関係 第521号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが、長軸3.68m、短軸(3.20)mの長方形または方形と考えられる。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は47～49cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁下から南壁下にかけて確認された。上幅10～31cm、下幅2～7cm、深さ2～4cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、踏み固められている。

竈 北壁中央に砂質粘土で構築している。規模は長さ98cm、袖幅97cm、壁外への掘り込みは16cmである。左袖は中心部に砂質粘土を置き、周りに褐色土を貼り付けて構築している。右袖は中心部に砂質粘土を置き、褐色土を貼り付け、さらにその上に砂質粘土を貼り付けて構築している。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床面は床面と同じレベルで、楕円形状に火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

| | | | |
|-------|-----------------------------|-------|--------------------------|
| 1 褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒少量 | 7 明褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | 8 深褐色 | 炭化物・炭化粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量、炭化物微量 | | |
| 4 深褐色 | 焼土粒子・炭化炭 | 9 暗褐色 | 炭化粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量、炭化物微量 |
| 5 褐色 | 焼土粒子少量、炭化粒子微量 | | |
| 6 明褐色 | 粘土粒子多量 | | |

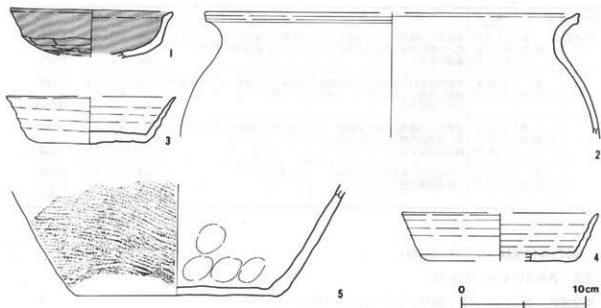
覆土 7層からなり、人為堆積と推測される。

土層解説

| | |
|-------|------------------------------|
| 1 褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・粘土中ブロック少量 |
| 6 深褐色 | 炭化物・粘土大ブロック中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量 |
| 7 暗褐色 | 粘土粒子中量、焼土小ブロック・炭化物少量 |

遺物 土師器片144点、須恵器片24点、灰釉陶器片1点、土製品1点、鉄滓1点が出土している。1の土師器杯が北東側の覆土中層から、2の土師器壺が東側の覆土中層から、3の須恵器杯が北壁際から、4の須恵器杯が1の南東側の覆土中層から、5の須恵器壺が1の北側の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から奈良時代の8世紀前後と考えられる。



第528図 第523号住居跡出土遺物実測図

第523号住居跡出土遺物観表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|------------|-----------------------------|--|---|------------------------|--------------------------|
| 第528図
1 | 坏
土 器 器 | A 13.0
B (3.8) | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部はやや外反気味に立ち上がる。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母・スコリア 黒色
普通 | P2207
60%
北東側覆土中層 |
| 2 | 壺
土 器 器 | A[30.0]
B (10.1) | 体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は外反し、端部は外上方につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母・石英
黄灰色
普通 | P2208
5%
東側覆土中層 |
| 3 | 坏
須 器 器 | A[13.6]
B 3.3
C 8.8 | 口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部から体部にかけて内・外面ロクロナデ。底部回転へら切り。 | 砂粒・雲母・長石
黄灰色
普通 | P2200
70%
北壁部 |
| 4 | 坏
須 器 器 | A[15.8]
B 3.9
C[11.6] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部から体部にかけて内・外面ロクロナデ。底部回転へら切り後、手持ちへら削り。 | 砂粒・雲母・石英
灰色
普通 | P2210
20% 1の南東側覆土中層 |
| 5 | 壺
須 器 器 | B (9.0)
C[16.2] | 底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。 | 体部外面斜位の平行叩き。内面ナデ。内面当て具痕、指頭押圧。 | 砂粒・雲母・スコリア・長石
褐色 普通 | P2211
20%
1の北側覆土下層 |

第524号住居跡 (第529図)

位置 調査8区東部, N10ds区。

重複関係 第526号住居跡を掘り込み、第525号住居跡の上部に構築されているので、それぞれの住居跡より新しい。

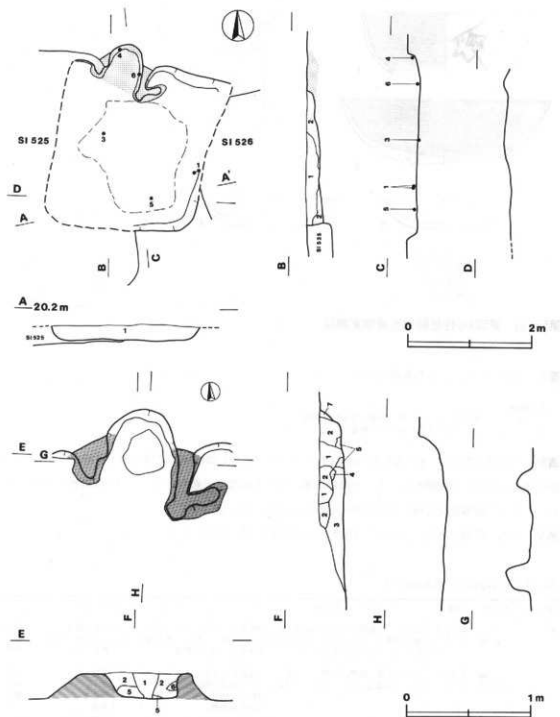
規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが、残存する壁や床から、長軸[2.84]m、短軸[2.43]mの長方形と考えられる。

主軸方向 N-15°-E

壁 壁高は16cmで、外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央やや西寄りに付設されている。規模は長さ95cm、袖幅125cm、壁外への掘り込みは32cmである。袖部は、壁面に砂質粘土を貼り付けて構築している。内袖は、火熱を受け赤変している。火床部は、床面と同

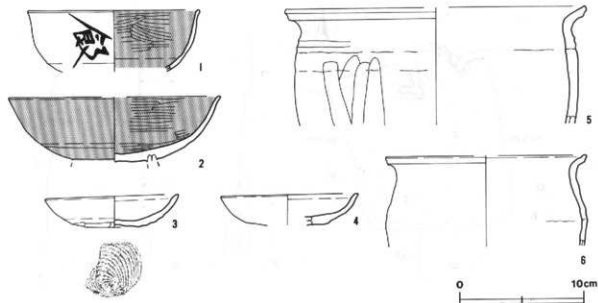


第529図 第524号住居跡実測図

じ高さで、楕円形状に赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

産土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・粘土粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 3 極暗褐色 粘土粒子中量、焼土小ブロック、炭化粒子・ローム粒子少量、炭化物微量
- 4 極暗赤褐色 焼土小ブロック中量、焼土粒子少量
- 5 に近い赤褐色 焼土小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 6 極暗赤褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子多量、炭化物・炭化粒子少量



第530図 第524号住居跡出土遺物実測図

覆土 2層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子微量
 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

遺物 土師器片224点、須恵器片43点が出土している。1の土師器杯が東側の覆土下層から、3の土師器小皿が中央やや西寄りの床面から、4の土師器小皿、6の土師器壺が竈内から、5の土師器壺が南寄りの覆土下層から、2の土師器高台付碗が覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。

第524号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|-------------|----------------------------|--|--|--------------------------------|-------------------------|
| 第530図
1 | 土師器
杯 | A 13.8
B (5.0) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く、わずかに外反する。 | 口縁部から体部にかけて外面クロクロナデ。内面へラ磨き・黒色処理。体部外面に「飯」の黒書。 | 砂粒・雲母
内面黒色 外面明赤褐色 普通 | P2212
40%
東側覆土下層 |
| 2 | 高台付碗
土師器 | A[17.0]
B (5.2) | 高台部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く、わずかに外反する。 | 口縁部から体部にかけて外面クロクロナデ。体部下端回転へラ磨り。底部回転へラ切り。内面へラ磨き。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母・スコリア
黒色 普通 | P2213
30%
覆土中 |
| 3 | 小皿
土師器 | A 10.7
B 2.8
C 4.9 | 平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部から体部にかけて内・外面クロクロナデ。体部下端手持ちへラ磨り。底部回転糸切り。 | 砂粒・雲母・スコリア
褐色 普通
口縁部に窪付着 | P2214
90%
中央西寄り床面 |
| 4 | 小皿
土師器 | A 11.0
B 2.6
C[6.4] | 平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部から体部にかけて内・外面クロクロナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア
にぶい赤褐色 普通 | P2215
50%
竈内 |
| 5 | 壺
土師器 | A[24.0]
B (9.5) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨り。内面ナデ。内・外面に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・スコリア・石英
褐色 普通 | P2216
15%
南寄り覆土下層 |
| 6 | 壺
土師器 | A[16.0]
B (7.3) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、短く外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ナデ。内面に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・スコリア・石英
にぶい褐色 普通 | P2217
15%
竈内 |

第525号住居跡 (第532図)

位置 調査8区東部, N10a区。

重複関係 上位に第524号住居跡が構築されており, 第527号住居跡を掘り込んでいるので, 第524号住居跡より古く, 第527号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸4.20m, 短軸4.12mの方形である。

主軸方向 N-4°-W

壁 壁高は35~44cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 上幅12~30cm, 下幅2~9cm, 深さ3~8cm, 断面形はU字形で全周している。

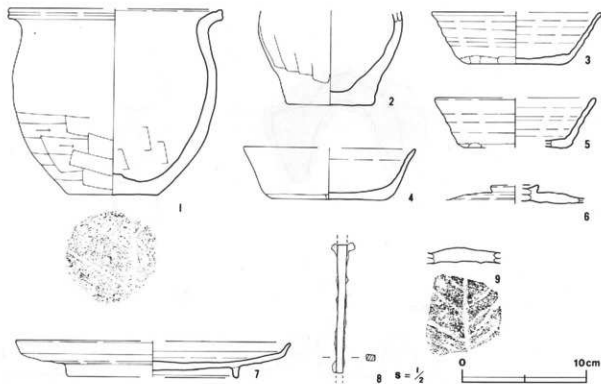
床 全体的に平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に砂質粘土で構築している。規模は長さ111cm, 袖幅127cm, 壁外への掘り込みは31cmである。袖部は壁面に砂質粘土を貼り付けて構築している。袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床面は楕円形状に厚さ8~13cmほどあり, かなり使い込んだと考えられる。煙道はほぼ垂直に立ち上がる。

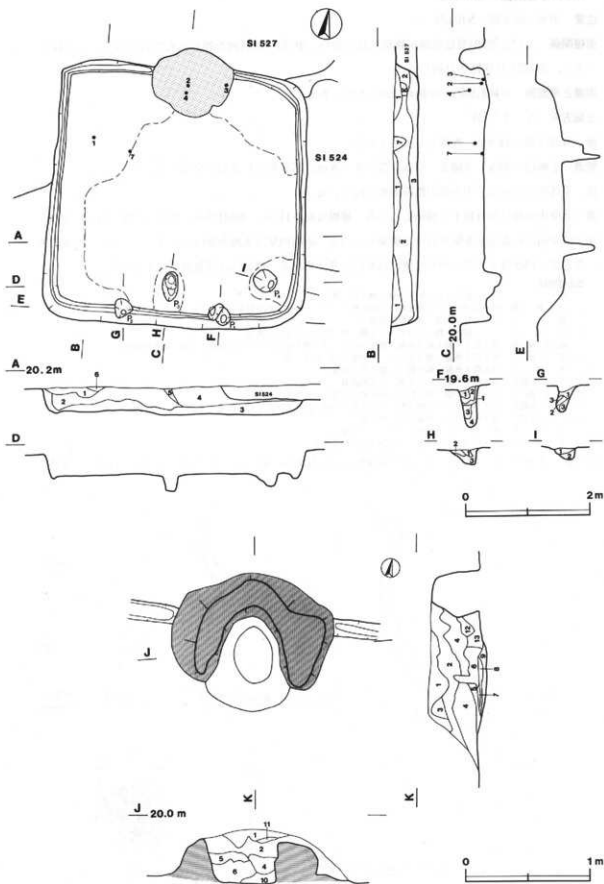
竈土層解説

- | | |
|----------|--|
| 1 褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 灰褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・粘土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量, 炭化物微量 |
| 6 明赤褐色 | 焼土粒子少量, 焼土大ブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 7 赤黒色 | 炭化粒子多量, 焼土粒子・粘土粒子中量 |
| 8 深い赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化物微量 |
| 9 暗赤褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 炭化物微量 |
| 10 深い赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化物・炭化粒子少量 |
| 11 深い赤褐色 | 焼土小ブロック中量, 炭化物少量 |
| 12 赤褐色 | 焼土大ブロック・粘土大ブロック多量 |
| 13 赤褐色 | 焼土中ブロック多量, 炭化物・炭化粒子中量 |

ピット 4か所(P₁~P₄)。P₁は, 長径35cm, 短径24cmの楕円形, 深さ59cmで, 作り替えの可能性がある。



第531図 第525号住居跡出土遺物実測図



第532图 第525号住居跡实测图

P₂は、長径30cm、短径25cmの楕円形で、深さ51cmである。いずれも壁柱穴と考えられる。P₃は、長径47cm、短径25cmの楕円形で、深さ26cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。P₄は、長径37cm、短径33cmの楕円形で、深さ20cmである。性格は不明である。

P₁土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量、砂少量
- 4 褐色 ローム粒子少量

P₂土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック少量
- 3 明褐色 ローム小ブロック少量

P₃土層解説

- 1 暗褐色 灰・ローム粒子少量、砂少量、ローム大ブロック極微量
- 2 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、粘土粒子少量

P₄土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 にぶい褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量

覆土 7層からなり、人為堆積と推測される。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|--------|----------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂少量、焼土小ブロック微量 | 6 極暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 3 灰褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・砂少量、ローム小ブロック微量 | 7 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | | |

遺物 土師器片238点、須恵器片57点、鉄製品1点、炭化材が出土している。1の土師器壺が西側覆土中層から、7の須恵器甕が中央や西側寄りの覆土下層から、2の上師器小形甕、3、4の須恵器杯が壺内から、5の須恵器杯、6の須恵器蓋、8の不明鉄製品が覆土中からそれぞれ出土している。9は土師器甕の底部片で、外面に木炭痕が残る。

所見 本跡の時期は、出土遺物から奈良時代の8世紀後半と考えられる。

第525号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|---------------|------------------------------------|---|--|----------------------------|------------------------------|
| 第531回
1 | 土師器
壺 | A 17.0、
B 15.0、
C 7.2 | 平底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は強く外反し、肩部はわずかに上方につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面の中央から上部にかけてへり削り。内面ヘラナデ。底部木炭痕。 | 砂粒・雲母・スコリア・石英・長石
赤褐色 普通 | P2218
65%
西側覆土中層 |
| | | B 7.6
C 7.0 | 底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は内傾して立ち上がる。 | 体部・底部へり削り、内面ナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア・石英・長石
赤色 普通 | P2219
10%
壺内 |
| 3 | 埴
須恵器
杯 | A 13.7
B 4.2
C 8.0 | 平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。体部下端、底部平持ちへり削り。 | 砂粒・雲母・石英・長石
黄灰色 普通 | P2220
60%
壺内 |
| | | A 13.7
B 4.2
C 9.0 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。体部下端、底部回転へり削り。 | 砂粒・雲母・長石
灰黄色 普通 | P2221
40%
壺内 |
| 5 | 埴
須恵器
甕 | A 12.8
B 4.0
C 8.2 | 底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。体部下端、底部平持ちへり削り。 | 砂粒・雲母・石英
黄灰色 普通 | P2222
30%
覆土中 |
| | | B (1.5)
Fl 3.6、
G 0.5 | 天井部片。天井部は緩やかに降下する。 | 天井部回転へり削り。内面口クロナデ。 | 砂粒・雲母
黄灰色 普通 | P2223
5%
覆土中 |
| 7 | 埴
須恵器
甕 | A 21.8
B 2.9
D 13.8
E 1.0 | 高台部から口縁部にかけての破片。ほぼ直線的な高台がつく。体部は外傾して大きく開き、口縁部で折曲し、外上方に立ち上がる。 | 口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。底部回転へり削り。 | 砂粒・雲母・石英
灰黄色 普通 | P2224
35% 中央や
西側寄り覆土下層 |

| 図版番号 | 種別 | 計 測 値 | | | | 出 土 場 点 | 備 考 |
|--------|-------|--------|-------|--------|-------|---------|-------|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | |
| 第531図8 | 不明鉄製品 | (6.9) | 0.5 | 0.3 | (6) | 覆土中 | M2011 |

③ 時期不明

第505号住居跡 (第504図)

位置 調査8区西部, N8b2区。

重複関係 第500・501号住居跡に掘り込まれているので、両住居跡より古い。

規模と平面形 西側が調査区域外に延びており、第500・501号住居跡と重複しているため、東西軸長は2.10mまで、南北軸長は1.65mまで測れる。平面形は不明である。

壁 壁高は8cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁下で確認され、上幅17～20cm、下幅3～10cm、深さ5cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦である。

ピット 1か所(P₁)。P₁は、長径47cm、短径41cmの楕円形で、深さ40cmである。性格は不明である。

覆土 3層からなり、人為堆積と推測される。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

遺物 遺物は、出土しなかった。

所見 本跡は、出土遺物はなく時期判断は難しいが、第500・501号住居跡に掘り込まれていることから、奈良時代以前の住居跡と考えられる。

第511号住居跡 (第533図)

位置 調査8区東部, N10r4区。

規模と平面形 南部が調査区域外に延びており、東西方向3.70m、南北方向(1.45)mである。平面形は不明である。

壁 壁高は8～17cmで、外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦である。西側のP₂上に長さ93cm、中央からP₁にかけて長さ125cm、幅12cm、厚さ5cmほどの焼上がそれぞれ確認されている。いずれも東西方向で、床面から10cmほど上部にある。

ピット 3か所(P₁～P₃)。P₃は、長径61cm、短径53cmの楕円形で、深さ17cmである。P₁、P₂は、南部が調査区域外になるため大きさは不明で、深さはP₂が28cm、P₃が38cmである。性格はそれぞれ不明である。P₃の土層は、焼土粒子、炭化物、砂を含み、P₁の土層は、ローム粒子、粘土粒子を含み、P₂の上層は、ローム小ブロック、ローム粒子を含んでいる層である。

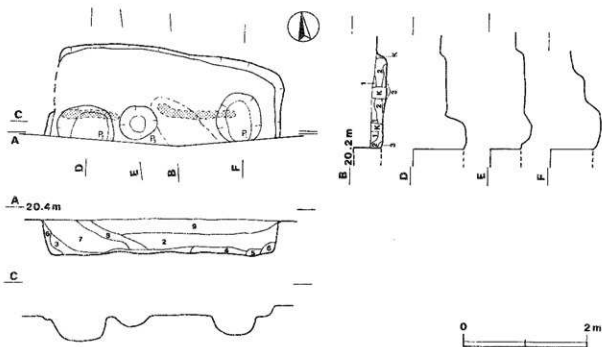
覆土 9層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 2 褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・粘土小ブロック少量
- 3 明褐色 ローム大ブロック中量
- 4 褐色 焼土中ブロック・炭化物中量、ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック中量
- 6 明褐色 ローム大ブロック中量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、炭土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子少量
- 9 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子微量

遺物 土師器片206点、須恵器片15点、陶器片1点、鉄製品1点、炭化物が出土している。

所見 木跡は、焼土が確認されていることから、焼失家屋と考えられる。時期は、出土遺物がいずれも細片のため不明である。



第533図 第511号住居跡実測図

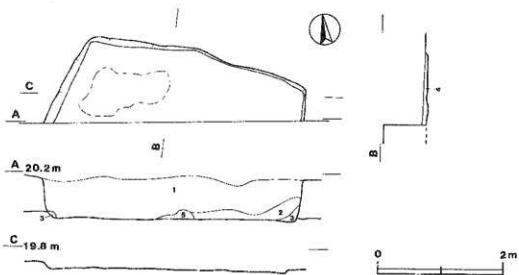
第514号住居跡 (第534図)

位置 調査8区中央部、N9e1K。

規模と平面形 南部が調査区域外に延びており、東西3.75m、南北(1.50)mである。平面形は不明である。

壁 壁高は6~11cmで、外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で、北西側の一部がよく踏み固められている。



第534図 第514号住居跡実測図

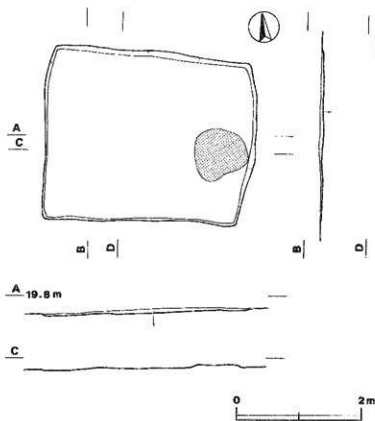
覆土 5層からなり、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒色 炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量、炭化物・ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、粘土粒子微量

遺物 遺物は、出土しなかった。

所見 本跡の時期は、遺物がなため不明ある。



第535図 第518号住居跡実測図

第518号住居跡 (第535図)

位置 調査8区東部, N9ca区。

重複関係 第4号掘立柱建物跡に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.20m, 短軸2.68mの長方形である。

主軸方向 N-100°-E

壁 壁高は2~4cmで、外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦である。

竈 東壁中央部に楕円形状に焼土が確認されており、ここに竈があったと考えられるが、削平により残存していない。

覆土 単一層で、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量

遺物 遺物は、出土しなかった。

所見 本跡の時期は、出土遺物がなため不明である。

第530号住居跡 (第536図)

位置 調査8区東部, N10rd区。

規模と平面形 東部と南部が調査区域外に延びており、南北(3.20)m, 東西(1.77)mである。平面形は不明である。

壁 壁高は14cmで、外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦である。

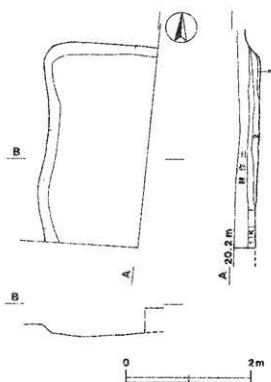
覆土 3層からなり、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片12点、須恵器片3点が出土しているのみである。

所見 本跡の時期は、出土遺物が少なく不明である。



第536図 第530号住居跡実測図

表8 熊の山遺跡8区住居跡一覧表

| 件号
番号 | 位置
基軸方向 | 土敷方向
平面形 | 規模(m)
長軸×短軸(m) | 築高
(m) | 築成
時期 | 内 部 装 設 | | | | | | | | | | 出土
遺物 | 備 考
前出関係(去一節) |
|----------|------------|-------------|-------------------|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|--------------------------------------|--|---------------------------|----------|----------|------------------|
| | | | | | | 土師器
片 | 須恵器
片 | 土師器
片 | 須恵器
片 | 土師器
片 | 須恵器
片 | 土師器
片 | 須恵器
片 | 土師器
片 | 須恵器
片 | | |
| 300 | N85°E | 長方形 | 4.81×1.75 | 14-16 | 平地 | 部 | 1 | - | - | 3 | 人為 | 土師器(坏)須恵器(壺) | SEG・本跡 | | | | |
| 501 | N85°E | 長方形 | 3.41×3.41 | 9-11 | 平地 | 部 | 1 | - | - | - | 自然 | 土師器(坏)須恵器(壺) | SE03・本跡→S1902、S195 | | | | |
| 502 | N85°E | 長方形 | 4.18×3.13 | 10-24 | 平地 | 部 | 3 | - | - | - | 人為 | 土師器(坏)須恵器(壺) | SE01、S10→本跡 | | | | |
| 301 | N85°E | 長方形 | 4.07×2.81 | 8 | 平地 | - | - | - | - | - | 自然 | 土師器(坏)須恵器(壺)土師器(坏)須恵器(壺)土師器(坏)須恵器(壺) | S10、S15→本跡 | | | | |
| 504 | M81° | - | 3.05×2.35 | 10 | 平地 | 部 | 1 | - | - | - | 自然 | 土師器(坏)須恵器(壺)土師器(坏) | SE08→本跡 | | | | |
| 505 | N85° | - | 2.67×1.63 | 8 | 平地 | 部 | - | - | - | - | 1 | 人為 | 本跡→S1500、S101 | | | | |
| 506 | N85° | 長方形 | 3.16×4.54 | 15-23 | 平地 | 部 | 4 | 1 | 壺 | - | 自然 | 土師器(坏)須恵器(壺) | 本跡→本跡 | | | | |
| 307 | N85° | 長方形 | 2.81×2.86 | 10-22 | 平地 | 部 | - | - | - | - | 人為 | 土師器(坏)須恵器(壺) | S101→本跡 | | | | |
| 508 | M81° | - | - | 8 | 平地 | 部 | - | - | - | - | 2 | 自然 | 土師器(坏) | 本跡→S1504 | | | |
| 308 | M81° | - | 3.18×1.45 | 20 | 平地 | 部 | - | - | - | - | - | 自然 | 土師器(坏) | - | | | |
| 510 | N85° | 長方形 | 8.35×3.32 | 17-22 | 平地 | 部 | 6 | 2 | 壺 | 1 | 3 | 人為 | 土師器(坏)須恵器(壺)土師器(坏)須恵器(壺)土師器(坏)須恵器(壺)土師器(坏)須恵器(壺) | S115→本跡→S1500、S09、S07、S13 | | | |
| 511 | N105° | - | 3.30×1.63 | 8-17 | 平地 | - | - | - | - | - | 3 | 人為 | - | - | | | |
| 512 | N85° | 長方形 | 2.18×2.10 | 6-20 | 平地 | 部 | - | - | - | - | 人為 | 土師器(坏)須恵器(壺) | - | | | | |
| 512 | M81° | 長方形 | 2.18×2.33 | 11-15 | 平地 | 部 | 1 | 壺 | - | - | 自然 | 土師器(坏)須恵器(壺)土師器(坏)須恵器(壺) | S101→本跡 | | | | |
| 514 | N85° | - | 3.33×1.55 | 6-11 | 平地 | - | - | - | - | - | - | 自然 | - | - | | | |
| 515 | N85° | 長方形 | 3.22×2.46 | 12 | 平地 | - | - | - | - | 1 | - | 人為 | 土師器(坏) | 4区→SE01、S10 | | | |
| 516 | N85° | 長方形 | 4.91×1.55 | 1-20 | 平地 | 部 | - | - | - | - | - | 人為 | 土師器(坏)土師器(坏) | 4区→S1502 | | | |
| 517 | N85° | 長方形 | 4.10×4.00 | 1-32 | 平地 | 部 | - | - | - | - | - | 自然 | 土師器(坏)須恵器(壺)土師器(坏)須恵器(壺) | SD16→本跡 | | | |

| 住居跡
番号 | 位置 | 土軸方向
長軸方向 | 平面形 | 規模(m)
長軸×短軸 | 壁高
(cm) | 土質 | 内 部 地 設 | | | | 備 考 | 出 土 遺 物
新旧関係(古・新) |
|-----------|------|--------------|-----|-----------------|------------|----|---------|-----|------|-------|-----|--------------------------------|
| | | | | | | | 敷基注柱穴 | 出入口 | 炉・竈跡 | 本 土 礎 | | |
| 518 | N9c | N-10° E | 長方形 | 3.81 × 2.68 | 2~4 | 平地 | - | - | 竈 | - | 自然 | 4跡-SB4 |
| 519 | N9d | N 4° W | 方 形 | 2.80 × 2.87 | 26~40 | 平地 | 一部 | - | 1 竈 | - | 人為 | 土師器(壺・甕)・須恵器(片) |
| 520 | N9b | - | - | 3.24 × (1.85) | 45~49 | 平地 | 一部 | - | - | - | 自然 | 土師器(壺)須恵器(片) |
| 521 | N9c | N-1° E | 方 形 | 4.05 × 5.96 | 45~54 | 平地 | 一部 | 4 | 1 竈 | - | 人為 | 土師器(壺)須恵器(片)・高台付碗・小皿・土師器(須恵器) |
| 522 | N9d | N 11° E | 長方形 | 3.53 × 2.90 | 9~15 | 平地 | 一部 | 1 | - | 竈 | 1 2 | 土師器(片)・須恵器(片)・高台付碗・小皿・土師器(須恵器) |
| 523 | N10a | N-6° E | 長方形 | 4.68 × (2.80) | 45~49 | 平地 | 一部 | - | 竈 | - | 人為 | 土師器(片)・須恵器(片)・壺 |
| 524 | N10a | N-15° E | 長方形 | 2.80 × (2.35) | 8 | 平地 | - | - | 竈 | - | 自然 | 土師器(片)・高台付碗・小皿・壺 |
| 525 | N10a | N 4° W | 方 形 | 4.30 × 4.12 | 35~44 | 平地 | 一部 | 2 | 1 竈 | - | 人為 | 土師器(壺)須恵器(片)・高台付碗・小皿・土師器(須恵器) |
| 526 | N10a | N-17° W | - | 5.68 × 2.53 | 3~25 | 平地 | 一部 | 2 | - | 竈 | - | 土師器(小皿・壺) |
| 527 | N10c | N 26° W | 長方形 | 7.32 × 5.12 | 45~49 | 平地 | 全面 | 4 | 1 竈 | - | 自然 | 土師器(壺・甕)・高台付碗・須恵土師 |
| 530 | N10f | - | - | (3.20) × (1.77) | 8 | 平地 | - | - | - | - | 自然 | |

(2) 掘立柱建物跡

調査8区の東部から、掘立柱建物跡1棟を検出した。以下、検出した建物跡の特徴や出土遺物について記載する。

第4号掘立柱建物跡(第537図)

位置 調査8区東部、N9c区。

重複関係 第518号住居跡を掘り込んでいるので、本跡が新しい。

規模 東西2間、南北2間の建物跡で、東西3.95m、南北3.85mである。柱間寸法は桁行1.9~2.0m、梁行1.8~2.0mである。柱穴の掘り方は、平面形が長径65~135cm、短径60~105cmの楕円形で、深さ32~70cmである。柱底は、確認されていない。

桁行方向 N-87°-Eの東西棟である。

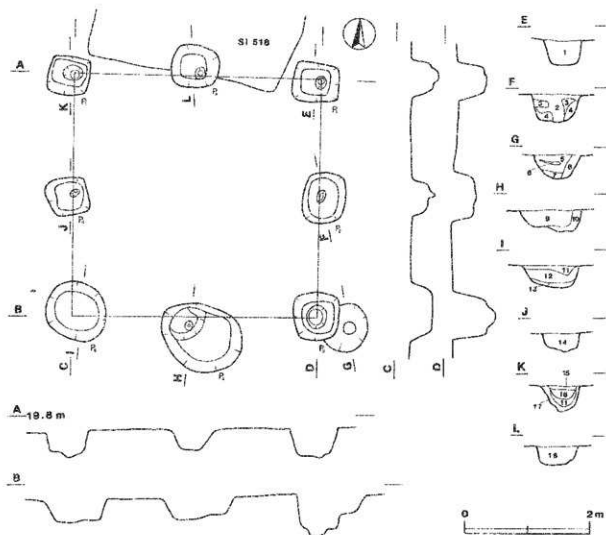
覆土 ブロック状の堆積をしており、人為堆積と考えられる。

掘り方土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子・粘土粒子微量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック中量、ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム大ブロック少量、ローム粒子中量
- 5 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 6 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、炭化物微量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子・炭化物微量
- 9 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 10 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 11 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 12 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量
- 13 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 14 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 15 黒褐色 焼土粒子少量
- 16 黒褐色 焼土粒子中量
- 17 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 18 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック微量

遺物 P₆、P₆、P₈から極少量の土師器片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物が少なくしかも細片である。第518号住居跡を掘り込んでいるが、第518号住居跡が時期不明のため、本跡の時期も不明である。



第537図 第4号掘立柱建物跡実測図

(3) 土坑

調査8区で、十坑9基を検出した。その中でも、遺物が比較的多いものについて記載し、その他は一覧表に掲載した。

第314号土坑 (第538図)

位置 調査8区東部、N9c区。

規模と平面形 長径0.87m、短径0.74mの楕円形である。

長径方向 N-0°

壁 深さは22cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

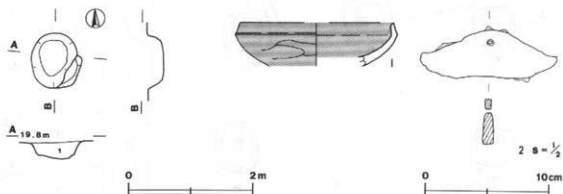
覆土 単一層で、人為堆積と考えられる。

土層解説

I 黒褐色 黄土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒少量、炭化物微量

遺物 土師器片20点、須恵器片2点、鉄製品1点が出土している。1の土師器杯、2の火打ち金が覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、遺物が流れ込みと考えられ、時期は不明である。



第538図 第314号土坑・出土遺物実測図

第314号土坑出土遺物観察表

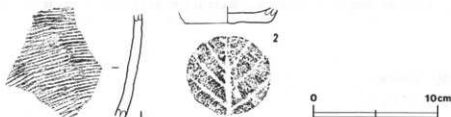
| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|----------|-------------------|---|-------------------------------|------------------------|---------------------|
| 第538図
1 | 坏
土師器 | A〔12.2〕
B〔3.5〕 | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に稜をもつ。口縁部は内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母・スコリア
黒色
普通 | P2252
15%
覆土中 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | | 出土地点 | 備考 |
|------|------|--------|-------|--------|--------|-------|------|-------|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | |
| 2 | 火打ち金 | (7.3) | 2.6 | 0.6 | 0.6 | (28) | 覆土中 | M2012 |

第300号土坑出土遺物観察表 (第539図)

1は須恵器甕の体部片で、外面に横位の平行叩きが施されている。

2は土師器甕の底部片で、外面に木葉痕が残る。



第539図 第300号土坑出土遺物実測図

第300号土状土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土大・小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量、ローム粒子少量

第302号土状土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量、ローム中ブロック少量

第304号土状土層解説

- 1 黒褐色 炭化物中量、ローム粒子少量、ローム大ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック少量

第306号土状土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量、ローム小ブロック少量

第313号土状土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

第315号土状土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック・ローム粒子少量、炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化物・ローム中ブロック少量

第316号土状土層解説

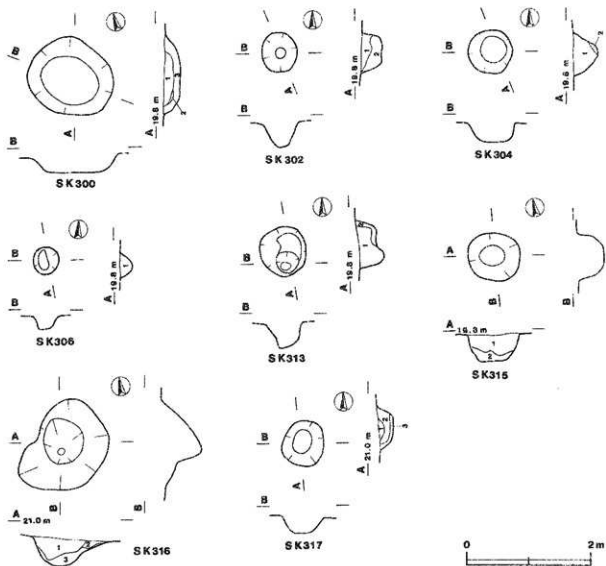
- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック少量

第317号土状土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量

表9 熊の山遺跡8区土坑一覧表

| 土坑
番号 | 位置 | 長径方向
(長軸方向) | 平面形 | 規模 | | 取土
方法 | 出土
状況 | 主な遺物 | 備考 |
|----------|-----|----------------|-------|-------------|-------|----------|----------|------|-------------|
| | | | | 長径(m) | 短径(m) | | | | |
| 300 | N96 | N-37°-W | 楕円形 | 1.37 × 1.20 | 28 | 外傾 | 平坦 | 人土 | 土師器10 |
| 302 | N85 | | 円形 | 0.62 × 0.56 | 40 | 外傾 | 傾斜 | 自然 | |
| 304 | N96 | | 円形 | 0.74 × 0.70 | 35 | 外傾 | 平坦 | 自然 | |
| 306 | N85 | | 円形 | 0.42 × 0.41 | 24 | 外傾 | 傾斜 | 自然 | |
| 313 | N86 | | 円形 | 0.80 × 0.75 | 42 | 外傾 | 傾斜 | 自然 | |
| 314 | N85 | N-6° | 楕円形 | 0.87 × 0.74 | 22 | 外傾 | 平坦 | 人土 | 土師器(片)、火打石金 |
| 315 | N85 | | 円形 | 0.84 × 0.76 | 45 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器14(須恵器) |
| 316 | N87 | N-45°-E | 不整形円形 | 1.52 × 1.00 | 30 | 外傾 | 傾斜 | 自然 | 土師器3 |
| 317 | N86 | | 円形 | 0.72 × 0.66 | 30 | 外傾 | 平坦 | 自然 | |



第540図 8区土坑実測図

(4) 井戸

調査8区において、井戸3基を検出した。以下、その特徴と出土遺物について記載する。

第4号井戸(第541図)

位置 調査8区中央部、N9a区。

規模と形状 掘り方は、平面形が一辺3.50mほどの円形をしており、確認面から65cmの深さまでは緩傾斜を持ち、そこから下95cmは円筒形をしている。深さは、1.6mである。

覆土 8層からなり、自然堆積と考えられる。

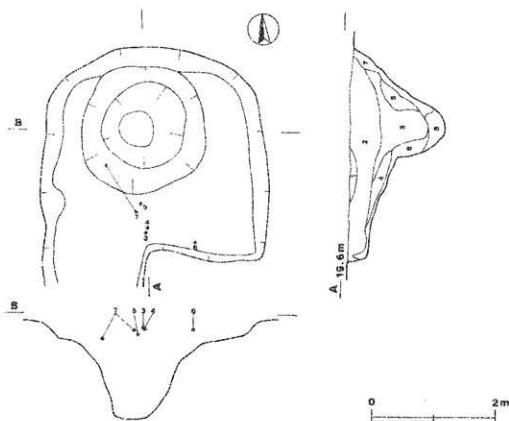
土層解説

- | | | |
|---|-----|--------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子少量、黄土粒子・炭化粒子極微量 |
| 2 | 黒褐色 | 炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量、黄土粒子極微量 |
| 3 | 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量、黄土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 | 黒褐色 | 粘土粒子少量、炭化粒子微量、黄土粒子極微量 |
| 5 | 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 6 | 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量、黄土粒子極微量 |

- 7 黒褐色 ローム粒子・粘土小アロップ中量
 8 暗褐色 粘土粒子多量、ローム粒子中量、炭化粒子少量

遺物 土師器片773点、須恵器片120点、鉄滓1点が出土している。3の上師器小形甕、6の須恵器甕が南側覆土上層から、4の須恵器杯が3の北側の覆土上層から、5の須恵器杯が中央やや南寄りの覆土上層から出土している。7の須恵器甕は、中央寄り、南側寄りの覆土上層から出土した破片と接合している。1の土師器杯、2の小形甕、8の須恵器長頸瓶(壺G)、9の須恵器短頸甕がそれぞれ覆土中から出土している。

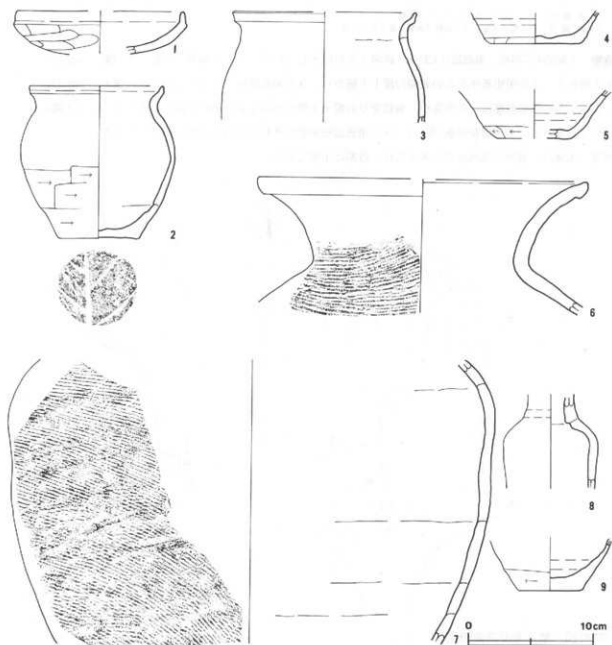
所見 本跡は、遺物が流れ込みと考えられ、時期は不明である。



第541図 第4号井戸実測図

第4号井戸出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(m) | 器形の特徴 | 手取の特徴 | 粘土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|------------|---------------------------|--|---|----------------------------------|------------------------|
| 第542図
1 | 杯
土師器 | A 12.21
B (3.4) | 体部から口縁部にかけての破片。各部は内側して立ち上がり、各部と口縁部の間に線をもつ。口縁部はやや内傾する。 | 口縁部内・外面横ナゲ。体部外面ヘラ削り。内面研成。 | 砂粒・雲母・スコリア
に多い褐色
普通 | P2242
30%
覆土中 |
| 2 | 小形甕
土師器 | A 10.8
B 12.3
C 6.4 | 平底。体部は内側して立ち上がり、最大径を中位にもつ。口縁部は短く外反し、肩部は上方につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面横ナゲ。体部外面中位から下位にかけてヘラ削り。内面ヘラナゲ。内面に輪襷み成。底部木炭痕。 | 砂粒・雲母・スコリア・石灰
褐色
普通 | P2243
70%
覆土中 |
| 3 | 小形甕
土師器 | A 14.6
B 8.9 | 体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内側して立ち上がり、口縁部は外反し、肩部は外上方につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面横ナゲ。体部外面ナゲ。内面ヘラナゲ。内面に輪襷み成。 | 砂粒・雲母・スコリア
・石灰
に多い褐色
普通 | P2244
25%
南側覆土上層 |



第542図 第4号井戸出土遺物実測図

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|----------|--------------------|------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------|--------------------------------|
| 第542図
4 | 杯
須恵器 | B(2.7)
C 7.0 | 底部から体部にかけての破片。平底。
体部は外傾して立ち上がる。 | 体部内・外面ロクロナデ。体部下端・
底部手持ちへろ削り。 | 砂粒・雲母・石英
灰白色
普通 | P2245
30%
3の北側覆土上層 |
| 5 | 杯
須恵器 | B(4.0)
C(6.0) | 底部から体部にかけての破片。平底。
体部は外傾して立ち上がる。 | 体部内・外面ロクロナデ。体部下端・
底部手持ちへろ削り。 | 砂粒・雲母・石英
灰黄色
普通 | P2246
20%
南寄り覆土上層 |
| 6 | 壺
須恵器 | A(26.2)
B(10.2) | 体部上位から口縁部にかけての破片。
口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面横
位の平行叩き。 | 砂粒・雲母・石英
灰色
普通 | P2247
15%
南側覆土上層 |
| 7 | 壺
須恵器 | B(22.7) | 体部片。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部外面平行叩き後、部分的に横位
のナデ。内面ナデ。内面に輪積み痕。 | 砂粒・雲母
暗灰色
普通 | P2248
10% 中央寄り・
南側寄り覆土上層 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|------------|-----------------|--------------------------------|---------------------------------|--------------------------|------------------------|
| 第542図
8 | 長頸瓶
須恵器 | B(7.6) | 体部片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。 | 体部内・外面クロコナテ。体部外面に自然輪付着。内面に輪轆み痕。 | 砂粒・雲母
黄灰色
普通 | P2249
30%
覆土中 壺G |
| 9 | 短頸壺
須恵器 | B(4.3)
C 5.0 | 底部から体部にかけての破片。#底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部内・外面クロコナテ。体部上端底部手持ちへう痕り。 | 砂粒・雲母・スクリップ
黄灰色
普通 | P2250
50%
覆土中 |

第5号井戸(第543図)

位置 調査8区西部, N8a4区。

覆土関係 第501号住居跡を掘り込んでいますので、本跡が新しい。

規模と形状 掘り方は、平面形が一边87cmほどの円形をしており、確認面から20cm下は、径80cmほどの円筒形をしている。深さは、1.5mである。

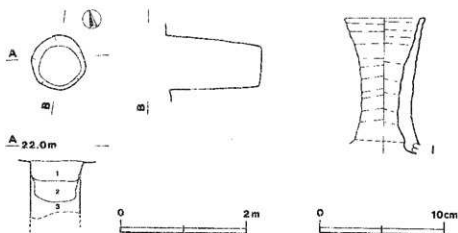
覆土 3層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 砂多量、粘土粒少し、ローム粒子微量、焼土粒子極微量
- 2 黒褐色 ローム粒少し
- 3 極暗褐色 ローム粒子・砂少量

遺物 土師器片16点、須恵器片1点、種4点が出土している。1の須恵器長頸瓶(壺G)が覆土中から出土している。

所見 本跡は、遺物が細片で流れ込みと考えられ時期判断は難しいが、第502号住居跡を掘り込んでいることから、時期は奈良時代以降と考えられる。



第543図 第5号井戸・出土遺物実測図

第5号井戸出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|------------|------------------|-------------------------------------|------------------------------------|-----------------|------------------------|
| 第543図
1 | 長頸瓶
須恵器 | A 6.5
B(10.9) | 頸部から口縁部にかけての破片。頸部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。 | 口縁部から頸部にかけて内・外面クロコナテ。頸部内・外面に自然輪付着。 | 砂粒
灰白色
普通 | P2251
30%
覆土中 壺G |

第6号井戸（第544図）

位置 調査8区東部，N9d区。

重複関係 第4号掘立柱建物跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 掘り方は，平面形が長径1.25m，短径1.1mの楕円形をしており，確認面から50cmの深さまでは急傾斜を持ち，そこから下3.1mは径60cmほどの円筒形をしている。深さは，(3.6)mである。

覆土 4層からなり，人為堆積と考えられる。

土層解説

1 棕褐色 炭化粒子・ローム粒子微量

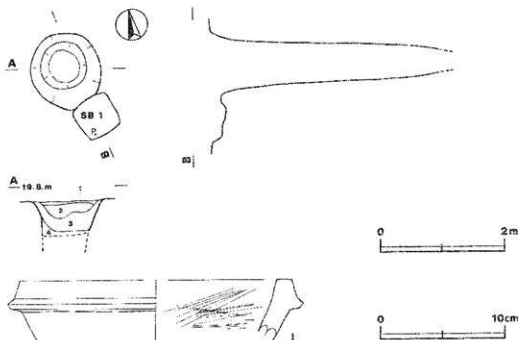
3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

2 黒褐色 ローム小ブロック少量

4 暗褐色 ローム中ブロック少量

遺物 土師器片8点，須器器片3点，陶器片3点，石製品1点が出土している。1の石鍋が覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は，遺物が少なく細片のため不明である。



第544図 第6号井戸・出土遺物実測図

第6号井戸出土遺物観察表

| 図録番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調 | 備考 |
|------------|--------------|-------------------|---|--------------------|--------------|--------------------|
| 第544図
1 | 石
鍋
製品 | A[22.0]
B[5.0] | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，体部と口縁部の境に溝を有し，口縁部はやや内傾する。 | 内・外面とも鉄製工具による削りだし。 | 赤石
に濃い黄褐色 | Q2009
5%
覆土中 |

表10 熊の山遺跡8区井戸一覽表

| 井戸番号 | 位置 | 平正形 | 規模 | | 壁面 | 底面 | 掘上 | 主な遺物 | 備考 |
|------|------|-----|---------------|-------|----|----|----|-----------------------|--------|
| | | | 長さ(軸)×幅(軸)(m) | 高さ(m) | | | | | |
| 4 | N8a1 | 円形 | 3.50×3.30 | 160 | 楕圓 | 平坦 | 自然 | 土器器(片、壺) 須恵器(外、甕、長頸瓶) | 時期不明 |
| 5 | N8a2 | 円形 | 0.87×0.87 | 150 | 楕圓 | 平坦 | 人為 | 須恵器(長頸瓶) | 奈良時代以降 |
| 6 | N8a7 | 楕圓形 | 1.33×1.10 | 380 | 楕圓 | 平坦 | 人為 | 石製品(石槌) | 時期不明 |

(5) 溝

調査8区において、東部から溝1条を検出した。以下、その特徴と出土遺物について記載する。

第16号溝(第545図)

位置 調査8区東部、N8e6区～N9b5K。

重層関係 上部に第517号住居跡が構築されているので、本跡が古い。

規模と形状 北面と南側に調査区域外のため、確認された長さは(16.3)m、上幅1.07～1.35m、下幅0.55～0.75m、深さ40～45cmで、断面形はU字形である。

方向 N8e6区から北北東(N-6°-E)の方向に、ほぼ直線的に伸びている。

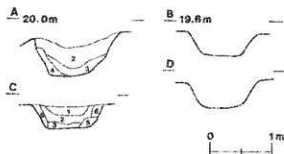
覆土 6層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 茶褐色 灰土小ブロック・ローム中ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒少量
- 3 褐色 ローム小ブロック少量、砂少量
- 4 灰褐色 ローム中ブロック少量
- 5 に近い褐色 ローム小ブロック多量
- 6 褐色 ローム粒少量

遺物 土師器片141点、須恵器片10点、灰釉陶器片1点が出土している。1の土師器壺が中央両寄りの覆土上層から、4の須恵器杯が中央覆土上層から、2、3の土師器壺、5、6の須恵器杯、7の須恵器が覆土中からそれぞれ出土している。8は須恵器壺の体部片で、外面に横位の平行印が施されている。

所見 本跡は、J部に平安時代の第517号住居跡が構築されていることから、時期は9世紀中葉以前と考えられる。

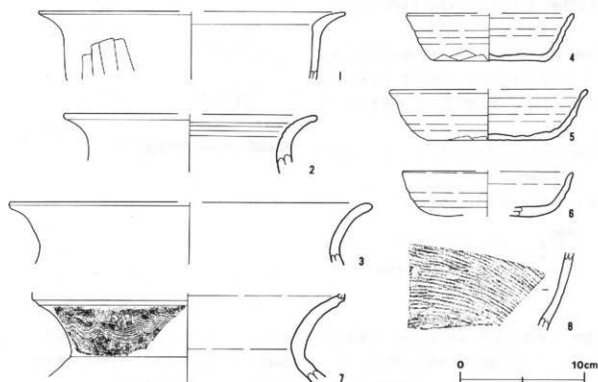


第545図 第16号溝断面図

第16号溝出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 寸法(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|------------|-------------------|----------------------------|---|---------------------------|-----------------------------|
| 第546図
1 | 土師器
土師壺 | A[24.6]
B[5.5] | 体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面滑ナデ。体部外面へラ削り。 | ①粒・雲母・スコリア
②明赤褐色
普通 | P-2225
10% 中央南
寄り覆土上層 |
| 2 | 土師器
土師壺 | A[20.2]
B[4.7] | 口縁部片。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面滑ナデ。口縁部内面は工具を使用した滑ナデと思われる。1尖の破片のような1尖点を残す。 | ①粒・雲母
②に近い赤褐色
普通 | P-2226
3%
覆土中 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|------------|------------|-----------------------------|--|--|-----------------------------|------------------------|
| 第546図
3 | 甕
土 甕 器 | A[28.8]
B(5.0) | 口縁部片。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母・石英
にぶい褐色
普通 | P2237
5 %
覆土中 |
| 4 | 坏
須 恵 器 | A[12.7]
B 3.9
C 9.0 | 平底。体部は外傾して立ち上がり、
口縁部に至る。 | 口縁部から体部にかけて内・外面口
クロナデ。体部下端・底部手持ちへ
ラ削り。 | 砂粒・雲母・スコリ
ア・石英
黄灰色 普通 | P2238
60%
中央覆土上層 |
| 5 | 坏
須 恵 器 | A[15.8]
B 4.1
C[9.6] | 底部から口縁部にかけての破片。平
底。体部は内傾して立ち上がり、口
縁部は短く外反する。 | 口縁部から体部にかけて内・外面口
クロナデ。体部下端・底部手持ちへ
ラ削り。 | 砂粒・雲母・石英
黄灰色
普通 | P2239
40%
覆土中 |
| 6 | 坏
須 恵 器 | A[13.6]
B 3.6
C[9.8] | 底部から口縁部にかけての破片。平
底。体部は内傾気味に立ち上がり、
口縁部に至る。 | 口縁部から体部にかけて内・外面口
クロナデ。体部下端回転へラ削り。
底部手持ちへラ削り。 | 砂粒・雲母・石英
黄灰色
普通 | P2240
20%
覆土中 |
| 7 | 甕
須 恵 器 | B(7.2) | 口縁部片。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。外面に7条1
組の縞歯状波状文。 | 砂粒・雲母・石英
普通 | P2241
5 %
覆土中 |

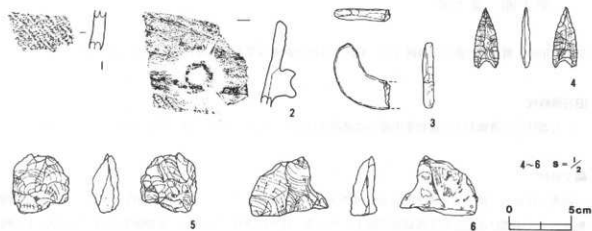


第546図 第16号溝出土遺物実測図

(6) 遺構外遺物 (第547図)

調査8区の遺構外遺物は、試掘、表土除去、遺構確認の調査で出土した遺物である。その中から、特色あるものを抽出し、拓影図、実測図、及び一覧表で掲載した。

第547図1は縄文土器深鉢の胴部片で、縄文が施されている。縄文時代中期前葉の阿玉台ⅢからⅣ式土器である。2は縄文土器深鉢の口縁部片で、口縁部直下に隆帯を巡らし、円筒形状の突起が施されている。縄文時代後期中葉の堀ノ内Ⅰ式土器である。



第547図 8区遺構外出土遺物実測図

8区遺構外出土遺物観察表

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 出土地点 | 備考 | | |
|--------|--------|--------|-------|--------|-------|------|----------|-------|------|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | | |
| 第547図3 | 黄先粘土製品 | 5.3 | (4.5) | (1.0) | (18) | 表面採集 | D P 2035 | 50% | |
| 4 | 石鏃 | 3.2 | 1.3 | 0.5 | 1.64 | 表面採集 | チャート | Q2010 | 100% |
| 5 | 刮片 | 3.2 | 2.9 | 1.5 | 13 | 表面採集 | 黒曜石 | Q2011 | |
| 6 | 刮片 | 3.1 | 6.1 | 1.4 | 11 | 表面採集 | 黒曜石 | Q2012 | |

第4節 まとめ

平成8年度に調査した熊の山遺跡5区、6区、8区の調査成果を、各時代ごとにまとめておきたい。

旧石器時代

旧石器時代の遺構および遺物集中地点は確認されなかったが、削器、剥片が表土中から出土している。

縄文時代

調査5区から、陥し穴と考えられる2基の土坑を検出している。その中の第186号土坑からは、後期中葉の堀ノ内I式土器に比定される深鉢片が出土している。ほかは表採であるが、早期後葉の田戸上層式、前期中葉の浮島II式、中期前葉の阿玉台Ⅲ、Ⅳ式、後期中葉の堀ノ内I式に比定される土器片が出土している。石器では、打製石斧、石鏃、石匙などが出土していることから、縄文時代の住居跡は確認できなかったが、当時の人々が生活の場として利用していたことが考えられる。

古墳時代

4期に分けることができる。

第1期（4世紀）

調査5区から1軒、調査6区から16軒の竪穴住居跡を検出した。第133、142、152、168、173、176、194、206、212、267、279、286、288、292、323、328、372号住居跡が該当する。とくに6区の中央付近から北側で検出されている。住居跡の平面形は、方形または隅丸方形を呈しており、規模は(1)一辺が6m前後の大形の住居跡と、一辺が4m前後の小形の住居跡から構成されている。炉は主柱穴を結んだ方形のやや内側に位置している。貯蔵穴は南東コーナーに位置していることが多く、間仕切り溝を持つ住居跡も2軒検出した。出土遺物は土師器類、器台、埴などである。

第2期（5世紀）

第131、167、179、211、290、316号住居跡の6軒が該当する。すべて調査6区から検出されている。住居跡の規模は、一辺が6mほどの方形を呈している。炉の位置は、1期よりも北壁際に移動している。出土遺物は、土師器類、高杯、甕、小形埴、埴などである。第131号住居跡からは碧玉製の勾玉が出土している。また第211号住居跡から出土した小形壺中には、土器の赤彩に使用したと考えられる赤色顔料（ベンガラ）が多量に残っていた。

第3期（6世紀）

調査5区から6軒、調査6区から16軒の竪穴住居跡を検出した。第122、137、141、143、159、162、198、204、213、215、255、259、281、305、318、336、341、342、347、352、362、370号住居跡が該当する。これまでは平坦部に立地していたが、調査5区の南斜面からも検出されるようになる。住居跡の規模は、一辺が8mほどの大形住居跡と、一辺が5mほどの中形住居跡で構成されており、平面形は方形または長方形を呈している。主軸方向はN-0°~40°-Wの範囲であるが、中でも多いのはN-15°~40°-Wを指す住居跡である。また、東蓮（第132、143、318号住居跡）の住居跡も3軒検出されている。出土遺物は土師器類、埴、高

坏、甕、甗、小形甕が主で、須恵器坏、甗、半瓶などである。高坏、坏は黒色処理を施しているものが多い。第281号住居跡からは、貯蔵穴付近と南西壁際の床面直上から完形の土師器坏、高坏、小形甕、甗が26点出土している。

第4期（7世紀）

調査5区から9軒、調査6区から22軒、調査8区から6軒の竪穴住居跡を検出している。第138、165、174、175、197、228、231、235、243、250、253、260、274、289、295、309、325、327、330～332、334、348、349、354、355、358、363、368、371、376、506、508～510、516、527号住居跡が該当する。調査区全域の広い範囲から検出されており、この傾向は前年度の調査²⁾においても同様であった。住居跡の規模は、一辺が5mほどの中形住居跡と、一辺が3.5mほどの小形住居跡で構成され、平面形は方形または長方形を呈している。主軸方向はN-0°～94°Wの範囲であるが、その中でも多いのはN-0°～20°Wを指す住居跡である。出土遺物は土師器坏、鉢、甕、甗、須恵器坏、甗、半瓶なども少量出土している。第510号住居跡からは、県内では2例目となる、鋤先形土製品が出土している。

奈良・平安時代

本遺跡の中心となる時期で、3期に分けることができる。

第1期（8世紀）

調査5区で6軒、調査6区で35軒、調査8区で8軒の竪穴住居跡を検出している。当時期は、調査区全域から検出される傾向がみられる。住居跡の規模は、一辺が4m前後の小形住居跡で、方形または長方形を呈している。主軸方向はN-19°W～N-20°Eの範囲であるが、その中でも多いのがN-0°～20°Eを指す住居跡で、25軒みられる。出土遺物は土師器坏、甕、須恵器坏、高台付坏、甗、蓋、甕などである。当時期の須恵器は、当遺跡から北西15kmほどにある新治窯跡群の製品が大部分を占めている。須恵器坏は底径が大きく、器高が低い様相を呈し、底部は回転ヘラ切り後、ヘラ削り調整を行っている。第216号住居跡からは、須恵器坏、高台付坏が3点重なり合って出土している。また、蓋も出土している。坏は底部が丸底気味で、高台付坏は高台が低い。蓋は短いかえりがつくものと、折り返しがつくものが出土している。様相から8世紀前葉と考えられる。

第2期（9世紀）

調査5区から4軒、調査6区から26軒、調査8区から4軒の竪穴住居跡を検出している。住居跡の規模は、一辺が5m前後の中形住居跡と、一辺が3.5m前後の小形住居跡から構成され、平面形は方形または長方形である。主軸方向はN-20°W～N-29°Eの範囲であるが、その中でも多いのがN-5°W～N-10°Eを指す住居跡で、23軒みられる。出土遺物は土師器坏、高台付坏、甕、須恵器坏、こね鉢、甕、甗、高甗、灰釉陶器が出土している。また鉄鎌、鉄鎌、刀子などの出土も多く見られる。須恵器坏は、1期より底径が小さくなり、器高が高くなる様相を呈する。後半になると、ロクロ成形の土師器が多くみられるようになる。坏は内面をヘラ磨きをした後、黒色処理を施しているものが多い。高台付坏は、高台が高く、高台径も大きい様相を呈する。また第249、299号住居跡からは、猿投窯黒笹30号窯式と考えられる灰釉陶器長頸瓶が出土している。

第3期（10世紀以降）

調査5区から2軒、調査6区から72軒、調査8区から3軒の竪穴住居跡を検出している。前年度の調査においても、調査6区周辺に集中する傾向が見られる。また住居跡の形態にも変化がみられ、平面形は一边が4m前後の長方形が多く、住居の掘り込みも浅く柱穴は明瞭でない。主軸方向もN-70°～110°-Eを指す竪穴住居跡が46軒と、東に竈を持つ住居跡が多くなる。出土遺物は須恵器がほとんどみられなくなり、土師器杯、碗、高台付杯、高台付碗、足高高台杯、甕、甗、小皿などが出土している。また、雁股等の鉄鎌も多く出土しているのが特長である。10世紀前葉では、高台付碗は2期より高台が低く、高台径も小さくなり、体部の腰が張る様相を呈する。また、内面はヘラ跡をおこない、黒色処理を施しているものが多い。甕は外面を縦方向のヘラ削りや、ロクロナデによる調整が見られる。中葉になると、前葉よりさらに高台高が低くなり、高台径も小さくなる。また、黒色処理を施さないものが増えてくる。杯の底部は回転糸切り無調整が多くなり、小皿の出土も増える。後葉以降は、土師器碗、小皿が土器組成の中心をなす様相を呈する。

近 世

調査5区西部の、第200号土坑から元尊通寶（1695）が出土しており、墓塚の可能性が考えられる。

註・参考文献

- (1) 竪穴住居跡の規模は、30㎡以上を大形、30㎡未満20㎡以上を中形、20㎡未満を小形とした。
- (2) 茨城県教育財団（仮称）烏名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 熊の山遺跡
『茨城県教育財団文化財調査報告120集』1997年3月

付 章

熊の山遺跡出土赤色物質の成分分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

古墳時代中期の住居跡から検出された小形の壺形土器に赤色物質が認められた。今回は検出された赤色物質の素材を明らかにするために、X線回折（粉末法）分析を実施する。

1 試 料

試料は、調査6区第211号住居跡出土の細粒赤色物質である。

2 分析方法

あらかじめ105°Cで2時間乾燥させた細粒赤色物質を粉砕器を用いて微粉砕した。この微粉砕試料をX線回折用アルミニウムホルダーに充填し、以下の条件でX線回折を行った。（足立、1980：日本粘土学会、1987）

検出された物質の同定解析は、測定回折線の主要ピークと回折角度から原子面間隔および相対強度を計算し、それに該当する化合物または鉱物をX線粉末回折線総合解析プログラム（五十嵐、未公表）により検索した。

3 結果および考察

結果を図1に示す。

今回分析した細粒赤色物は約15°（2θ）からベースが高くなっており酸化鉄を含む事が明らかである。ピークとして検出された鉱物は、赤鉄鉱、石英の2種類である。この内、赤色を呈する鉱物は赤鉄鉱であり、赤色物質の素材はベンガラと判断される。

なお、赤鉄鉱の他に石英が検出されたが、石英は岩石や土壌にごく一般的に認められる鉱物であることから、赤色物質採取時に混在した土壌由来の鉱物と推定される。

（引用文献）

足立時也(1980)「6章粉末X線回折法 機器解析のてびき3」、p64—76 化学同人。

日本粘土学会編(1987)「粘土ハンドブック 第二版」、1289p、技報堂出版。

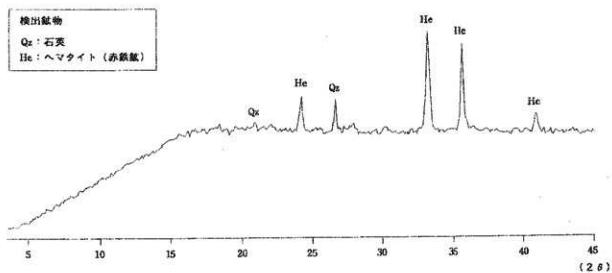


図1 調査6区第211号住居跡出土細粒赤色物X線回折図

熊の山遺跡竈灰層の自然科学分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

熊の山遺跡は東谷田川右岸台地上に立地する。今回の発掘調査により古墳時代前期・中期・後期と奈良・平安時代の集落跡が抽出された。今回、古墳時代後期と平安時代の住居跡のカマドの灰層について水洗選別が行われ、当時の食物残渣と考えられる貝や骨片が豊富に抽出された。また、灰層には当時の燃料材として利用されたイネ科植物の痕跡が残留しているものと期待された。

そこで、今回の自然科学分析調査では、抽出された貝や骨片の種類を明らかにするために骨・貝同定を行うとともに、当社でさらに灰層について水洗選別を行い種子や骨片など微細な動物遺体の抽出を試みる。また、灰層を対象として植物珪酸体分析を行い、イネ科植物の燃料材に関する試料を得る。

1 試料

調査対象は、古墳時代後期の第198号住居跡と平安時代の第308号住居跡のカマド計2基である。198号住居跡および308号住居跡のカマド灰層の水洗選別により、貝片や骨片などが回収された。(試料名: SI-198No18貝・SI-198No19骨・SI-308カマド内)。また、198号住居跡のカマドでは灰層とされる動物遺体などを抽出するための水洗選別試料に分割した。

2 分析方法

(1) 植物珪酸体分析

近藤・空瀬(1986)の方法を参考にし、とくに組織片の産状に注目した。植物体の葉や茎に存在する植物珪酸体は、列などの組織構造を呈している。植物体が土壌中に取り込まれた後は、ほとんどが土壌化や乱流などの影響によって分離し単体となるが、植物が燃えた後の灰には組織構造が植物珪酸体列などの形で残されている場合が多い(例えば、バリノ・サーヴェイ株式会社, 1993)。そのため、組織片の産状により、当時の燃料材の種類が明らかになると考えられる。

(2) 種実遺体・貝・骨片の洗い出し

198号住居跡カマドからは、貝片や骨片などの物理・化学的に壊れやすいものが含まれている可能性がある。一方、炭化種子などはこれに比べてやや強い。今回は強度の異なるもの選別を同時に行う必要があるため、種実同定で用いている通常の分析方法をやや変更した。

(3) 骨・貝同定

ルーペあるいは実体顕微鏡を用いて貝・骨の形態的特徴を観察し、種類・部位の同定を行う。なお、同定は早稲田大学金子浩昌先生にお願いした。

3 198号住居跡カマドの燃料材と食物残渣について

(1) 結果

a. 組織片・植物珪酸体の産状

特徴的な植物珪酸体を含まない不明組織片がわずかに認められるにすぎない。また、単体の植物珪酸体は

認められなかった。

b. 動・植物遺体の産状

①植物遺体

植物遺体では、微細な材片が微量に検出されたのみであり、樹種の同定は不能であった。

②動物遺体

SI-198NO18貝試料中にはヤマトシジミの右殻が3点、左殻が10点、ハマグリ左殻1点が認められた。

また、本試料中②は細片化して種類の同定が不能なものも含まれていた。

SI-198、NO19骨試料ではキジの中足骨左右が認められたほか、種類は不明の獣骨片が含まれていた。

SI-198カマド灰試料は当社の水洗選別で抽出された試料であるが、貝片・魚骨・獣骨・鳥骨が認められている。貝ではカキと思われる小片10数片、ヤマトシジミ小片10数片、魚骨ではコイあるいはフナ類の腹椎2点、喉頭骨片1点、切り歯歯を持つ鱈鱗微小片1点、キジ類の基節骨2点と脛骨片1点が確認される。

(2) 考察

試料中からは不明組織片がわずかに認められたことから、カマドの燃料材について検討することは困難である。発掘調査ではカマドの火床上面に灰層が認められたとされているが、植物性炭体の保存状況を考慮すれば、採取された試料は純粋な灰層ではなく、カマド内に溜まった灰が外へ掻き出された可能性も考えられ、その結果、燃料材に由来するイネ科植物が保存されなかったのかも知れない。なお、カマドの燃料材として周囲に生息していたススキ属やササ類などのイネ科植物やイネなどのイネ科作物が利用されていた例がこれまでの分析調査でみられる(佐瀬, 1982; 大越, 1985; バリノ・サーヴェイ株式会社, 1993など)。今回の平安時代のカマドでも同様なことが想像されるが、この点はさらに他の住居跡のカマド灰層との比較検討や、当時代の本遺跡周辺のイネ科植物相に関する情報も蓄積することによって、明らかにされるであろう。

一方、食物残渣とみられる骨片では加工痕は認められなかったが、しかし貝および骨片はいずれも加熱を受けた痕跡が認められることから、調理された残渣と考えられる。また、貝類でハマグリやカキと思われる海水類の貝殻片が検出されていることから、おそらく海で採取されたものが持ち運ばれて食用されていたと考えられる。

4 308号住居跡カマドの食物残渣について

(1) 結果

獣骨骨片では主にシカが検出された。その部位は2; 3 手根骨・左中間手根骨・右肘骨1点・上腕骨遠位端片・大腿骨遠位端(外側頭)が各1点ずつ、大脛骨骨片3点、部位不明が1点である。また、イノシシカカは判断できないが、四肢骨破片が多く認められている。さらに種類は不明であるが、魚骨の鱗鱗片も認められた。

5 総括

今回の分析調査では、カマドで用いられたイネ科植物の燃料材に関する情報を試みた。しかし、植物性炭体の保存状態が悪く、その情報を得ることはできなかった。ただし、これまでの調査例からみて、このような調査は過去の燃料材の実体を知る上で今後も有効であると考えられる。今後とも、周辺の遺跡においてもカマド覆土に灰層が認められた場合は、自然堆積とともにカマド灰層の燃料材に関する分析調査を行い、周辺積生との関連性を含めて検討したい。

また、本遺跡では、古墳時代後期の住居跡カマドから検出された獣骨と平安時代の住居跡から検出された貝・骨の種類が異なる結果が得られた。これが本遺跡周辺における漁労・狩猟の変遷を反映している可能性もあるが、今回の結果のみで判断することは難しい。今後もさらに情報を蓄積することによって、本遺跡周辺における漁労・狩猟に関する試料が得られると期待される。

(引用文献)

- 近藤 隆 (1986) 植物珪酸体分析, その特性と応用。『第四紀研究』, 25, p 31-64
- 大越昌子 (1985) プラント・オパール分析, 半賀遺跡群発掘調査報告書, p 803-815 半賀遺跡調査会
- ハリノ・サーヴェイ株式会社 (1993) 自然科学分析からみた人々の生活 (1), 慶応義塾横浜校地埋蔵文化財調査室編「湘南藤沢キャンパス内遺跡 第1巻 総論」, p 347-370. 地産義塾,
- 佐藤 隆 (1982) 古墳時代住居跡の炉に関する灰土について, 『植物起源粒子の植物珪酸体から見て』, 東京都埋蔵文化財センター調査報告書第2集「多摩二ノウタウン遺跡—昭和58年度—(第3分冊集)」, p 303-307, 東京埋蔵文化財センター

熊の山遺跡出土須恵器壺Gの胎土分析

(株) 第四期地質研究所 井上 巖

1 目的

熊の山遺跡からは、須恵器壺Gと思われる4点の土器片が出土している。これらの遺物において蛍光X線分析を行い、元素の組成を調べ胎土の特徴を明らかにし、生産地を特定することを目的とした。

2 分析結果

(1) X線回折試験結果

①タイプ分類

表1胎土性状表には熊の山遺跡の壺Gとともに、既分析の静岡県助宗窯、花坂島橋窯、大阪府の大庭寺窯の土器も記載してある。第1表に示すように土器胎土はA～Dの4タイプに分類された。熊の山遺跡の壺Gとともにその多くは高温で焼成されているために、胎土中の粘土鉱物と造岩鉱物はガラスに変質し、4分析は検出されない。以上のように、熊の山遺跡の壺Gは高温で焼成され、すべてDタイプとなる。

②石英・斜長石の相関について

土器胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は粘土の材質、土器の焼成温度との大きな関わりがある。土器を作成する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して素地土を作ると言うことは、個々の集団が持つ土器作成上の固有の技術であると考えられる。

自然の状態における各地の砂は、固有の石英と斜長石比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なってくるものであり、言い換えれば、各地の砂は各々固有の石英と斜長石比を有していると言える。ここでは助宗、花坂島橋、大庭寺の各窯と比較、検討した。

1図に示すように、熊の山遺跡の壺Gは助宗窯の土器と同じグループに集中する。その選出強度は石英が1000～1800、斜長石が50～150の範囲にあり、集中度は高い。熊の山遺跡の4箇の壺Gは比較的狭い領域でグループを形成し、混合比の類似性は高い。花坂島橋遺跡の壺Gとは明らかに異質である。

(2) 化学分析結果

表2化学分析表には熊の山遺跡の壺Gとともに、既分析の静岡県助宗窯、花坂島橋窯、大阪府の大庭寺窯の土器も記載してある。

①SiO₂-Al₂O₃の相関について

2図SiO₂-Al₂O₃図に示すように熊の山遺跡の壺Gは助宗窯のグループに近いところでグループを形成し、集中度も良い。熊の山遺跡の壺Gは花坂島橋遺跡の壺Gと他の土器を含め明らかにグループが異なり、異質である。

②Fe₂O₃-MgOの相関について

3図Fe₂O₃-MgO図に示すように、熊の山遺跡の壺Gは助宗窯の土器と重複するように集中してグループを

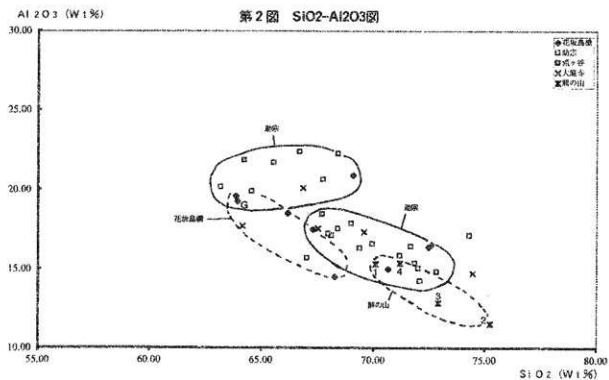
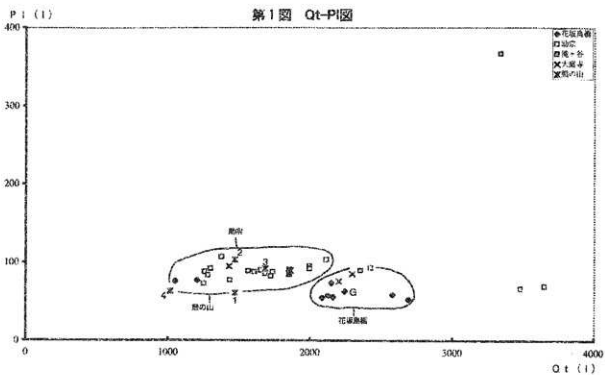
形成する。Fe₂O₃は6～9%、MgOは1～2.5%の狭い領域にある。熊の山遺跡の壺Gは花坂島橋遺跡の壺Gと他の土器を含め、明らかにグループが異なり、異質である。

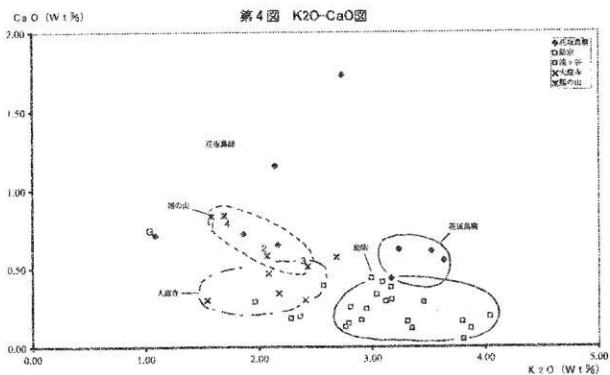
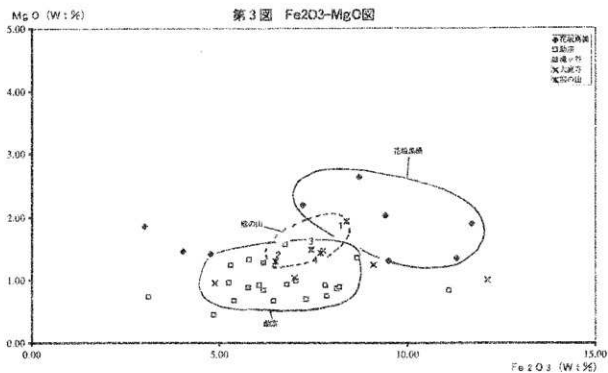
③K₂O-CaOの相関について

4回K₂O-CaO図に示すように、熊の山遺跡の壺GはK₂Oの値が1.5～2.5%の狭い範囲で集中し、助宗窯の土器とは異なるグループを形成する。

3 まとめ

- (1) 土器胎土は高温で焼成されているために、鉱物がガラスに変質し、Dタイプが4個である。
- (2) X線回折試験に基づくQtz-Pt相関では助宗窯の土器と共存し、関連性が伺われる。
- (3) 化学分析結果では、熊の山遺跡の壺GはSiO₂-Al₂O₃、Fe₂O₃-MgOの相関では助宗窯の土器と近い関係にあるが、K₂O-CaOではいくぶん異なる。花坂島橋遺跡の土器とは明らかに異なる。
- (4) 4個の熊の山遺跡の壺GはX線回折試験と化学分析の両方で分析値が近く、同じ胎土に基づく土器であることがわかる。また、分析値を他の遺跡の土器と比較したとき、新治窯と木葉下窯の武城窯のものとは明らかに異質であり、壺Gとの関連する静岡県産の土器と比較したとき、助宗窯の土器の分析値が最も近い関係にあるように見受けられる。





茨城県教育財団文化財調査報告第133集

(仮称)島名・福田坪地区特定土地区画
整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

熊の山遺跡
(中巻)

平成10(1998)年3月16日 印刷

平成10(1998)年3月20日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
T E L 029-225-6587

印刷 (有) ミツギ印刷社
〒311-4153 水戸市河和田町4433-33
T E L 029-252-8481